

日本女子体育大学 | 2018年度 |

# シラバス



Japan Women's College of Physical Education

科目名	日本国憲法			担当者	中村安菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的に・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 なぜ憲法を学ぶのか？</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第1話・第2話を熟読する。			<b>第9回 社会権</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第9話を熟読する。生活保護制度について調べる。			
<b>第2回 憲法とはどのような法か？</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 憲法は権力濫用の防止を目的とする法であることを理解する。 (2) 憲法は国内の最高法規であることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第3話を熟読する。			<b>第10回 天皇と国民</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民主義の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 天皇の職務について調べる。			
<b>第3回 基本的人権総論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権は誰に、どの範囲で保障されるのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 人権が保障される範囲について、自らで具体例を発見する。			<b>第11回 平和主義</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本国憲法が規定している平和主義について理解する。 (2) 平和主義の意義と問題点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第11話を熟読する。			
<b>第4回 法の下での平等</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 法の下での平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第4話を熟読する。2014年9月4日最高裁大法廷判決に関する新聞記事をコピーする。			<b>第12回 国会の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民主義の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第12話を熟読する。国会・各議院の権限について調べる。			
<b>第5回 精神的自由権①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第5話を熟読する。君が代起立斉唱事件に関する新聞記事をコピーする。			<b>第13回 内閣の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 内閣の地位と構成・役割について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第13話を熟読する。			
<b>第6回 精神的自由権②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第5話・第6話を熟読する。表現の自由が抑圧された事例を考える。			<b>第14回 裁判所の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 裁判所の地位と構成・役割について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第14話を熟読する。			
<b>第7回 経済的自由権</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第7話を熟読する。			<b>第15回 憲法の役割と現実</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> この授業を通して自分が関心をもった事柄について簡単にまとめる。			
<b>第8回 人身の自由</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 人身の自由が保障されている意味を理解する。 (2) 人身の自由の内容と刑事手続の流れを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書第8話を熟読する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教職教養憲法15話 改訂三版」加藤一彦 著、北樹出版、2016						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	国語表現Ⅰ				担当者	稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> ・ 言語力やコミュニケーション能力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・ 新聞や本の読み方を学ぶ中で、自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 ・ 読書に親しむとともに、書評を取り扱い、書評を分析したり実際に書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定)</b> <b>【 到達目標 】</b> この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新聞記事を探す。				<b>第9回 読書生活③</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 書評を分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫の書評を分析する。			
<b>第2回 新聞に親しむ①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 新聞の読み方を知り、新聞に親しむ。 ・ 全国紙と地方紙、一般紙と専門紙の違いを知る。 ・ 紙面構成と記事構成を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 興味・関心のある新聞記事を探し、要約する。				<b>第10回 読書生活④</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 教科書として指定された文庫の書評を分析する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫の書評を分析する。			
<b>第3回 新聞に親しむ②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 新聞をもとに、意見を交流する。 ・ 新聞をもとに、自分の意見を組み立てる。 ・ 批判的なものの見方・考え方について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 新聞記事を参考にして意見文を書く。				<b>第11回 ビブリオバトル①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 本の時内容を把握するとともに、内容の魅力の伝え方を構想し、ビブリオバトルの準備を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> ビブリオバトルを意識して、本を読む。			
<b>第4回 手紙①</b> <b>【 到達目標 】</b> 手紙のマナーや書き方について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬の手紙を書く。				<b>第12回 ビブリオバトル②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ グループごとにビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。  <b>【授業時間外学習】</b> ビブリオバトルを踏まえて、本の情報を加筆したり修正したりする。			
<b>第5回 手紙②</b> <b>【 到達目標 】</b> 手紙の書き方について一層の理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬の手紙を書く。				<b>第13回 ビブリオバトル③</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。  <b>【授業時間外学習】</b> ビブリオバトルの記録を完成させる。			
<b>第6回 メール</b> <b>【 到達目標 】</b> PCのeメールとケータイメールの使い分けについて理解するとともに、eメールのマナーと書き方の知識を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬のeメールを書く。				<b>第14回 ビブリオバトル④</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 ・ チャンプ本を選ぶ。 ・ ビブリオバトルを参考にして、書評の構想を練る。 <b>【授業時間外学習】</b> 書評の構想を基にして、書評の執筆をする。			
<b>第7回 読書生活①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 本の選び方と読み方を知る。 ・ 書評を読み、本の批評方法について学ぶ。 ・ 書誌情報について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫を読む。				<b>第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返って、自己評価を行う。			
<b>第8回 読書生活②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ 書評の批評の特徴について考える。 ・ ネット書店の書評などの他の書評と教科書として読む文庫に取り上げられた書評を比較する。 ・ 批判的思考力を身につける。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された文庫を読む。							
<b>【学習上の留意点】</b> ・ 毎授業の始めに、日本語検定試験の問題を使って解説の時間を設けるとともに、適宜、確認テストを行う。 ・ 本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・ 新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組みが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・ 不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：『10代のうちに本当に読んでほしい「この一冊」』、河出書房新社編集部編、河出文庫(河出書房新社)							
<b>【関連科目】</b> 国語表現Ⅱ							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出物40％・レポート課題30％・発表(ビブリオバトル等)20％・日本語検定確認テスト10％							

科目名	英語 I (基礎)			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English I (Elementary)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語の基礎を確認・再学習する。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を習得する、3) 平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて、英語の学習法や英語になじむための活動も取り入れる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施</b> 【到達目標】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			<b>第9回 英語基礎総合演習⑨</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第2回 英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習①</b> 【到達目標】 プレイズメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			<b>第10回 英語基礎総合演習⑩</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第3回 英語基礎総合演習②</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			<b>第11回 英語基礎総合演習⑪</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第4回 英語基礎総合演習③</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			<b>第12回 英語基礎総合演習⑫</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第5回 英語基礎総合演習④</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			<b>第13回 英語基礎総合演習⑬</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第6回 英語基礎総合演習⑤</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			<b>第14回 英語基礎総合演習⑭</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第7回 英語基礎総合演習⑥</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			<b>第15回 英語基礎総合演習⑮</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第8回 英語基礎総合演習⑦</b> 【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語 I (初級)			担当者	大和久吏恵・中村 大輔 喜多 球美	
英文名	English I (Lower-Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を行えるよう学習指導にも言及する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施</b> 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			<b>第9回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第2回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得①</b> 【 到達目標 】 授業時間外学習の方法を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第10回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第3回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得②</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第11回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第4回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第12回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第5回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第13回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第6回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第14回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第7回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第15回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。			
<b>第8回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦</b> 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語 I (中級)			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English I (Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していきけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施</b> 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどうような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			<b>第9回 英語総合演習⑨</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第2回 Introduction 英語総合演習①</b> 【 到達目標 】 受講にあたっての留意点・学習の進め方を理解する。 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第10回 英語総合演習⑩</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第3回 英語総合演習②</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第11回 英語総合演習⑪</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第4回 英語総合演習③</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第12回 英語総合演習⑫</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第5回 英語総合演習④</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第13回 英語総合演習⑬</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第6回 英語総合演習⑤</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第14回 英語総合演習⑭</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第7回 英語総合演習⑥</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第15回 英語総合演習⑮</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。			
<b>第8回 英語総合演習⑦</b> 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること(電子辞書可)。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、試験の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、コミュニケーション力の向上を図る。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業説明および英語総合演習①</b> 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			<b>第9回 英語総合演習⑨</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第2回 英語総合演習②</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			<b>第10回 英語総合演習⑩</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第3回 英語総合演習③</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			<b>第11回 英語総合演習⑪</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第4回 英語総合演習④</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			<b>第12回 英語総合演習⑫</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第5回 英語総合演習⑤</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			<b>第13回 英語総合演習⑬</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第6回 英語総合演習⑥</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			<b>第14回 英語総合演習⑭</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
<b>第7回 英語総合演習⑦</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			<b>第15回 英語総合演習⑮</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。			
<b>第8回 英語総合演習⑧</b> 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b> 英語Ⅰ（基礎）						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	大和久吏恵・中村 大輔 喜多 球美	
英文名	English II (Lower-Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を継続できるよう、引き続き学習指導にも言及する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 インTRODクシヨン・英語運用能力の習得、読解力の向上①</b> 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第2回 英語運用能力の習得、読解力の向上②</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第10回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑩</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第3回 英語運用能力の習得、読解力の向上③</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第11回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑪</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第4回 英語運用能力の習得、読解力の向上④</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第12回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑫</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第5回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑤</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第13回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑬</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第6回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑥</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第14回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑭</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第7回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑦</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			<b>第15回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑮</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。			
<b>第8回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑧</b> 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b> 英語Ⅰ（初級）						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（中級）			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	EnglishⅡ（Intermediate）					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 Introduction 英語演習①</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第9回 英語演習⑨</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第2回 英語演習②</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第10回 英語演習⑩</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第3回 英語演習③</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第11回 英語演習⑪</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第4回 英語演習④</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第12回 英語演習⑫</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第5回 英語演習⑤</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第13回 英語演習⑬</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第6回 英語演習⑥</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第14回 英語演習⑭</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
<b>第7回 英語演習⑦</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			<b>第15回 英語演習⑮</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。			
<b>第8回 英語演習⑧</b> 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
<b>【関連科目】</b> 英語Ⅰ（中級）						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	教養演習				担当者		
英文名	Preparations for Academic Studies						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 アイスブレイク</b> 【 到達目標 】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。  【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。			<b>第9回 レポート・論文作成の技術(1)</b> 【 到達目標 】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法等を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。  【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。				
<b>第2回 私の学生生活</b> 【 到達目標 】 これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。  【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。			<b>第10回 レポート・論文作成の技術(2)</b> 【 到達目標 】 レポート・論文作成における不正行為を防ぎ、参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。  【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。				
<b>第3回 日本女子体育大学を知る(1)</b> 【 到達目標 】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。  【授業時間外学習】 創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。			<b>第11回 プレゼンテーションの技術</b> 【 到達目標 】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。  【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。				
<b>第4回 日本女子体育大学を知る(2)</b> 【 到達目標 】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。  【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。			<b>第12回 専門への架け橋</b> 【 到達目標 】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。  【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。				
<b>第5回 話し合いの技術</b> 【 到達目標 】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。  【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。			<b>第13回 レポート・プレゼンテーション①</b> 【 到達目標 】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。  【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。				
<b>第6回 ノートテイクの技術</b> 【 到達目標 】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。  【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。			<b>第14回 レポート・プレゼンテーション②</b> 【 到達目標 】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。  【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。				
<b>第7回 データを読む技術</b> 【 到達目標 】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。  【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。			<b>第15回 レポート・プレゼンテーション③</b> 【 到達目標 】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。  【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。				
<b>第8回 データをまとめる技術</b> 【 到達目標 】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「KJ法」を習得する。  【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。							
<b>【学習上の留意点】</b> この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。							

科目名	情報処理（情報機器の操作を含む）			担当者	鈴木 信夫・五月女仁子 牧 琢弥	
英文名	Information Literacy					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
<b>【目的とねらい】</b> ICT（Information & Communication Technology）の基礎を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法を学ぶ。さらに、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 インターネットについての理解と利用1</b> 【 到達目標 】 (1)LANについての基礎知識を理解する。 (2)メーラー設定・パスワード変更・ネット検索について習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			<b>第9回 インターネットについての理解と利用2</b> 【 到達目標 】 (1)ネット上のマナーと著作権およびコンピュータウイルスの知識を得る。 (2)メールによるファイル添付、ネット上の図等の利用について習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第2回 文書作成法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			<b>第10回 周辺機器とメディアについての理解と利用</b> 【 到達目標 】 (1)PC周辺機器についての知識を得る。 (2)プリンタ等の実用的な利用方法を学ぶ。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第3回 文書作成の方法</b> 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			<b>第11回 プレゼンテーション法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第4回 ビジュアル表現法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			<b>第12回 プレゼンテーションの方法1</b> 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第5回 ビジュアル表現の方法1</b> 【 到達目標 】 (1)文書上の罫線・表の作成・編集について習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			<b>第13回 プレゼンテーションの方法2</b> 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第6回 ビジュアル表現の方法2</b> 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			<b>第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解</b> 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第7回 数値分析・データ加工法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			<b>第15回 ファイルについての知識および管理の方法</b> 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第8回 数値分析・データ加工の方法</b> 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。						
<b>【学習上の留意点】</b> 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 別途、授業時に指示する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出課題を100%として評価する。						

科目名	女性と仕事				担当者	影山陽子	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。働く環境がめまぐるしく変化する社会において、「働くこと」の意味や「仕事」について明確な意識を持って4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーションおよび講演</b> <b>【 到達目標 】</b> 本講義の目的と狙いを理解し、また本学卒業生による講演を通して、現在の自分についての考えをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。				<b>第9回 自分を知る(2) 自分を知る②</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。社会人基礎力について調べる。			
<b>第2回 社会を知る(1) 社会状況とライフスタイル①</b> <b>【 到達目標 】</b> 女性の社会進出と現在の社会状況について学び、自分の考えを整理しまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。二階堂トクヨ・人見絹枝について学ぶ。				<b>第10回 自分を知る(3) 知識基盤社会とスポーツちから①</b> <b>【 到達目標 】</b> 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。自身のスポーツちからについて考える。			
<b>第3回 社会を知る(2) 社会状況とライフスタイル②</b> <b>【 到達目標 】</b> 女性を取り巻く就業環境とライフスタイルについて学び考え、自分の意見をまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。身近な女性(家族など)に就業状況について話を聴く。				<b>第11回 自分を知る(4) 自分を知る③</b> <b>【 到達目標 】</b> 日女生のキャリア形成の現状を知り、自分の可能性について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分が目指す職業領域について調べる。			
<b>第4回 自分を知る(1) 自分を知る①</b> <b>【 到達目標 】</b> パーソナルヒストリー作成や自己分析を通して、自分自身を客観的に見る方法を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> パーソナルヒストリーについて内省を深める。自己啓発について学ぶ。				<b>第12回 自分を知る(5) 知識基盤社会とスポーツちから②</b> <b>【 到達目標 】</b> 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。社会の変化について調べる。			
<b>第5回 社会を知る(3) 講演①</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会人による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分の意見や考えをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> ワーキングマザーの現状について調べる。				<b>第13回 自分らしく生きるために</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンの準備を通して、大学生活と将来についての考えをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> プレゼンテーションの準備をする。			
<b>第6回 社会を知る(4) 雇用とキャリア形成①</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。				<b>第14回 プレゼンテーション(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> プレゼンテーションの準備をする。			
<b>第7回 社会を知る(5) 雇用とキャリア形成②</b> <b>【 到達目標 】</b> 女性の生き方とワークライフバランスについて学び、女性と仕事のあり方や自分の働き方について考えまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。ワークライフバランスについて考える。				<b>第15回 プレゼンテーション(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 期末レポートを完成させる。			
<b>第8回 社会を知る(6) 講演② ブラック企業について</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> ブラック企業やブラックバイトといった社会現象について調べる。							
<b>【学習上の留意点】</b> 社会人になるための準備として、講義を受けるときのマナーに留意する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト(第2回の授業時に販売)、参考資料							
<b>【関連科目】</b> 社会のしくみとキャリア形成							
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度(50%)、プレゼンテーション(20%)、プレゼンテーションの要旨レポート(30%)で評価する。							

科目名	栄養学入門				担当者	古泉 佳代・山田 直子	
英文名	Primary Nutrition						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 ガイダンス・食生活と社会環境</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)自分の食生活を振り返り、栄養と食生活の関わりを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 一日の食事を振り返る。				<b>第9回 食生活と健康④食物と栄養（ミネラル）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ミネラルの種類、体内での働き及び代謝を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ミネラルを考えて献立を作成し、食生活を実践する。			
<b>第2回 食を取り巻く環境の変化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フードシステムの複雑化にともなっている生じている課題を認識する。  <b>【授業時間外学習】</b> 食に関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。				<b>第10回 食生活と健康⑤食生活と健康</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分自身の身体活動量を調べる。			
<b>第3回 食料の供給と課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)食料自給率の低下とその背景を理解する。 (2)農業再生に向けた取り組みの現状を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> フードロスに関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。				<b>第11回 食生活と健康⑥食の情報を読み解くリテラシー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。 (2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 「健康食品」の表示を見て、健康により根拠は何かを考える。			
<b>第4回 食品の安全性①食中毒・リスク分析</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。 (2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。 (3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 食中毒について調べ、生活の中で実践できる予防について考える。				<b>第12回 食生活と文化④食物のおいしさ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活の食事を味わいながら食べることで、わかることをまとめる。			
<b>第5回 食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。 (2)「食品表示法」と表示制度について理解し、実生活のなかで表示を活用する。  <b>【授業時間外学習】</b> 食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考える。				<b>第13回 食生活と文化②共食の現代的課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 社会的孤立を防ぐための、共食を活用した食企画を考える。			
<b>第6回 食生活と健康①食物と栄養（3大栄養素・エネルギー）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)3大栄養素の体内での働き及び代謝を理解する。 (2)エネルギー産生栄養素バランスについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 食事バランスガイドを用いて食事の栄養バランスをチェックする。				<b>第14回 食生活と文化③日本の食文化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたきたかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の出身地の郷土料理や特産品を使った料理について調べ、継承方法を考える。			
<b>第7回 食生活と健康②飲み物の糖度</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)飲み物の糖度について理解できる。 (2)糖質の摂取方法について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 糖質の種類・量に注意して生活する。				<b>第15回 食育とフード・リテラシー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解する。 (2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 食に関する話題を調べ、フード・リテラシーを評価する。			
<b>第8回 食生活と健康③食物と栄養（ビタミン）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ビタミンの種類、体内での働き及び代謝を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ビタミンB群を考えて献立を作成し、食生活を実践する。							
<b>【学習上の留意点】</b> 授業時にプリントを配布するので、自分で書き入れながら丁寧に読み、教科書とあわせて理解を深めるようにする。 やむを得ず欠席をしたものは、次回の授業までに配付資料を取りにくること。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問すること。栄養に関する本、雑誌、気になる話題があれば日頃からチェックする習慣を身につけること。授業中の飲食・携帯・私語は厳禁とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「白熱教室 食生活を考える」編著者 金子佳代子・松島悦子（アイ・ケイコーポレーション出版） 参考書として授業内で指定した食品成分表を使用する場合がある。							
<b>【関連科目】</b> スポーツ栄養学、スポーツコンディショニング演習B（スポーツ選手の栄養学）、生理・生化学入門							
<b>【成績評価方法】</b> 原則として期末テストの結果（100％）で評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。							

科目名	生理・生化学入門				担当者	大澤 拓也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 健康科学およびスポーツ科学を学ぶために最低限必要と思われる生理生化学的な基礎知識を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション・概論</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方の説明・生理生化学の学問領域を理解する。 日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答を記述しておく。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				<b>第9回 呼吸機能 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 呼吸器系の構造・機能を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「呼吸機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
<b>第2回 骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム</b> <b>【 到達目標 】</b> 骨格筋の種類・微細構造の説明・筋収縮のメカニズムを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				<b>第10回 呼吸機能 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> ガス交換システムと酸素輸送を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「呼吸機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
<b>第9回 神経系による運動の制御</b> <b>【 到達目標 】</b> 中枢神経系・末梢神経系の理解・運動制御のメカニズムを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「神経系による運動の制御」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				<b>第11回 内分泌系</b> <b>【 到達目標 】</b> 内分泌系による調節作用・各種ストレスに対する体液反応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「内分泌系」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
<b>第4回 エネルギー代謝 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> ATP産生システム・TCAサイクルを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「エネルギー代謝 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				<b>第12回 体温調節</b> <b>【 到達目標 】</b> 暑熱・寒冷ストレスに対する体温調節機能を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「体温調節」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
<b>第5回 エネルギー代謝 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 糖・脂質・蛋白質によるエネルギー産生のメカニズムを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「エネルギー代謝 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				<b>第13回 環境生理</b> <b>【 到達目標 】</b> 低酸素・低圧・無重力環境に対する身体の適応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「環境生理」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
<b>第6回 栄養素と消化・吸収</b> <b>【 到達目標 】</b> 栄養素の吸収過程と物質の輸送・変換を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「栄養素と消化・吸収」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				<b>第14回 一過性の運動に対する生理応答</b> <b>【 到達目標 】</b> 一過性の運動に対する身体の適応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「一過性の運動に対する生理応答」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
<b>第7回 循環機能 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 心臓・血管系の構造と機能を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「循環機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				<b>第15回 慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応</b> <b>【 到達目標 】</b> 慢性的な運動の実施に対する身体の適応を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
<b>第8回 循環機能 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 自律神経系による循環機能の調節・ストレスに対する応答を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された「循環機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。							
<b>【学習上の留意点】</b> 授業資料は適宜配布する。授業はPC (パワーポイント) によるスライドをもとに進める。また、各単元の終了時には小テストを行い、知識の習得状況・理解度を把握する。レポート課題を課す。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に購入の必要はないが、図書館などで「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考にとすること。							
<b>【関連科目】</b> スポーツ生理学、運動処方論							
<b>【成績評価方法】</b> 授業内小テストおよびレポートを20%、テストの結果 (試験は試験期間中に別途実施) を80%として総合的に評価する。							

科目名	国語表現Ⅱ				担当者	稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
<b>【目的とねらい】</b> 国語表現Ⅰで培った言語力やコミュニケーション能力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。さらには、新書を読む読書力を養い、質的研究法で用いられるインタビューなど、自身が体験したことの言語化に取り組む。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定)</b> <b>【 到達目標 】</b> 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。  <b>【授業時間外学習】</b> 興味や関心のある新聞記事を探す。				<b>第9回 本から学ぶ②</b> <b>【 到達目標 】</b> ・書誌情報を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された新書を読む。			
<b>第2回 新聞を活用した意見の構築①</b> <b>【 到達目標 】</b> 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 記事を要約する。				<b>第10回 本から学ぶ③</b> <b>【 到達目標 】</b> 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。  <b>【授業時間外学習】</b> 本を読み、要約などをまとめる。			
<b>第3回 新聞を活用した意見の構築②</b> <b>【 到達目標 】</b> 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 討議の内容を整理し、要約する。				<b>第11回 本から学ぶ④</b> <b>【 到達目標 】</b> 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。  <b>【授業時間外学習】</b> 本を読み、要約などをまとめる。			
<b>第4回 新聞を活用した意見の構築③</b> <b>【 到達目標 】</b> 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> 記事をもとにして、意見文を書く。				<b>第12回 インタビューを書く①</b> <b>【 到達目標 】</b> インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> インタビューのまとめ方の構想を練る。			
<b>第5回 アカデミック・ライティングの基礎①</b> <b>【 到達目標 】</b> 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 意見文を書く。				<b>第13回 インタビューを書く②</b> <b>【 到達目標 】</b> インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> インタビューを完成させる。			
<b>第6回 アカデミック・ライティングの基礎②</b> <b>【 到達目標 】</b> 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 意見文を書く。				<b>第14回 インタビューを読み合う</b> <b>【 到達目標 】</b> 完成したインタビューを読み合い、入念に推敲した上で、より適切な文章に修正する。  <b>【授業時間外学習】</b> 推敲して修正したインタビューの文章を見直す。			
<b>第7回 アカデミック・ライティングの基礎③</b> <b>【 到達目標 】</b> 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本を読み、要約などをする。				<b>第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返って、自己評価を行う。			
<b>第8回 本から学ぶ①</b> <b>【 到達目標 】</b> ・新書の読み方を知る。 ・本の選び方と読み方を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書として指定された新書を読む。							
<b>【学習上の留意点】</b> ・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・新聞や新書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 : 『なぜあの時あきらめなかったのか』小松成美著(PHP新書) 参考書1 : 『日本語検定公式練習問題集改訂版 3級』日本語検定委員会編(東京書籍) 参考書2 : 『聞く力』阿川佐和子著(文春新書)							
<b>【関連科目】</b> 国語表現Ⅰ							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出物40%・発表20%・課題40%							

科目名	ドイツの言語と文化 I				担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language and Culture I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象に、発音および日常会話の基本表現の習得と、生活文化の背景について学習することをめざす。ドイツ語圏、ひいてはヨーロッパ圏に興味・関心をもって自らその情報を調べることにつながるようになる。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 授業概要の説明</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツ語の文字と音声（発音とリズム）を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> アルファベットの発音を復習する。				<b>第9回 日常生活の表現 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 名詞について学習し、名詞に性があることを知る。 単数形か複数形かを意識する癖をつける。  <b>【授業時間外学習】</b> 日常使う物の名前を覚える。			
<b>第2回 アルファベットの歴史と発音</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツ語の文化的背景を理解する。 アルファベットと単語の読み方との関係性に気づき、その法則性を意識する。  <b>【授業時間外学習】</b> 単語の発音を復習する。				<b>第10回 日常生活の表現 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 冠詞について学習し、冠詞が果たす役割を理解する。 格という文法用語を知り、これに慣れる。  <b>【授業時間外学習】</b> 定冠詞を暗記する。			
<b>第3回 ドイツ語とドイツ文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 英語とは決定的に異なるドイツ語の文構造を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った文を暗記する。				<b>第11回 日常生活の表現 3</b> <b>【 到達目標 】</b> 家族や友人関係の表現を学習する。 不定冠詞類を学ぶことで、「私の、彼の、君たちの」等を使った名詞の表現ができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 家族について紹介する。			
<b>第4回 あいさつ表現</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活に欠かせないあいさつ表現が使えるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> あいさつ表現を暗記する。				<b>第12回 日常生活の表現 4</b> <b>【 到達目標 】</b> 数字を覚えて、20までの規則性を捉える。 24時間制で時刻の表現ができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 数字を暗記する。			
<b>第5回 自己紹介 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 主語として使う代名詞「私は、彼は、私たちは…」等を使って簡単な自己紹介ができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の名前と出身地を表現する。				<b>第13回 日常生活の表現 5</b> <b>【 到達目標 】</b> 買物をするための表現を学習する。 ユーロという通貨を使って、買い物のやり取りができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 買物の値段を表現する。			
<b>第6回 自己紹介 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 大学で何を専攻しているのかを表現したり、相手に専攻を尋ねたりできるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 少しずつでも自己紹介をする内容を増やす。				<b>第14回 日常生活の表現 6</b> <b>【 到達目標 】</b> 月名、曜日、自然現象の表現を学習する。 今、何時なのかを尋ねたり、答えたりできるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 日付と天気をドイツ語で日記に表現する。			
<b>第7回 人物の紹介 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 動詞について学習して、主語に合わせて動詞が変化することに慣れる。  <b>【授業時間外学習】</b> 家族や友人を紹介する。				<b>第15回 理解度の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分のこと、身の回りのことなどを、実際に文章や口頭で表現できる。 「気温が暑い」、「気分が悪い」等、天候や心理現象などを表現できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の分からない所を書き出す。			
<b>第8回 人物の紹介 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な言語やスポーツの表現を学習して、使える言語を示し、得意なスポーツを説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の好きなスポーツを表現する。							
<b>【学習上の留意点】</b> 特に発音練習と復習を継続し、言語的、文化的特性を理解すること。付録のweb音声を聞く機会を自分で設けて、ドイツ語の音やリズムに慣れることは語学習得への近道です。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『お菓子で学ぶドイツ語』 平山茂樹・小野森都子・藤由順子著 朝日出版社							
<b>【関連科目】</b> ドイツの言語と文化Ⅱ							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業中での発表や課題提出を20%、理解度確認のためのテスト結果を80%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。							

科目名	ドイツの言語と文化Ⅱ				担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language and Culture Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 「ドイツの言語と文化Ⅰ」と同様、発音および日常会話の基本表現の習得と文化的背景の学習をめざす。基礎力をさらに養い、基本表現のいっそうの習得と定着を図り、異文化理解の能力を高める。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 授業概要の説明、テキスト等の紹介</b> <b>【 到達目標 】</b> 音声的基礎を踏まえた発音を改めて習得し、自学自習に役立てる。  <b>【授業時間外学習】</b> 文字と単語の発音練習をする。				<b>第9回 日常生活の表現:気持ちを伝える</b> <b>【 到達目標 】</b> 話法の助動詞について学習する。 「～したい、～しなければならぬ」等の、感情により即した表現ができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のできることや願望を具体的に表現する。			
<b>第2回 基礎知識の確認:発音、あいさつ</b> <b>【 到達目標 】</b> 基礎的文法を理解し、ドイツ語の文の特徴を踏まえて、文章を読んでその内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 挨拶の表現を復習する。				<b>第10回 日常生活の表現:将来について</b> <b>【 到達目標 】</b> 近い未来を表現できるようになる。 その際、ドイツ語の時制について触れて、現在形が多用される特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の将来を想像し、これを文章にしてみる。			
<b>第3回 ドイツの都市(州と州都)</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活の表現とその文化的背景を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ドイツの主な都市を地図で確認する。				<b>第11回 日常生活の表現:夢</b> <b>【 到達目標 】</b> zu不定詞について学習することで、「～すること」を表現できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の夢を表現する。			
<b>第4回 日常生活の表現:場所を尋ねる表現について</b> <b>【 到達目標 】</b> 前置詞について学習する。 英語では意識することのなかった、名詞・代名詞との「相性」つまり格支配を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 場所を尋ね、教える表現を覚える。				<b>第12回 日常生活の表現:週末の予定</b> <b>【 到達目標 】</b> 分離動詞について学習する。 ドイツ語の辞書を正しく引けるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の週末の予定を書く。			
<b>第5回 日常生活の表現:1日の行動を表現する</b> <b>【 到達目標 】</b> 日時を表す前置詞について学習して、「いつ」が表せるようになる。 「～時に・～時ごろに、～曜日に、～曜日まで」など。  <b>【授業時間外学習】</b> 1日の日記を書く。				<b>第13回 日常生活の表現:結婚式</b> <b>【 到達目標 】</b> 接続詞について学習して、文と文をつなげた少し長い文章を理解できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 接続詞を覚える。			
<b>第6回 日常生活の表現:色彩、形容詞について</b> <b>【 到達目標 】</b> 形容詞について学習する。 形容詞が使用方法によっては形を変えることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 色彩の表現を覚える。				<b>第14回 日常生活の表現:古都</b> <b>【 到達目標 】</b> 従属の接続詞と副文について学習する。 主文と副文という分類を、動詞の位置で示すというドイツ語の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 接続詞を用いた文を作成する。			
<b>第7回 日常生活の表現:年齢、身長</b> <b>【 到達目標 】</b> 形容詞、副詞について学習する。 辞書での表示方法を理解し、正しく和訳・独訳できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の年齢と身長を書く。				<b>第15回 理解度の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 近い将来の目標を表し、そのために何を行ってきたかを具体的な文章で表現できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 表現しきれなかったこと、難しかったことを確認する。			
<b>第8回 日常生活の表現:比較表現、序数</b> <b>【 到達目標 】</b> 原級、比較級、最高級について学習して、「同じくらい～だ/もっと～だ」等が表せる。  <b>【授業時間外学習】</b> 比較表現を練習する。							
<b>【学習上の留意点】</b> 発音練習と復習に重点を置くこと。課題にしっかり取り組むこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『お菓子で学ぶドイツ語』 平山茂樹・小野森都子・藤由順子著 朝日出版社							
<b>【関連科目】</b> ドイツの言語と文化Ⅰ							
<b>【成績評価方法】</b> 授業時の発表や課題提出20%、理解度確認のためのテスト結果を80%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。							

科目名	世界の民族音楽				担当者	櫻田素子	
英文名	World Music						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 世界のさまざまな地域・民族に見られる音楽文化の多様性を、主として視聴覚資料をもちいて学ぶ。各音楽文化は、それぞれの歴史的背景、社会的背景、価値観によって、独自の音楽を形成してきた。こうした音楽文化のあり様を知り、また、グローバルな知の交流や人々の移動が進むなか、音楽文化がどのように変化してきたのか、現在はあるどのような姿であるのかなど、知ることを目的とする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 世界の様々な音楽、芸能を学ぶということ</b> <b>【 到達目標 】</b> 「民族音楽」と呼ばれてきた音楽とは何かを考察し、それらを学ぶ意味、意義について考えられるようにする。また、各地の音楽に利用される楽器の理解方法＝楽器分類方法も知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 各種メディア等、身の周りにおける音楽に注意を向け、どのような音楽であるかを考察する。				<b>第9回 日本の音楽文化(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の「伝統音楽・古典音楽」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本の歴史について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
<b>第2回 アフリカの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> サハラ砂漠以南のアフリカにおける音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> アフリカの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				<b>第10回 日本の音楽文化(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本各地の「民俗芸能」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本各地の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
<b>第3回 西ヨーロッパの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 西ヨーロッパを中心とした音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 西ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				<b>第11回 日本の音楽文化(3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の音楽の歴史、特に、近代から現代へ至る、大衆音楽を含む音楽文化全般の特徴と変化について学び、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本の近代（江戸時代末期から明治・大正・昭和・平成時代）の歴史について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
<b>第4回 東ヨーロッパ・ロシアの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 東ヨーロッパ地域、およびロシアの音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 東ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				<b>第12回 オセアニアの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> オセアニア（環太平洋地域）に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> オセアニアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
<b>第5回 西アジア・中央アジアの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 西アジア（アラブ文化圏）の音楽とそれに類似する音楽文化をもつ中央アジアの音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 西アジア・中央アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				<b>第13回 北米の音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 北米の音楽文化に見られる音楽文化の代表的なもの、特に、ポピュラー音楽を中心に学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 北米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
<b>第6回 南アジアの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> インド亜大陸を中心とする地域に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				<b>第14回 中南米の音楽文化(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 中南米(カリブ海地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> カリブ海地域の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
<b>第7回 東南アジアの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 東南アジア(大陸部、島嶼部)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 東南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				<b>第15回 中南米の音楽文化(2)、まとめ</b> <b>【 到達目標 】</b> 中南米(南米)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。また、世界の民族音楽を学んできたことによって得たもの、培ったものは何かを考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 南米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
<b>第8回 東アジアの音楽文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 東アジア(中国とその周辺、中国文化の影響を受けた地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 東アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。							
<b>【学習上の留意点】</b> 視聴覚資料を多用する授業だが、積極的に参加すること。特に各地の文化を紹介する際、パワーポイントを利用してその特徴を説明するので、自分で適宜メモをとり、その音楽、芸能の特徴をとらえる努力をすること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業内にてプリントを配布、また、参考文献等を適宜指示する。							
<b>【関連科目】</b> 西洋音楽							
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度(50%)、学期末レポート(50%)で評価する。							

科目名	日常生活の社会学				担当者	田北康成	
英文名	Introductory Sociology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的なアイテムとして有効なことを実感していただければと思う。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。 (2)領域を超えて横断的に物事を捉える習慣、そこで何が語られないかと考える習慣を身につける。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「日本」という国の好きなおもしろいところ、きらいなところを考えておく。				<b>第9回 新しい社会運動と「地域」の変革を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「地域」の人間関係を取り戻すいくつかの試みを学ぶ。 (2)新しい社会運動が従来型の労働運動とどう違うかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「絆」という言葉から連想することを考えておく。			
<b>第2回 社会学はどのような考え方をするのか(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。 (2)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。				<b>第10回 これからのライフステージを考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ライフステージに伴う生活の変化を捉える。 (2)働き方に縛られない生活を把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：将来、どこに住みたいか、その理由とともに考えておく。			
<b>第3回 社会学はどのような考え方をするのか(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。 (2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：次に食べに行きたい「おいしい店」を探しておく。				<b>第11回 働くことの意味を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「疎外された労働」、搾取、格差社会について理解する。 (2)労働条件の持つ意味を把握するとともに、金銭に換算されない労働を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「おもてなし」という言葉から連想する実例を考えておく。			
<b>第4回 人が持っているバイアスを考える (1) ジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。 (2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固定化していく心理を読み解く。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。				<b>第12回 セーフティネットの持つ意味</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「相対的剥奪の理論」について理解する。 (2)セーフティネットが機能しない問題について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「生活保護」について自分の考えをまとめておく。			
<b>第5回 人が持っているバイアスを考える (2) エスニシティ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「日本」という国に住んでいることのバイアスを考える。 (2)前回の授業とともに「一般化された他者」になる道筋を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：行ってみたい、住んでみたい国をその理由とともに考えておく。				<b>第13回 ハンディキャップを考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「しょうがい」とはどのようなものか、何が生きづらさをもたらすかを考える。 (2)「パラリンピック」に何が期待されるかを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：身の回りにおける「ユニバーサル・デザイン」を探しておく。			
<b>第6回 家族の役割について考える (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「家族」に対する理論的な分析枠組みを知ると共に、その機能を学ぶ。 (2)「家族」の制度がかかえる問題や課題を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「夫婦別姓」についてどう思うか、その理由を考えておく。				<b>第14回 病と医療を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)タルコット・パーソンズの「病人役割」について把握する。 (2)病とソーシャルキャピタルの関係について把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自分の住んでいる場所の休日・深夜の医療体制を調べておく。			
<b>第7回 家族の役割について考える (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「家制度」の変化と現状、課題を知る。 (2)ライフステージの変化を捉えていく。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自分の「お墓」について考えておく。				<b>第15回 全体のまとめと補論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)これまで14回かけて学んできたこと全体の復習をする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：これまでにとったノートを整理し、分からないところを調べておく。			
<b>第8回 人や地域コミュニティのネットワークをどう形成するか</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)災害時のコミュニティ形成について学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自分が住んでいる地区の避難場所を調べておく。							
<b>【学習上の留意点】</b> この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。それに加えて社会調査入門も兼ねている。ほぼ毎回何らかの予習課題が用意されている。世の中の動きについて積極的な好奇心を持つことで授業への主体的な参加が求められる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は不使用。参考書は随時指示するので、事後学習に役立ててほしい。							
<b>【関連科目】</b> 現代文化論							
<b>【成績評価方法】</b> 予習課題に連動した毎回のレスポンスシートと、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテストとの総合点で評価する。(試験は試験期間中に別途実施する)							

科目名	人間心理の理解			担当者	三好昭子	
英文名	Personality Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b>						
<p>本講義は、人間の心と行動について多面的にとらえ、理解することができるようになることを目的とする。まずは人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかを理解する。そしてそれぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心をどのようにとらえることができるのだろうか。それについて考えることを可能にするため、パーソナリティや知能といった漠然とした目に見えないものを見方を幅広く修得する。さらに対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深めることを目的としている。</p>						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 感覚・知覚①私たちが知覚できるもの・できないもの</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)人間が外界をどのように知覚するかを理解する。 (2)同じものを見ても見え方が異なることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 人間の知覚についての理解に関する課題を行う。			<b>第9回 発達の可塑性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)初期経験の重要性について理解する。 (2)社会的に剥奪された環境からの社会復帰について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 発達の可塑性についての理解に関する課題を行う。			
<b>第2回 感覚・知覚②心理的世界と物理的世界との関連</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)知覚の恒常性について理解する。 (2)奥行き知覚について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 知覚の恒常性と奥行き知覚に関する課題を行う。			<b>第10回 対人認知・印象形成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)対人認知について理解する。 (2)印象形成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 対人認知と印象形成の理解に関する課題を行う。			
<b>第3回 感情・情動</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)どのようにして感情を感じるのかを理解する。 (2)表情の読み取りについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 感情の起源と表情の読み取りに関する課題を行う。			<b>第11回 態度変容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)態度変容に影響を与える要因について理解する。 (2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 態度変容に関する課題を行う。			
<b>第4回 パーソナリティ①類型論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)クレッチマーの類型論について理解する。 (2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 類型論の理解に関する課題を行う。			<b>第12回 恋愛</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解する。 (2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 恋愛の理解に関する課題を行う。			
<b>第5回 パーソナリティ②特性論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)共通特性について理解する。 (2)ギルフォードの特性論について理解する。 (3)Big Fiveについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 特性論の理解に関する課題を行う。			<b>第13回 グループダイナミクス①同調</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)他者への同調について理解する。 (2)他者への同調がまねく危険性について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 同調の理解に関する課題を行う。			
<b>第6回 パーソナリティ③構造論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フロイトの構造論について理解する。 (2)レヴィンの構造論について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 構造論の理解に関する課題を行う。			<b>第14回 グループダイナミクス②服従</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)他者への服従について理解する。 (2)他者への服従がまねく危険性について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 服従の理解に関する課題を行う。			
<b>第7回 知能とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)知能の定義について理解する。 (2)知能テストについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 知能と知能テストの理解に関する課題を行う。			<b>第15回 ヒューマンエラー</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)リスクテイキングについて理解する。 (2)リスクマネジメントについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ヒューマンエラーに関する課題を行う。			
<b>第8回 知能の発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)行動遺伝学について理解する。 (2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 知能の発達に関する課題を行う。						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<p>講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の中で、心理テストを行うことがある。自己理解に役立てるためにも積極的に取り組むことが望まれる。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、分かったこと、分からなかったことを明確にし、知識を整理することが必要である。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。</p>						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
<p>教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。  参考書：『心理学 こころと行動のメカニズムを探る』越智啓太・著（樹村房 2012）</p>						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b>						
<p>毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。</p>						

科目名	ボランティア活動論			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> ボランティア活動を行っている先輩や活動家から現場の生の声を聞き、実際にボランティア活動を体験しながら、現代社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。 授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）</b> 【到達目標】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。 (2)自分の学習目標を決める。  【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。			<b>第9回 日本におけるボランティア活動</b> 【到達目標】 (1)日本におけるボランティア活動の現状と課題を知る。 (2)自分の学校生活におけるボランティア学習を振り返り検証する。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
<b>第2回 ボランティア活動事例の紹介（1）</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			<b>第10回 ボランティアセンター</b> 【到達目標】 (1)ボランティアセンターの役割を理解する。 (2)ボランティアセンターを、自分の活動に有効に利用できる。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
<b>第3回 ボランティア活動の留意点</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動を始める際に必要なプロセスを理解する。 (2)ボランティア活動実践に必要な態度やルールを理解する。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			<b>第11回 大学の地域貢献</b> 【到達目標】 (1)大学で学ぶ専門性を地域のために活かす方策を考える。 (2)自らの市民参加や社会貢献に結び付けて考察する。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
<b>第4回 サービスラーニング</b> 【到達目標】 (1)サービスラーニングの考え方を理解する。 (2)サービスラーニングを意識したボランティア活動計画を立てる。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			<b>第12回 ボランティア活動体験と報告（1）</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。  【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
<b>第5回 ボランティア活動事例の紹介（2）（講話）</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			<b>第13回 ボランティア活動体験と報告（2）</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。  【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
<b>第6回 ボランティア活動の役割と背景</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			<b>第14回 ボランティア活動体験と報告（3）</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。  【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
<b>第7回 ボランティア活動の歴史</b> 【到達目標】 (1)世界におけるボランティア活動の歴史を理解する。 (2)ボランティア思想の発展史を理解する。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			<b>第15回 ボランティア活動レポートの作成・提出</b> 【到達目標】 (1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。  【授業時間外学習】 ボランティア活動レポートを作成する。			
<b>第8回 ボランティア活動事例の紹介（3）（講話）</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。  【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。						
<b>【学習上の留意点】</b> ボランティアセンターの協力を得て学習を進め、ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、プレゼンテーション、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。						

科目名	英語EAP I				担当者	中村大輔	
英文名	English for Academic Purposes I						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 学術論文を理解するためには語彙・文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業ではcause-effect関係の把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。予習を前提としている授業なので、受講生は十分に準備した上で授業に臨むことになる。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 Introduction</b> <b>【 到達目標 】</b> この授業での学習の進め方・評価方法の説明・受講上の注意点を把握する。			<b>第9回 Words from the Academic Word List (AWL) ②</b> <b>【 到達目標 】</b> 学術論文の理解に必要なvocabularyを身につける。				
<b>【授業時間外学習】</b> Education & Biology essayを読む			<b>【授業時間外学習】</b> AWLにある語彙の理解、産出練習を行う。				
<b>第2回 Education &amp; Biology</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文のmain ideaを把握できるようになる。			<b>第10回 Science &amp; Engineering</b> <b>【 到達目標 】</b> scanningで情報を把握できるようになる。				
<b>【授業時間外学習】</b> main ideaを把握するreading skills演習を行う。			<b>【授業時間外学習】</b> scanningを育成するreading skills演習を行う。				
<b>第3回 Education &amp; Psychology</b> <b>【 到達目標 】</b> Cause-Effect関係を把握できるようになる。			<b>第11回 Science &amp; Medicine</b> <b>【 到達目標 】</b> main ideaとsupporting detailsの関係を理解する。				
<b>【授業時間外学習】</b> Cause-Effect関係を把握するreading skills演習を行う。			<b>【授業時間外学習】</b> main ideaとsupporting detailsの関係を理解するreading skills演習を行う。				
<b>第4回 Education &amp; Government</b> <b>【 到達目標 】</b> comparison-contrast関係を把握出来るようになる。			<b>第12回 Science &amp; Education</b> <b>【 到達目標 】</b> 情報の時系列を把握出来るようになる。				
<b>【授業時間外学習】</b> comparison-contrast関係を把握するreading skills演習を行う。			<b>【授業時間外学習】</b> 情報の時系列を把握するreading skills演習を行う。				
<b>第5回 Words from the Academic Word List (AWL) ①</b> <b>【 到達目標 】</b> 学術論文の理解に必要なvocabularyを身につける。			<b>第13回 Words from the Academic Word List (AWL) ③</b> <b>【 到達目標 】</b> 学術論文の理解に必要なvocabularyを身につける。				
<b>【授業時間外学習】</b> AWLにある語彙の理解、産出練習を行う。			<b>【授業時間外学習】</b> AWLにある語彙の理解、産出練習を行う。				
<b>第6回 Sociology &amp; Architecture</b> <b>【 到達目標 】</b> comparison-contrast関係を把握出来るようになる。			<b>第14回 総復習 ①</b> <b>【 到達目標 】</b> これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかりと行った上で授業に臨むこと。				
<b>【授業時間外学習】</b> 表を用いて視覚的に情報を整理するreading skills演習を行う。			<b>【授業時間外学習】</b> 課題の総チェックと総点検を行う。				
<b>第7回 Sociology &amp; Anthropology</b> <b>【 到達目標 】</b> 情報の時系列を把握出来るようになる。			<b>第15回 総復習 ②</b> <b>【 到達目標 】</b> これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかりと行った上で授業に臨むこと。期末試験に向けた課題も出す。				
<b>【授業時間外学習】</b> 情報の時系列を把握するreading skills演習を行う。			<b>【授業時間外学習】</b> 課題の総チェックと総点検を行う。				
<b>第8回 Sociology &amp; Literature</b> <b>【 到達目標 】</b> scanningで情報を把握できるようになる。							
<b>【授業時間外学習】</b> scanningを育成するreading skills演習を行う。							
<b>【学習上の留意点】</b> ・指定された箇所の予習を確実にを行った上で授業に出席すること。受講生一人一人の「自立的学習力」も観察・評価する。 ・授業には辞書（あるいはsmartphone等辞書機能として使用できるもの）を携帯すること。 ・文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は行わない。							
<b>【教科書・参考書など】</b> Mackey, D. (2012). Read this! Intro. New York: Cambridge University Press. その他、参考書等は授業内で指示する。 ※上記テキストは現時点での予定であり、変更の可能性がある。詳しくは初回の授業で担当者の指示に従うこと。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 平常点（小テスト、課題、授業内での応答、自立的学習力）を50%、学期末試験を50%として成績を評価する。							

科目名	英語EGCI			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b>						
This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 Introductions</b> 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course  【授業時間外学習】 Preview syllabus			<b>第9回 Regular and Current Activities</b> 【到達目標】 Practising present tenses  【授業時間外学習】 Review present tense usage			
<b>第2回 Asking / Answering Questions</b> 【到達目標】 Practising question / answer format  【授業時間外学習】 Review question sentence grammar			<b>第10回 Presentations: Invitations</b> 【到達目標】 Discussing schedules  【授業時間外学習】 Prepare presentation			
<b>第3回 Likes and Dislikes</b> 【到達目標】 Practising preference vocabulary/grammar  【授業時間外学習】 Preview preference vocabulary / grammar			<b>第11回 Part-time Work</b> 【到達目標】 Previewing work-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview work-related vocabulary			
<b>第4回 Presentations: Likes and Dislikes</b> 【到達目標】 Discussing preferences  【授業時間外学習】 Prepare presentation			<b>第12回 Duties and Working Conditions</b> 【到達目標】 Previewing additional work-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview additional vocabulary			
<b>第5回 Family</b> 【到達目標】 Practising family vocabulary  【授業時間外学習】 Preview family vocabulary			<b>第13回 Presentations: Part-time Work</b> 【到達目標】 Discussing part-time work  【授業時間外学習】 Prepare presentation			
<b>第6回 People</b> 【到達目標】 Practising descriptive vocabulary  【授業時間外学習】 Preview descriptive vocabulary			<b>第14回 Preparations for Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
<b>第7回 Preparations for Presentations: Family</b> 【到達目標】 Gathering and organising information  【授業時間外学習】 Prepare presentation			<b>第15回 Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Course Review  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
<b>第8回 Presentations: Family</b> 【到達目標】 Discussing family  【授業時間外学習】 Prepare presentation						
<b>【学習上の留意点】</b>						
Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b>						
Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

科目名	英語EAPⅡ				担当者	大和久吏恵	
英文名	English for Academic Purposes Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、英語による様々な分野の論理的な文章を正確に読み、多様性を受容する素地を作ります。またプレゼンテーションに関する作業（原稿作成・発表・相互評価）を通して、英語で意見を述べる技術の習得を目指します。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション 英文読解演習（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。 論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				<b>第9回 英文読解演習（9）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 演習を通して課題文の内容を把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第2回 英文読解演習（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> パラグラフの構造を確認する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				<b>第10回 英文読解演習（10）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 課題文の内容に関して意見を構築する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第3回 英文読解演習（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> パラグラフ間の関係を理解する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				<b>第11回 英文読解演習（11）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第4回 英文読解演習（4）</b> <b>【 到達目標 】</b> 演習を通して課題文の内容を把握する。 課題文の内容に関して意見を構築する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				<b>第12回 英文読解演習（12）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第5回 英文読解演習（5）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				<b>第13回 英文読解演習（13）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第6回 英文読解演習（6）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				<b>第14回 英文読解演習（14）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションを通して意見を発表する。② <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
<b>第7回 英文読解演習（7）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				<b>第15回 英文読解演習（15）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論説文・プレゼンテーションを含む授業全体のふり取りを行う。 今後の学習目標を設定する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。			
<b>第8回 英文読解演習（8）</b> <b>【 到達目標 】</b> 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションを通して意見を発表する。① <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。							
<b>【学習上の留意点】</b> 担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。 復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。 論説文・プレゼンテーションに関して意見を持ち、発言・レポートを通して表現すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> プリントを配布します。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、平常点(課題・レポート等)40%、発表20%、試験40%で評価します。							

科目名	英語EGCⅡ			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 Introductions</b> 【到達目標】 Previewing the contents and goals of the course  【授業時間外学習】 Preview syllabus			<b>第9回 The City</b> 【到達目標】 Practising giving / receiving directions  【授業時間外学習】 Preview directions vocabulary			
<b>第2回 Questions about Past Experiences</b> 【到達目標】 Practising past tense questions / answers  【授業時間外学習】 Review past tense			<b>第10回 Presentations: My Home</b> 【到達目標】 Discussing living space  【授業時間外学習】 Prepare presentation			
<b>第3回 A Holiday in Florida</b> 【到達目標】 Listening in Context  【授業時間外学習】 Preview holiday vocabulary			<b>第11回 School</b> 【到達目標】 Previewing school-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview school-related vocabulary			
<b>第4回 Presentations: Holidays</b> 【到達目標】 Discussing a past experience  【授業時間外学習】 Prepare presentation			<b>第12回 Presentations: School</b> 【到達目標】 Discussing School  【授業時間外学習】 Prepare presentation			
<b>第5回 Countries and Their Kitchens</b> 【到達目標】 Practising food-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview food-related vocabulary			<b>第13回 Reading a Story</b> 【到達目標】 Reading comprehension  【授業時間外学習】 Reading Preparation			
<b>第6回 Locations</b> 【到達目標】 Practising location vocabulary  【授業時間外学習】 Preview location vocabulary			<b>第14回 Preparations for Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
<b>第7回 Presentations: A Country and its Kitchen</b> 【到達目標】 Discussing Foreign Countries  【授業時間外学習】 Prepare presentation			<b>第15回 Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Course Review  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
<b>第8回 The Home</b> 【到達目標】 Practising home-related vocabulary  【授業時間外学習】 Preview home-related vocabulary						
<b>【学習上の留意点】</b> Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
<b>【教科書・参考書など】</b> Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

科目名	教養としてのドイツ言語論			担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language as General Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> 初級レベルの基礎知識を確かなものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介</b> <b>【 到達目標 】</b> 音声的基礎を踏まえ、さらなるコミュニケーション能力を高める。  <b>【授業時間外学習】</b> 文字と単語の発音練習をする。			<b>第9回 前置詞の格支配</b> <b>【 到達目標 】</b> 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。  <b>【授業時間外学習】</b> 例文を覚える。			
<b>第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常生活レベルから教養的レベルの語彙を理解する。 あいさつやとっさの一言を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 語彙の発音と意味を確認する。			<b>第10回 助動詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 語法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。			
<b>第3回 ドイツ語の文構造</b> <b>【 到達目標 】</b> 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、ドイツ語で表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 基本的な文を覚える。			<b>第11回 従属接続詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 接続詞と複雑な文章を学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 動詞の位置を確認する癖をつけて、文構造を理解する。			
<b>第4回 ドイツ語の名詞を知る</b> <b>【 到達目標 】</b> 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 格変化の表の見方に慣れる。			<b>第12回 分離動詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 文中に登場する分離動詞を見つけ出し、見出し語の形に戻せるようになる。 分離動詞を使って日常生活を表現できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 例文を覚える。辞書を引いて、分離動詞の表記を確認する。			
<b>第5回 冠詞の役割</b> <b>【 到達目標 】</b> 英語と異なり、「ひとつの」とか「その」という意味を持つだけでないことを再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 辞書を引いて、格変化表を作成してみる。			<b>第13回 再帰代名詞と再帰動詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 主語と同じものを示す目的語の代名詞と、それを用いた熟語的表現（再帰動詞）を学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 辞書で再帰動詞を引いて、項目や表記を確認する。			
<b>第6回 複数形</b> <b>【 到達目標 】</b> sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 辞書の見出し語である単数形に戻す練習を重ねる。			<b>第14回 形容詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 形容詞の名詞化を知り、これに慣れる。  <b>【授業時間外学習】</b> 形容詞の格変化表を作成する。			
<b>第7回 所有冠詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 「私の～が」・「彼女の～を」・「君の～に」等の表現を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 所有冠詞を覚えて自分の持ち物を表現する。			<b>第15回 理解度の確認と補足説明</b> <b>【 到達目標 】</b> 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の分からない所を書き出す。			
<b>第8回 人称代名詞</b> <b>【 到達目標 】</b> 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> 発音練習を繰り返すこと。復習をしっかりと行うこと。ドイツ文化と言語への関心を大事にすること。半期でドイツ語の基礎をしっかりとおさえましょう。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 『一歩ずつ楽しいドイツ語』 小川さくえ・片岡律子著 同学社 独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。						
<b>【関連科目】</b> ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ						
<b>【成績評価方法】</b> 授業時の発表・課題提出25%、理解度確認のためのテスト結果を75%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。						

科目名	現代の倫理				担当者	宇多村俊介	
英文名	Ethics in Modern Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：倫理的な問い</b> <b>【 到達目標 】</b> 倫理的な問いのもつ特質を理解するとともに、自分の現状での思想傾向を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第9回 環境倫理：未来に対する責任</b> <b>【 到達目標 】</b> 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第2回 「幸福」「善」とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握し、善の定義を試み、開かれた(未決の)間であることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会</b> <b>【 到達目標 】</b> メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第3回 普遍化可能性1：社会契約</b> <b>【 到達目標 】</b> 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を考察することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第11回 生命倫理1：人間の尊厳</b> <b>【 到達目標 】</b> 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第4回 普遍化可能性2：自由意志</b> <b>【 到達目標 】</b> 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第12回 生命倫理2：生殖医療</b> <b>【 到達目標 】</b> テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第13回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任</b> <b>【 到達目標 】</b> 科学者の社会的責任論の類型の批判的吟味を通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第6回 功利の原理(2)：自由主義的な行為原則</b> <b>【 到達目標 】</b> 功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第14回 倫理的相対主義</b> <b>【 到達目標 】</b> 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第7回 正義：自由と平等</b> <b>【 到達目標 】</b> 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、その両立可能性について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第15回 規範なき時代とニヒリズム</b> <b>【 到達目標 】</b> 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第8回 自然と文明：道具的理性</b> <b>【 到達目標 】</b> 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>							
<b>【学習上の留意点】</b> 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。原理的に考えることを要しますが、具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには、知見を要する場合もあります。できるだけ歴史的・社会的背景の吸収・収集にも努めてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	レクリエーションミュージック・合奏				担当者	今 角 夏 織	
英文名	Recreation music (Ensemble)						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入</b> <b>【 到達目標 】</b> 基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 楽譜の読み方を復習する。				<b>第9回 ボディーパーカッション②</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。  <b>【授業時間外学習】</b> 第8回で扱った楽曲の復習をする。			
<b>第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル</b> <b>【 到達目標 】</b> 校歌の音楽の特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。  <b>【授業時間外学習】</b> 校歌のメロディーを確認する。				<b>第10回 ボディーパーカッション③(発表)/楽譜の基礎知識②</b> <b>【 到達目標 】</b> 第9回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 第9回で取り組んだ内容の復習をする。			
<b>第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル①</b> <b>【 到達目標 】</b> プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 楽曲の正しいリズムを習得する。				<b>第11回 リコーダー運指②/トーンチャイム導入</b> <b>【 到達目標 】</b> リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。			
<b>第4回 身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> リコーダーの取り扱いを習得する。				<b>第12回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム①</b> <b>【 到達目標 】</b> 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。			
<b>第5回 身近なものを使ったアンサンブル③(発表)/リコーダー運指①</b> <b>【 到達目標 】</b> グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習したリコーダーの運指を復習する。				<b>第13回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー①</b> <b>【 到達目標 】</b> トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。			
<b>第6回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ①</b> <b>【 到達目標 】</b> 各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 打楽器の基本的な取り扱いを習得する。				<b>第14回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー②</b> <b>【 到達目標 】</b> トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 担当するパートの復習をする。			
<b>第7回 楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②(発表)</b> <b>【 到達目標 】</b> カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 第6回で扱った楽曲の復習をする。				<b>第15回 リコーダー&amp;トーンチャイム(発表)</b> <b>【 到達目標 】</b> 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。  <b>【授業時間外学習】</b> 第14回の授業内容を復習する。			
<b>第8回 ボディーパーカッション①/リコーダー運指②</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで1オクターブの音域を使って演奏する。  <b>【授業時間外学習】</b> リコーダーの運指を復習する。							
<b>【学習上の留意点】</b> ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜楽譜を配布する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。							

科目名	日常生活の法律				担当者	中村安菜	
英文名	Law in Everyday Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本に存在している法律の数を調べる。				<b>第9回 表現物と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 知的財産の種類について理解する。 (2) 特許制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 特許をとっている製品を調べる。			
<b>第2回 アルバイトと法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 契約について理解する。 (2) 労働基準法の内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のアルバイトの契約内容について調べる。				<b>第10回 表現物と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 著作権法について理解する。 (2) 著作権法において規定されている諸権利について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 著作権が問題となった事例を調べる。			
<b>第3回 アルバイトと法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 労働に関連する法的問題について理解する。 (2) ブラックアルバイトについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ブラックバイトの具体的な事例を調べる。				<b>第11回 ペットの飼育と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 法律におけるペットの定義について理解する。 (2) ペットに関する諸法律の存在について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 遺棄される動物の数を調べる。			
<b>第4回 恋愛関係と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 恋愛関係による法的問題の存在を理解する。 (2) ストーカー規制法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 恋愛関係において発生する問題を調べる。				<b>第12回 ペットの飼育と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 動物愛護管理法の内容について理解する。 (2) 動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。			
<b>第5回 恋愛関係と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) DV防止法について理解する。 (2) リベンジポルノ防止法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 2つの法律に関連する具体的な事件を調べる。				<b>第13回 犯罪の取り調べと裁判の進め方</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 警察による取り調べに関する規定について理解する。 (2) 起訴から判決までの流れについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。			
<b>第6回 家族と法律①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 家庭生活及び婚姻の解消に関する法制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 結婚するために必要な手続について調べる。				<b>第14回 試験と法律</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 偽計業務妨害罪について理解する。 (2) 私文書偽造罪について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 不正行為を禁止される理由について考える。			
<b>第7回 家族と法律②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 親子関係の発生及び親子間の権利義務に関する法制度について理解する。 (2) 養子に関する法制度について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 親子関係不存確認訴訟（2014年7月17日）に関する新聞記事をコピーする。				<b>第15回 日々の暮らしと法律</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。			
<b>第8回 無戸籍問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 無戸籍問題を理解する。 (2) 無戸籍であることによって生じる不利益について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 無戸籍問題に関する新聞記事を調べる。							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 開講時に指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	教養としての経済学			担当者	高橋 信勝	
英文名	Introductory Economics					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> 目的：経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を習得し、併せて経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 経済学への誘い（1）</b> 【 到達目標 】 経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。			<b>第9回 有効需要論（2）</b> 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。			
<b>第2回 経済学への誘い（2）</b> 【 到達目標 】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。			<b>第10回 IS-LM分析（1）</b> 【 到達目標 】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。			
<b>第3回 企業と経済</b> 【 到達目標 】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。			<b>第11回 IS-LM分析（2）</b> 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。			
<b>第4回 GDPと三面等価の原則</b> 【 到達目標 】 GNPとGDP、三面等価の原則、ストックとフロー、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。			<b>第12回 国際収支と為替レート（1）</b> 【 到達目標 】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかわりを理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードの比較生産費説）。			
<b>第5回 中央銀行の機能と金融政策（1）</b> 【 到達目標 】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。			<b>第13回 国際収支と為替レート（2）</b> 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。			
<b>第6回 中央銀行の機能と金融政策（2）</b> 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。			<b>第14回 戦後の日本経済</b> 【 到達目標 】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。			
<b>第7回 インフレとデフレ</b> 【 到達目標 】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。			<b>第15回 授業の総復習と問題演習</b> 【 到達目標 】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。			
<b>第8回 有効需要論（1）</b> 【 到達目標 】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。						
<b>【学習上の留意点】</b> 経済学は体系的な学問なので、継続的な出席が望まれる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は指定しない。参考文献等は、適宜、紹介する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 小テスト（30%）と試験（70%）により、評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	数と論理				担当者	五月女 仁子	
英文名	Arithmetic and Logic						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 計算の基礎1、整数の基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 四則算、計算の順序について復習する。 (2) 約数と倍数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 腕試し問題の復習。				<b>第9回 比と割合</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 比について復習する。 (2) 利益算について学ぶ。 (3) 濃度算について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第2回 計算の基礎2、平方根</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 正負、小数点、分数の計算について復習する。 (2) 平方根の計算について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第10回 速さ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 速さ、時間について復習する。 (2) 通貨算、流水座について学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第3回 方程式</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 1次方程式、連立方程式について復習する。 (2) 2次方程式について復習する。 (3) 不等式について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第11回 特殊算</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 鶴亀算について復習する。 (2) 集合算について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第4回 関数1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 比例と反比例について学ぶ。 (2) 1次関数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第12回 場合の数と確率</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 順列と組み合わせについて学ぶ。 (2) 確率について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第5回 関数2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 2次関数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第13回 図形の基本</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 図形の性質について学ぶ。 (2) 図形の体積と表面積について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第6回 関数3</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 平方完成について学ぶ。 (2) 関数の応用について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第14回 合同と相似</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 合同と相似について復習する。 (2) 平行線と三角形を使った合同と相似の問題について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第7回 数列</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 等差数列、等比数列について理解する。 (2) 数列の応用問題について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第15回 命題と推論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 命題とは何かを理解する。 (2) 命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第8回 規則性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) n進法について理解する。 (2) 剰余算、植木算について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。							
<b>【学習上の留意点】</b> 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間に15分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをするので、間違えた人は必ず復習をしてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 講義中に指示します。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回行うミニ課題36%、期末試験64%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。ミニ課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(翌週に出すことや、研究室に持ってくることは、いかなる理由であっても認めません。							

科目名	社会のしくみとキャリア形成				担当者	影山 陽子・杉村 鉄	
英文名	Social System and Basic Career Development						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 現代社会の特徴を理解し、各人が幸福に生きるためには社会とどのように関わっていくのか、自分のキャリアデザインにおける様々な可能性について考える。また、それらの可能性を実現可能なものとするために、社会人としての基本、社会の仕組みや会社の仕組み・形態を学び、実践体験を通してキャリアデザインについて考え、キャリア形成に関わる実践的スキルを学ぶ。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 ガイダンス・現代社会の特徴について</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業受講のためのガイダンス（必要があれば選抜試験を行う）。現代社会の特徴について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分自身の受講目的を明確にする。				<b>第9回 社会の動きとキャリア（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会背景を踏まえ、働く際に求められている資質・能力・考え方について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 学生と社会人との価値観の違いや社会において大切な考え方について復習する。			
<b>第2回 大学と社会、生涯学習について</b> <b>【 到達目標 】</b> 大学と社会とのつながり、生涯学習について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 「女性と仕事」で学んだ現代社会の特徴について復習とまとめをする。				<b>第10回 社会の動きとキャリア（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> 夢と現実を踏まえ、自分のキャリアを考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自らの希望とそれに向けての準備・努力の確認をする。			
<b>第3回 幸福とキャリア（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> キャリアデザインにおける幸福について考え、幸福に生きるためのスキルについて知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 「キャリアをデザインするとは？」主体的な自己について内省する。				<b>第11回 雇用形態と働き方（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 仕事の種類と具体的な内容を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 具体的な仕事や働き方について復習する。			
<b>第4回 幸福とキャリア（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 選択に迷った時、挫折を経験した時の対処について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 「危機的状況に陥った時にどうするのか？」リスクについて考える。				<b>第12回 雇用形態と働き方（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 大学で学んだ事をどう活かすか、またどう活かせるかについて、実際の仕事に照らし合わせ幅広い視野に立って考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 体育大学で学んだことを活かす視点で自らの強みを考える。			
<b>第5回 社会のしくみ・会社の仕組み（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 法律の変遷と雇用をめぐる変化を通して、働き方について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の卒業後の進路・生き方・働き方について考える。				<b>第13回 実践研究（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 学生と社会人の違いについて実践研究する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新聞を活用し、授業で取り上げたテーマに照らし合わせて再読する。			
<b>第6回 社会のしくみ・会社の仕組み（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 学歴と雇用（形態）について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 大学と専門学校の違いについて再考し、大学で学ぶ目的を確認する。				<b>第14回 実践研究（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 企業・社会の価値観について実践研究する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新聞を活用し、取り上げられている出来事の背景を考える。			
<b>第7回 社会のしくみ・会社の仕組み（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> 大学卒業後の生き方・働き方について、ケーススタディを通して考える。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでの自分の歩みをふり振り返り、現在の学生生活を考える。				<b>第15回 体育大学で学んだことを社会で活かす</b> <b>【 到達目標 】</b> 体育大学で学んだことと企業が求める人材像、自分の描くキャリアデザインの接点や予測について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を通して学んだことを復習し、自身を内省する。			
<b>第8回 社会の動きとキャリア（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会の変化と雇用のあり方について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 現代社会の実態について復習する。							
<b>【学習上の留意点】</b> 通常の授業の他に、学内外における 授業時間外の課外での実践体験活動（職場・会社などの観察・見学等、評価対象外課題）を実施する場合もある。（その場合、時期については社会や企業の動向を考慮し、最適なタイミングを選定する）							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『就活準備』杉村鉄（文芸社） 現代社会の動き（主として経済活動）を知るために、新聞を補助教材として使用する。							
<b>【関連科目】</b> 女性と仕事							
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。							

科目名	現代文化論				担当者	田北康成	
英文名	Modern Culture						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 人々や情報の交流が世界的に進むなかで、多様な文化についての理解は進んでいるようでそうではない。また、「あたりまえ」と思っている自らの文化も、歴史が長いようでそうではない。どのように形成されてきたのかということも改めて知る必要がある。また、社会的な規範がそれらにたいする攻撃を行うこともありながら、一定の時間を経ると文化的な財産やレジェンドとして受け入れられていくこともある。本講義ではいろいろな事例から現代の「文化」について知り、多様な文化理解、交流を図り、形成に資することを目的に受講者の知識欲を喚起することをねらいにしている。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 「文化」の定義を知る。特にゆとりや遊びの精神がないと「文化」は成立しないことを知る。その上で、ある社会の「現代文化」を学ぶ上での政治・経済的背景を押さえることの重要性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「文化」という言葉の意味を調べておく。				<b>第9回 中毒や依存症について考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 中毒や依存症の現状を把握し、解決の困難さについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自ら熱中したこと、現在していることを答えられるようにしておく。			
<b>第2回 文化の多様性を知る</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分たちが暮らしている社会の文化と異なる文化を理解する。日本の文化の特殊性を考えていく。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：好きな肉料理を考えておく。ベジタリアンや宗教上の理由で食べない人はたんぱく源を答えられるようにしておく。				<b>第10回 「自由」がもたらすものは何かを知る</b> <b>【 到達目標 】</b> 自由とは何か、その自由は本当の自由なのかということを知る。自由になったときにどのような判断や行動が生まれるかを知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「自由」から考えることを答えられるようにしておく。			
<b>第3回 健康増進文化を考える（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 「健康」や「美容」を過度なまでに強制する社会の抑圧性について歴史的視点から理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「ダイエット」について調べておく。				<b>第11回 ペナルティーを考える（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 他人の行為で、何が許せないのかを考える。愚かな行為をする自由や権利はあるか。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「バカッター」について調べておく。			
<b>第4回 健康増進文化を考える（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 健康不安が煽られ、「病」がつくられている現状について医療社会学などの知見を得て理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：サプリメントやトクホをどのくらい利用しているか、調べておく。				<b>第12回 ペナルティーを考える（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 中世と近代以後の刑罰の違いを考える。「死刑」は誰のためで、何のために行われるのか、またそれは何をもたらすのかを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「死刑」について自分の考えを答えられるようにしておく。			
<b>第5回 人間関係を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 「タテ社会の人間関係」を読み解く。人間関係による生きづらさは何かということを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：先輩／後輩の関係について日頃感じていることなどを考えておく。				<b>第13回 ポピュラーカルチャー／サブカルチャーを知る（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> マスメディアの発達の歴史とポピュラーカルチャー形成の流れを知る。マスメディア全盛期におけるサブカルチャーの流れを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：誰もが知っていると思われる「歌」を探しておく。			
<b>第6回 差別と向き合う対抗的文化の可能性を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 被差別者の解放運動を再考し、アイデンティティ管理の新しい方向性と文化構築について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：さまざまな競技において、「ハンデ」はなぜ付けられるかを考えておく。				<b>第14回 ポピュラーカルチャー／サブカルチャーを知る（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> ロングテール時代の文化の伝達を考える。サブカルチャーと「聖地」、産業化を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：サブカルチャーの「聖地」を調べる。できれば行ってみる。			
<b>第7回 暴力・憎悪・差別からの脱出を考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 人には「他人が苦しむのを見て快感を感じる」部分があることを知り、それを前提に対処策を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「他人の不幸は蜜の味」という言葉の意味を調べておく。				<b>第15回 全体のまとめと補論</b> <b>【 到達目標 】</b> これまで14回かけて学んできたこと全体を復習をする。活動能力を高める人生の選択を考える。文化の価値にはユーモアと風刺と諧謔の精神も含まれていることを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：これまでにとったノートを整理し、分からないところを調べておく。			
<b>第8回 「恥」の分析を糸口に「日本文化論」とされているものを読み解く</b> <b>【 到達目標 】</b> 「甘え」、「恥」の文化、世間体などの視点から日本人の行動原理とその問題点を理解する。ルース・ベネディクトの「菊と刀」を手がかりに日本の文化を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「義理チョコ」について考えることを答えられるようにしておく。							
<b>【学習上の留意点】</b> 社会学関連の用語については、1年次の「日常生活の社会学」で学んだことを前提とする。多少順番が入り替わることもある。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は不使用。参考書は随時指示するので、事後学習に役立ててほしい。							
<b>【関連科目】</b> 日常生活の社会学							
<b>【成績評価方法】</b> 予習課題に連動した毎回のレスポンスシートと、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテストとの総合点で評価する。（試験は試験期間中に別途実施する）							

科目名	西洋音楽				担当者	森 立 子	
英文名	Western Music						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 「クラシック音楽」という言葉に包括される、グレゴリオ聖歌から現代音楽に至るヨーロッパを源とする音楽を、さまざまな楽器の仕組みと奏法、編成と演奏形態、楽曲の形式、作曲家の生涯、社会背景等、一般的な知識を得ることによって、より深い楽しみ方が出来るようになることを目指す。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 イントロダクション</b> <b>【 到達目標 】</b> 西洋音楽史における時代区分について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。				<b>第9回 20世紀（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 19世紀末から第一次世界大戦にかけて現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第2回 中世・ルネサンス時代</b> <b>【 到達目標 】</b> 中世からルネサンスにかけての音楽を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。				<b>第10回 20世紀（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> 両大戦間に現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第3回 バロック時代（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> バロック時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。対象はイタリア、およびフランス。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。				<b>第11回 オペラ（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> オペラの歴史と作品を知る。対象はイタリア。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第4回 バロック時代（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> バロック時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。対象はドイツ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。				<b>第12回 オペラ（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> オペラの歴史と作品を知る。対象はドイツ、およびフランス。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第5回 古典派の時代</b> <b>【 到達目標 】</b> 古典派の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。				<b>第13回 鍵盤音楽</b> <b>【 到達目標 】</b> 鍵盤音楽の歴史と作品を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第6回 ロマン派の時代（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> ロマン派（特に前期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。				<b>第14回 歌曲</b> <b>【 到達目標 】</b> 歌曲の歴史と作品を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第7回 ロマン派の時代（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> ロマン派（特に後期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。				<b>第15回 管弦楽曲</b> <b>【 到達目標 】</b> 管弦楽曲の歴史と作品を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第8回 ロマン派の時代（3）</b> <b>【 到達目標 】</b> ロマン派の時代に生まれた「国民楽派」の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。							
<b>【学習上の留意点】</b> 音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。毎回、授業の終わりにコメントカードを書いてもらう予定。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業の際に随時紹介する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> コメントカード30%、学期末レポート70%の割合で評価する。							

科目名	フランス語の世界				担当者	山下利枝	
英文名	World French						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらふ。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。				<b>第9回 日常の表現：好き、嫌い、意思、願望</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「エコ・ライフには自転車を」を読む。			
<b>第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ロワール河の北と南」を読む。				<b>第10回 日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。			
<b>第3回 日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の関係の復習）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「個性競うセーヌの橋」を読む。				<b>第11回 まとめと復習②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)7～10回のまとめと復習を実施する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシェル）」を読む。			
<b>第4回 日常の表現：自分のことを言う</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。				<b>第12回 日常の表現：過去形、未来形の基本</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。			
<b>第5回 日常の表現：相手・第三者のことを言う</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。				<b>第13回 フランスの映画鑑賞</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「7月14日は革命記念日」を読む。			
<b>第6回 まとめと復習①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)4・5回のまとめと復習を実施する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「日仏マンガ交流」を読む。				<b>第14回 フランス語の世界を理解するための注目点</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。			
<b>第7回 日常の表現：数、時間、お金</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「ストライキ大国フランス」を読む。				<b>第15回 総復習</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。			
<b>第8回 日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。							
<b>【学習上の留意点】</b> 予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「だいじょうぶ！フランス語」（太田浩一・明石伸子著）（白水社）							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。）							

科目名	中国語の世界			担当者	道上峰史	
英文名	World Chinese					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> 本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語独特の発音や簡体字に慣れてもらうため、受講生には発音、発声の練習や、基礎的な作文を課します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション：中国語について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 言語としての中国語の特性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。			<b>第9回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
<b>第2回 発音の基礎：発音記号と四声</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で習った発音を、繰り返し発声する。			<b>第10回 基礎構文(Ⅳ)：過去形</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
<b>第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 実際に簡体字を自分で書いてみる。			<b>第11回 基礎構文(Ⅳ)：過去形の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
<b>第4回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			<b>第12回 作文：自己紹介</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 自分について紹介する文章を作る。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。			
<b>第5回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			<b>第13回 作文：日常の表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常表現をするための語彙を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。			
<b>第6回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			<b>第14回 中国の文化(Ⅰ)：中国文化と中国語Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。			
<b>第7回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			<b>第15回 中国の文化(Ⅱ)：中国文化と中国語Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。			
<b>第8回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 『《最新2訂版》中国語はじめの一步』竹島金吾監修/尹景春、竹島毅著(白水社)を元にして、講義用のプリントを配布します。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。						

科目名	ハングルの世界			担当者	李 貞 叵	
英文名	World Hangeul					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> 韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。正確な生活や文化の理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 言語としての韓国語の特性を理解する。 (2) 文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3) ハングル文字の仕組みについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。			<b>第9回 日常生活の表現：疑問表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。			
<b>第2回 ハングルの発音：基本母音字</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 基本母音を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。			<b>第10回 日常生活の表現：否定表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。			
<b>第3回 ハングルの発音：子音字（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 子音（平音・激音）を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。			<b>第11回 日常生活の表現：用言の表現（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。			
<b>第4回 ハングルの発音：子音字（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ハングルの子音（濃音）を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。			<b>第12回 日常生活の表現：用言の表現（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。			
<b>第5回 ハングルの発音：合成母音字</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 合成母音を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。			<b>第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。			
<b>第6回 ハングルの発音：パッチム、換抄</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 文字としてのパッチムを習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な換抄を学習する。			<b>第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。			
<b>第7回 日本語のハングルの表記</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本語のハングル表記を習得する。 (2) 辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。			<b>第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2）</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。			
<b>第8回 日常生活の表現：肯定表現</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や換抄の表現を学習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れること（ドラマ・映画・歌等）。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞叵）著（白水社）						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	知の哲学				担当者	宇多村俊介	
英文名	Philosophy of Knowledge						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を論理的に解説する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなして、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ</b> <b>【 到達目標 】</b> 哲学的な問いのもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。				<b>第9回 感情：感情と認識</b> <b>【 到達目標 】</b> 感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を反省的に顧みることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第2回 知の成立条件と定義：必要条件と充分条件</b> <b>【 到達目標 】</b> 知の古典的な定義を通して、定義の構成と充たすべき要件を理解し、みずからの問題と定義のかたちで明晰に述べることを試みる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準</b> <b>【 到達目標 】</b> プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第3回 意味と明晰さ1：曖昧と漠然</b> <b>【 到達目標 】</b> 定義の種類と、目的に応じたタイプを理解し、適切な分析的定義の満たすべき要件に照らして任意の定義の適切さを批判的に吟味することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我</b> <b>【 到達目標 】</b> コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第4回 意味と明晰さ2：分類</b> <b>【 到達目標 】</b> 用語の意味を明晰にするもう一つの方法として分類を把握し、適切な分類の満たすべき論理的要件と経験的要件とに照らして、事態の分析に適用することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と限界について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第5回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型</b> <b>【 到達目標 】</b> 立論(論証)の構造と、そこに含まれる推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法</b> <b>【 到達目標 】</b> 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第6回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論駁</b> <b>【 到達目標 】</b> 対話的な枠組みのなかで立論の目的を理解し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別することができる。立論の目的に照らして、論理的思考の裏面をなす欺瞞的な思考の一形式を分析することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第14回 現代の知の諸相3：俗悪なもの形而上学</b> <b>【 到達目標 】</b> 形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第7回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考</b> <b>【 到達目標 】</b> 欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				<b>第15回 知の主体的責任と知的誠実性</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
<b>第8回 知覚経験と認識：現象と実在</b> <b>【 到達目標 】</b> 知の四つの源泉を把握し、認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を理解して、その限界と問題点を考察することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>							
<b>【学習上の留意点】</b> 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5～6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。予備知識は要りませんが、集中して理解し、実地に適用する心構えでいて下さい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	美の理論				担当者	井 奥 陽 子	
英文名	Aesthetics						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、美学 (Aesthetics) の基本理論をテーマ別に学びます。それによって、美や芸術という曖昧なものを理論的に (他人に説明できるかたちで) 考えてみるのが、授業の目的です。授業をとおして、たとえばオリジナリティといった考え方が、実はそれほど普遍的なものではないことを知るでしょう。そうした学びによって、自分のこれまでの美や芸術に対する感じ方を相対化できるようになることが、授業の狙いです。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：美学と「芸術」の誕生</b> <b>【 到達目標 】</b> ・美学と近隣分野との相違を理解し、授業の見通しを把握する。 ・美学と芸術の成立史について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 美学の概説書を読む。				<b>第9回 美を創る (1)：模倣と独創</b> <b>【 到達目標 】</b> ・芸術作品の独創性を重視する考えについて、その歴史的展開を理解する。 ・模倣理論と独創理論の特徴を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模倣に関する参考図書を読み、模倣もまた創造的であることを理解する。			
<b>第2回 美しい対象 (1)：比例と均整の美</b> <b>【 到達目標 】</b> ・美の基準とされる様々な形式について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 古代～ルネサンス期の作品を調べ、そこにある比例を確認する。				<b>第10回 美を創る (2)：作品と作者</b> <b>【 到達目標 】</b> ・作品と作者の関係について、その考え方の歴史的展開を理解する。 ・作者の役割について、上演芸術や参加型作品などの在り方に関連付けて考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 任意の上演芸術を例に、作品と作者の関係を考えてみる。			
<b>第3回 美しい対象 (2)：不安定性の美</b> <b>【 到達目標 】</b> ・第2回とは逆の視点による、美の捉え方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> マニエリスムやバロックの作品を調べ、不安定性を生み出す要素を考える。				<b>第11回 美を創る (3)：芸術ジャンルの比較</b> <b>【 到達目標 】</b> ・芸術ジャンルを比較する様々な観点とその問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ジャンルの固有性を強調ないし否定する作品を調べ、その特徴について考える。			
<b>第4回 美しい対象 (3)：自然の美</b> <b>【 到達目標 】</b> ・風景や人間などがもつ美の特徴を、第1～2回の内容も応用しつつ考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 美しい身体や顔とされる事例を調べ、その多様性を確認し、平均と個性の問題を考える。				<b>第12回 美を創る (4)：日用品と芸術作品</b> <b>【 到達目標 】</b> ・工芸運動や機能美の考え方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 民芸運動やバウハウスについて調べ、美と機能の調和について理解を深める。			
<b>第5回 美を感じる (1)：美の主観性と客観性</b> <b>【 到達目標 】</b> ・美を感じる人の心にあるのか、対象にあるのか。美を純粋に感じるとはどういうことか。こうした問いについて、美学者の理論を援用して考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 上記の問いについて、美に触れたときに思索を实践する。				<b>第13回 批判的問い (1)：芸術と非芸術の境界</b> <b>【 到達目標 】</b> ・ある物を芸術作品とする基準は何か。第12回までの議論も踏まえつつ、美術館制度に関する問題や、芸術の定義論などを切り口に考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもや動物による作品を調べ、それを芸術と呼ぶ根拠について考える。			
<b>第6回 美を感じる (2)：様々な美的性質</b> <b>【 到達目標 】</b> ・崇高や優美といった美的性質について、各々の特徴と、非美的性質との相違を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ロマン主義の作品を調べ、美と崇高の相違について理解を深める。				<b>第14回 批判的問い (2)：芸術と政治・宗教</b> <b>【 到達目標 】</b> ・芸術が政治・宗教において利用・排除された事例から、美や芸術のもつ特徴を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 寺社仏閣や教会を訪れ、美と宗教の対立ないし融和関係について理解を深める。			
<b>第7回 美を感じる (3)：虚構の世界</b> <b>【 到達目標 】</b> ・芸術作品をひとつの別世界として捉える理論を知る。 ・その観点から、芸術体験がもつ特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 悲劇的な作品を受容し、自身の感情を観察することで、虚構の特徴を確認する。				<b>第15回 総括：美と芸術をめぐる言説</b> <b>【 到達目標 】</b> ・授業の内容を俯瞰的に整理することで、自分なりの問題意識を発見する。  <b>【授業時間外学習】</b> 関連する書籍や作品を自分で探し、レポートを作成する。			
<b>第8回 美を感じる (4)：美と自由</b> <b>【 到達目標 】</b> ・美における自由についての理論を理解し、美の特徴と問題を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 美と倫理が対立する言説を調べ、自分なりの見解を考える。							
<b>【学習上の留意点】</b> 美や芸術の理論に、絶対的な正解はありません。各自が主体的に考えることを期待します。授業内容は抽象的な議論が中心になりますが、具体例として種々の作品 (おもに造形芸術) を提示します。参加者の反応に応じて、授業の進め方を調整する可能性があります。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書なし。資料は授業中に提示・配布します。 参考書：『美学辞典』佐々木健一・著 (東京大学出版会) その他の参考図書は随時紹介します。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回のリアクションペーパー30%、学期末の課題レポート70%							

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション 【 到達目標 】 (1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 (3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。 【授業時間外学習】 あらかじめ、自らがどのような事柄を「男らしい」「女らしい」と感じるのか、また、なぜそう感じるのかを考察し、授業に臨む。			第9回 近代スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 (3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの概要を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、「ブライTON宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。			
第2回 フェミニズムの歴史 【 到達目標 】 (1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたとその特徴について復習し、理解を定着させる。			第10回 学校体育とジェンダー 【 到達目標 】 (1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)教員の男女比の偏りや、運動部の加入状況など、学校体育におけるジェンダー問題を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、これまでの自身の体験から、体育の授業においてどのような「隠れたカリキュラム」があり、それがあなたにどのような影響を与えたか検討する。			
第3回 男女共同参画社会ってなんですか 【 到達目標 】 (1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 (3)男女共同参画センターの今日的な意義について知る。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、男女共同参画センターに実際に足を運び、どのような事業が行われているか、どのような人が利用しているのかを観察する。			第11回 セクシュアル・マイノリティと学校・スポーツ 【 到達目標 】 (1)多様性を保障する学校体育のあり方について検討する。 (2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。 【授業時間外学習】 第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、ジェンダー論の視点から、体育の教員やスポーツの指導者として注意しなければならないことを理解する。			
第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識 【 到達目標 】 (1)人間の「性」の多様性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)「マジョリティ＝正常」「マイノリティ＝異常」ではないことを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように扱われているかを調べる。			第12回 スポーツと身体 【 到達目標 】 (1)身体的性差とスポーツとの関係を理解する。 (2)性別確認検査の経緯と性別二元論の限界について知る。 (3)セクシュアル・マイノリティ当事者のスポーツ参加に伴う課題を知る。 【授業時間外学習】 授業内容を参考に、近代スポーツにおいて、記録や競技成績に男女差をもたらしている要因を考察する。			
第5回 「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方 【 到達目標 】 (1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。 (2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 (3)性感染症の実態について知る。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、厚生労働省のWebサイトに掲載されている性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を定着させる。			第13回 メディアとスポーツとジェンダーと 【 到達目標 】 (1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 (2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、メディアにおいて女性アスリートがどのように描かれることが望ましいのか、検討する。			
第6回 実は身近なデートDV 【 到達目標 】 (1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の意味と重要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。			第14回 スポーツと人権 【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)スポーツ界でのハラスメントを防ぐために必要な取組について検討する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。			
第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。 (3)スポーツ界における女性のリーダーシップの現状について知る。 【授業時間外学習】 あらかじめ、『スポーツ・ジェンダー学への招待』の中から任意の1章を選び、自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。			第15回 日常生活世界に見るジェンダー 【 到達目標 】 (1)家族、就業、政治などの場面で現れるジェンダー・バイアスについて理解する。 (2)育児休業の取得率の男女差や育児後の女性の復職率などの実態を知る。 【授業時間外学習】 授業内で指示する男女共同参画白書平成29年版 (Web版) の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。			
第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日 【 到達目標 】 (1)女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 (3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。						
【学習上の留意点】 毎時間配布するハンドアウトは、講義を聞いたうえで必要な事項を書き込むことで、資料として完成するように作成しています。ただし、授業内容を理解するためには、単なる穴埋めにとどまらず、そのほかの部分についても積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。						
【教科書・参考書など】 教科書 特 に指定しない。 参考書は、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著 (2016) 八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子著・伊田久美子著・熊安貴美江著 (2013) ミネルヴァ書房、『スポーツ・ジェンダー学への招待』飯田貴子著・井谷恵子著 (2004) 明石書店						
【関連科目】 女性と仕事、女性のライフステージと運動、スポーツ社会学、スポーツ心理学						
【成績評価方法】 随時実施する小テスト・小レポート30%、期末試験70%で評価する。 ※試験は試験期間中に別途実施						

科目名	データ分析と統計学				担当者	五月女仁子	
英文名	Data Analysis and Statistics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学の基本的な考え方や統計手法を、実際のデータを通して学び分析する能力を身につけます。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 度数分布表とヒストグラム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。				<b>第9回 その他の分布</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 正規分布以外の分布を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第2回 代表値とは</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第10回 平均の推定と区間推定</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第3回 データのばらつきを数値に表すには</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第11回 分散の推定と区間推定</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第4回 散布図と相関、相関係数</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 散布図を作成し、パターンを理解する。 (2) 相関係数の求め方を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第12回 t検定</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第5回 回帰直線</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第13回 カイ二乗検定</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 仮説検定の考え方を理解する。 (2) カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第6回 アンケート作成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) アンケート作成の基本を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> アンケート項目を考えアンケートを作成する。				<b>第14回 分散分析</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 実際の例をとらえながら、分散分析を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。			
<b>第7回 確率について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 確率の意味を復習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。				<b>第15回 実践課題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 実際のデータを使って分析を行います。  <b>【授業時間外学習】</b> 分析方法と表やグラフについて復習する。			
<b>第8回 正規分布とその他の分布</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) どのような分布があるかを学ぶ。 (2) 一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3) 標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 返却された課題の復習をする。							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解できるように工夫します。 また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半10分から15分はOUTPUTする時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 講義中に指示します。							
<b>【関連科目】</b> 数と論理、コンピュータ実践演習、情報処理（情報機器の操作を含む）							
<b>【成績評価方法】</b> ミニ課題（講義中に出すもの）36%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施）64%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

科目名	教養総合科目				担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥	
英文名	General Educational Studies						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 体育・スポーツの主要分野の中には、生理学や栄養学、バイオメカニクス等の自然科学系の科目が含まれ、それらの科目を充分理解するためにも、自然科学に関する基礎知識をもつことは重要である。本講義を履修し、自然科学に位置づけられる、各学問分野の代表的なトピックスの概要を学ぶことにより、自然科学という学問を総合的に把握し、理解することを目的とする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 自然科学が文明の発展にもなつて発達してきた概要を理解する。また、近代の化学者が、目に見えない原子の構造を解明していった手法を知り、実験や仮説から真実を導き出す、自然科学という学問に必要な「科学的手法」について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。				<b>第9回 天文学(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 古代の人々の地球観・宇宙観を理解し、それらがどのように私たちが知る地球観・宇宙観に発展していったかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで古代ローマ時代の地球観・宇宙観について調べること。			
<b>第2回 地球科学(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 地球がどのようにして誕生したか、さらにプレートテクトニクスについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				<b>第10回 天文学(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 宇宙の誕生について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
<b>第3回 地球科学(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 火山噴火や地震発生メカニズムについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				<b>第11回 天文学(3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 恒星の一生について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
<b>第4回 地球科学(3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 大気・海流の特徴や、地球に刻まれた変動の歴史について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				<b>第12回 物理学(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 古典力学における運動の法則、光の性質、運動の相対性について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
<b>第5回 生物学(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 生命誕生のシナリオと生命の基本単位である細胞の完成について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				<b>第13回 物理学(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 原子核とエネルギーについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
<b>第6回 生物学(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 進化論について、ラマルク以前の考え方、ラマルク、ダーウィンやウォーレスの進化論、中立説等について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				<b>第14回 物理学(3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 物質を構成する最小の単位、素粒子について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
<b>第7回 生物学(3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 生物の形態や生態を比較することで、それらの生物の系統を推定したり、DNAの塩基配列から進化を推定する方法を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				<b>第15回 物理学(4) および理解度の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> アインシュタインの特殊相対性理論を理解する。 第9回～第15回までの理解度の確認をおこなう。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
<b>第8回 生物学(4) および理解度の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 現在の地球において、生物多様性を維持することがなぜ、必要なかを理解する。 第1回～第8回までの理解度の確認をおこなう。 <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。第1回目は鈴木・牧が、第2回～8回目は鈴木が、第9回～15回目は牧が担当する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に使用せず、毎回プリントを配布する。							
<b>【関連科目】</b> 人間生活と地球環境							
<b>【成績評価方法】</b> 第8回および第15回で実施する理解度確認テストの成績を総合して評価する。							

科目名	英語E P P				担当者	加賀 岳彦	
英文名	English for Professional Purposes						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、これまで学んできた「学習英語」をベースに、さらに実社会(政治・経済等)、職場、ビジネス等を想定した「社会人になるための英語」を学ぶ。ねらいは次の3点である。1)学習英語とは異なる意味で使われる社会人向けの重要語彙を学ぶ、2)実社会(及び国際社会)で「常識」となっている表現等を学び、関連する実用英文を正確に理解できるようになる、3)大人の学習者すなわち「自立的学習者」になるべく、辞書や参考書、その他必要な手段を利用して「自力で」学んでいけるようになる。受講生には毎回入念に準備した上で授業に臨んでもらう。なお、この授業は資格試験対策の講座ではないので、対策のための指導は行わない。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 授業説明・学習のポイント</b> <b>【 到達目標 】</b> ・この授業の目的とねらいを理解し、どのように学習していくかを把握する。 ・「学習英語」と「社会人になるための英語」はどう違うか、またそれはとはどのようなものかを理解し、その予行演習を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を振り返り、今後自分に必要な学習の内容と方向性を意識すること。予習すること。				<b>第9回 Dealing with Problems and Complaints</b> <b>【 到達目標 】</b> 実社会では様々な「問題・苦情・クレーム」が発生する。この回はそれら関連する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する英文解説記事を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
<b>第2回 From College to Career</b> <b>【 到達目標 】</b> 学生から社会人にステップ・アップする過程では様々な「自己検証」を経験する。それらに關係する様々な英語表現に触れ、身に付ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				<b>第10回 Effectiveness, Efficiency &amp; Productivity</b> <b>【 到達目標 】</b> 実社会ではどの場でも「効率性・生産性」が追求される。それに関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する実用英文を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
<b>第3回 Application</b> <b>【 到達目標 】</b> 「応募・出願」に関する必須語彙・表現を習得し、それに関する実用英文を正確に理解できるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				<b>第11回 Economy Matters</b> <b>【 到達目標 】</b> 「経済」に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、経済問題に関する英文解説記事を正確に理解できるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
<b>第4回 Interview ①</b> <b>【 到達目標 】</b> 実社会では様々な形のInterview(面接)が行われ、そのために様々な準備が必要となる。それらに密接に關係する英語表現を学び、身に付ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				<b>第12回 Social Welfare</b> <b>【 到達目標 】</b> 「社会福祉・福利厚生」を巡る必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
<b>第5回 Interview ②</b> <b>【 到達目標 】</b> Interviewの最中における質問・対応、またその結果を受けてからの対応などに関連した英語表現を学び、身に付ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				<b>第13回 Rating &amp; Research</b> <b>【 到達目標 】</b> 「評価・調査」を巡る必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
<b>第6回 The Work Must Go On</b> <b>【 到達目標 】</b> 職は継続しなければならず、そのためには「コミュニケーションのあり方」が重要になる。この回はそれに関連する英語表現・英文記事を正確に理解できるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				<b>第14回 Review 1</b> <b>【 到達目標 】</b> これまでの学習内容を復習し、小テストでその習得度・定着度を測り、重要語彙等をもう一度確認する。この回は、口頭でのチェックを行う。 <b>【授業時間外学習】</b> これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
<b>第7回 Policy, Rules, and Strategies</b> <b>【 到達目標 】</b> 団体や職場における「やり方」(ポリシー、規則、戦略)を巡る必須語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				<b>第15回 Review 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 今学期の習得内容を総チェックし、各自の今後の課題と努力点を明らかにする。この回は、筆記による復習・確認作業を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
<b>第8回 Changes, Transfer &amp; Innovation</b> <b>【 到達目標 】</b> さまざまな「変更・移転・異動」等に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それらに関する実用英文および英文解説記事を正確に理解できるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。							
<b>【学習上の留意点】</b> ・丹念な予習を確実にすること。「自立的学習力」の養成も大事な目標とする。 ・毎回の小テストにしっかりと取り組み、常に語彙力・表現力の向上に努めること。 ・授業には「(電子)辞書」の持参を義務づける。携帯電話・スマートフォンの使用は固く禁じる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト・参考書・辞書等は随時授業内で指示する。もしくはハンドアウトを配布する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業での課題(宿題、小テスト、授業での応答等)50%、テスト50%で評価する。							

科目名	コンピュータ実践演習				担当者	五月女 仁子	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 情報技術について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 情報技術とは何かを理解する。 (2) 電子商取引の例を見ながら理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。				<b>第9回 データベースについて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) データベースとは何かについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。			
<b>第2回 レポート作成と論文作成の基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。 (2) 長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。				<b>第10回 データベースの基本操作</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) フィルタについて学ぶ。 (2) ピボットの操作について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。			
<b>第3回 プレゼンテーション資料の作成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) プレゼンテーションについての技法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。				<b>第11回 Excelの画面操作と印刷について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 画面操作について学ぶ。 (2) 印刷の方法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。			
<b>第4回 クラウドについて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> アンケート項目を考える。				<b>第12回 グラフの作成</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 基本的なグラフについて学ぶ。 (2) 複合グラフについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。			
<b>第5回 グループにおけるコミュニケーション実践1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> アンケートフォームからアンケートを体験する。				<b>第13回 Excelの総復習</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 第7回から第12回まで学習した内容を総合的に学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。			
<b>第6回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) インターネットの仕組みを理解する。 (2) インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3) 情報についてのマナー、セキュリティ、プライバシー、知的財産権について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。				<b>第14回 Excelを利用したデータ分析の基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。 (2) Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。			
<b>第7回 Excelの初級</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) Excelの基本操作と基礎的関数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。				<b>第15回 Excelを利用したデータ分析の応用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、どのようなことがいえるのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。			
<b>第8回 Excelの上級</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2) シートの操作について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。							
<b>【学習上の留意点】</b> 1年生前期に行った情報処理の知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 資料を配付します。							
<b>【関連科目】</b> 情報処理（情報機器の操作を含む）							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回行われるミニ課題（講義中に出すもの）30%、グループ課題（第5回、第7回、第14回）35%、総復習問題（第15回）35%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

科目名	カウンセリング論				担当者	角 田 和 也	
英文名	Basic Counseling						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 本来カウンセリングは、「心の専門家」と呼ばれる人が行うが、その基本や技法には日常生活において人とかかわる際にも活かせる有用な知見が少なからず含まれている。本講義では、こうした知識や技術を学習する。 本講義は教職科目にもなっているため、学校現場で教員が生徒への指導や相談を行う際に生じる問題についても学習し、さらにスクール・カウンセリングの実際にも触れていきたい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション／カウンセリングとは何？</b> 【 到達目標 】 (1)自分の理解している「カウンセリング」とは何かを説明できる。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			<b>第9回 「みる」ことについて①</b> 【 到達目標 】 (1)カウンセリングの「みる」ということを理解する。 (2)「みる」ということを体験的に理解する。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
<b>第2回 カウンセリングの実際</b> 【 到達目標 】 (1) カウンセリングの正しい認識をもつことができる。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			<b>第10回 「みる」ことについて②</b> 【 到達目標 】 (1)引き続き「みる」ということを体験し、さらに理解を深める。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
<b>第3回 教員がカウンセリングを学ぶ意義</b> 【 到達目標 】 (1)教員を目指す学生がなぜカウンセリングを学ぶのか、その意義を理解する。  【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			<b>第11回 「みる」ことについて③</b> 【 到達目標 】 (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)みる際に注意するポイントを理解する。  【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
<b>第4回 「きく」ことについて①</b> 【 到達目標 】 (1)カウンセリングの「きく」ということを理解する。 (2)きく際に注意するポイントを理解する。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			<b>第12回 スクール・カウンセリングの実際① スクール・カウンセリングと教育相談</b> 【 到達目標 】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内での教育相談の実際について理解する。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
<b>第5回 「きく」ことについて②</b> 【 到達目標 】 (1)「きく」ということを体験的に理解する。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			<b>第13回 スクール・カウンセリングの実際② 連携を中心に</b> 【 到達目標 】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内・外における連携の実際について理解する。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
<b>第6回 「きく」ことについて③</b> 【 到達目標 】 (1)前回の授業をうけて、さらにきく際に注意するポイントについての理解を深める。  【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			<b>第14回 スクール・カウンセリングの実際③ 教育相談の難しさについて</b> 【 到達目標 】 (1)教員の立場で実際に教育相談（カウンセリング）を行う際の課題について理解する。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
<b>第7回 「話す」ことについて①</b> 【 到達目標 】 (1)カウンセリングの「話す」ということを理解する。 (2)話す際に注意するポイントを理解する。  【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			<b>第15回 スクール・カウンセリングの課題と今後について</b> 【 到達目標 】 (1)（前回までの授業を受けて）スクール・カウンセリングが抱えている課題と今後の方向性について理解する。  【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				
<b>第8回 「話す」ことについて②</b> 【 到達目標 】 (1)不快に思われない話し方について理解を深める。  【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。							
<b>【学習上の留意点】</b> ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。							
<b>【教科書・参考書など】</b> ・1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらも参考にしてください。							
<b>【関連科目】</b> 生徒指導法							
<b>【成績評価方法】</b> ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。							

科目名	スポーツとドイツ語			担当者	都 筑 真	
英文名	Sports Culture and German					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b> スポーツの文化的側面を概観し、スポーツ文化に関する教養を高めるために、スポーツ先進国といわれるドイツ語圏のスポーツ文化およびスポーツに関する専門的ドイツ語を理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> ドイツのスポーツ文化に関する資料を図書館などで調べる。			<b>第9回 ドイツのスポーツ事情 2</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツのスポーツ政策とシステムについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ドイツのスポーツ政策とシステムについて復習する。			
<b>第2回 文字と発音、あいさつ表現</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツ語の文字と発音を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 文字の発音とあいさつ表現を復習する。			<b>第10回 スポーツ観戦ミニ会話 1 (施設について)</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツ観戦のための表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
<b>第3回 スポーツの基本語彙</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツに関するドイツ語の基本語彙を学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 基本語彙を復習する。			<b>第11回 スポーツ観戦ミニ会話 2 (試合について)</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツ観戦のための表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
<b>第4回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 1</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツ語の名詞、代名詞、動詞についての基本的文法と文構造を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 名詞、代名詞、動詞の文法を復習する。			<b>第12回 スポーツ観戦ミニ会話 3 (試合後の感想)</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツ観戦のための表現を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
<b>第5回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 2</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツ語の人称変化についての基本的文法と文構造を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 人称変化の文法を復習する。			<b>第13回 スポーツ映画</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツ語のスポーツ映画の中で用いられたスポーツ用語を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 映画の中で使われるスポーツ用語を復習する。			
<b>第6回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 3</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツ語の接続詞についての基本的文法と文構造を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 接続詞の文法を復習する。			<b>第14回 「スポーツ」の語源と意味</b> <b>【 到達目標 】</b> 「スポーツ」という言葉の語源と意味を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「スポーツ」という言葉の語源と意味について復習する。			
<b>第7回 ドイツ語の基礎の復習</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回までのドイツ語文法と文構造を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 前回までに学習した語彙や文法の復習をする。			<b>第15回 理解度の確認と補足説明</b> <b>【 到達目標 】</b> 「スポーツ」の言語的・文化的意味の理解度を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 前回までに配布した資料を復習する。			
<b>第8回 ドイツのスポーツ事情 1</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツのスポーツクラブの状況について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ドイツのスポーツクラブの状況について復習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 語学の習得には継続と反復が求められる。授業時の学習だけでなく、授業の前後においても語彙、文法、会話の復習をしっかりと行うこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特定の教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ、教養としてのドイツ言語論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業時の課題 (50%) と学期末レポート (50%) で評価する。						

科目名	教養としての日本文学				担当者	稲井達也	
英文名	Introduction to Japanese Literature						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 2020年にオリンピック・パラリンピック東京大会を控え、我が国の文化と伝統を理解する必要性が指摘されている。主要な古典文学作品を読むことを通して、我が国の歴史や文化への理解を深めることを目的とする。受講に当たっては、高校卒業程度の古典の基礎知識を必要とするため、初回の授業で古典の基礎知識に関する確認テストを行う。受講者には自ら主体的に古典文学と向き合い、我が国の伝統と文化を外国人をはじめとした第三者に伝えるための担い手になることを期待する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 この授業の目的とねらい、古典知識の基本確認テスト、上代の古典文学 日本書紀と古事記</b> <b>【 到達目標 】</b> 教養として日本の古典文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。また『日本書紀』と『古事記』について理解し、『古事記』の主要な伝説を読み味わう。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				<b>第9回 奥の細道</b> <b>【 到達目標 】</b> 『奥の細道』を読み味わうとともに、芭蕉の思想と俳諧について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
<b>第2回 上代の古典文学 万葉集</b> <b>【 到達目標 】</b> 上代の古典文学の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				<b>第10回 能と狂言</b> <b>【 到達目標 】</b> 能と狂言の歴史の変遷を知るとともに、『羽衣』などの能の代表作を読み味わう。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
<b>第3回 古今和歌集と新古今和歌集</b> <b>【 到達目標 】</b> 『古今和歌集』と『新古今和歌集』を読み味わうとともに、両者の作風の違いについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				<b>第11回 源氏物語1</b> <b>【 到達目標 】</b> 『源氏物語』の概要を理解するとともに、本文を読み味わう。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
<b>第4回 随筆 枕草子</b> <b>【 到達目標 】</b> 『枕草子』の主要な章段を読み味わい、清少納言のもの見方・考え方や感じ方を理解するとともに、随筆の面白さを知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				<b>第12回 源氏物語2</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な現代語訳を知るとともに、『源氏物語』を読み味わう。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
<b>第5回 随筆 徒然草</b> <b>【 到達目標 】</b> 『徒然草』を読み味わうとともに、吉田兼好のもの見方や考え方、感じ方などを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				<b>第13回 源氏物語3</b> <b>【 到達目標 】</b> 『源氏物語』を読み味わう。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
<b>第6回 土佐日記</b> <b>【 到達目標 】</b> 日記文学について把握するとともに、『土佐日記』の主要な場面を読み味わい、紀貫之の悲しみについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				<b>第14回 源氏物語4</b> <b>【 到達目標 】</b> 『源氏物語』を読み味わう。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
<b>第7回 伊勢物語</b> <b>【 到達目標 】</b> 『伊勢物語』を読み解くとともに、歌物語の特徴と概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				<b>第15回 源氏物語5</b> <b>【 到達目標 】</b> 『源氏物語』を読み味わう。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業全体を振り返り、自己評価を行う。			
<b>第8回 歴史文学 平家物語と大鏡</b> <b>【 到達目標 】</b> 『平家物語』と『大鏡』を読み解くとともに、歴史物語における虚構と史実との違いについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。							
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修者には毎時間、授業で取り上げた作品について、次の時間に理解度確認テストを実施する。計14回実施する。</li> <li>定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施。定期試験ではノートやプリントの持ち込みは一切認めない。</li> <li>自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。</li> </ul>							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 なし ただし、作品のテキストはその都度プリントとして用意したり、用意するように指示したりする。 参考書 必要に応じて提示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業時の理解度確認テスト(40%)：初回のテストと合わせて計14回分の得点を評価する。</li> <li>定期試験(60%)：作品、及び授業内容への理解度を評価する。</li> </ul>							

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加賀岳彦	
英文名	European Literature and Culture					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
<b>【目的とねらい】</b>						
ヨーロッパの文学は、日本を含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観</b>			<b>第9回 ヨーロッパ中世の文学</b>			
【到達目標】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。			【到達目標】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響を追っていく。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
<b>第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話</b>			<b>第10回 ルネサンスの文学①</b>			
【到達目標】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。			【到達目標】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何かを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
<b>第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学①</b>			<b>第11回 ルネサンスの文学②</b>			
【到達目標】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。			【到達目標】 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
<b>第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学②</b>			<b>第12回 宗教改革</b>			
【到達目標】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。			【到達目標】 宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
<b>第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学</b>			<b>第13回 ヨーロッパ近代の文学①</b>			
【到達目標】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。			【到達目標】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。デフォー、スウィフト、ディケンズの作品を扱う。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
<b>第6回 ユダヤ＝キリスト教① 『旧約聖書』</b>			<b>第14回 ヨーロッパ近代の文学②</b>			
【到達目標】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。			【到達目標】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
<b>第7回 ユダヤ＝キリスト教② 『新約聖書』</b>			<b>第15回 ヨーロッパの現代文学</b>			
【到達目標】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。			【到達目標】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。			
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
<b>第8回 ヨーロッパ中世の文化</b>						
【到達目標】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。						
【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。						
<b>【学習上の留意点】</b>						
授業時に配布するテキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
授業時にテキストを配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b>						
授業時での課題50%、理解度確認のためのテスト50%で評価する。						

科目名	国際関係と政治				担当者	中村安菜	
英文名	International Relations and Politics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 日々の新聞やテレビニュースに登場するさまざまな政治問題を理解するためには、関連する歴史的背景や国際関係についての理解が必要である。この講義を受講することによって、一つでも多くの問題に関心を持ち、理解を深めることが出来るようにしたい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 「国際関係」とはどのようなものか</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 国際関係を理解するには、今日存在する国家や国家機関について知るだけでなく、それらの歴史的背景を知る必要があることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 現在の国際社会の中で問題になっている事例を新聞で調べる。				<b>第9回 日本の領土問題①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 北方領土問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 北方領土が載っている日本地図をコピーする。			
<b>第2回 国際社会の成立と展開①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 「国際社会」が成立した過程とその展開について、ヨーロッパを中心に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ウェストファリア体制について調べる。				<b>第10回 日本の領土問題②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 竹島問題、尖閣諸島問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 竹島と尖閣諸島が載っている日本地図をコピーする。			
<b>第3回 国際社会の成立と展開②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 第二次世界大戦以降の冷戦時代について、その始まりと当時の世界について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ヤルタ会談で話し合われた内容を簡易書きでまとめる。				<b>第11回 日本の戦争・戦後責任</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 昭和の大戦に関連する責任について、日本がどのような姿勢をとっているのかについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 中国残留日本人とはどのような人たちかを調べる。			
<b>第4回 国際社会の成立と展開③</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 冷戦の終焉と、その後の世界がどのような時代を迎えたのかについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ベルリンの壁崩壊を伝える新聞記事・ニュースなどに目を通しておく。				<b>第12回 防衛と日米安全保障条約</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 今日の日本がどのような仕組みで自分の国を守ろうとしているのか、憲法と自衛隊、日米安全保障条約について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本国憲法第9条は、どのように解釈するべきかを考える。			
<b>第5回 植民地の歴史①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) かつての欧米諸国がどのような植民地分割競争を繰り広げたのかについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> かつての植民地で、現在独立国となっている国を調べる。				<b>第13回 今日の日本①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 国際的に、ずば抜けた経済繁栄を誇る日本。そのアキレス腱、エネルギー供給問題について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本における具体的なエネルギー供給方法について調べる。			
<b>第6回 植民地の歴史②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) かつての植民地が現在どのような状況になっているのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 南アフリカではどのような植民地政策が採られていたかを調べる。				<b>第14回 今日の日本②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 良好な国際関係を抜きにしては日々の食事にさえ事欠く日本の食糧供給状況について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の好きな食べ物について、どれくらいの分量が毎年輸入されているかを調べる。			
<b>第7回 日本の国際関係①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、明治から昭和初期までの経緯について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 明治時代以降、日本が参加した戦争にはどのようなものがあるかを調べる。				<b>第15回 国際関係と歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分が関心をもつ国際問題について、ミニ・レポートにまとめる。			
<b>第8回 日本の国際関係②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、昭和の大戦から今日までの経緯について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 大戦以降、日本はどのようにして国際社会へ復帰したかを調べる。							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 開講時に指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	人間生活と地球環境				担当者	鈴木信夫	
英文名	Human life and Earth Environment						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。				<b>第9回 温室効果ガス</b> <b>【 到達目標 】</b> 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べる。			
<b>第2回 原始地球の環境(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。				<b>第10回 崩れる生態系</b> <b>【 到達目標 】</b> 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。			
<b>第3回 原始地球の環境(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。				<b>第11回 リサイクル法(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでドイツのリサイクルに関する現状(問題点)を調べる。			
<b>第4回 恐竜の絶滅</b> <b>【 到達目標 】</b> 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。				<b>第12回 リサイクル法(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べる。			
<b>第5回 人為圧による野生生物の絶滅</b> <b>【 到達目標 】</b> 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやタスマニアタイガーの絶滅を例に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでドードー・タスマニアタイガー以外の絶滅動物について調べる。				<b>第13回 リサイクル法(3)</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べる。			
<b>第6回 酸性雨</b> <b>【 到達目標 】</b> 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べる。				<b>第14回 環境監査(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。			
<b>第7回 水問題</b> <b>【 到達目標 】</b> 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。				<b>第15回 環境監査(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。			
<b>第8回 温室効果ガス</b> <b>【 到達目標 】</b> 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に使用せず、プリントを配布する。							
<b>【関連科目】</b> 教養総合科目							
<b>【成績評価方法】</b> レポート課題を100%として評価する。							

科目名	人間の観察				担当者	水戸和幸	
英文名	Observation of Man						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 人間の観察は今、生きて人間をよく観察し、よりよい人間、生活、生き方、また人類の健やかな未来を見出せる目や行動につながる糸口になることを目的としている。まず、ヒトの顔、身体の形、形質やしぐさ、表情、動作、行動の観察を行う。次に、観察法やまとめ方、発表の仕方を学ぶ。さらに、その視点を身体内部や、普段身近に見られないさまざまな極限状態の人間へ広げ、人間の多様な変異と可能性を観察する。また、自分で調査したものを客観的データとしてまとめ、考察し、発表する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 イントロダクション ～なぜ人間の観察が必要か～</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間の観察は医療・福祉、スポーツ、教育、労働、広告デザインなど人間の生活を営む上で重要なことである。様々な分野における人間観察の例を挙げ人間観察の必要性を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第9回 人間観察の実施1 ～写真観察法～</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間の行動や生活の中にはいろいろな問題が隠れている。写真観察法を通じて、社会を凝視、観察し、「見る」ことのできるデータを分析し、結果を「見える」ようにする方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第2回 人間観察の対象、目的</b> <b>【 到達目標 】</b> 具体的な例を挙げて、人間観察の目的、その意義を認識してゆく。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第10回 人間観察の実施2 ～企画書の作成～</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に観察を試みるための企画書の作成法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第3回 人間の観察の実際 ～顔、身体、性格などの観察～</b> <b>【 到達目標 】</b> 最も身近に観察できる自分の顔、手、からだの感覚、性格などを観察してゆく。毎日見ている顔や手など観察し、描画することで、その存在を正確に把握することを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に観察した内容をレポートにまとめる。				<b>第11回 人間観察の実施3 ～観察～</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に調査を試みる。  <b>【授業時間外学習】</b> 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。			
<b>第4回 からだの中を覗く1 ～感覚～</b> <b>【 到達目標 】</b> ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。五官のしくみや特性について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第12回 人間観察の実施4 ～結果の集計～</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。観察結果の集計方法、まとめ方について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。そして、その成果を発表できるようにまとめる。			
<b>第5回 からだの中を覗く2 ～認知～</b> <b>【 到達目標 】</b> ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。情報の理解である認知特性について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第13回 人間観察調査の発表1</b> <b>【 到達目標 】</b> 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
<b>第6回 からだの中を覗く3 ～行動～</b> <b>【 到達目標 】</b> ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。ヒトの行動特性について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第14回 人間観察調査の発表2</b> <b>【 到達目標 】</b> 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
<b>第7回 人間観察の方法1</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間の様々な特性を観察するための方法について学ぶ。参与観察および非参与観察法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第15回 人間観察調査の発表3</b> <b>【 到達目標 】</b> 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
<b>第8回 人間観察の方法2</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間の様々な特性を観察するための方法について学ぶ。背景や問題意識と仮説、観察対象、および観察項目の設定方法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。							
<b>【学習上の留意点】</b> 顔、手などの観察では鏡で自分の顔を描画して観察を確かなものとする。人間観察の野外調査法を学び、簡単な調査を自分で行う。データのまとめ方、発表の仕方なども学んでゆく。授業は主として視覚メディアを利用して説明する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定しない。適宜、関連資料を配布する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 授業中の小テスト30%、調査のプレゼン20%、レポート50%							

科目名	メディアテクノロジー				担当者	牧 琢 弥	
英文名	Media Technology						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>【目的とねらい】</b> ICT (Information & Communication Technology) の発展およびマルチメディア技術の発達には、これまでのメディアの形態やコンテンツ製作の現場を大きく変えつつある。スポーツ、舞踊や教育の分野においても、このコンピュータ・メディアという側面からアプローチしようとするとき、そのテクノロジーについての知識が必要となってくる。この授業においては、画像・音声・映像といったデジタル素材をそれぞれの分野に活かすための基礎を、実践を通して学ぶ。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 マルチメディアの基礎知識</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)マルチメディアとその利用について理解する。 (2)メディアとしてのコンピュータ・ネットワークの知識を得る。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				<b>第9回 マルチメディアを使った分析の基礎知識</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)映像分析についての基礎知識を得る。 (2)映像分析への利用方法の初歩を習得する。(フレーム書き出し等)  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第2回 映像編集の基礎1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)映像編集ソフトの利用方法について理解する。 (2)映像ファイルの読み込みについて習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				<b>第10回 マルチメディア・コンテンツの利用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)マルチメディア・コンテンツの利用形態の知識を理解する。 (2)コンテンツのネットワークにおける利用方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第3回 映像編集の基礎2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)映像編集の基本操作を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				<b>第11回 周辺機器とメディアについての理解と利用</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)より高度な映像・音声の編集方法を習得する。 (2)総合課題の準備について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第4回 周辺機器と機材についての知識と利用方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)マルチメディアに利用する機材についての知識を得る。 (2)機材の使い方の基本を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				<b>第12回 総合課題1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)総合課題の撮影を行い、キャプチャについて理解する。 (2)各自映像・音声編集方法を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第5回 映像と音声の取り込み</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)周辺機器からのマルチメディア・コンテンツの取り込みについて習得する。(とくにビデオ撮影とキャプチャ)  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				<b>第13回 総合課題2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)総合課題を完成させ、ファイルとして書き出すまでを習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第6回 マルチメディア編集の実際1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)実際にビデオで撮った映像の編集方法を実践的に習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				<b>第14回 PCによるDVD編集・作成方法1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)DVD作成について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第7回 マルチメディア編集の実際2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)映像編集の仕上げとレンダリングについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				<b>第15回 PCによるDVD編集・作成方法2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)総合課題のDVD編集を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
<b>第8回 データの知識とファイルへの書き出し</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)映像・音声ファイルについての基礎知識を理解する。 (2)編集した映像の書き出し方法を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。							
<b>【学習上の留意点】</b> マルチメディア・コンテンツの作成とその利用方法を、背景となる知識とともに、実践的に学ぶ。そのため、毎回の小さな課題による練習と総合的な課題を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 別途、授業時に指示する。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	舞踊学原論			担当者	八木ありさ	
英文名	The Principles of Dance Study					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別		専門基礎・必修		
<b>【目的とねらい】</b> 歴史的・地域的に多様な展開を示す「舞踊」を系統的にとらえ、その人間生活に対する意義・役割・機能を考える。舞踊の、教育や芸術などにおける位置づけ、演劇や音楽などの近接領域との関係を理解し、「舞踊学」の理論的側面と実践的側面の概観を得る。また、舞踊学専攻での自らの学修、さらには今後の「舞踊」の姿に関する展望を得る。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 日常における運動表現と舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 日常にみられる表出や、再現、表現運動と舞踊のつながり、差異を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。			<b>第9回 近代舞踊革命とモダンダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 19世紀末にバレエを否定して起こった新しい舞踊の考え方や作品、その影響を理解する。イサドラ・ダンカン、ロイ・フラー、ルース・セント・デニスなどの活動を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 世紀末芸術の特徴について調べ、一例としてダンカン作品の解説を書く。			
<b>第2回 舞踊の分類（1）運動の特徴を中心に</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊の起源をたどりながら、舞踊の基本的運動の特徴を整理して具体例とともに理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本以外の民族・地域で伝承されている舞踊について、その由来と特徴を調べる。			<b>第10回 表現主義舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> ドイツを中心とする表現主義舞踊の展開を理解する。ルドルフ・ラバン、ダルクローズ、デルサルト、マリー・ウィグマン、グレート・パルッカらの活動とその影響を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 欧米で初期のモダンダンスを学んだ日本人舞踊家を調べ、本学と関わりの深い人物について知る。			
<b>第3回 舞踊の分類（2）社会的機能を中心に</b> <b>【 到達目標 】</b> 多様に展開する舞踊を、社会的機能から、祭儀性の舞踊、遊戯性の舞踊、審美性の舞踊などに分類し、具体例とともに特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本で伝承されている舞踊について、その由来と特徴を調べ、先週の成果と比較する。			<b>第11回 モダンダンスの確立と展開</b> <b>【 到達目標 】</b> アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開を理解する。グラハム、ホートン、リモンなどの提起した表現技術の考え方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ヴィグマン、グラハムの作品をそれぞれ一つ選び、主題や動きの特徴に注目した作品解説を書く。			
<b>第4回 中世文化と舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 中世に庶民の間で踊られていた舞踊の特徴と、社会状況との関連を理解する。村民と流浪民の存在、芸能集団の始まりなどについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 歴史の教科書などで、日本やヨーロッパの「中世」という時代の特徴を概観する。			<b>第12回 人間や社会の理解の変化とポスト・モダンダンスの出現</b> <b>【 到達目標 】</b> 1960年代からアメリカで起こったダンスの主張とその波及状況を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> コンタクトインプロヴィゼーションの成立に影響を与えた日本の武道について調べる。			
<b>第5回 宮廷文化とバレエ</b> <b>【 到達目標 】</b> バレエが発祥し、フランスを中心に支配層の保護のもとに次第に発展していく過程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ヨーロッパ・ルネサンス期の文化について、その特徴と、代表的な芸術作品を調べる。			<b>第13回 日本のポスト・モダンダンス「暗黒舞踏」</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会に対して思想を発信する仕掛けとしてのダンスの可能性を知る。舞踊における自文化・異文化の交流とグローバル化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> サブ・カルチャー、アンダーグラウンドなどの概念について調べる。			
<b>第6回 日本の伝統芸能の成熟</b> <b>【 到達目標 】</b> 外来文化と在来芸能が融合して伝統芸能としての位置づけを確立してゆく経緯と、その代表といえる「猿楽」「歌舞伎」の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 能と歌舞伎それぞれの代表的作品の内容を調べ、作品解説を書く。			<b>第14回 「いまここ」を生きる人のコンテンポラリーダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> ボーダレスとなってきた舞踊と周辺領域の関係を見ながら、現代社会における舞踊の価値について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各自にとって最も価値の高いコンテンポラリーダンス作品を紹介するための資料を作成する。			
<b>第7回 バレエの革新</b> <b>【 到達目標 】</b> ロシアでのクラシックバレエの確立と、バレエ内部から起こった革新を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ニジンスキーが振り付けた作品のうち一つを選び、作品解説を書く。			<b>第15回 Dance for All</b> <b>【 到達目標 】</b> 生涯学習社会とダンス・舞踊の関わりについて理解する。舞踊家の育成および、一般の人々のための舞踊教育の現状を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各自の舞踊歴を振り返り、受けてきた舞踊教育の特徴を整理する。			
<b>第8回 日本における西洋舞踊の受容</b> <b>【 到達目標 】</b> 明治維新とともに欧米文化を導入しようとした日本の状況と、そこでの舞踊の受け止められ方や実践状況を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 江戸末期～明治初期に來日し、日本の様子を観察・報告した欧米人の記録を読む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業では、スライドや映像資料を用いながら、歴史的・地域的な舞踊の展開を概説していく。授業で指定した回では、【授業時間外学習】で示している課題について、口頭発表もしくは成果物の提出を求める。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜、資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 表現運動学、舞踊史学、生涯ダンス論						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回提出する授業内レポート(20%)、授業時間外学習報告(20%)、試験期間中に実施する試験の得点(60%)を併せて成績評価する。						

科目名	舞台芸術論			担当者	松澤慶信	
英文名	Performing Art Theory					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・必修		
<b>【目的とねらい】</b> 劇場芸術としての舞踊作品を中心にとりあげて講義をすすめていくが、舞踊はもはや踊らないで、身体の「在り様なり方」を現前するパフォーマンス・アートとして存立するようになってから久しい。この昨今の状況に応じて、多種多様な舞踊作品を開示していきたい。その際に、舞踊作品の在り方について、20世紀の美学芸術学的な問題や概念を使って解明していく。基本的に20世紀そして21世紀へのアートとしてのダンス論である。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 パフォーミング・アーツとパフォーマンス・アーツ</b> 【 到達目標 】 パフォーミング・アーツとしてのダンスから、パフォーマンス・アーツとしてのダンスへの変遷が、この講座のαにしてΩである。この変貌の根幹の思想を半期をかけて追求していく。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第9回 deconstructive</b> 【 到達目標 】 脱構築は「内部からの解体」であることと「解体する対象が明確」であることに尽きる。思想の具体例に芸術をあげることは正しい。中でもダンスは適任だと言いたい。その好例をここでも披露する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第2回 言葉言語と身体知</b> 【 到達目標 】 述定的形容詞によるカテゴライズな論理化、ロゴスによる概念化。言葉言語による「理解」のエピステーメーではない、テクネーとしての身体知による「了解」。ダンスの核心にせまる。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第10回 minimalism</b> 【 到達目標 】 ポストモダン・ダンスとしてのミニマル・ダンスがやがて、ミニマル・ミュージックを使ったダンス全般をそう呼ぶようになった時には、そのダンスはもはやポストモダンではなくなった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第3回 20世紀ダンス</b> 【 到達目標 】 21世紀に生きるわれわれは20世紀のダンスを総括しなければならない。20世紀にこそ、パレエにしてもダンスにしても、芸術舞踊としての地位は確保され、それが芸術自体を推進することにもなった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第11回 retrospective</b> 【 到達目標 】 ダンスにおける懐古主義とは何か。われわれはダンスにノスタルジーを見るのだろうか。存在のハイマートにダンスは存立するのか。安易な懐古趣味ではない存在の本質を見極めたい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第4回 modernism</b> 【 到達目標 】 20世紀アーツを構築する概念は二つ、formalismとexpressionismという相反する二重性にある。この二重性を追求して、モダニズムを明らかにして20世紀という時代を、そしてアートを探求したい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第12回 contemporary dance</b> 【 到達目標 】 結局コンテンポラリー・ダンスとポストモダン・ダンスとはどう違うのか。前者の美学は後者で言い尽くせると私は考える。コンテンポラリー・ダンスはまず国家的な政策であった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第5回 表現主義舞踊とmodern dance</b> 【 到達目標 】 パレエを否定して始まったモダン・ダンスは、パレエの特性であるバを否定したというだけではない。舞踊芸術という作品構造の省察とともに表出的表現のグッドモデルを提供する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第13回 テクニック論</b> 【 到達目標 】 テクニックの語源であるテクネーが経験知による身体知であることは、アリストレスの「ニコマコス倫理学」にすでにある。この問題は知の本来を反省する。「技」の問題から始めよう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第6回 modernist modernとしてのformalismと抽象</b> 【 到達目標 】 キング・オブ・モダニズムはモダニスト・モダンとしてのフォルマリズムである。ここから見えてくることは構造であり、グリーンバーグが言うような意味での作品の本質である。それは何か。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第14回 21世紀ダンス</b> 【 到達目標 】 21世紀のダンスとは何か。ポストモダンを経てわれわれは今どこに向かうのか。もう一度20世紀の問題を確認し、21世紀になって起こってきている問題を具体的に取り上げよう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第7回 postmodernの戦略 in dance</b> 【 到達目標 】 今なおポストモダンをわれわれは問題にする。20世紀のダンスはモダニズムとポストモダニズムに集約されるからである。ポストモダンな戦略が20世紀ダンスの様相を拡大させた。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第15回 問題の所在</b> 【 到達目標 】 前回取り上げた問題は実はわれわれにとって切実な問題なのか。否定的な意味で問題なのか、次のダンスを考える上での分析対象として問題なのか。それへの取り組み方自体を検証しよう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第8回 記号論的戯れと相対主義</b> 【 到達目標 】 「舞踊の溶解力」とは意味論的意味内容の指示機能が弱いことに端を発する。舞踊は言葉言語のようによく「わからない」からこそおもしろいし、記号論的に戯れるという存在根拠を持つ。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
<b>【学習上の留意点】</b> 基本的に予備知識は必要ない。受講者の知的好奇心が必須条件。もちろんこちら側もその好奇心をそそるように努めたいと思うが、そちら側の積極的志向性へのぞむ。ダンスを通じた美学的思考を鍛えてほしい。 2年次前期開講の「舞踊分析法」を是非履修してこの授業にのぞんでほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アネイス・イブリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊分析法（舞踊技術論を含む）						
<b>【成績評価方法】</b> 試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。						

科目名	舞踊学実習（モダンダンス基礎）			担当者	坂本 秀子・松山 善弘	
英文名	Practice of Dance (Modern Dance Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・必修			
<b>【目的とねらい】</b> 前期（坂本）の授業では、身体の正しい使い方を理解し、基本的な技術を習得する。また様々な質を持つコンビネーションを体験し、実力を高めていく。 後期（松山）の授業では、様々な運動単位から発展してきたコンビネーションやレパートリーの学習を通して、イメージと連鎖した表現、技術の習得を目指す。空間、リズム、流れを意識して、イメージに相応しい作品を作る。						
<b>【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の取り組み方、その他注意事項も含めてモダンダンス基礎の講座について理解する。			<b>第9回 習作：グループワーク1</b> <b>【 到達目標 】</b> グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。			
<b>第2回 基礎技術の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 床に正しく立つこと、歩くことの基礎技術を確認し習得する。			<b>第10回 習作：グループワーク2</b> <b>【 到達目標 】</b> グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。			
<b>第3回 コンビネーション1</b> <b>【 到達目標 】</b> 脚上げの基礎技術を確認し習得する。			<b>第11回 習作：グループワーク3</b> <b>【 到達目標 】</b> グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。			
<b>第4回 コンビネーション2</b> <b>【 到達目標 】</b> ターン系の基礎技術を確認し習得する。			<b>第12回 発表、再検討</b> <b>【 到達目標 】</b> 改善する箇所を相談し、修正する事によってより深く動きの本質を理解する。			
<b>第5回 コンビネーション3</b> <b>【 到達目標 】</b> ジャンプ系の基礎技術を確認し習得する。			<b>第13回 グループワーク、踊り込み練習</b> <b>【 到達目標 】</b> 複数回練習する事によって、考案したフレーズをなめらかに踊れるようになる。			
<b>第6回 コンビネーション4</b> <b>【 到達目標 】</b> その他の動きの基礎技術を習得する。			<b>第14回 発表、評価</b> <b>【 到達目標 】</b> 発表、評価を通して、動きの習熟度を確認する。			
<b>第7回 コンビネーション1、2の発展、応用</b> <b>【 到達目標 】</b> 複合された動きをマスターする。			<b>第16回 ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等</b> <b>【 到達目標 】</b> ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認する。			
<b>第8回 コンビネーション3、4の発展、応用</b> <b>【 到達目標 】</b> 複合された動きをマスターする。						

次ページに続く

科目名	舞踊学実習（モダンダンス基礎）			担当者	坂本 秀子・松山 善弘	
英文名	Practice of Dance (Modern Dance Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・必修		
<b>【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分</b>						
<b>第16回 授業進行についてのオリエンテーション (DVDを使用)</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の取り組み方、その他注意事項も含めてモダンダンス基礎後半の講座について理解する。			<b>第24回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
<b>第17回 身体のセンターに対する意識を高める (エクササイズ) 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体のセンターについて理解し意識を高める。			<b>第25回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
<b>第18回 身体のセンターに対する意識を高める (エクササイズ) 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体のセンターについて理解し意識を高める。			<b>第26回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習 3</b> <b>【 到達目標 】</b> 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
<b>第19回 身体のセンターに対する意識を高める (エクササイズ) 3</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体のセンターについて理解し意識を高める。			<b>第27回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習 4</b> <b>【 到達目標 】</b> 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
<b>第20回 骨盤に対する意識を高める (エクササイズ) 1</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。			<b>第28回 グループワーク 1</b> <b>【 到達目標 】</b> グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。			
<b>第21回 骨盤に対する意識を高める (エクササイズ) 2</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。			<b>第29回 グループワーク 2</b> <b>【 到達目標 】</b> グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。			
<b>第22回 骨盤に対する意識を高める (エクササイズ) 3</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。			<b>第30回 グループ作品の発表と評価</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ作品の発表と評価を通して動きの習熟度を確認する。			
<b>第23回 骨盤に対する意識を高める (エクササイズ) 4</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。						
<b>【授業時間外学習】</b> モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。						
<b>【学習上の留意点】</b> ダンスする上で、最も重要な基礎を習得するため、毎時間毎時間集中して授業に取り組んで下さい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特にありません。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、テスト60%、授業への取り組み方・参加度20%の割合で総合的に評価する。 (坂本担当分、松山担当分を総合して評価する。)						

科目名	舞踊学実習（クラシックバレエ基礎）			担当者	渡辺 碧・小山佳予子	
英文名	Practice of Dance (Classic Ballet Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・必修		
<b>【目的とねらい】</b> あらゆる舞踊の基礎となるバレエの基礎技法を正しく理解、体得し、品格のある健康な美しい身体を作り上げる。実践的なバレエの解剖学について学び、バレエにおける正しい身体と筋肉の使い方について理解する。バーでは組み合わせた基礎動作から身体配置を中心に学び、センターでは連続の動きの中でポジションを守ることに至難さ、音楽と動きの融合を実現させ、空間芸術を追究する。さらに、バレエの基本3原則であるアン・デ・オール、アプローン、エレヴェーションについて理解し、動きの中で常に意識すること、実践できることを最終目標とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分</b>						
<b>第1回 クラス分け</b> 【 到達目標 】 全員でバレエ能力テストを受け、上・中・初級にクラス分けをする。その際にそれぞれの今後の課題について検討し、理解をする。			<b>第9回 エクササイズ(応用)①</b> 【 到達目標 】 バー、センターエクササイズを通して、今までの基礎的要素をいかに応用し、より複雑なムーブメントにつなげていくかを体験する。			
<b>第2回 オリエンテーション</b> 【 到達目標 】 それぞれのクラスで、前期を通しての目標を確認するとともに、授業における取り組みの意識を向上させる。			<b>第10回 エクササイズ(応用)②</b> 【 到達目標 】 各エクササイズにおいて、バレエにおける正しい身体配置、バレエの基本3原則を意識しながら、音楽に合わせて、正しいポジションを守りながら踊ることを理解する。			
<b>第3回 身体配置（アライメント）の認識①</b> 【 到達目標 】 バレエにおける正しい身体配置（アライメント）について理解する。特に骨盤の正しい配置を認識する。また、骨盤周辺の筋肉の使い方についても理解する。			<b>第11回 エクササイズ(応用)③</b> 【 到達目標 】 応用編のまとめとして、バレエのどの動きにおいても、正しい身体配置とバレエの基本3原則を意識して、音楽に合わせて、正しいポジションを守りながら踊ることが出来る。			
<b>第4回 身体配置（アライメント）の認識②</b> 【 到達目標 】 バレエにおける正しい身体配置（アライメント）について理解する。特に背骨の正しい配置と使い方について認識する。また、背骨周辺の筋肉の使い方(上体の表現)についても理解する。			<b>第12回 練習課題(前期)と反復練習①</b> 【 到達目標 】 半期のまとめである練習課題(前期)を習い、振付を覚える。			
<b>第5回 アン・デ・オール、アプローン、エレヴェーションについて</b> 【 到達目標 】 これまでのバレエにおける正しい身体配置（アライメント）に基づき、バレエの基本3原則である、①アン・デ・オール（ターン・アウト）、②アプローン、③エレヴェーションについて理解し、実践する。			<b>第13回 練習課題(前期)と反復練習②</b> 【 到達目標 】 練習課題(前期)を深く理解し、正しく踊ることが出来る。			
<b>第6回 エクササイズ(基礎)①</b> 【 到達目標 】 身体の正しいアライメントを踏まえ、バレエの基本3原則を意識した上で、実際に基本的なバーレッスンおよびセンターエクササイズを体験する。			<b>第14回 練習課題(前期)と反復練習③</b> 【 到達目標 】 練習課題（前期）を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。			
<b>第7回 エクササイズ(基礎)②</b> 【 到達目標 】 前回までの復習を通して、体験にとどまらず、今まで習ってきた要素をいかにエクササイズの中で実践していくかについて検討し、それを基に実践していく。			<b>第15回 課題の発表と検討</b> 【 到達目標 】 課題を発表し、第2回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。教員からのフィードバックに対して、今後の目標を設定することが出来る。			
<b>第8回 エクササイズ(基礎)③</b> 【 到達目標 】 これまでのまとめとして、基礎的なエクササイズの中で、身体を正しく使い、バレエの基本3原則を意識しながら動いているかを確認する。						

次ページに続く

科目名	舞踊学実習（クラシックバレエ基礎）			担当者	渡辺 碧・小山佳予子	
英文名	Practice of Dance (Classic Ballet Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・必修		
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 オリエンテーション 【 到達目標 】 前期の結果を踏まえ、後期を通しての目標を認識するとともに、さらなる上達のために意識を高める。			第24回 練習課題(後期)と反復練習① 【 到達目標 】 半期のまとめとして練習課題(後期)を習い、振付を覚える。			
第17回 エクササイズ(前期の復習とその応用)① 【 到達目標 】 前期で行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく踊ることが出来る。特に骨盤の正しい身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。			第25回 練習課題(後期)と反復練習② 【 到達目標 】 練習課題(後期)を深く理解し、正しく踊ることが出来る。			
第18回 エクササイズ(前期の復習とその応用)② 【 到達目標 】 前期で行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合わせて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に背骨の身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。			第26回 練習課題(後期)と反復練習③ 【 到達目標 】 練習課題(後期)を正しく踊ることが出来、自分への課題を見つけることが出来る。また、その課題の改善に向けた努力が出来る。			
第19回 エクササイズ(前期の復習とその応用)③ 【 到達目標 】 前期で行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合わせて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。			第27回 練習課題(後期)と反復練習④ 【 到達目標 】 練習課題(後期)を正しく踊ることが出来、さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。			
第20回 エクササイズとバレエ用語学習① 【 到達目標 】 バーやセンターレッスンで用いられるバレエ用語について、内容や意味を理解する。			第28回 課題の発表 【 到達目標 】 課題を発表し、第16回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。			
第21回 エクササイズとバレエ用語学習② 【 到達目標 】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語と動きを関連させて理解することが出来る。			第29回 バレエ用語の確認 【 到達目標 】 これまで学んできたバレエ用語が正しく理解出来ているかを、バレエ用語と実際の動きを通して確認する。			
第22回 エクササイズとバレエ用語学習③ 【 到達目標 】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。バレエの流派によって、バレエ用語が異なることを理解する。			第30回 まとめ 【 到達目標 】 一年間を通し、それぞれの成長を確認するとともにクラシックバレエの重要性を理解する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。			
第23回 エクササイズとバレエ用語学習④ 【 到達目標 】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。また逆に、動きからもバレエ用語が理解出来、その意味を答えることが出来る。						
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。						
【学習上の留意点】 授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。						
【教科書・参考書など】 バレエ用語辞典						
【関連科目】 舞踊学演習（クラシックバレエ1）、舞踊学演習（クラシックバレエ2）						
【成績評価方法】 実技テスト60%、バレエ用語確認テスト20%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート20%を総合的に評価する。						

科目名	舞踊学実習（ジャズダンス基礎）			担当者	石川浩子	
英文名	Practice of Dance (Jazz Dance Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・必修		
【目的とねらい】 ダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、それを踏まえたくて全身を使い、色々な曲に合わせて踊れるダンサーを育てる。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得 【 到達目標 】 正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。			第9回 ジャズダンスに必要な基本テクニックを入れたコンビネーション初級① 【 到達目標 】 今まで練習したテクニックを入れながら、コンビネーションでスムーズに踊れるようにする。			
第2回 基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得 【 到達目標 】 正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。			第10回 ジャズダンスに必要な基本テクニックを入れたコンビネーション初級① 【 到達目標 】 今まで練習したテクニックを入れながら、コンビネーションでスムーズに踊れるようにする。			
第3回 基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得 【 到達目標 】 正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。			第11回 ジャズダンスに必要な基本テクニックを入れたコンビネーション初級② 【 到達目標 】 今まで練習したテクニックを入れながら、コンビネーションで大きく、スムーズに踊れるようにする。			
第4回 ジャズダンスに必要な基本テクニックの習得 クロスフロアー(ターン) 【 到達目標 】 テクニック(ターン)の正しい回り方を覚え、クロスフロアーで、スムーズに使えるようにする。			第12回 ジャズダンスに必要な基本テクニックを入れたコンビネーション初級② 【 到達目標 】 今まで練習したテクニックを入れながら、コンビネーションで大きく、スムーズに踊れるようにする。			
第5回 ジャズダンスに必要な基本テクニックの習得 クロスフロアー(パットマン) 【 到達目標 】 テクニック(パットマン)の正しい回り方を覚え、クロスフロアーで、スムーズに使えるようにする。			第13回 ジャズダンスに必要な基本テクニックを入れたコンビネーション初級② 【 到達目標 】 今まで練習したテクニックを入れながら、コンビネーションで大きく、スムーズに踊れるようにする。			
第6回 ジャズダンスに必要な基本テクニックの習得 クロスフロアー(シェネ) 【 到達目標 】 テクニック(シェネ)の正しい回り方を覚え、クロスフロアーで、スムーズに使えるようにする。			第14回 ジャズダンスに必要な基本テクニック・最終チェック 【 到達目標 】 今まで習ったことを復習し、出来ていないものを再度練習する。			
第7回 ジャズダンスに必要な基本テクニックの習得 クロスフロアー(アチチュード) 【 到達目標 】 テクニック(アチチュード)の正しい回り方を覚え、クロスフロアーで、スムーズに使えるようにする。			第16回 ジャズダンスに必要な基本テクニック・コンビネーション最終チェック 【 到達目標 】 今までに習ったことを、スムーズにコンビネーションで踊ることが出来るかを、最終チェックする。			
第8回 ジャズダンスに必要な基本テクニックを入れたコンビネーション初級① 【 到達目標 】 今まで練習したテクニックを入れながら、コンビネーションでスムーズに踊れるようにする。						

次ページに続く

科目名	舞踊学実習（ジャズダンス基礎）			担当者	石川 浩子	
英文名	Practice of Dance (Jazz Dance Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・必修		
<b>【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分</b>						
<b>第16回 体力・筋力強化・中級クロスフロアー①</b> <b>【 到達目標 】</b> 踊れる体を作るために、体力・筋力を鍛える。 動いて覚え、クロスフロアーでスムーズに使えるようにする。			<b>第24回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション中級②</b> <b>【 到達目標 】</b> ミディアムテンポの曲を使い、セクシーにしなやかに踊ることができるようにする。			
<b>第17回 体力・筋力強化・中級クロスフロアー②</b> <b>【 到達目標 】</b> 踊れる体を作るために、体力・筋力を鍛える。 動いて覚え、クロスフロアーでスムーズに使えるようにする。			<b>第25回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション中級②</b> <b>【 到達目標 】</b> ミディアムテンポの曲を使い、セクシーにしなやかに踊ることができるようにする。			
<b>第18回 体力・筋力強化・中級クロスフロアー③</b> <b>【 到達目標 】</b> 踊れる体を作るために、体力・筋力を鍛える。 動いて覚え、クロスフロアーでスムーズに使えるようにする。			<b>第26回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション上級①</b> <b>【 到達目標 】</b> スローテンポの曲を使い、全身を使い大きく踊ることができるようにする。			
<b>第19回 体力・筋力強化・中級クロスフロアー④</b> <b>【 到達目標 】</b> 踊れる体を作るために、体力・筋力を鍛える。 動いて覚え、クロスフロアーでスムーズに使えるようにする。			<b>第27回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション上級①</b> <b>【 到達目標 】</b> スローテンポの曲を使い、全身を使い大きく踊ることができるようにする。			
<b>第20回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション中級①</b> <b>【 到達目標 】</b> アップテンポの曲を使い、シャープに踊れるようにする。			<b>第28回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション上級①</b> <b>【 到達目標 】</b> スローテンポの曲を使い、全身を使い大きく踊ることができるようにする。			
<b>第21回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション中級①</b> <b>【 到達目標 】</b> アップテンポの曲を使い、シャープに踊れるようにする。			<b>第29回 全行程チェック①</b> <b>【 到達目標 】</b> 今までの動きを復習し、出来ていないものを再度理解し、習得する。			
<b>第22回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション中級①</b> <b>【 到達目標 】</b> アップテンポの曲を使い、シャープに踊れるようにする。			<b>第30回 全行程チェック②</b> <b>【 到達目標 】</b> 上級コンビネーションなどが、しっかりと理解し踊れているかを再度最終チェックする。			
<b>第23回 ジャズダンスに必要な動きの応用 コンビネーション中級②</b> <b>【 到達目標 】</b> ミディアムテンポの曲を使い、セクシーにしなやかに踊ることができるようにする。						
<b>【授業時間外学習】</b> 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。						
<b>【学習上の留意点】</b> 前半のストレッチ・バランス、筋力強化などは、曲をかけながら口頭で注意、説明をしながら進めるので集中力を持って授業に臨む必要がある。 後半のコンビネーションでは振付を覚えることに集中し、覚えた後の練習が必要とされる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度50%・テストの結果50%を評価する。						

科目名	舞踊学実習（コンテンポラリーダンス基礎）			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Practice of Dance (Contemporary Dance Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・必修		
<b>【目的とねらい】</b>						
<p>コンテンポラリーダンスの基礎技術の理解と習得を行う。特にリリーステックをもとにしたフロアーテクニックの基礎、骨格の構造を意識した体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、空間認識などについての理解を深める。前期は基礎技術の習得を主とし、後期はフレーズを通して、一連の流れのある動きから体への意識、技術の向上を目指す。またパートナーワークやコンタクト、動きの質等についての基礎知識、技術を習得し、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための基礎知識、技術の習得を目的とする。また作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。</p>						
<b>【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分</b>						
<b>第1回 授業進行についてのオリエンテーション</b>				<b>第9回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用②</b>		
<p>【 到達目標 】 コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。</p>				<p>【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。</p>		
<b>第2回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 導入</b>				<b>第10回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用③</b>		
<p>【 到達目標 】 基本エクササイズの流れを習得する。 フロアーテクニックと体のアライメントを用いたエクササイズを体験する。</p>				<p>【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。</p>		
<b>第3回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎①</b>				<b>第11回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用④</b>		
<p>【 到達目標 】 基本エクササイズの流れを習得する。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。</p>				<p>【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。</p>		
<b>第4回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎②</b>				<b>第12回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用⑤</b>		
<p>【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。</p>				<p>【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。</p>		
<b>第5回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎③</b>				<b>第13回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 基礎①</b>		
<p>【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。</p>				<p>【 到達目標 】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。 より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。</p>		
<b>第6回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎④</b>				<b>第14回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 基礎②</b>		
<p>【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。</p>				<p>【 到達目標 】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。 より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。</p>		
<b>第7回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎⑤</b>				<b>第16回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 基礎③</b>		
<p>【 到達目標 】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。</p>				<p>【 到達目標 】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。 前期で得た知識、技術を用い、フレーズを個々で踊る。それをもとに前期を振り返り総括する。</p>		
<b>第8回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用①</b>						
<p>【 到達目標 】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。</p>						

次ページに続く

科目名	舞踊学実習（コンテンポラリーダンス基礎）			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Practice of Dance (Contemporary Dance Basic)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・必修		
<b>【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分</b>						
<b>第16回 質感を意識した体の動かし方①</b> 【 到達目標 】 動きの質について理解する。 新聞紙など物を利用し、質感を意識した体の動かし方を理解する。			<b>第24回 コンタクト、パートナーワーク基礎③</b> 【 到達目標 】 コンタクト、パートナーワークの基礎テクニックを習得する。 コンテンポラリーダンスに必須なコンタクト、パートナーワークの基礎テクニックを具体的なエクササイズを通して理解し、習得する。			
<b>第17回 質感を意識した体の動かし方②</b> 【 到達目標 】 動きの質について理解する。 新聞紙など物を利用し、質感を意識した体の動かし方を理解する。			<b>第25回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 応用①</b> 【 到達目標 】 より複雑なフレーズの中でテクニックを生かす方法を習得する。 より長く、複雑なフレーズを踊ることを通して、これまで習得してきたフロアーテクニック、体のアライメント、空間への意識等を流れのある動きの中で生かせるようにする。			
<b>第18回 動きのコーディネーション、アイソレーション①</b> 【 到達目標 】 コーディネーションとアイソレーションの体の使い方の差異を理解する。 ラバキューブ、9ポイントなどの考えから、空間認識、体のコーディネーション、アイソレーションについて学ぶ。			<b>第26回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 応用②</b> 【 到達目標 】 より複雑なフレーズの中でテクニックを生かす方法を習得する。 より長く、複雑なフレーズを踊ることを通して、これまで習得してきたフロアーテクニック、体のアライメント、空間への意識等を流れのある動きの中で生かせるようにする。			
<b>第19回 動きのコーディネーション、アイソレーション②</b> 【 到達目標 】 ラバキューブ、9ポイントなどの考えから、空間認識、体のコーディネーション、アイソレーションについて学ぶ。			<b>第27回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 応用③</b> 【 到達目標 】 より複雑なフレーズの中でテクニックを生かす方法を習得する。 意識する点に注意しながら、動きや技術に磨きをかける。			
<b>第20回 空間認知、ネガティブスペースの考え方①</b> 【 到達目標 】 ネガティブスペースの考え方を理解する。 踊る上で必要な空間の意識の仕方について、ネガティブスペースの考え方などを通して学ぶ。			<b>第28回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 応用④</b> 【 到達目標 】 より複雑なフレーズの中でテクニックを生かす方法を習得する。 コンビネーションを用い、ネガティブスペース、パートナーワーク等の考え方を二人組でフレーズを創作する。			
<b>第21回 空間認知、ネガティブスペースの考え方②</b> 【 到達目標 】 ネガティブスペースの考え方を理解する。 踊る上で必要な空間の意識の仕方について、ネガティブスペースの考え方などを通して学ぶ。			<b>第29回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 応用⑤</b> 【 到達目標 】 より複雑なフレーズの中でテクニックを生かす方法を習得する。 コンビネーションを用い、ネガティブスペース、パートナーワーク等の考え方を二人組でフレーズを創作する。			
<b>第22回 コンタクト、パートナーワーク基礎①</b> 【 到達目標 】 コンタクト、パートナーワークの基礎テクニックを習得する。 コンテンポラリーダンスに必須なコンタクト、パートナーワークの基礎テクニックを具体的なエクササイズを通して理解し、習得する。			<b>第30回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 応用⑥</b> 【 到達目標 】 より複雑なフレーズの中でテクニックを生かす方法を習得する。 コンビネーションを個々で、またパートナーと踊る。それをもとに1年を振り返り総括を行う。			
<b>第23回 コンタクト、パートナーワーク基礎②</b> 【 到達目標 】 コンタクト、パートナーワークの基礎テクニックを習得する。 コンテンポラリーダンスに必須なコンタクト、パートナーワークの基礎テクニックを具体的なエクササイズを通して理解し、習得する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態にて授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 評価基準は、実技課題70パーセント、レポート課題30パーセントとし、総合的に評価する。						

科目名	スポーツ運動学			担当者	石 塚 浩	
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・必修	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーズ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 運動技能の構造</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			<b>第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			
<b>第2回 技術や戦術と専門的体力の関係</b> <b>【 到達目標 】</b> 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			<b>第10回 運動の構造(局面構造に着目して) (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動形式(循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ)から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			
<b>第3回 運動技能と発育発達との関係</b> <b>【 到達目標 】</b> 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。  <b>【授業時間外学習】</b> 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。			<b>第11回 運動の構造(リズム構造に着目して) (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			
<b>第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術</b> <b>【 到達目標 】</b> 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。			<b>第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			
<b>第5回 戦術に関する要因とその具体例(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			<b>第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			
<b>第6回 戦術に関する要因とその具体例(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。			<b>第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			
<b>第7回 技術練習の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。			<b>第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			
<b>第8回 戦術練習の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。						
<b>【学習上の留意点】</b> スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、板書を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「運動学講義」金子明友、朝岡正雄・編著（大修館書店）、「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不味堂出版）						
<b>【関連科目】</b> スポーツ方法実習A（体操・器械運動）、スポーツ方法実習B（陸上競技・水泳）、スポーツ方法実習C（バスケットボール・バレーボール）、スポーツコーチング論、スポーツ技術論、スポーツ戦術論、スポーツコンディショニング論、トレーニング計画論、運動技能評価法など						
<b>【成績評価方法】</b> 全体の20％は教回配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80％はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に別途実施。						

科目名	スポーツ生理学			担当者	森本 茂	
英文名	Sport Physiology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踏学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・選択			
<b>【目的とねらい】</b> “運動”を行うと私たちの身体にはいろいろな反応が発現する。特に運動時の生理機能・構造の反応に注目し、発現の仕組みを理解することから、生命の維持、運動効果などの観点から“反応”の目的を考察していく。そのための基礎的な知見を獲得することに目的を置く。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 スポーツ生理学とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツ生理学の定義と本講義における学習到達目標を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ生理学の定義と講義の学習到達目標を振り返る。教科書を元に次回の予習をする。			<b>第9回 循環器系から見た運動の対する調整と適応－1：心臓</b> <b>【 到達目標 】</b> 循環器系の作用と解剖について理解し、血液循環の中心となる心臓における調整とは、適応とは、を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
<b>第2回 運動に対する身体機能・構造の急性的変化と慢性的変化</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体機能・構造に対する運動の効果には時間的観点から、急性的変化「調整」と慢性的変化「適応」の2種類があることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			<b>第10回 循環器系から見た運動の対する調整と適応－2：血管系と心拍動と血圧</b> <b>【 到達目標 】</b> 血管の種類とそれぞれの役割を理解する。また、運動に対する心臓、血管の働きから血圧の変化の仕方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
<b>第3回 調整の発現－1：身体の動的恒常性</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体内部の環境は揺らぎながらも一定の範囲内にとどめられている。動的恒常性の目的を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			<b>第11回 生体内の環境を作り出す血液：呼吸器系と循環器系をつなぐ血液</b> <b>【 到達目標 】</b> 呼吸器系と循環器系は血液を介して機能を発現出来得ることを理解する。運動に伴った適応赤血球数が多くなる場合と少なくなる場合があること、特に貧血は食物摂取と大きく関係することを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
<b>第4回 調整の発現－2：調整発現の原因と神経系の関与</b> <b>【 到達目標 】</b> 調整は無意識化で行われる“反射”が主役を演じる。反射を神経系ネットワークから理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			<b>第12回 身体の機能・構造維持のために必要な栄養器質</b> <b>【 到達目標 】</b> 五大栄養素とそれぞれの栄養素の必要性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
<b>第5回 調整の発現－3：調整（反射）を起こす原因をエネルギー代謝から考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体のエネルギー産生の方法とそこから出てくる副産物が恒常性を乱す可能性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			<b>第13回 呼吸器系と循環器系機能の統合：体温は一定に保たれることの意味と仕組み</b> <b>【 到達目標 】</b> 神経系が中心となって呼吸器系と循環器系を駆使して体温調節を行っていることを理解する。機能の統合の意味を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
<b>第6回 運動の発現：力を発揮することと短くなることの基礎</b> <b>【 到達目標 】</b> 筋系の解剖、生理について理解を深め、神経系からの指令を受けた筋が収縮し運動が発現する仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			<b>第14回 呼吸器系と循環器系機能の統合：運動時の体温調節と自律神経、内分泌系</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動時の体温変化の目的とその調節機構(神経調節、液性調節)を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
<b>第7回 呼吸器系からみた“調整”と恒常性維持</b> <b>【 到達目標 】</b> なぜ呼吸することが必要なのか、身体内の動的恒常性維持から理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			<b>第15回 運動、トレーニングと健康：調整と適応を健康維持の観点から</b> <b>【 到達目標 】</b> 運動、トレーニングの効果はすべての人間にとって一律ではなく、個人差が存在することを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。			
<b>第8回 呼吸器機能にみられる慢性的変化：酸素摂取量と負荷量と適応</b> <b>【 到達目標 】</b> トレーニングの持続や反復に伴う呼吸器系機能の変化を酸素摂取量と酸素負荷量から理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業は教科書とパワーポイントを用いて進める。配布する資料は教科書とは異なる辞典からのもので、進度の高い資料となる。また、講義の最中に、知識の理解度を把握するため講義内容に関する小課題を実施する場合がある。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「運動生理学の基礎と発展」 春日規克、竹倉宏明編著、フリースペース						
<b>【関連科目】</b> 機能解剖学、生理・生化学入門						
<b>【成績評価方法】</b> 小課題を20%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)を80%で評価する。						

科目名	健康科学論			担当者	沢井史穂	
英文名	Introduction to Health Science					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踏学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択
<b>【目的とねらい】</b> 現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解する。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解すること、また、年齢、性機能、休養、ストレスと健康との関わりについて理解することを目的とする。これらの理解を通して、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけることがねらいである。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 健康とは何か。健康観の変遷。現代における健康観。</b> <b>【到達目標】</b> (1)「健康」の定義を理解する。 (2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。			<b>第9回 子どもの生活環境の変化と健康</b> <b>【到達目標】</b> (1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解する。 (2)成長に伴う身体の構造と機能の変化を知り、成長期における健康問題について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。			
<b>第2回 日本人の健康問題 人口構成の推移、疾病構造の変化</b> <b>【到達目標】</b> (1)死因順位の大きな変化とその要因について理解する。 (2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。			<b>第10回 女性の性機能の変化と健康</b> <b>【到達目標】</b> (1)女性の一生を通じての性機能の変化と女性特有の健康問題について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 女性の健康に関する文献や資料を探して読む。			
<b>第3回 生活習慣病とは</b> <b>【到達目標】</b> (1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解する。 (2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。			<b>第11回 妊娠と健康</b> <b>【到達目標】</b> (1)妊娠期の身体の変化と生活の注意点について理解する。 (2)避妊・不妊・出生前診断など、生命倫理に関する問題について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 妊娠のまつわる文献や資料を探して読む。			
<b>第4回 循環系疾患とライフスタイル</b> <b>【到達目標】</b> (1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。			<b>第12回 高齢者の運動と健康</b> <b>【到達目標】</b> (1)加齢に伴う身体の構造と機能の変化を知り、中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。			
<b>第5回 代謝異常・肥満とライフスタイル</b> <b>【到達目標】</b> (1)脂質代謝異常、肥満症をもたらすライフスタイルを理解する。 (2)肥満の判定基準と日本の現状を知り、予防・改善策を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 肥満の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。			<b>第13回 休養と健康</b> <b>【到達目標】</b> (1)睡眠や休息と健康との関わりについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。			
<b>第6回 メタボリックシンドロームの判定と予防</b> <b>【到達目標】</b> (1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解する。 (2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームの予防行動につなげる。			<b>第14回 メンタルヘルス</b> <b>【到達目標】</b> (1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。			
<b>第7回 骨の健康 骨粗鬆症の予防</b> <b>【到達目標】</b> (1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を知り、丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための生活習慣を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。			<b>第15回 健康づくり施策 概念と歴史 日本における施策</b> <b>【到達目標】</b> (1)健康づくり施策の概念と歴史を理解し、日本における健康施策とその課題について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。			
<b>第8回 ロコモティブシンドロームの概念と予防</b> <b>【到達目標】</b> (1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、予防策を考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> とくに指定はない。必要な資料をその都度配布する。						
<b>【関連科目】</b> 衛生学・公衆衛生学、女性のライフステージと運動、保健体育教育法 I						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内での課題達成度30%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)70%で評価する。						

科目名	機能解剖学				担当者	永野康治	
英文名	Functional Anatomy						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動を学び、身体の動きを関節運動や筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、筋骨格系の知識を得る事で自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に生かし、さらには運動を指導する立場において効果的な評価、処方、指導ができるようになることである。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 機能解剖学概論 (機能解剖学の基礎)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項を理解する。 (2)骨の構造を理解し、全身の骨の名称とその位置を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全身の骨の名称とその位置を覚える。				<b>第9回 関節の構造と関節運動 上肢1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造を理解する。 (2)肩甲胸郭関節の運動と筋肉の作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
<b>第2回 骨格の理解 上肢1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨および骨の特徴を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 上肢の骨の特徴を覚える。				<b>第10回 関節の構造と関節運動 上肢2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)肘関節、前腕、手関節、手指の構造を理解する。 (2)肘関節、前腕、手関節、手指の運動と筋肉の作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
<b>第3回 骨格の理解 上肢2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨および骨の特徴を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 上肢の骨の特徴を覚える。				<b>第11回 関節の構造と関節運動 下肢1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)股関節、膝蓋大腿関節の構造を理解する。 (2)股関節の運動と筋肉の作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
<b>第4回 骨格の理解 下肢1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨および骨の特徴を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 下肢の骨の特徴を覚える。				<b>第12回 関節の構造と関節運動 下肢2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)脛骨大腿関節の構造を理解する。 (2)脛骨大腿関節の運動と筋肉の作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
<b>第5回 骨格の理解 下肢2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨および骨の特徴を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 下肢の骨の特徴を覚える。				<b>第13回 関節の構造と関節運動 下肢3</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)足関節、足部の構造を理解する。 (2)足関節、足部の運動と筋肉の作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
<b>第6回 骨格の理解 体幹1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体幹(脊柱、椎骨)の骨および骨の特徴を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体幹の骨の特徴を覚える。				<b>第14回 関節の構造と関節運動 体幹1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体幹、脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)の構造を理解する。 (2)脊柱の運動と筋肉の作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
<b>第7回 骨格の理解 体幹2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体幹(椎骨、肋骨)の骨および骨の特徴を把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体幹の骨の特徴を覚える。				<b>第15回 関節の構造と関節運動 体幹2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体幹、胸郭の関節の構造を理解する。 (2)胸郭の運動と筋肉の作用を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
<b>第8回 関節の構造と関節運動 概論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)関節の大まかな構造と種類を理解する。 (2)関節運動の定義を理解する。 (3)肩甲上腕関節を例に関節運動と筋肉の作用を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。							
<b>【学習上の留意点】</b> 配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。覚えるべきことが多いため、各授業ごとに内容をノートに整理しておくことが望まれる。毎回の授業の際にその日の授業内容を問う小テストを実施する。また、復習用の課題を適時提示する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：特に指定しない 参考書：筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版) 骨・関節・筋肉の構造と動作のしくみ(ナツメ社)							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 課題 20% 期末試験(試験は試験期間中に別途実施) 80%							

科目名	発育発達論				担当者	井筒紫乃	
英文名	Growth and Development						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮したスポーツへの取り組みや運動指導の重要性を理解する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション 発育発達概念</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)授業の進め方、諸注意、参考図書等について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発育発達に関する予備知識について書籍等で予習する。				<b>第9回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性5</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)青年期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)インディペンデント・エイジ期の運動との関わりを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第8回の授業内で提示した専門用語について予習する。			
<b>第2回 人類学からみた発育発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生物の誕生からヒトはどのように進化してきたのか理解する。 (2)人類の進化に興味を持つ。  <b>【授業時間外学習】</b> 第1回の授業内で提示した専門用語について予習する。				<b>第10回 女性の身体的特性1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)女性の身体的特性、性周期を理解する。 (2)貧血のメカニズムを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第9回の授業内で提示した専門用語について予習する。			
<b>第3回 形態・体格指数と生物学的年齢</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発育を評価するための形態指数・体格指数、生物学的年齢について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第2回の授業内で提示した専門用語について予習する。				<b>第11回 女性の身体的特性2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)女性アスリートの3主徴の問題について理解する。 (2)女性アスリートの加齢変化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第10回の授業内で提示した専門用語について予習する。			
<b>第4回 受精から誕生そして歩行獲得までの発育発達特性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)胎児の発育について理解する。 (2)乳児期の身体的・心理的・社会的特性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第3回の授業内で提示した専門用語について予習する。				<b>第12回 妊娠・出産</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)妊娠と出産について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第11回の授業内で提示した専門用語について予習する。			
<b>第5回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)幼児期前期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)運動神経の発達特性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第4回の授業内で提示した専門用語について予習する。				<b>第13回 中高年期のからだどころ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)中高年期の身体的特性とエイジングについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第12回の授業内で提示した専門用語について予習する。			
<b>第6回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)幼児期後期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)プレゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第5回の授業内で提示した専門用語について予習する。				<b>第14回 加齢に伴う体力・運動能力の変化</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性、体力・運動能力の変化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第13回の授業内で提示した専門用語について予習する。			
<b>第7回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性3</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)学童期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第6回の授業内で提示した専門用語について予習する。				<b>第15回 ライフステージと生涯スポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)運動継続のためのスポーツへの関わりについて理解する。 (2)それぞれのステージでの運動プログラムを作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作成したノートを整理する。			
<b>第8回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性4</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)思春期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ポストゴールデンエイジ期の運動との関わりを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第7回の授業内で提示した専門用語について予習する。							
<b>【学習上の留意点】</b> 授業ノートを作成し、要点を自分なりにわかりやすくまとめ、後で読み返しても十分理解できるように工夫すること。また、どんな小さなこと、細かいことにも興味を持って受講し、疑問があれば積極的に質問すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：指定しない							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 定期試験の成績70%、ノート作成の内容20%、毎授業後のレポート10%で評価する。 なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	舞踊分析法（舞踊技術論を含む）			担当者	松澤慶信	
英文名	Analytic Methods of Dance					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 総論的考察をすすめていくが、時代を代表するあるいは作品概念を変えた作家や舞踊作品を具体的にとりあげつつも、その意味と意義をその時代の美学芸術学の思潮に丁寧に照らし合わせて検討していく、いわば思想としての舞踊を検証する講義である。舞踊作品の在り様在り方をめぐる存在論的美学を基礎におきつつ舞踊作品の構造をその時代の時代精神とともに探っていきたい。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 to perform</b> <b>【 到達目標 】</b> performするとはどういうことか。演奏したり、演出したり、上演したりと、テキストを立ち上げるその行為全般をいうが、オースティンが言う「パフォーマティブ」な意味を芸術に適用し考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第9回 マリウス・プティパの業績</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代もおバレエというダンスの表現形式は、基本的にプティパ・バラダイムにあると言っても過言ではない。われわれは彼が確立した語法と表現構造によって舞踊作品を存立させている。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第2回 舞踊のジャンル</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な舞踊ジャンルを取り上げて、その差異とそして共通性を抽出して、舞踊とは何か、ダンシングするとはどういうことかをとりあえず捻出したい。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第10回 pas de deux</b> <b>【 到達目標 】</b> 彼のダンスの様式の一つにpas de deuxを確立したことが挙げられるだろう。物語論的にも作品の構造論的にもまっさに見せ場としてのパ・ドゥ・ドゥに着目したい。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第3回 芸術としての舞踊 art/ars/テクネー</b> <b>【 到達目標 】</b> 芸術とは何か。その語源を探ることで、実は18世紀以前の芸術のもつ多義性(たとえばartisticとartificial)と多様性から、ダンスの存立を探る。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第11回 20世紀のバレエ改革 ディアギレフのバレエ・リュス</b> <b>【 到達目標 】</b> 19世紀に完成されたバレエが、もはや芸術ではなくエンターテインメント化していたのを、芸術に昇格させたのがディアギレフのバレエ・リュスに他ならない。その意味を20世紀芸術の文脈から探る。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第4回 18世紀の美学</b> <b>【 到達目標 】</b> ヤスパースが言ったように、18世紀は「枢軸の時代」であり、近代的概念が一気に整備された時代だったが、美学もそして舞踊学も学としての反省を持つようになった、この時代を確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第12回 20世紀バレエ</b> <b>【 到達目標 】</b> バレエにとって20世紀とは何だったのか。フォルマリスティックなモダニスト・モダンとしての抽象バレエ、表現主義的な心理バレエ、そしてコンテンポラリー・バレエとは何か。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第5回 18世紀「絵画の時代」とballet d' action</b> <b>【 到達目標 】</b> 美しい自然の模倣、物語ること、絵画的であること、イリュージョンイズム。この4つの視点が18世紀に「近代」芸術を指定する。バレエがこの時代の芸術理念のグッドモデルであることを確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第13回 舞踊と音楽</b> <b>【 到達目標 】</b> 抽象バレエが明白にしたのは、パという語法がダンシングする構造だけではない。動きと音楽の関係をもさげだしたのだった。物語ることももはやダンスの本質ではない。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第6回 17世紀バロック時代のダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 18世紀以前から始まるバレエの歴史を探ろう。1581年をバレエ元年とするが、次の17世紀の時代にはルイ14世の庇護のもと、バレエは宮廷バレエを経てコメディ・バレエという劇場芸術になる。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第14回 感情と舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 感情の所在地、Befindlichkeitとしての情態感情、そして感情移入。感情をめぐる緒論をダンスに当てはめて、感情がダンスの特性を解明するメルクマールになることを確認したい。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第7回 19世紀ロマン的なものとロマンティック・バレエ</b> <b>【 到達目標 】</b> ロマンティック・バレエと呼ばれるバレエとは何か。ここにわれわれは実はロマン的なものという芸術の根幹にふれることになる。そしてこのロマン的なものが思いの外、バレエの本質であることを確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第15回 感情と舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 18世紀バレエは18世紀の芸術のグッドモデルであった。それからバレエは後退していく。20世紀にバレエは復権したと言われる。どうしてそう言えるのか。アーツ自体の変貌からも明らかにしたい。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第8回 19世紀後半のクラシック・バレエ</b> <b>【 到達目標 】</b> バレエの中心が19世紀後半にロシアに移った理由は社会的にも幾つか挙げられるが、われわれ美学の徒には古典主義という概念を確認して、バレエのクラシズムを押しえておきたい。 <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
<b>【学習上の留意点】</b> 基本的に予備知識は必要ない。受講者の知的好奇心が必須条件。もちろんこちら側もその好奇心をそるるよう努めたいと思う。しかし授業へのそちら側からの積極的志向性をのぞむ。ダンスを通じた美学的思考を鍛えてほしい。 2年次後期開講の必修科目「舞台芸術論」の準備としても、是非受講してほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アネイス・イブリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。						
<b>【関連科目】</b> 舞台芸術論						
<b>【成績評価方法】</b> 試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。						

科目名	生涯ダンス論			担当者	八木ありさ	
英文名	Lifelong Dance					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 「人は誰でもダンスのもつ豊かな喜びを享受することができる」という考え方を理解できるように、講義を展開する。年齢や性別、文化、環境など、異なる条件ごとに、あるいは条件の違いを超えて、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割について理解する。さらに、指導者やファシリテーターとして「いつでも、どこでも、だれとでも」ダンス体験を共有することができるための基本的な知識を習得する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 「生涯ダンス」の理念①</b> <b>【 到達目標 】</b> スポーツと芸術とダンスの特性について「あそび」を軸として理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。			<b>第9回 老年期とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 高齢者の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ADLと認知症について調べる。			
<b>第2回 「生涯ダンス」の理念②</b> <b>【 到達目標 】</b> 「ライフステージ」の概念や「わたしらしさ」を特徴づける多様な要素について知り、本講義を「生涯ダンス論」とする意味について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』による4つの遊びの特性について、各種スポーツと関連づけて理解しておく。			<b>第10回 老年期とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 祖父母以上の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。  <b>【授業時間外学習】</b> 父母世代にインタビューし、1950～60年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。第8回の成果とともにレポートとして提出する。			
<b>第3回 子どもとダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 乳幼児期の運動発達と身体表現について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「子育て支援」について調べる。			<b>第11回 障害とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 「障害」の概念について理解し、様々な人々の存在とその人たちのダンスについて具体的に想像することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> ICFについて調べ、その趣旨を説明できるようにする。			
<b>第4回 子どもとダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期の模倣動作、リズム運動の発達について理解し、幼児期のダンス活動指導の要点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育園・幼稚園の表現指導について調べる。			<b>第12回 障害とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 個別の「障害」を障壁とせず、共にダンスすることに価値を見いだすインクルーシブなダンス活動について、実践例等から理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> リハビリテーション、ノーマライゼーションの定義を調べる。			
<b>第5回 青年期とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 青年期を過ごす自分たちの特性が、ダンスとどのように関わっているか理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる①。			<b>第13回 地域とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 地域活性化、世代間交流、子育て支援など、地域でのダンスの実例に触れて、ダンス活動の持つ力について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 地域の公民館などで行われている世代間交流、異文化交流などのプログラムについて調べる。			
<b>第6回 青年期とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 若者が生み出す文化やダンスと社会の影響関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる②。①と②をまとめ、レポートとして提出する。			<b>第14回 地域とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 生活や人生が展開する場としての「地域」という考え方を理解し、人々を結びつける道具、エンパワメントの道具としてのダンスについて、適切な考えを述べるができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 前回までの授業全体を振り返り、生涯学習の内容や道具としてダンスに特有の特徴を導き出す。			
<b>第7回 壮年期とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 中高年の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツクラブなど健康産業の場面で提供されるダンス関連プログラムにはどのようなものがあるか調べる。			<b>第15回 だれもがダンスのもつ豊かな喜びを享受することができるために</b> <b>【 到達目標 】</b> 「生涯ダンス」の現状について再び概観し、これを振興する上で求められることについて、適切な考えを述べるができる。  <b>【授業時間外学習】</b> ダンスと関わるキャリアにはどのようなものがあるか調べ、それに必要な条件を検討する。			
<b>第8回 壮年期とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 両親の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。  <b>【授業時間外学習】</b> 父母世代にインタビューし、1980～1990年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。						
<b>【学習上の留意点】</b> ディスカッションの素材を得るために、図書やインターネットでの情報検索や、身近な人へのインタビューを求めることがある。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求める。授業で指定した回には、授業時間外学習の成果を提出する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて印刷資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊方法学演習（高齢者・障害者指導法）、教育心理学、教育社会学						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内の課題達成度（40%）と試験期間中に実施する試験の得点（60%）を併せて成績評価する。						

科目名	比較舞踊学			担当者	小山佳予子	
英文名	Comparative Theory of Dance					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 西洋舞踊との比較を通して舞踊における日本舞踊の重要性や必要性を理解させる。更に民族・民俗を含め、日本舞踊の価値を相対化させて問うことをねらいとする。「舞踊とは何か」という本質的な問題にも踏み込んでいく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 「比較舞踊学」という科目から、自国の舞踊に疎ければ比較は難しいことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の知っている日本の伝統舞踊をピックアップする。			<b>第9回 民俗舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 民俗舞踊（神楽・田楽／風流・獅子芸能）を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 板書された内容を復習する。			
<b>第2回 日本の時代による芸能様式</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の時代による芸能様式の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付された年表を復習する。			<b>第10回 日本舞踊史古代と西洋舞踊史古代</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本舞踊史古代と西洋舞踊史古代を理解し、比較できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 板書された内容の復習をする。			
<b>第3回 多彩な舞踊文化</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本は多彩な舞踊文化であることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 板書された内容を復習する。			<b>第11回 日本舞踊史中世と西洋舞踊史中世</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本舞踊史中世と西洋舞踊史中世を理解し、比較できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 板書された内容の復習をする。			
<b>第4回 舞と踊の 카테고리</b> <b>【 到達目標 】</b> 「舞」とは何か、「踊」とは何かを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「舞」と「踊」の違いを復習する。			<b>第12回 日本舞踊史近世と西洋舞踊史近世</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本舞踊史近世と西洋舞踊史近世を理解し、比較できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 板書された内容の復習をする。			
<b>第5回 古典舞踊と民俗舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 古典舞踊（民族）と民俗舞踊との違いを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「古典舞踊」と「民俗舞踊」の違いを復習する。			<b>第13回 日本舞踊の踊りの様式</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本舞踊の踊りの様式（演技・演出・音楽など）を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 板書された内容の復習をする。			
<b>第6回 古典舞踊－舞楽</b> <b>【 到達目標 】</b> 古典舞踊の舞楽を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 他の舞楽の作品を知る。			<b>第14回 日本舞踊の踊りの性格</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本舞踊の踊りの性格（純舞踊・劇舞踊・大道具・小道具・衣裳・化粧・かつら）を考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本舞踊と西洋舞踊の比較を行う。			
<b>第7回 古典舞踊－能楽</b> <b>【 到達目標 】</b> 古典舞踊の能楽を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 他の能楽の作品を知る。			<b>第15回 日本の舞踊について総括</b> <b>【 到達目標 】</b> 本講義で学んだことから日本舞踊と西洋舞踊を比較し、舞踊の本質を探究することによって日本の舞踊を伝承していく意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 歴史を通じて日本舞踊について学んだことのまとめをする。			
<b>第8回 歌舞伎</b> <b>【 到達目標 】</b> 歌舞伎の概要を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 有名な作品を知る。						
<b>【学習上の留意点】</b> この講義は板書、資料、DVDを使用して進めていくため、しっかりとノートテイクをすることが必要である。西洋舞踊と日本舞踊の比較は、受講者があくまでも考察することが求められる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜、参考資料を配付する。 「20世紀の舞踊史」（上林 澄雄/ダンスワーク舎） 「日本舞踊辞典」（郡司 正勝/東京堂出版） 「舞踊形式論 表現と可能性」（旗野 恵美/HCI PUBLICATIONS）						
<b>【関連科目】</b> 舞踊音楽論、舞踊学原論、比較舞踊学演習（日本舞踊1）、比較舞踊学演習（日本舞踊2）、舞踊学実習（クラシックバレエ基礎）、舞踊史学						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度20%、筆記テスト80%。						

科目名	舞踊音楽論			担当者	森 立 子	
英文名	Music for Dance					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、西洋音楽の基礎的諸概念を確認しつつ、舞踊における音楽の役割、効果について考えていく。毎回、特定のトピックをとりあげ、これに関連する楽曲を紹介した上で、それが舞踊作品の中でどのように機能しているかを考察していく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 拍子とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 西洋芸術音楽における「拍子」の概念について理解する。また、舞曲「メヌエット」における音楽と舞踊の関係について分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			<b>第9回 交響曲とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 「交響曲」の概念と、その主要な作品について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第2回 変拍子</b> <b>【 到達目標 】</b> 「変拍子」の概念と、変拍子を用いた主要な作品について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			<b>第10回 交響曲と舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 交響曲を使用した舞踊作品を複数取り上げ、音楽と舞踊の関係を分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第3回 ストラヴィンスキー《春の祭典》</b> <b>【 到達目標 】</b> ストラヴィンスキー《春の祭典》を題材として、音楽と舞踊の関係を分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			<b>第11回 楽音と非楽音</b> <b>【 到達目標 】</b> 「楽音」、「非楽音」の概念と、非楽音を使用したさまざまな楽曲について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第4回 物語と音楽 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「標題音楽」、音楽における「引用」について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			<b>第12回 ミニマル・ミュージックと舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> 「ミニマル・ミュージック」の概念と、これを使用した舞踊作品について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第5回 物語と音楽 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 「ライトモチーフ」の概念について学び、いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			<b>第13回 宗教曲と世俗曲</b> <b>【 到達目標 】</b> 「宗教曲」および「世俗曲」の概念について学び、その代表的なジャンルについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第6回 《ラ・シルフィード》と《ジゼル》</b> <b>【 到達目標 】</b> ロマンティック・バレエの代表的作品《ラ・シルフィード》、および《ジゼル》におけるライトモチーフ的手法について分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			<b>第14回 オペラと舞踊</b> <b>【 到達目標 】</b> オペラにおける舞踊のあり方について、各時代の作品を考察することにより理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第7回 変奏曲とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 「変奏曲」のさまざまなあり方について、楽曲を鑑賞しながら理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			<b>第15回 映像作品と音楽</b> <b>【 到達目標 】</b> 映像作品において音楽がどのような機能を担っているのかについて、実際に映像を見ながら分析し、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
<b>第8回 楽器の象徴性</b> <b>【 到達目標 】</b> 西洋においてそれぞれの楽器に伝統的に付加されてきた「イメージ」について理解し、楽曲の中でそれがどのように活用されているのかを分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に指定した曲を聴いてくる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。各テーマの終了時にコメントカードを書いてもらう予定。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業の際に随時紹介する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> テーマごとに課すコメントカードの内容30%、学期末レポート70%の割合で評価する。						

科目名	人体美学			担当者	<2018年度は開講せず>	
英文名	Aesthetic of Human Body					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		スポーツ科学専攻	専門基礎・選択	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
<b>【目的とねらい】</b> 人はただ健康だけでなく、美しい身体を望むものである。身体を通して美を表現してゆく舞踊学専攻の学生はその意識が高い。また、高くあってほしい。将来ダンスを通じて多くの人々に健康で美しい身体づくりの指導者になる人も多いことから本講では健康で美しい身体づくりのために、また、自らダンサーとして理想的な身体を獲得するために、身体美の対象となる項目について解剖学、生理学、バイオメカニクス、形質人類学などの知見を背景に学び、それらを実践へと繋げることをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 イントロダクション</b> 【 到達目標 】 人体美学を学ぶ意義、本学舞踊学専攻に人体美学が設置された理由。  【授業時間外学習】			<b>第9回 身体を測る。皮厚、骨密度他</b> 【 到達目標 】 身体数か所の体脂肪を測る、ダンサーが気にする指極、骨密度を測定。すでに計算された先輩達の数値を参照とする。  【授業時間外学習】			
<b>第2回 美の対象となる人体について</b> 【 到達目標 】 美の対象となる身体部位、形質種などを挙げ、教育、学習、により、改善されるもの、効果を挙げにくいものなどを知っていく。  【授業時間外学習】			<b>第10回 理想的身体像</b> 【 到達目標 】 自分の測定値を参照にしながら、理想的身体像の調査結果を読み取ってゆく。  【授業時間外学習】			
<b>第3回 健康と美</b> 【 到達目標 】 身体美を支える健康要因、不健康要因について学ぶ。  【授業時間外学習】			<b>第11回 ダイエット講座1</b> 【 到達目標 】 なぜダイエットをするのか。ダイエットのメカニズムとは。  【授業時間外学習】			
<b>第4回 身体の構成する物質、水について</b> 【 到達目標 】 人体の60～70%を構成する水について学ぶ。  【授業時間外学習】			<b>第12回 ダイエット講座2</b> 【 到達目標 】 間違ったダイエット法、正しいダイエット。  【授業時間外学習】			
<b>第5回 呼吸の話</b> 【 到達目標 】 呼吸のしかたが心身へおよびす影響について学ぶ。  【授業時間外学習】			<b>第13回 美形のバイオメカニクス</b> 【 到達目標 】 力配分で身体や顔に歪みが生じてしまう。顔や身体を美形に保つためにはどうしたらよいかを学ぶ。  【授業時間外学習】			
<b>第6回 睡眠の話</b> 【 到達目標 】 一日の1/3は睡眠時間。その質によって、健康ばかりか身体美にも影響があることを知ってゆく。  【授業時間外学習】			<b>第14回 姿勢と腰痛</b> 【 到達目標 】 ダンサーも腰痛に悩まされる。直立姿勢保持の難しさを知り、腰痛にならない策を探ろう。  【授業時間外学習】			
<b>第7回 感覚の話</b> 【 到達目標 】 文明化現象の一つに感覚の鈍化、感覚閾値の変化がきたされている。感覚を研ぎ澄まし、閾値をあげないためにはどうするか。  【授業時間外学習】			<b>第15回 顔の話</b> 【 到達目標 】 顔は隠しようもない身体美の対象である。美しい顔とは何か。なぜ、顔は重要なのか。笑顔、笑いの生理的意味なども学ぶ。  【授業時間外学習】			
<b>第8回 歯の話</b> 【 到達目標 】 歯の健康は身体美を保つ上でも重要。若い人の歯周病患者率も増加している。歯の美しさと健康美を学ぶ。  【授業時間外学習】						
<b>【学習上の留意点】</b> ダンサーとしての身体美に留意して行う。健康に留意し、身体内部から美をつくる、外形の美は人類学的視点も忘れずに。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて資料を提供する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み方、参加度40% 試験60%						

科目名	スポーツ栄養学			担当者	古泉佳代	
英文名	Sports Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 日常の食生活が体格や健康状態に影響を及ぼすこと、すなわちウェイトコントロール、骨密度の増加、貧血を予防するためには日常生活において食事をしっかりと摂ることが重要であることに気付く。そして、炭水化物、脂質、たんぱく質等栄養素に関連する知識を習得し、理解する。さらに栄養を運動との関連からとらえるために、運動を効率よく行う等、身体活動量の計算方法についても理解して日常生活での実践を目指す。さらに舞踊指導者としての能力を養う。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「美しさと食事」について考えることができる。 (2)「食」とスポーツの関係を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 一日の食事を見直す。			<b>第9回 からだづくりとウェイトコントロール④たんぱく質2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)必須アミノ酸を説明できる。 (2)アミノ酸価を算出し、たんぱく質の質を理解できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「いつ」「何を」食べるかを考えて食事をする。			
<b>第2回 栄養バランスの評価①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)栄養バランスの評価方法を理解する。 (2)自分の一日の食事の栄養バランスを評価できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 一日の食事の栄養バランスを見直す。			<b>第10回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体重の増減とエネルギー消費と摂取の関係を理解できる。 (2)様々な身体組成の測定方法の長所と短所に気付く。  <b>【授業時間外学習】</b> 身体組成の測定をする。			
<b>第3回 栄養バランスの評価②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)期分けによる食事の違いに気付く。 (2)様々な状況下での食事を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 一日の食事の栄養バランスを見直す。			<b>第11回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)サプリメントとエルゴジェニックエイドの特徴を理解する。 (2)食事、食品の安全性に関する様々な視点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用し調べる。			
<b>第4回 水分補給①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)飲み物の糖度を測定し「味覚」に気付く。 (2)糖度や甘さと炭水化物の量の関係を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ中の水分補給を実践する。			<b>第12回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える③</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)骨障害、月経障害、摂食障害の関係を説明できる。 (2)エネルギー有用性を理解できる。  <b>【授業時間外学習】</b> ミネラル(鉄・カルシウム)の摂取を意識して食事をする。			
<b>第5回 水分補給②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)運動時の水分補給について理解する。 (2)飲み物について多面的に考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ中の水分補給を考え実践する。			<b>第13回 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを考える①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)エネルギー消費量を把握する方法を説明できる。 (2)運動強度と時間の関係を理解できる。 (3)一日のエネルギー消費量を算出できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動強度を意識して生活する。			
<b>第6回 からだづくりとウェイトコントロール①炭水化物</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)炭水化物の種類と吸収の関係を理解できる。 (2)炭水化物の摂取方法について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。			<b>第14回 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを考える②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)グリコーゲンローディングを説明できる。 (2)血糖値と食事の関係を理解できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを意識して生活する。			
<b>第7回 からだづくりとウェイトコントロール②ビタミン</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ビタミンの特徴を説明できる。 (2)食事におけるビタミンB群の摂取方法について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「いつ」「どのように」食べるかを考えて食べる。			<b>第15回 試合前後の食事</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)試合を想定して、自分の食事を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分自身の期分けに沿って食生活をまとめ、実践する。			
<b>第8回 からだづくりとウェイトコントロール③脂質・たんぱく質1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)脂質の質を理解し、摂取方法を考えることができる。 (2)たんぱく質の種類とたんぱく質の質を理解できる。 (3)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> たんぱく質と炭水化物を同時に摂れる献立を考え、調理する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、さらに口頭でその詳細を説明する。受講者は提示された要点のみをノートに書き写すだけでなく、積極的にメモをとること。配布されたプリントはファイリングする等、各自整理して保存し、テストに備えること。簡単な測定や実験を授業内で行うことがあるが、持ち物等に関しては事前に説明するので、忘れずに用意すること。 授業にとどまらず、日常生活での自分自身の食事に興味を持ち、実践することがスポーツ栄養学を理解する近道である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> ・「ビジュアルワイド食品成分表 文部科学省科学技術・学術審議会 資源調査分科会 報告 五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍 ・計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと ・参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として期末テストの結果(100%)で評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。						

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈	
英文名	Sport Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・選択		
【目的とねらい】 スポーツ心理学の研究領域で提出された知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学習することが目的である。3年次履修のスポーツ科学論演習とスポーツコンディショニング演習Cでは、これらの心理学的知見が適用される。したがって、スポーツと研究の実践に結びつく心理学的知識の習得とその応用力を高めるための基盤づくりが本講義のねらいとなる。						
【授業内容・到達目標など】						
<b>第1回 スポーツ心理学概説</b> 【到達目標】 (1) スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2) スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 研究課題の中から関心のある内容を一つ選び、提出されている知見を整理する。			<b>第9回 スポーツ傷害と選手の心理</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手の傷害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2) ストレス理論を用いたスポーツ傷害の予防及び対処について説明することができる。 【授業時間外学習】 リハビリにおける心理的側面の留意点を整理し、ケガによる無力感からの脱出方法を考える。			
<b>第2回 スポーツと不安</b> 【到達目標】 (1) 不安には2つの側面（状態不安と特性不安）が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2) 逆U字理論を理解し説明できる。 【授業時間外学習】 Anshelの「不安制御の指針」を参考に自分の不安コントロールに関わる課題を整理する。			<b>第10回 スポーツとバーンアウト</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手のバーンアウト発症機序を説明できる。 (3) バーンアウトや学習性無力感に対する対処法を説明できる。 【授業時間外学習】 バーンアウト及び学習性無力感の予防的対処のポイントをまとめる。			
<b>第3回 スポーツとストレス</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 【授業時間外学習】 スポーツ中の心理社会的ストレスに適応するための認知的評価と対処行動の要点をまとめる。			<b>第11回 スポーツとキャリアトランジション</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 選手のキャリアトランジションに関わる問題を考慮し自らのトランジションを考案する。			
<b>第4回 スポーツと動機づけ（1）</b> 【到達目標】 (1) 動機づけとは何かを理解し、説明できる。 (2) 自己決定理論を理解し、スポーツ行動がどのように起こるのか説明できる。 【授業時間外学習】 動機づけの定義と外発的及び内発的動機づけの行動特徴をふまえ自らの運動活動を振り返る。			<b>第12回 スポーツとライフスキル</b> 【到達目標】 (1) スポーツ活動の効果の一つである心理社会的スキルはどのような心理的過程を経て習得されるのかを説明することができる。 (2) 心理社会的スキルがライフスキルに般化する過程を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 般化の過程及び要因を考慮したライフスキル形成に寄与する運動部活動のあり方を考案する。			
<b>第5回 スポーツと動機づけ（2）</b> 【到達目標】 (1) 期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2) スポーツ場面のやる気の高め方を具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 各理論を説明ことができ、それをふまえて自らの動機づけに関する課題を整理する。			<b>第13回 スポーツとジェンダー</b> 【到達目標】 (1) スポーツ活動場面におけるジェンダーに関わる問題や課題を具体的に説明することができる。 【授業時間外学習】 スポーツ場面におけるハラスメントを防ぐための方策を考案する。			
<b>第6回 スポーツと運動学習</b> 【到達目標】 (1) 運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2) 効果的な運動学習の方法を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 ランダム練習の有効性、効果的なフィードバックの方法をまとめ、自らの練習内容を見直す。			<b>第14回 スポーツ心理学研究法（1）調査方法について</b> 【到達目標】 (1) 質問紙法、面接法、事例研究法などを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 調査法を整理し、自分が取り組みたい研究課題はどのような方法が可能かをまとめる。			
<b>第7回 運動学習と認知</b> 【到達目標】 (1) 認知とスキーマについて理解し、説明することができる。 (2) 高い運動スキルを支える認知的要因を説明できる。 【授業時間外学習】 自らが取り組むスポーツ種目の技能及び認知のスキーマを整理する。			<b>第15回 スポーツ心理学研究法（2）統計法について</b> 【到達目標】 (1) 度数分布、平均、分散、標準偏差について理解し、それぞれを実際に用いてデータを処理することができる。 【授業時間外学習】 出題された練習課題に取り組み、記述統計の求め方を見直す。			
<b>第8回 スポーツと心理的競技能力</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2) DIPCAⅢにより自らの心理的競技能力を把握し、分析できる。 【授業時間外学習】 認知行動療法的セルフ・コーチングを用いて自らの競技場面における思考の問題を整理する。						
【学習上の留意点】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、さらに口頭でその詳細を説明する。受講者は提示された要点のみをノートに書き写すだけでは、学習としては不十分であることを理解しておく必要がある。集中をしてメモを取り、スポーツ活動に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げる努力をすることが求められる。また、毎時間、その時間に取り上げられた内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使う復習と予習に取り組み、知識の定着を図る努力が必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は後日、指定する（現在執筆中のため）。また、適宜、参考資料を配付する。						
【関連科目】 人間心理の理解、ジェンダー論、データ分析と統計学、精神発達、精神保健、スポーツコンディショニング演習C						
【成績評価方法】 期末テストの結果（100%：試験は別途試験期間中に実施）に基づいて評価する。						

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助友裕子	
英文名	Hygiene and Public Health					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活を営むためや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康と公衆衛生 【到達目標】 (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。  【授業時間外学習】 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。			第9回 感染症対策 【到達目標】 (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。  【授業時間外学習】 咳エチケットの方法とその理由について考えておく。			
第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか 【到達目標】 (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。  【授業時間外学習】 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。			第10回 環境保健 【到達目標】 (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。  【授業時間外学習】 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。			
第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか 【到達目標】 (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。  【授業時間外学習】 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。			第11回 産業保健 【到達目標】 (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。  【授業時間外学習】 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。			
第4回 ヘルスプロモーション 【到達目標】 (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。  【授業時間外学習】 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。			第12回 メンタルヘルス対策 【到達目標】 (1)精神疾患の現状とその対策について知る。  【授業時間外学習】 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。			
第5回 世界と日本の健康戦略 【到達目標】 (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。  【授業時間外学習】 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。			第13回 親子保健 【到達目標】 (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。  【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。			
第6回 健康の社会的決定要因 【到達目標】 (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。  【授業時間外学習】 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。			第14回 地域保健 【到達目標】 (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。  【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。			
第7回 生活の場と健康 【到達目標】 (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。  【授業時間外学習】 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。			第15回 災害時の公衆衛生 【到達目標】 (1)災害の種類とその備えについて知る。 (2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。  【授業時間外学習】 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。			
第8回 がん対策 【到達目標】 (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。  【授業時間外学習】 がんに関する情報を収集しておく。						
【学習上の留意点】 毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。						
【教科書・参考書など】 『学生のための現代公衆衛生 第7版』 野中浩一編著 南山堂 このほかに適宜資料を配布する。						
【関連科目】 健康科学論、生活習慣と健康、学校保健、精神保健						
【成績評価方法】 授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	スポーツマネジメント			担当者	芳地 泰幸	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織の人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 スポーツマネジメントの発展</b> 【 到達目標 】 (1) スポーツの様々な捉え方について理解する。 (2) スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。  【授業時間外学習】 経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか？自分なりに考えてみる。			<b>第9回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント I</b> 【 到達目標 】 (1) モチベーションとはなにかについて理解する。 (2) モチベーションの内容論について理解する。  【授業時間外学習】 何が満たされるとやる気になるのか？についてこれまでの経験を基に考えてみる。			
<b>第2回 マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化</b> 【 到達目標 】 (1) マネジメントの誕生背景について理解する。 (2) スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。  【授業時間外学習】 身近なスポーツ企業やプロリーグの規模とその事業内容について調べる。			<b>第10回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント II</b> 【 到達目標 】 (1) モチベーションとはなにかについて理解する。 (2) 身近な組織のモチベーション・マネジメントに向けた効果的な改善策を立案する。  【授業時間外学習】 どのようにモチベーションが生起し、変化するのか、考えてみる。			
<b>第3回 スポーツビジネス（企業）の目的と責任</b> 【 到達目標 】 (1) 企業の目的について理解する。 (2) マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。  【授業時間外学習】 経営理念や組織体制、事業内容、財務状況など、スポーツ関連企業の情報を調べる。			<b>第11回 リーダーシップと組織の活性化</b> 【 到達目標 】 (1) リーダーシップの役割、機能について理解する。 (2) リーダーシップの代表的理論を理解する。  【授業時間外学習】 優れたリーダーはどのような特性を有しているか？について考えてみる。			
<b>第4回 スポーツプロダクトの捉え方</b> 【 到達目標 】 (1) スポーツプロダクト（有形・無形）の捉え方について理解する。 (2) スポーツプロダクトのライフサイクルについて理解する。  【授業時間外学習】 自身がスポーツプロダクトを購入する際のポイントやプロセスについて考えてみる。			<b>第12回 スポーツ組織における人材開発</b> 【 到達目標 】 (1) 基本的な人材開発の考え方について理解する。 (2) 代表的な人的資源管理の手法について理解する。  【授業時間外学習】 スポーツ企業の採用、教育・研修、評価について調べる。			
<b>第5回 スポーツマーケティングの意義と役割</b> 【 到達目標 】 (1) マーケティングとセリングの違いを理解する。 (2) マーケティングの意義と役割について理解する。  【授業時間外学習】 スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。			<b>第13回 スポーツ施設の運営と管理</b> 【 到達目標 】 (1) 我が国のスポーツ施設の現状を理解する。 (2) スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。  【授業時間外学習】 身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。			
<b>第6回 マーケティング戦略と消費者行動</b> 【 到達目標 】 (1) マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。 (2) スポーツプロダクトの購買行動について理解する。  【授業時間外学習】 ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかを考えてみる。			<b>第14回 スポーツ施設のデザインとユーザビリティ</b> 【 到達目標 】 (1) ユニバーサルデザイン（UD）の視点を理解する。 (2) ユーザビリティを高めるための改善手法を理解する。  【授業時間外学習】 誰もが快適に、安全に利用できる施設デザインや空間マネジメントについて考えてみる。			
<b>第7回 スポーツ事業の経営戦略</b> 【 到達目標 】 (1) 代表的な環境分析の手法を理解する。 (2) 基本的な経営戦略について理解する。  【授業時間外学習】 成功しているスポーツ企業を挙げ、その成功要因について考えてみよう。			<b>第15回 総括：スポーツマネジメントにおける今日の課題と展望</b> 【 到達目標 】 (1) スポーツマネジメントに関する基本的な考え方や諸理論を総復習し理解を深める。 (2) スポーツマネジメントの今後の課題と可能性を検討する。  【授業時間外学習】 本講義から自分が最も感じたことを整理し、今後の課題を考えてみる。			
<b>第8回 プロスポーツリーグのマネジメント</b> 【 到達目標 】 (1) 我が国におけるプロスポーツリーグの現状について理解する。 (2) プロスポーツリーグのビジネスの特徴について理解する。  【授業時間外学習】 国内外のプロスポーツリーグやチームを調べる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 積極的に授業に参加するとともに自主的な予習・復習や情報収集に努めること。講義で学んだ視点や理論、知識を身近な組織（部活動やアルバイト）に当てはめて考える、応用すること。講義内で紹介した企業や組織のホームページ（HP）にアクセスし、経営理念や組織体制、事業内容、IR情報などを収集し、経営の様子を理解すること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年 ※その他の参考書や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。						
<b>【関連科目】</b> スポーツサービス論、スポーツ施設管理論、スポーツ調査法、スポーツ産業論など						
<b>【成績評価方法】</b> 課題レポート（講義内での小レポート含む）を50%、定期試験の結果を50%として総合評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	救急処置法				担当者	夏井裕明	
英文名	First Aid						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択			
<b>【目的とねらい】</b> 本講義では体育系大学生に必要な外科系および内科系の臨床スポーツ医学を学ぶ。日本体育協会公認スポーツ指導者資格共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第9回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節）</b> <b>【到達目標】</b> 膝のスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 123 を読む。			
<b>第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで）</b> <b>【到達目標】</b> 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。				<b>第10回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部）</b> <b>【到達目標】</b> 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105, 123 - 139 を読む。			
<b>第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで）</b> <b>【到達目標】</b> 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。				<b>第11回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患）</b> <b>【到達目標】</b> 運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153, 163 - 167 を読む。			
<b>第4回 応急処置総論</b> <b>【到達目標】</b> RICE処置の内容・方法・効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。				<b>第12回 内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症）</b> <b>【到達目標】</b> 貧血と主な感染症について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182を読む。			
<b>第5回 頭部のスポーツ外傷</b> <b>【到達目標】</b> 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39, 55 - 58, 157 - 160 を読む。				<b>第13回 内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症）</b> <b>【到達目標】</b> 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。			
<b>第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節）</b> <b>【到達目標】</b> 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。				<b>第14回 心肺蘇生法の理論</b> <b>【到達目標】</b> 心肺蘇生法の理論について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。			
<b>第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指）</b> <b>【到達目標】</b> 上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 89 を読む。				<b>第15回 心肺蘇生法実習</b> <b>【到達目標】</b> 心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。			
<b>第8回 体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部）</b> <b>【到達目標】</b> 頸部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61, 89 - 100 を読む。							
<b>【学習上の留意点】</b> 本科目は選択科目ではあるが、教員免許、ADI（エアロビック・ダンスエクササイズ・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。 第15回的心肺蘇生法実習は夏休みの補講・集中講義期間中に実施する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本体育協会							
<b>【関連科目】</b> 栄養学入門、生理・生化学入門、スポーツ生理学、機能解剖学							
<b>【成績評価方法】</b> 試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	女性のライフステージと運動				担当者	沢井史穂	
英文名	Life Stage and Physical Activity of Women						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について考える。 また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深める。そして、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義や価値を考える。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション 女性と運動</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどうとらえているかを調べる。			<b>第9回 女性の性機能と運動の関わり (女性ホルモンの働きと性周期)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った内容を整理し、復習する。				
<b>第2回 女性のスポーツ参加の変遷</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)社会環境の変化にともなう女性のスポーツ参加の変遷を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心をもち、参加したり観戦したりする。			<b>第10回 女性の性機能と運動の関わり (月経と運動)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)月経周期、月経前症候群 (PMS)、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。				
<b>第3回 女性のスポーツ参加の現状</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、改善策を考える。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。			<b>第11回 女性の性機能と運動の関わり (妊娠・出産と運動)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解する。 (2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。				
<b>第4回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (幼児期)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)幼児期の身体特性と運動との関わりについて理解する。 (2)現代の生活環境が幼児の健康に及ぼす影響について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。			<b>第12回 女性の性機能と運動の関わり (更年期障害と運動)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解する。 (2)更年期女性にとっての運動の効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。				
<b>第5回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (発育発達期)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発育発達期における女子の身体特性と運動との関わりについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。			<b>第13回 女性アスリートの健康問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題 (月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等)について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。				
<b>第6回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (成人期)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 若い女性の運動に関する情報や資料を集めて読む。			<b>第14回 体格・身体組成・体力・運動能力における性差</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 運動場面で見られる性差について整理し、復習する。				
<b>第7回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (中高年期)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)中高年女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について考える。 (2)肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病、うつ予防としての運動の効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 中高年の健康と運動に関連する資料を探して読む。			<b>第15回 女性スポーツの展望</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)これからの女性とスポーツとの関わりについて、競技力向上、健康体力づくり、生きがいづくり等、様々な視点から、その意義と価値について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の内容を復習し、自分自身の運動とのかかわり方について考え、行動する。				
<b>第8回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (老年期)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)加齢にともなう身体機能の低下に応じた運動について理解する。 (2)高齢者の運動実施における留意点について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。							
<b>【学習上の留意点】</b> 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。図表を多く引用するので、その意味するところを読み取り、そこから何がわかるかを考えることに重点をおく。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら進めていくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。							
<b>【関連科目】</b> 健康科学論、生涯スポーツ論							
<b>【成績評価方法】</b> 授業内での課題達成度40%、定期試験 (試験は試験期間中に別途実施する)60%で評価する。							

科目名	スポーツ史			担当者	都 筑 真	
英文名	Sport History					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。			<b>第9回 近代の戦争と体育・スポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
<b>第2回 スポーツ史を学ぶ意義</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。 (2)スポーツ史を学ぶ意義について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			<b>第10回 オリンピックムーブメントと世界平和</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。 (2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
<b>第3回 スポーツのルーツへのまなざし</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			<b>第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
<b>第4回 各時代の社会におけるスポーツ</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			<b>第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツの発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
<b>第5回 スポーツ種目の誕生と変容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			<b>第13回 女性スポーツの展開と現在</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
<b>第6回 欧米スポーツの日本への移入</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			<b>第14回 スポーツとメディア</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
<b>第7回 体操、身体教育、スポーツ教育</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			<b>第15回 スポーツと環境問題</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツと環境問題の関係を理解する。 (2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。			
<b>第8回 スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『スポーツの歴史と文化』（新井博／榎原浩見編著、道和本書院）を講義の参考書として利用すること。						
<b>【関連科目】</b> スポーツ原論						
<b>【成績評価方法】</b> 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	野外教育論				担当者	北原 澄高	
英文名	Outdoor Education						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 21世紀を展望した我が国の教育のあり方において、子どもたちに豊かな人間性やたくましさといった「生きる力」を育むことが重要であるとされ、体験学習に基づく野外活動/自然体験活動を手段として行われる野外教育や環境教育が強調されている。これらのことから、「野外教育」に求められる今日的意義及び教育的可能性を学ぶことを目的とし、野外教育が自然・他者(他存在)・自己との調和を育む上で有効な教育実践であることを、学習者の日常体験に照らしながら考え理解を深めることをねらいとする。また、指導者(教職を含む)のあり方について理解を深めることもねらいとする。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 「野外教育」とは：基礎概念・意義・効果・歴史、等</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外教育の基本的考え方及びその意義や効果等を理解する。 (2) 野外教育の歴史的背景(起源・変遷・現状、等)を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身の野外教育体験を小学校から振り返り、表にまとめてみる。			<b>第9回 グループワーク(2)：身近な自然から考える</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 身近な自然とは何であるかをグループで共有し理解する。 (2) 自然を身近に感じることの意義を日常に照らして考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身の生活圏を取り巻く自然環境はどの程度残されているかを調べる。				
<b>第2回 体験学習とその意義：野外活動/教育との関連から</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 「体験」の今日的意味や重要性を理解する。 (2) 「体験学習」の理論とあり方について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 大学での授業やクラブ等で経験した体験学習をまとめる。			<b>第10回 野外生活技術の知識(2)：衣食住の観点から</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外生活における基礎知識を衣食住の観点から理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 野外生活での献立を考えてまとめる。				
<b>第3回 日本の野外教育：学校教育との関連を含めて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 日本の野外教育の取り組み・現状を理解する。 (2) 野外教育が学校現場でどのように実施されているか理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 高校までの校外学習を列挙し、分類する。			<b>第11回 プログラムデザインの考え方：理論と構成方法</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 教育的効果を促し安全で楽しい活動構成のあり方を理解する。 (2) 応用として日数、対象、事前・事後等の点を交えて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身が体験してみたい活動で起きた事故例をまとめる。				
<b>第4回 グループワーク(1)：チームビルディング(仲間づくり)について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外教育での「仲間づくり活動」の位置づけを理解する。 (2) 「仲間づくり活動」の重要性と日常での応用を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身が考えるグループワークの必要性についてまとめる。			<b>第12回 プログラム(活動)各論：よく実施される活動について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 主に「ASE」「登山」「キャンプファイア」等について理解する。 (2) 上(1)について、日常生活での応用を考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> キャンプファイヤーの必要性について考えをまとめる。				
<b>第5回 野外活動/教育と安全管理</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外活動/教育における安全についての考え方や内容を理解する。 (2) 安全を保持するための方策を日常に照らしながら考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 野外活動時に自身が体験したヒヤリ・ハットをまとめる。			<b>第13回 グループワーク(3)：作成プログラムの共有</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 自ら作ったプログラム(課題)をグループで共有し理解する。 (2) 活動場所や日数等の要素を変えて立案し応用を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身が体験してみたいプログラムの行程表の作成をする。				
<b>第6回 野外生活技術の知識(1)：天候、配慮すべき生物、等について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外生活における主に天候、配慮すべき生物について理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身が体験した天候による活動の変更等を列挙する。			<b>第14回 野外教育の今後の展望：総括とその教育的可能性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 昨今重視される心の教育・ホリスティック教育等との接点を理解する。 (2) 上(1)を認識した上で、野外教育の今後の可能性を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 現在実施されているホリスティック教育の活動例を調べてまとめる。				
<b>第7回 冒険教育との接点：プロジェクト・アドベンチャー(PA)の取り組みもふまえて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外教育の片翼「冒険教育」の基礎理論及び内容を理解する。 (2) 「冒険教育」の活用を、日常に照らしながら考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身にとつての冒険的活動とは何かを列挙する。			<b>第15回 グループワーク(4)：ふりかえり(全体学習内容)</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外教育の社会的・個人的意味について共有し理解する。 (2) 自己や周囲の人達(家族・友達)への活用を考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 野外教育の必要性について自分の体験を踏まえまとめる。				
<b>第8回 環境教育との接点：「ミニマムインパクト」をふまえて</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 野外教育の一方の片翼「環境教育」の考え方を理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 自身が知っている自然の破壊の原因をまとめる。							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義ではプロジェクターを多用します。各自でポイントとなるところはノートに書き留めるなどして、時間外学習に役立ててほしい。適宜プリントも配布します。また授業においては、下記の参考書を中心に講義を進めるため、必要に応じて購入すること。授業の進行を妨げるような行動(私語や携帯電話の使用など)は慎むこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定しない。適宜プリントを配布する。以下の参考書を中心に講義を進める。 参考書：『野外教育の理論と実践』自然体験活動研究会編(小森伸一 責任編集)/杏林書院(2011)、『キャンプテキスト』日本キャンプ協会							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 提出課題20%、学期末レポート50%、小テスト30%。なお、小テストは授業時間内に数回実施します。							

科目名	舞踊美学			担当者	松澤慶信	
英文名	Dance Aesthetics					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 美学とは、1)対象としての美について、2)主体側の美的体験、3)芸術学、の3つの側面から考察される学問領域と方法論を有している。この考えにたてば、舞踊を対象とする舞踊美学という学問が指定されていだろう。あるいは舞踊を考察する思想を総括的に舞踊美学と呼んでもいい。舞踊固有の現象をどこまで浮き彫りにできるだろうか。われわれは感性的なるものの顕現としての舞踊を理性的に考察するその葛藤を真摯に受けとめたい。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【到達目標】 この授業では何を指し探求するのかを概説する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第9回 身体全体把握</b> 【到達目標】 身体を把握するとはどういうことか。視覚と直観と触覚的な全体把握を保証する論理は相互主観性に頼らざるをえない。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第2回 美学とは何か</b> 【到達目標】 美学という学問の領域と方法論を概説して、舞踊美学の可能性への準備とする。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第10回 共振性</b> 【到達目標】 意味論的意味のバイアスを受けずに身体が享受体験する在り方は共振性に他ならない。これが舞踊体験の本質である。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第3回 美的なるものと感性的なるもの</b> 【到達目標】 言語論理による悟性や理性ではない感性的なるものと、美的なるものを明らかにする。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第11回 Gesamtkunstwerkとしての舞踊</b> 【到達目標】 パフォーマンス・アーツとしての舞踊は本来総合芸術であった。その作品の在り様在り方の変遷をたどる。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第4回 美的価値の体験と美的な価値体験</b> 【到達目標】 美的価値を有する美的対象を価値判断することと、主体側の美的な価値判断はどのように交差するのか。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第12回 舞踊の溶解力</b> 【到達目標】 意味論的意味というバイアスを避けられないなら、どのように舞踊は言葉ではない表現媒体の特性を確保するのか。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第5回 芸術という現象とその学問</b> 【到達目標】 感性的なるものの顕現としての芸術という現象および芸術作品を対象とする学問とは何か。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第13回 舞踊の曖昧性とロマン的なもの</b> 【到達目標】 舞踊は意味の指示性を考えれば、言葉と違って曖昧である。この曖昧性こそがむしろ舞踊の本質である。それをロマン的という。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第6回 舞踊という現象</b> 【到達目標】 舞踊とは何か。日常のアクションや行動と舞踊はどう違うのか。ダイレクトにその本質を探る。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第14回 自己言及的な舞踊</b> 【到達目標】 舞踊ジャンルの特性を自己言及的に遡及していき、そのビュアな本質を探ること。そこに現れる舞踊にしか現れないものを探る。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第7回 舞踊美なるもの</b> 【到達目標】 舞踊という現象が浮き上がらせる美的価値とはどのような性質を有するのか。その特性にせまらる。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第15回 コンテンポラリー・ダンスの位相と行方</b> 【到達目標】 現代のダンスであるコンテンポラリー・ダンスはメタ的なポストモダン・ダンスを経て、今ここに存立しているのか。ここにダンスの本質を探究する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第8回 舞踊の芸術体験と身体論</b> 【到達目標】 普通の美的享受体験におさまらない舞踊の芸術体験とは何か。この課題には身体をどう取り扱うという本質的問題が横たわる。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 基本的に文献研究である。日本語だけでなく英語文献などの舞踊について書かれた資料を読み解いて、舞踊を思想化していきたい。熱心に積極的な受講姿勢をのぞむ。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アネイス・イブリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊分析法（舞踊技術論を含む）、舞台芸術論						
<b>【成績評価方法】</b> 試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。						

科目名	舞踊創作原論			担当者	松澤慶信	
英文名	Theory of Creating Dance					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> ダンシングするとはどういうことか、身体が時空間を分節する中でその現存をどのように開示していくのか。このような根本的な問いかけを、受講者が自覚し発見していくことができるような具体的な方法論を呈示したい。身体を動かしてきた経歴を有する者が一緒になって、この究極の目的（デロス）を目指して、今一度、自らの身体を振り返って省察し直してほしいと願う。そのためにこの講義では身体を動かす契機としてのテキストを考える。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【到達目標】 この授業の位置づけを確認したい。構造論的方法ではなく、物語論的意味論的テキストによって、作品を作ることを確認する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第9回 テキストの解釈と発表Ⅰ</b> 【到達目標】 受講者各人が選んだテキストの紹介発表、講評。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第2回 創作のmethodology</b> 【到達目標】 創作とはそもそもどういうことか。具体的な創作方法だけではなく、その作業手順や方法そのものを省察する方法論を検討したい。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第10回 テキストの解釈と発表Ⅱ</b> 【到達目標】 受講者各人が選んだテキストの紹介発表、講評。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第3回 具体的なmethodの模索</b> 【到達目標】 次に具体的にどのように意味論的意味内容を動きに転換していくのかという作業を受講者各人に提案してもらう。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第11回 テキストの解釈と発表Ⅲ</b> 【到達目標】 受講者各人が選んだテキストの紹介発表、講評。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第4回 作業手順の確認</b> 【到達目標】 次に具体的な作業に入ってからの手順を具体的に模倣的に想定して考えること。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第12回 illusionismとダンスⅠ 確認</b> 【到達目標】 illusionismとは感情移入のように、登場人物に受け手側の感情を仮託して、物語の展開に一喜一憂することではない。あくまでも傍観することである。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第5回 その作業の実践方法の確認Ⅰ</b> 【到達目標】 ダンサーを選んで、実際にどう相手に創作意図や意味を伝え、どう相手が動くのか、そのための有効な手段や手順を模索すること。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第13回 illusionismとダンスⅡ 創作</b> 【到達目標】 つまりパフォーマンスされたテキストを、あるいはテキストのパフォーマンスを冷静に鳥瞰することである。バントマイムによって筋が開陳されていくのではないダンシングによる表現が何かを追求する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第6回 その作業の実践方法の確認Ⅱ</b> 【到達目標】 相手とのコミュニケーションを詰めること。言葉だけでなく、どこまで図によって伝えられるのか。舞踏譜の可能性も探る。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第14回 illusionismとダンスⅡ 発表</b> 【到達目標】 いかにダンシングすることでテキストを表現するのか。ダンスにとって究極の問題に取り組むことである。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第7回 文学テキスト（詩）の選択</b> 【到達目標】 作品の骨格にテキストを利用することの意味をまず考える。そして舞踊化するに相応しいテキストとは何か。実際にテキストを捜す。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第15回 総括</b> 【到達目標】 具体的な作業手順から、その原理や理念までをもう一度振り返って、実際の振付の便としてほしい。ここに半期を総括する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第8回 文学テキスト（詩）の解釈</b> 【到達目標】 その捜したテキストを発表する際に、テキスト作者の評伝、そのテキストが創作された時代、創作秘話、そして選者の自由な解釈、など解釈の定立化をはかる。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
<b>【学習上の留意点】</b> 振付経験は問わない。しかし真摯に創作の方法と方法論に向き合うことが必要である。先入観をむしろ捨てさせたい。 2年次後期開講の「舞踊分析法演習」と3年次後期開講の「舞台演出論」を受講してほしい。3つを受講して、創作することの原理とノウハウを自覚してほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊分析法演習、舞台演出論						
<b>【成績評価方法】</b> レポートを課すなどして、授業ごとの理解を問う。レポート評価100%。						

科目名	ミュージカル論			担当者	宮下睦美	
英文名	Introduction to Musical					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> ここで言う「ミュージカル」とはブロードウェイ・ミュージカルを指すものであり、「誕生」から「現在」までを総合的に学習する。ミュージカルは、旧ヨーロッパの社会的・宗教的なしらみから逃れて新大陸へ移り住んだアメリカ人が、オペレッタにレビューやボードビルの要素を織り交ぜて生み出した総合芸術でありそこには生きることや自由であることの喜びが溢れている。すなわちミュージカルとは、喜びを高らかに謳いあげる芸術なのである。この授業では、映像等の資料を使い、歌やダンスなどの実践を交えながら、20～21世紀を象徴する総合芸術としてのミュージカルを音楽的側面を中心に指導していきたい。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」①</b> 【到達目標】 (1)ミュージカルとは何かを資料を見ながら概要を理解する。 (2)ミュージカルソングを歌って経験する。  【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。			<b>第9回 「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」④</b> 【到達目標】 (1)ボブ・フォッシー登場によってこれまでとは何が違うのか理解する。 (2)アメリカン・シアトリカル・ジャズダンス～アイソレーションの進化について知る。  【授業時間外学習】 フォッシースタイル、ジャック・コールについて復習しておく。			
<b>第2回 「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」②</b> 【到達目標】 (1)オペラからオペラ・ブッフア（コミックオペラ）の始まりを資料から理解する。 (2)アメリカン・オペレッタについて理解する。 (3)表情筋について理解する。  【授業時間外学習】 オペラブッフア、オペレッタ、アメリカン・オペレッタについて復習しておく。			<b>第10回 「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」⑤</b> 【到達目標】 (1)ボブ・フォッシーの作品を実際に体験し、理解を深める。  【授業時間外学習】 フォッシースタイルの特徴について復習しておく。			
<b>第3回 「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」③</b> 【到達目標】 (1)ミンストレル、ヴォードヴィルの始まりを資料から理解する。 (2)パレスク、レビューの始まりについて歴史的内容から理解する。 (3)ジグフェルド・フォーリーズの隆盛について当時の作品から理解する。  【授業時間外学習】 それぞれのジャンルの内容を復習しておく。			<b>第11回 「ブロードウェイ・ミュージカルの黄金期」</b> 【到達目標】 (1)「コーラスライン」～マイケル・ベネット (2)「コーラスライン」を体感する～トワン これらの作品の特徴になっているダンスの構成を、具体的動きを体験し理解する。  【授業時間外学習】 振付家それぞれの特徴について復習しておく。			
<b>第4回 「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」④</b> 【到達目標】 (1)タイムズスクエア誕生～資料から理解を深める。 (2)シュバート3兄弟の功績について理解する。 (3)ブロードウェイ初期の5大作曲家についてその音楽を聴き、ミュージカル音楽への理解を深める。  【授業時間外学習】 それぞれの作曲家の作品を復習しておく。			<b>第12回 「ブロードウェイ・ミュージカルの低迷」</b> 【到達目標】 (1)ロングランというシステム (2)ロンドン産ミュージカルの進出 アンドリュー・ロイド・ウェバーの出現からミュージカルが進んできた道への理解を深める。  【授業時間外学習】 ウェバー作品の特徴について復習しておく。			
<b>第5回 「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」⑤</b> 【到達目標】 (1)ブックミュージカルの誕生についての音楽から特徴を理解する。 (2)ミュージカルコメディのヒット～ジョージ・M・コーハン、ジョシュア・ローガンについて音楽からそれぞれの特徴を理解する。  【授業時間外学習】 ブック・ミュージカルとは何かを復習しておく。			<b>第13回 「ロンドン・ミュージカル」</b> 【到達目標】 (1)「ミス・サイゴン」 (2)「レ・ミゼラブル」 キャメロン・マッキングントッシュに関する映像を鑑賞しその内容を理解する。  【授業時間外学習】 ロンドン・ミュージカルについて復習しておく。			
<b>第6回 「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」①</b> 【到達目標】 (1)リチャード・ロジャース&オスカー・ハマースタインIIについて何故人々を魅了したかを知る。 (2)「オクラホマ!」の手法～アグネス・デ・ミルの特徴を理解する。  【授業時間外学習】 ロジャース&ハマースタインの作品を復習しておく。			<b>第14回 「ブロードウェイ・ミュージカルの復活」</b> 【到達目標】 (1)ディズニー・カンパニー、ブロードウェイへ。 (2)「美女と野獣」「ライオンキング」のヒット、ロングランへ。 アラン・メンケンの楽曲を歌い、ミュージカルの歌を体現しその特徴を理解する。  【授業時間外学習】 アラン・メンケンの曲について復習しておく。			
<b>第7回 「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」②</b> 【到達目標】 (1)ジェロム・ロビンス登場によってどんな変化が起きたのか議論し、それについて発表する。 (2)「ファンシー・フリー」が残したもの。～「ON THE TOWN」とこれまでのものとの違いを知る。 (3)ミュージカルソングを実際に体験する。  【授業時間外学習】 ロビンスの特徴について復習しておく。			<b>第15回 「TONY賞について」</b> 【到達目標】 (1)アメリカン・シアター・ウイングとは何かについて理解する。 (2)歴代の受賞作品を映像から知る。 後期末試験について予告し、これまで学習したミュージカルの芸術性や社会性について探る。  【授業時間外学習】 ミュージカルの芸術性や社会性について再考する。			
<b>第8回 「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」③</b> 【到達目標】 (1)「ウェスト・サイド・ストーリー」を体感する～レナード・バースタインの目指したものを理解する。 (2)音楽の特徴と振付スタイルはどこが人々を魅了し反映したか理解する。  【授業時間外学習】 作品の特徴を復習しておく。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業ではDVDによって映像を見ることもありますが、基本的に筆記用具、ノートは準備してください。声を出したり、身体を動かすこともあります。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特になし。適宜、テキスト、参考資料を配布。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 本講義全体への取り組み方20%、授業の理解度80%（筆記80%）として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	学校保健			担当者	沢田真喜子	
英文名	School Health					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
<b>【目的とねらい】</b> 学校保健安全法に基づく保健教育、保健管理、保健組織活動及び安全教育、安全管理の必要性和現代的課題について理解し、その目的と具体的な取組に関する基礎的知識を身につけることをねらいとする。特に、学校管理下で発生する事件や事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解すること、子どもの現代的健康課題の実情と子どもの健康を取り巻く課題に対応する保健教育及び保健管理の取組について理解することを通して、地域や関連専門機関との連携を基盤とした学校保健安全活動についての理解を深めることを目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 学校保健安全法とその意義</b> 【 到達目標 】 学校保健の意義、改正された学校保健安全法を基に全ての教職員が推進する必要性について理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第1章1節を読み、p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			<b>第9回 児童生徒の発育発達</b> 【 到達目標 】 現代の子どもの発育発達の特徴、児童生徒の体力の現状と課題について理解した上で、被災地における幼児、児童生徒の体力・運動能力向上のための取組について整理し、学校保健活動に組み込む方法を考えることができる。  【授業時間外学習】 テキスト第7章を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			
<b>第2回 学校保健行政</b> 【 到達目標 】 学校保健の行政組織と特徴について理解し、学校保健行政の現状と課題について、資料をもとに比較・分析し、組織体制について理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第1章2節を読み、p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			<b>第10回 児童生徒の健康状態の把握</b> 【 到達目標 】 健康診断結果に基づく、児童生徒にみられる疾病・異常、現代的健康課題の特徴について理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第9章1節を読み、p159「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			
<b>第3回 学校保健の組織活動と教職員等の責任</b> 【 到達目標 】 学校保健に関する組織活動の必要性、学級担任、養護教諭、保健主事、校長等管理職の役割と学校医、学校歯科医、学校薬剤師及びその他の専門職の役割について、理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第1章3～5節を読み、p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			<b>第11回 学校生活管理指導表を活用した対応</b> 【 到達目標 】 学校生活管理指導表について、心疾患、腎臓・糖尿病疾患、アレルギー疾患の特徴を踏まえ、学校生活管理指導表を活用した指導と対応について理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第9章2～3節を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			
<b>第4回 保健学習と保健指導</b> 【 到達目標 】 実践する力につながる保健の知識の習得について、学習指導要領に基づく保健学習と学校における保健指導の位置づけについて理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第2～3章を読み、p35・83「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			<b>第12回 児童生徒のメンタルヘルスケア</b> 【 到達目標 】 児童生徒の自殺、いじめ、不登校の実態について各種統計調査結果をもとに理解し、児童生徒の心の問題への対応における基本的な考え方を考えることができる。  【授業時間外学習】 テキスト第10章1～3節を読み、p183「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			
<b>第5回 教育課程に基づく保健指導</b> 【 到達目標 】 教育課程に基づく性に関する指導について、変遷やねらい、指導に当たっての配慮事項、様々な機会に行われる性に関する指導と課題について理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第4章を読み、p91「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			<b>第13回 いじめ防止対策と教職員の責任</b> 【 到達目標 】 いじめ防止対策に関する国の施策、学校長や教職員の責任・役割等について理解し、いじめ自殺等の過去の事例をもとに教職員の責任と役割について考える。  【授業時間外学習】 テキスト第10章2～4節を読み、p183「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			
<b>第6回 学校安全の意義と管理</b> 【 到達目標 】 学校安全の意義、学校における安全管理・安全教育について、児童生徒の事故及び災害の実態をもとに理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第13章を読み、p235「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			<b>第14回 特別に配慮を要する児童生徒と特別支援教育</b> 【 到達目標 】 特別支援教育の理念及び現状と課題について理解し、その推進のための体制づくりについて、医療福祉、その他の関連専門機関との連携事例を踏まえ理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第11章1節を読み、p201「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			
<b>第7回 教育課程に基づく安全教育</b> 【 到達目標 】 保健学習及び特別活動には限定されない安全教育について、小学校、中学校の内容をもとに理解し、家庭、地域、関連機関と連携した安全教育の方法について考えることができる。  【授業時間外学習】 テキスト第7章を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			<b>第15回 特別に配慮を要する児童生徒への健康上の支援</b> 【 到達目標 】 障害のある児童生徒への健康上の支援のあり方について、学校保健安全上の諸課題から考え理解する。  【授業時間外学習】 テキスト第11章2節を読み、p201「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。			
<b>第8回 児童生徒の健康状態の把握</b> 【 到達目標 】 健康観察の意義と方法、健康相談及び個別の保健指導の在り方、保健調査と健康診断について理解し、校内連携及び専門職や保護者との連携方法について考えることができる。  【授業時間外学習】 テキスト第8章を読み、p139「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 教科書を中心に授業を進めていくが、必要に応じて資料や採用試験の出題問題を提供するため、あわせて理解を深めるようにして欲しい。 特に、学校保健安全に関連する法律や指針が多いため、文部科学省や厚生労働省等のホームページを閲覧したり、資料をダウンロードする等して動向をチェックする習慣を身につけて欲しい。 また、授業中に理解できなかったことや疑問に思ったこと等はフィードバックし、学習者全体の理解が深まるよう主体的・積極的にかかわって欲しい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：「学校保健ハンドブック 第6次改訂」教員養成系大学保健競技会編（ぎょうせい）						
<b>【関連科目】</b> 健康科学論、発育発達論、衛生学・公衆衛生学、保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術を含む）						
<b>【成績評価方法】</b> 出席（10％）、課題レポート（30％）、試験（60％）の加重平均にて総合的に評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	精神保健				担当者	角田和也	
英文名	Mental Health of Adolescence						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉を、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神面の健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にあるとともに、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることも背景にあると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している自身および子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション／「精神保健」とは</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)「精神保健」の意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				<b>第9回 生活環境と精神保健② 食生活から受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生活環境の視点から、要因の1つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
<b>第2回 「精神的健康」と現代社会</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				<b>第10回 生活環境と精神保健③ 住環境から受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生活環境の視点から、要因の1つである住居の影響について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
<b>第3回 ライフサイクルと精神保健① 出生前期に受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである出生前期の心の健康について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				<b>第11回 生活環境と精神保健④ 空気環境から受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生活環境の視点から、要因の1つである空気環境について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
<b>第4回 ライフサイクルと精神保健② 乳児期に受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである乳児期の心の健康について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				<b>第12回 生活環境と精神保健⑤ 睡眠から受ける影響①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生活環境の視点から、要因の1つである睡眠の影響について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
<b>第5回 ライフサイクルと精神保健③ 幼児期に受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである幼児期の心の健康について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				<b>第13回 生活環境と精神保健⑥ 睡眠から受ける影響②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
<b>第6回 ライフサイクルと精神保健④ 学童期に受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである学童期の心の健康について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				<b>第14回 発達障がい①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
<b>第7回 ライフサイクルと精神保健⑤ 思春期に受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである思春期の心の健康について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				<b>第15回 発達障がい②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)引き続き、発達障がいの特徴を理解するとともに、発達障がい児(者)の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成。			
<b>第8回 生活環境と精神保健① 家族から受ける影響</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)生活環境の視点から、要因の1つである「家族」の質的变化について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。							
<b>【学習上の留意点】</b> ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。							
<b>【教科書・参考書など】</b> ・1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。							

科目名	舞踊方法学演習（学齢期指導法）			担当者	宮本乙女	
英文名	Seminar in Dance Methodology (Teaching Method for Dance in School)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。また、ダンス指導に必要な指導言語、伴奏楽器の使い方、音楽の選択、板書の工夫などについても学習する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション、導入のしかた・題材① リズムの示範実習</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。			<b>第9回 デッサンから作品作り・題材⑨、簡単なクラス作品</b> <b>【 到達目標 】</b> 身近な生活や日常動作を手がかりにした題材の指導法と簡単なクラス作品作りの構成のしかたや指導法を学ぶ。			
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			
<b>第2回 創作ダンス・題材②、ひと流れの動きを引き出す示範実習</b> <b>【 到達目標 】</b> ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。ひと流れの動きを引き出す実習を体験する。			<b>第10回 フォークダンス①、外国のフォークダンスの指導方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。示範と声かけの仕方を実習する。指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。指導DVDを視聴する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> 指導法実習で行う課題を教科書により検討する。			
<b>第3回 創作ダンス・題材③、極限を引き出す示範実習</b> <b>【 到達目標 】</b> 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。極限を引き出す示範方法を実習する。			<b>第11回 フォークダンス②、日本の民謡の指導方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の民謡の踊り方と指導法を学ぶ。示範と声かけの仕方を実習する。指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。			
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> 指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。			
<b>第4回 創作ダンス・題材④、リズム太鼓の使い方実習</b> <b>【 到達目標 】</b> 群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。リズム太鼓の使い方を始め、伴奏楽器の使用法について実習する。			<b>第12回 指導法実習に向けた準備活動</b> <b>【 到達目標 】</b> 運び方を学ぶ課題の体験と、太鼓のたたき方を復習する。指導法実習のシミュレーションを行う。			
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> 指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。			
<b>第5回 創作ダンス・題材⑤、授業内発表会の持ち方</b> <b>【 到達目標 】</b> 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な授業内発表会の指導法を学ぶ。			<b>第13回 指導法実習①</b> <b>【 到達目標 】</b> 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。			
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。			
<b>第6回 現代的なリズムのダンス・題材⑥、楽しいウォームアップ</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。作品の鑑賞と評価法について学ぶ。			<b>第14回 指導法実習②</b> <b>【 到達目標 】</b> 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。			
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。			
<b>第7回 現代的なリズムのダンス・題材⑦、発表会のパリエーション</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と授業内での簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。			<b>第15回 指導法実習③、ダンス学習の評価のポイント</b> <b>【 到達目標 】</b> 指導法の実習のあと、これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。			
<b>第8回 デッサンいろいろ・題材⑧、グループへの指導法実習</b> <b>【 到達目標 】</b> 身近な生活や日常動作を手がかりにした題材の指導法とグループ活動時の言葉かけを中心とした指導法の実習をする。						
<b>【授業時間外学習】</b> 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。						
<b>【学習上の留意点】</b> ダンスは中学校では全領域必修となっている。保健体育教員免許取得希望者・教員志望者はぜひ受講してほしい。また、中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や、小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなど、さまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。舞踊専攻学生として、自分自身の実技力をどのように活かして現場での初心者指導を行うのか、実技、理論共に身につけていくことを望んでいる。授業の際は、各自、A4版の授業ノートを用意すること。服装は指導者としてふさわしい服装で臨むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。						
<b>【関連科目】</b> 表現運動学において学んだ、「発達段階とダンス」、「ダンスの創作過程」を復習しておくが良い。						
<b>【成績評価方法】</b> 課題達成度(授業における実技の課題達成度、指導法実習等)70%、知識理解(学習カード・指導法実習指導案)30%の割合で評価する。						

科目名	舞踊方法学演習（舞踊家・一般成人指導法）			担当者	馬場ひかり	
英文名	Seminar in Dance Methodology (Teaching Method for Instructors and Adults)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門基礎・選択			
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊の意義と目的を理解し、舞踊理念に基づいた舞踊方法学を研究する。具体的な指導案を作成し、グループ演習による指導体験を通し舞踊方法学を実践的に習得すると共に、舞踊教育の今後の課題、問題点を社会的、文化芸術的な側面で考察する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 舞踊の意義と理念</b> 【 到達目標 】 舞踊とは何か、舞踊の社会的、芸術的意義を学び、基本的舞踊理念を学ぶ。  【授業時間外学習】 舞踊の何を（what）、いかに（how）、何故（why）学ぶか、の3つのWの考察する。			<b>第9回 グループ演習とディスカッション</b> 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者として、ディスカッションをする。  【授業時間外学習】 グループ毎にクラス構成を考察し、発表の準備をする。			
<b>第2回 舞踊のジャンル、そのメソッドとテクニック</b> 【 到達目標 】 様々な舞踊のジャンルにおける指導の特性、モダンダンスの様々なスタイル、そのメソッドとテクニックを理解・研究する。  【授業時間外学習】 アメリカのモダンダンスの歴史をリサーチする。			<b>第10回 グループ演習とディスカッション</b> 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者として、ディスカッションをする。  【授業時間外学習】 グループ毎にクラス構成を考察し、発表の準備をする。			
<b>第3回 舞踊のジャンル、そのメソッドとテクニック</b> 【 到達目標 】 様々な舞踊のジャンルにおける指導の特性、モダンダンスの様々なスタイル、そのメソッドとテクニックを理解・研究する。  【授業時間外学習】 舞踊のジャンルを挙げ、その特性を考察する。			<b>第11回 グループ演習とディスカッション</b> 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者として、ディスカッションをする。  【授業時間外学習】 グループ毎にクラス構成を考察し、発表の準備をする。			
<b>第4回 指導案の作成</b> 【 到達目標 】 指導案作成の留意点を考え、指導の流れ、構成する内容を考え、タイムテーブルを作成する。  【授業時間外学習】 モダンダンスのテクニックの種類とその特性を研究する。			<b>第12回 グループ演習とディスカッション</b> 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者として、ディスカッションをする。  【授業時間外学習】 グループ毎にクラス構成を考察し、発表の準備をする。			
<b>第5回 舞踊指導例1 モダンダンス（一般成人）</b> 【 到達目標 】 一般成人のためのモダンダンスのクラスを、ウォームアップから、クールダウンまで、実際に演習する。  【授業時間外学習】 一般成人のための舞踊のテクニックを研究する。			<b>第13回 グループ演習とディスカッション</b> 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者として、ディスカッションをする。  【授業時間外学習】 グループ毎にクラス構成を考察し、発表の準備をする。			
<b>第6回 舞踊指導例2 モダンダンス、コンテンポラリーダンス（舞踊家）</b> 【 到達目標 】 舞踊家のためのモダンダンス、コンテンポラリーダンスのクラスを構成するエクササイズ、コンビネーションを研究、演習する。  【授業時間外学習】 舞踊家のための舞踊のテクニックを研究する。			<b>第14回 舞踊教育の社会的、文化的側面における課題と展望</b> 【 到達目標 】 グループ演習の成果と講義の内容に関連して、現代が直面する舞踊教育の課題、問題点などを社会的、文化的側面から考察する。  【授業時間外学習】 日本と世界の舞踊教育の違いについて研究する。			
<b>第7回 舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導</b> 【 到達目標 】 舞踊テクニッククラスの中での創作、インプロヴィゼーションの導入、その指導法の研究について理解する。  【授業時間外学習】 指導に取り入れる創作の（振付法）基礎を研究する。			<b>第15回 舞踊教育の社会的、文化的側面における課題と展望</b> 【 到達目標 】 舞踊教育の社会的側面として、コミュニティー・ダンスなどの実例を基に、舞踊方法学的应用を学ぶ。  【授業時間外学習】 コミュニティーダンス、障がい者のためのダンスをリサーチする。			
<b>第8回 グループ演習とディスカッション</b> 【 到達目標 】 4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者として、ディスカッションをする。  【授業時間外学習】 グループ毎に、クラス構成を考察し、発表の準備をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> グループ演習では、なるべく授業内で、指導案を作成し、準備する時間をつくるが、発表前には、授業時間外での話し合い、練習の時間も必要になるので、協力すること。また、それぞれのグループの指導内容をアナライズし、ディスカッションし、評価しあうことも重要な演習の一部なので、積極的に参加すること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に使用しない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> グループ演習での指導実技の評価30%、レポート70%。						

科目名	舞踊方法学演習（高齢者・障害者指導法）			担当者	八木ありさ	
英文名	Seminar in Dance Methodology (Teaching Method for Older People and People with Disabilities)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4			専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 特別な場合を除いて、ダンスは厳密なルールや高度な技能を必要とせず、活動の成果は活動した人自身が決めればよい。こうしたダンスは、高齢者や障害のある人にとっても、楽しみながら、身体や動きの能力と認識を高め、社会性や情緒表現、コミュニケーションを促進することができるよい機会を提供できる。このことを念頭に、本演習では高齢者や障害者の特性を理解し、対象者に応じたダンスプログラムの組み立て方、基礎的な指導方法を習得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ダンスの多様なありかた</b> <b>【 到達目標 】</b> 障害や高齢などが理由となって生まれるニーズと、これに対応するダンス活動の現状について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本の障害者に関する統計や、人口動態に関する統計を概観する。			<b>第9回 車椅子使用者とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 車椅子使用者の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 身体障害の原因や種別・区分を調べる。			
<b>第2回 型のあるダンスと型のないダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 定型的なダンスと非定型的なダンスについて理解し、実際に体験して確かめる。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでの舞踊学に関わる学修成果を振り返り、ダンスの楽しみについて分類・整理する。			<b>第10回 車椅子使用者とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 車椅子使用者の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本では、身体障害者への支援がどのように整備されるべきと考えられているか調べる。			
<b>第3回 型のあるダンスと即興</b> <b>【 到達目標 】</b> 必要に応じて素材を組み合わされるよう、柔軟な指導の流れづくりについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> フォークダンスやレパトリーの授業で受けた指導を振り返り、その特徴を整理する。			<b>第11回 その他の障害とダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 知的障害や精神障害など、多様な障害の特性とダンスの関係を理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 高次脳機能障害と統合失調症の概要について調べる。			
<b>第4回 型のないダンスと即興</b> <b>【 到達目標 】</b> 必要に応じて素材を組み合わされるよう、柔軟な指導の流れづくりについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> コンテンポラリーダンスや即興表現の授業で受けた指導を振り返り、その特徴を整理する。			<b>第12回 高齢者とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 高齢者の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活動作ADLについて調べる。			
<b>第5回 視覚障害とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 視覚障害の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 視覚障害の原因や種別・区分などについて調べる。			<b>第13回 高齢者とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 高齢者の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 認知症について調べる。			
<b>第6回 視覚障害とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 視覚障害の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 視覚障害者を対象としたダンス指導の現状を調べる。			<b>第14回 テーマ別グループ演習①</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに対象に応じた適切なプログラムを考案し、実習する。討論、相互評価を通じて、理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> プログラム案を事前に試行して、検討点を確認する。			
<b>第7回 聴覚障害とダンス①</b> <b>【 到達目標 】</b> 聴覚障害の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 聴覚障害の原因や種別・区分などについて調べる。			<b>第15回 テーマ別グループ演習②</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに対象に応じた適切なプログラムを考案し、実習する。討論、相互評価を通じて、理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> プログラム案を事前に試行して、検討点を確認する。			
<b>第8回 聴覚障害とダンス②</b> <b>【 到達目標 】</b> 聴覚障害の特性とニーズを理解し、指導方法の基礎を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 聴覚障害者を対象としたダンス指導の現状を調べる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 学習イメージをより明確にするために、映像教材やアイマスク、車椅子など障害疑似体験の用具を使用する。履修者同士の意見交換から理解が深まることも多いので、活動を積極的ににつくってゆく姿勢で臨んでほしい。 用具等の都合により、内容が前後することがある。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求める。 なお、この科目はダンスセラピー・リーダーの資格取得を目指す学生には必修科目である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト：『体や動きで表現するために』全国身体障害者福祉センター発行 その他、必要に応じて印刷資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 生涯ダンス論、各舞踊方法学演習、ダンスセラピー論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内容を理解し体験を深めることができたかという活動課題達成度（60％）と、個人レポート課題の達成度（40％）を併せて成績評価する。						

科目名	舞踊学演習 (コンタクト・ワーク)			担当者	松山善弘	
英文名	Seminar in Dance (Contact Work)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		スポーツ科学専攻	専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 重力の法則にのっとりながら、重心を維持せず、オフバランスで互いの身体を支え合って動きが展開し、さらにはパートナーとの動きの力を取り込むことによって、重心をはぐらかし、むしろ勢いに乗ってひとつの身体ではなし得ない妙技や形を創り出していくコンタクトワークを体験する事によって、既成の舞踊概念にとらわれない創造性を身につける。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 身体間のコンタクトポイントを変化させて動きを生み出す1</b> 【到達目標】 コンタクト・ワークの法則について理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第9回 空間を360度方位で使いきる1</b> 【到達目標】 より広い範囲で空間を感じ取れるようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第2回 身体間のコンタクトポイントを変化させて動きを生み出す2</b> 【到達目標】 人と組むことによってコンタクト・ワークの法則をより深く理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第10回 空間を360度方位で使いきる2</b> 【到達目標】 より広い範囲で空間を感じ取れるようになり、その範囲の中を自由に動けるようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第3回 皮膚を通して感じる1</b> 【到達目標】 体の表面で感じた事をそのまま動きに変える事が出来るようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第11回 弾みをつけて動き、体重と動きの流れを重視する1</b> 【到達目標】 弾みをつけて効率よく動いていく事をマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第4回 皮膚を通して感じる2</b> 【到達目標】 体の表面で感じた事をそのまま動きに変える事が出来るようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第12回 弾みをつけて動き、体重と動きの流れを重視する2</b> 【到達目標】 弾みをつけて効率よく動いていく事をマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第5回 身体全体を使って転がる1</b> 【到達目標】 身体全体で転がる事をマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第13回 あるがままに自由にダンスをうまれさせる1</b> 【到達目標】 人、あるいは物とコンタクトしながら連続したフレーズを作れるようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第6回 身体全体を使って転がる2</b> 【到達目標】 身体全体で転がる事をマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第14回 あるがままに自由にダンスをうまれさせる2</b> 【到達目標】 人、あるいは物とコンタクトしながら連続したフレーズを作れるようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第7回 内側から動きを体験する1</b> 【到達目標】 表面からだけでなく、内面から浮かんでくる感覚を感じ取れるようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第15回 あるがままに自由にダンスをうまれさせる3</b> 【到達目標】 人、あるいは物とコンタクトしながら一つの作品を作れるようになる。  【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、コンタクト・ワークについて理解する。			
<b>第8回 内側から動きを体験する2</b> 【到達目標】 表面からだけでなく、内面から浮かんでくる感覚を感じ取れるようになる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 人、あるいは物と接触しながら動きを作り出していくので、自分がコンタクトしているものに対して、細心の注意をはらいながら動く事を忘れないようにして下さい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「コンタクト・インプロヴィゼーション—交感する身体」シンシア・J. ノヴァック フィルムアート社						
<b>【関連科目】</b> 舞踊創作原論、舞踊創作・振付法						
<b>【成績評価方法】</b> レポート30%、演習作品70%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習 (インプロヴィゼーション)			担当者	高野美和子	
英文名	Seminar in Dance (Improvisation)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> ダンサーとして自己の動きの発展、拡大を図るのみならず、創作・振付のために重視されている即興をまなび、体得する。自分自身の動きの特徴や癖などを認識し、さらに、新しい動きの探求・拡大を図ることを目的とする。また、創作や振付の上でも重要となる、空間、時間、力性などに関する感覚を養い、新しい創作の糧となる材料を追求することを目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション インプロヴィゼーションとは</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊における即興の特徴、概念を理解し、自分自身の即興の解釈を説明できる。			<b>第9回 チャンス・オペレーション</b> <b>【 到達目標 】</b> チャンス・オペレーションの特徴を理解し、実践できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業で学習した内容をまとめ、関連資料等を収集する。			<b>【授業時間外学習】</b> チャンス・オペレーションの概念を文献等で理解しておく。			
<b>第2回 時間の知覚、把握</b> <b>【 到達目標 】</b> 即興時の時間の感覚、間のとり方、意識とからだのあり方を体得する。			<b>第10回 イメージとのかかわり</b> <b>【 到達目標 】</b> 視覚、言葉などのイメージと動き・ダンスがどうかかわれるのか、可能性を探求し、実践できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			
<b>第3回 空間の知覚、把握</b> <b>【 到達目標 】</b> 即興時の空間の感覚、方向や軌跡の認識、意識とからだのあり方を体得する。			<b>第11回 音とのかかわり</b> <b>【 到達目標 】</b> 音や曲と動き・ダンスが即興的にどう関わられるのか、可能性を探求し、実践できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			
<b>第4回 キネシアの理解</b> <b>【 到達目標 】</b> キネシア (kinesphere) を理解し即興を通じて体得する。			<b>第12回 物、装置とのかかわり</b> <b>【 到達目標 】</b> 物、装置と動き・ダンスがどうかかわれるのか、可能性を探求し、実践できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			
<b>第5回 動きの質感①</b> <b>【 到達目標 】</b> 動きの質感を明確にししながら、ソロ、デュオで即興的に対話しながら踊る。			<b>第13回 構成、枠組みのなかでの即興①</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ毎に即興の設定 (構成、枠組み) を企て、実践できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			<b>【授業時間外学習】</b> グループでおこなう即興の設定を考え、記述しておく。			
<b>第6回 動きの質感②</b> <b>【 到達目標 】</b> いくつかの質感の異なる動きを取り入れながら、即興の可能性を追究する。			<b>第14回 構成、枠組みのなかでの即興②</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ毎に即興の設定 (構成、枠組み) を企て、実践、改良しまとめ、説明することができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業で実践した即興の設定を記述し、レポートの準備を始める。			
<b>第7回 コンタクト・インプロヴィゼーション①</b> <b>【 到達目標 】</b> 床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、いくつかのコンタクトの方法を体験する。			<b>第15回 授業内容の振り返り</b> <b>【 到達目標 】</b> 各回の実践、体得したことを振り返り、理解したことを言語化 (レポート作成) することができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> コンタクト・インプロヴィゼーションに関する参考文献を読む。			<b>【授業時間外学習】</b> 全授業で取り組んだ内容を振り返り、レポートを作成する。			
<b>第8回 コンタクト・インプロヴィゼーション②</b> <b>【 到達目標 】</b> 床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、即興的にコンタクトを導入して踊ることを体得する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 授業の活動内容や理解したことをまとめる。						
<b>【学習上の留意点】</b> インプロヴィゼーションは個々の主体的な姿勢が重要であるとともに、自身のからだと他者のからだ、その場で起こっている現象を注意深く観察する姿勢が大切である。個々の集中力が授業全体の集中力につながるので、毎時間、気力と体力を万全にして臨むこと。各時間の中でからだを感じた様々な感覚を振り返りつつ、ノートにまとめるなど言語化する作業を行うことが望ましい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：「インプロヴィゼーション」、Bailey, Derek著、竹田賢一訳 (1981)、工作舎 “The Moment of Movement”, Lynne Anne Blom and L. Tarin Chaplin (1988) University of Pittsburg Press 「コンタクト・インプロヴィゼーション」、Novack, Synthia J 著、立木燐子・菊池淳子訳 (2000) フィルムアート社						
<b>【関連科目】</b> 舞踊実技必修科目、舞踊学演習 (創作1)、舞踊学演習 (創作2)、舞台演出論、舞踊学演習 (コンタクト・ワーク) 等						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の授業課題の理解、達成度を80%、レポート課題を20%として評価する。						

科目名	比較舞踊学演習 (タップダンス)			担当者	藤井真梨子	
英文名	Seminar in Comparative Theory of Dance (Tap Dance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> ミュージカルには欠かせないダンスバリエーションの一つであるタップダンスの世界を心技、身体を通して学ぶ。特にタップダンスの基礎知識及びタップテクニックを実技授業を中心に学ぶ。更にタップテクニックのみに捉われず、感性豊かな自己表現がいかに重要なかを学び将来へと繋げる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 タップダンス入門</b> <b>【 到達目標 】</b> ダンスとしてのタップの位置付け、タップダンスの歴史を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> タップダンスへの興味。ダンスとしてとらえる。タップダンスに注目する。			<b>第9回 タップテクニカル</b> <b>【 到達目標 】</b> 複雑化していくリズムの理解及び習得を目指していく。  <b>【授業時間外学習】</b> リズムバリエーションの復習。			
<b>第2回 タップダンス基礎Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> タップダンスに必要な膝の使い方の理解を深め基礎ステップの習得、リズムの取り方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 膝を使つてのステップ復習。			<b>第10回 タップダンス上級</b> <b>【 到達目標 】</b> リズム、音、音色、タッチ、表現に対して理解を深めていく。  <b>【授業時間外学習】</b> 表現を深めていく復習。			
<b>第3回 タップダンス基礎Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> 膝を使つて基礎ステップの原理を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 膝を使つてのステップ復習。			<b>第11回 課題曲への挑戦Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> 習得したステップを課題曲にのせメロディーとリズムの融合を体感する。  <b>【授業時間外学習】</b> メロディーに乗ることへの復習。			
<b>第4回 タップダンス基礎Ⅲ</b> <b>【 到達目標 】</b> 基礎Ⅱをより深め応用ステップへのアプローチを繋げる。  <b>【授業時間外学習】</b> 膝を使うことへの理解を深める。			<b>第12回 課題曲への挑戦Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> 表現としての課題曲を楽しく又楽しんで踊る。  <b>【授業時間外学習】</b> 上半身、下半身、全身での表現の復習。			
<b>第5回 タップダンス基礎Ⅳ</b> <b>【 到達目標 】</b> 基礎ステップの簡単な応用へ理解を深めていく。  <b>【授業時間外学習】</b> 基礎ステップの復習。			<b>第13回 タップダンスの「エンターテインメント」性に触れる</b> <b>【 到達目標 】</b> 自己表現としてのタップダンスを現代のタップダンスに融合させて楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 様々な音楽に合わせることへの復習。			
<b>第6回 タップダンス基礎Ⅴ</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムバリエーションへの理解をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 基礎ステップの復習をしてリズムバリエーションへ繋げる。			<b>第14回 ミュージカル、シアタータップへの理解</b> <b>【 到達目標 】</b> ミュージカル映画、舞台、DVD等の鑑賞。  <b>【授業時間外学習】</b> ミュージカル映画等を通して、鑑賞レポートにより、タップダンスの理解を深める。			
<b>第7回 タップダンス初級</b> <b>【 到達目標 】</b> 表現としての上半身の使い方への理解をする。  <b>【授業時間外学習】</b> ステップとアームスの連動の復習。			<b>第15回 自己表現としてのタップダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 発表する事により自己表現を深めていく。  <b>【授業時間外学習】</b> 鑑賞レポート「タップダンスと私」を提出し、自己表現の一つとしてのタップダンスを理解していく。			
<b>第8回 タップダンス中級</b> <b>【 到達目標 】</b> 聴覚へ訴え、なおかつ視覚へも訴える事への理解をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 音、サウンド、音色の復習。						
<b>【学習上の留意点】</b> タップダンスの基礎を用語とともにしっかり身につける。従ってジャズスニーカーにて体をしっかり支え、なおかつきちつとタップサウンドが生み出せるよう反復練習をする。音が出てくる事を体感、実感できることを学ぶ。						
<b>【教科書・参考書など】</b> DVD、ミュージカル映画・舞台ビデオ、等を習得資料としていく。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習 (クラシックバレエ基礎)、舞踊学実習 (ジャズダンス基礎)、舞踊学演習 (クラシックバレエ1)、舞踊学演習 (クラシックバレエ2)、舞踊学演習 (ジャズダンス1)、舞踊学演習 (ジャズダンス2)						
<b>【成績評価方法】</b> タップ基礎知識テスト30%、課題曲タップダンス実技テスト70%として評価する。						

科目名	比較舞踊学演習（スペイン舞踊1）			担当者	東 陽 子	
英文名	Seminar in Comparative Theory of Dance (Spanish Dance 1)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門基礎・選択			
<b>【目的とねらい】</b> フラメンコ特有の変拍子と音楽との一体感を習得し、舞踊表現に発展させる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 コンパス(リズム)の習得①</b> 【 到達目標 】 サバテアード(足)の種類を知り、コンパス(リズム)を打つ。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第9回 振付け①</b> 【 到達目標 】 様々な動きをコンパス(リズム)にのせて踊る。  【授業時間外学習】 課題曲を聴く。			
<b>第2回 コンパス(リズム)の習得②</b> 【 到達目標 】 バルマ(手拍子)でコンパス(リズム)を打つ。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第10回 振付け②</b> 【 到達目標 】 カンテ(歌)、ギター(コンパス(リズム))を理解する。  【授業時間外学習】 課題曲を聴く。			
<b>第3回 身体の使い方の習得①</b> 【 到達目標 】 ブラソ(腕)、マノ(手)の動きを習得する。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第11回 振付け③</b> 【 到達目標 】 カンテ(歌)、ギターのノリをつかんで踊る。  【授業時間外学習】 課題曲を聴く。			
<b>第4回 身体の使い方の習得②</b> 【 到達目標 】 サバテアード(足)にブラソ(腕)、マノ(手)の動きをのせる。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第12回 振付け④</b> 【 到達目標 】 流れに意識を持つ事ができるようにする。  【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。			
<b>第5回 身体の使い方の習得③</b> 【 到達目標 】 重心の重さを身につける。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第13回 振付け⑤</b> 【 到達目標 】 振付けを明確にする。  【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。			
<b>第6回 コンパス(リズム)、身体の使い方の応用①</b> 【 到達目標 】 バルマ(手拍子)、ハレオ(掛声)にのって踊り合う。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。			<b>第14回 振付け⑥</b> 【 到達目標 】 自身の一曲にする。  【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。			
<b>第7回 コンパス(リズム)、身体の使い方の応用②</b> 【 到達目標 】 コンパス(リズム)を使って全身で表現する。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。			<b>第15回 一曲を完成</b> 【 到達目標 】 一人で表現できるようにする。  【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。			
<b>第8回 コンパス(リズム)、身体の使い方の応用③</b> 【 到達目標 】 テンポを変えてリズム感良く踊る。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 身体全身を使ってリズムを作り出し、互いのリズムを感じコミュニケーションをとる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊音楽演習（パーカッション）						
<b>【成績評価方法】</b> フラメンコの理解度：60% 振付けの完成度：40%						

科目名	比較舞踊学演習（日本舞踊1）			担当者	西川 箕乃助	
英文名	Seminar in Comparative Theory of Dance (Japanese Classical Dance 1)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		スポーツ科学専攻	専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> まず最初に着物（浴衣でも可）の正しい着方、お辞儀の他、和装の時の正しい立ち居振る舞いを身につけたい。その後、日本舞踊の歩き方、扇の扱い方などの基本動作を習得した上で、女踊り「潮来出島」「藤娘」の踊り地、男踊り「雨の五郎」の踊り地、「玉や」の踊り地を習得する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
第1回 日本舞踊の基本動作、立ち居振る舞いの説明と実践 【 到達目標 】 日本舞踊の基本動作と立ち居振る舞いについて理解し、習得する。  【授業時間外学習】			第9回 女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得 【 到達目標 】 女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第2回 女踊り「潮来出島」の振りの習得 【 到達目標 】 女踊り「潮来出島」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第10回 女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得 【 到達目標 】 女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第3回 女踊り「潮来出島」の振りの習得 【 到達目標 】 女踊り「潮来出島」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第11回 「藤娘」の習熟度チェックのための実技発表 【 到達目標 】 「藤娘」の実技発表を通して習熟度を確認し、「藤娘」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第4回 「潮来出島」の習熟度チェックのための実技発表 【 到達目標 】 「潮来出島」の実技発表を通して習熟度を確認し、「潮来出島」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第12回 男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第5回 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第13回 男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第6回 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第14回 「玉や」のび習熟度チェックのための実技発表 【 到達目標 】 「玉や」の実技発表を通して習熟度を確認し、「玉や」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第7回 「雨の五郎」の習熟度チェックのための実技発表 【 到達目標 】 「雨の五郎」の実技発表を通して習熟度を確認し、「雨の五郎」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第15回 日本舞踊と洋舞の比較を対議 【 到達目標 】 授業で学んだ日本舞踊について理解することができる。  【授業時間外学習】			
第8回 女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得 【 到達目標 】 女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。  【授業時間外学習】						
<b>【学習上の留意点】</b> ・受講の際は必ず着物（浴衣でも可）を着ること。時計、指輪、ネックレスなどの貴金属の着用は不可。 ・授業に出席することが大前提である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。						

科目名	表現運動学演習 (エアロビックダンス)			担当者	岡 島 浩 美	
英文名	Seminar in Expressive Movements (Aerobic Dance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1			専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> エアロビックダンスエクササイズはリズムカルな有酸素性運動であるという特性を理解し、指導者を目指すためにエアロビクスの基礎理論、基本構成、基本ステップ等を習得する。 グループエクササイズのプログラム作成・演習を通じて、指導者としてのプログラム作成能力・指導力を身につける。インストラクター(A. D. I.)資格認定取得を目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 エアロビックダンスエクササイズの歴史</b> 【 到達目標 】 エアロビックダンスエクササイズの歴史を習い、それを十分に理解する。  【授業時間外学習】 エアロビックダンスエクササイズの歴史と現状のプログラム内容の復習をする。			<b>第9回 メインエクササイズのプログラム作成・振付②</b> 【 到達目標 】 グループワーク・・・メインエクササイズのプログラムを完成する。  【授業時間外学習】 安全で効果的なメインエクササイズを完成させて練習する。			
<b>第2回 フィットネス概論及びエアロビクス基礎理論</b> 【 到達目標 】 フィットネス全般についてのコンセプトと注意点、及びエアロビックダンスエクササイズの基礎的要素を学び、理解する。  【授業時間外学習】 エアロビックダンスエクササイズ以外の有酸素性運動の種類を事前に調べる。			<b>第10回 グループワーク 指導技法①</b> 【 到達目標 】 グループワーク・・・様々な指導技法を学び、グループ内で実践する。  【授業時間外学習】 キューイングについて復習し、繰り返し練習する。			
<b>第3回 基本構成・運動強度の考え方</b> 【 到達目標 】 エアロビックダンスエクササイズにおける基本構成について理解するとともに、運動強度についても正しい認識を持つ。  【授業時間外学習】 エアロビックダンスエクササイズの4つのパートを復習する。			<b>第11回 グループワーク 指導技法②</b> 【 到達目標 】 グループワーク・・・様々な指導技法を学び、グループ内で実践する。  【授業時間外学習】 グループで作成したメインエクササイズをキューイングしながら動く練習をする。			
<b>第4回 強度の変化と動きのつなぎ方</b> 【 到達目標 】 強度を変化させながら、動きとしてスムーズにつなげていく方法を学び理解する。  【授業時間外学習】 運動強度の変換の方法を復習する。			<b>第12回 グループワーク 指導法(対面・背面指導)</b> 【 到達目標 】 グループワーク・・・グループエクササイズにおける指導法(対面・背面指導)について学び実践する。  【授業時間外学習】 様々な指導法を用いてメインエクササイズを指導する練習をする。			
<b>第5回 基本ステップの習得(ローインパクト)</b> 【 到達目標 】 基本ステップ(ローインパクト)を習い、正確に動けるようにする。  【授業時間外学習】 基本のローインパクトステップの練習をする。			<b>第13回 実技発表・評価①</b> 【 到達目標 】 これまで取り組んできたプログラムを発表し、意見交換をする。  【授業時間外学習】 グループ毎に行ったメインエクササイズの発表内容を検討し練習する。			
<b>第6回 基本ステップの習得(ハイインパクト)</b> 【 到達目標 】 基本ステップ(ハイインパクト)を習い、正確に動けるようにする。  【授業時間外学習】 基本のハイインパクトステップの練習をする。			<b>第14回 実技発表・評価②</b> 【 到達目標 】 プログラムの発表・意見交換を基に、各自の内容・構成・指導法を検討する。  【授業時間外学習】 指導者として明確な動きで解り易く指導ができたか意見交換を行い、練習する。			
<b>第7回 動きのつなぎ方・展開の仕方</b> 【 到達目標 】 前回までの内容を踏まえ、いかにして動きをスムーズにつなげていくか実践し、さらにはそれを展開する方法を学ぶ。  【授業時間外学習】 ローインパクトステップとハイインパクトステップのプログラミング方法を復習する。			<b>第15回 筋コンディショニング・ストレッチの基本構成</b> 【 到達目標 】 筋コンディショニング、ストレッチの基本構成について理解する。  【授業時間外学習】 基本の筋コンディショニングとストレッチを復習して練習する。			
<b>第8回 メインエクササイズのプログラム作成・振付①</b> 【 到達目標 】 グループワーク・・・メインエクササイズのプログラムを組み立て、振付を作成する。  【授業時間外学習】 安全で効果的なメインエクササイズのプログラムを組み立てて練習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 基本ステップを習得し、指導者として模範となるようにしっかりと身体を使って動くこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に指定しない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度(50%)、実技テスト(50%)で評価する。						

科目名	表現運動学演習（演技）			担当者	桐山知也	
英文名	Seminar in Expressive Movements (Acting)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 自身の身体への気付きとその運用方法の基礎の習得。また、劇場表現におけるテキスト（主に戯曲）のよみ方の実践を通し作品創造の初段階を学ぶ、もしくはその初段階を学ぶことによってテキストをよむことの有効性を学ぶ。これらのことを発展させ、身体による空間認識、身体とテキストとの関係性についても学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス「演技者にとって使える身体とは？」</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の目的について理解する。 本授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。			<b>第9回 テキストをよむ1</b> <b>【 到達目標 】</b> テキストの成り立ちの基礎を学ぶ。 上記について多大な影響を与えたであろう19世紀末から20世紀初頭の演劇運動の概要を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。			
<b>第2回 意志をもった身体運用</b> <b>【 到達目標 】</b> いくつかの歩行によって、重心、視野、目的等を意識した身体の在り方を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。			<b>第10回 テキストをよむ2</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回に引き続き、19世紀末から20世紀初頭の演劇運動の概要を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。			
<b>第3回 自身の身体への気付き</b> <b>【 到達目標 】</b> 歩行等の身体運用によって自身の身体のカセを知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。			<b>第11回 テキストをよむ3</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際にテキストを使用し、テキストの構造を読み解く方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。			
<b>第4回 他者の身体への気付き2</b> <b>【 到達目標 】</b> 歩行等の身体運用によって他者の身体のカセを知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。			<b>第12回 テキストをよむ4</b> <b>【 到達目標 】</b> テキストの構造を身体化する基礎的なテクニックを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。			
<b>第5回 身体による即興1</b> <b>【 到達目標 】</b> 自身、或いは他者の身体への気付きからキャラクターを創造する。 キャラクターを創造する過程で自身のキャラクターを再認識する。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。			<b>第13回 作品創作</b> <b>【 到達目標 】</b> 集団でテキストの構造を読み解き、創作プランを決定する。 上記作業を通し集団創作におけるテキストの有効性を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。			
<b>第6回 身体による即興2</b> <b>【 到達目標 】</b> 自身の創造したキャラクターによる即興の方法の基礎を学ぶ。 他者の創造したキャラクターとの即興を通して身体的特徴の有効性について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。			<b>第14回 作品創作</b> <b>【 到達目標 】</b> 創作プランに沿って、集団創作の実践を学ぶ。 質感の獲得によるアンサンブルの形成過程について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。			
<b>第7回 身体による空間認識</b> <b>【 到達目標 】</b> 自身の身体と空間の関係性について学ぶ。 表現における質感への気付き。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。			<b>第15回 作品発表と講評</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品発表と講評を通して、自身並びに集団の習熟度と課題を認識する。 講評を通し、自身（集団）の作品やその意図等について言語化する能力を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。			
<b>第8回 身体による空間創造（アンサンブルの形成）</b> <b>【 到達目標 】</b> 集団（自身と他者の身体）と空間の関係性について学ぶ。 集団表現における質感への気付き。  <b>【授業時間外学習】</b> 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。						
<b>【学習上の留意点】</b> 身体を動かすことが多くなる為、それに相応しい服装で臨むこと。 グループでの作業が多くなることから、全授業に出席することが必須である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 特になし 参考書 授業内で指示する（参考資料や課題は適宜配布する）						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 各授業における課題の達成度（授業体への貢献含む）70%、作品創作の評価30%の割合で総合的に成績評価をする。						

科目名	舞踊音楽演習 (パーカッション)			担当者	櫻田素子	
英文名	Seminar in Dance Music (Percussion)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊と共にある音楽について、さまざまなパーカッション（打楽器）の演奏を通じて学ぶ。各種のリズムやリズム・アンサンブルを学ぶことによって、それぞれのリズムに固有の感覚を養うとともに、様々なリズムの構成法やそれぞれの楽器の持つ特徴、リズムをアンサンブルで演奏する際に必要なコミュニケーション力について知識と理解を深め、自身の舞踊作品に反映できるようになることを目標とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 イントロダクション:様々なパーカッション、リズムの基本</b> 【到達目標】 「パーカッション」と呼ばれている楽器群の種類と発音構造、奏法について理解し、リズム、拍子、テンポなどについての基本概念を学ぶ。 【授業時間外学習】 リズム、拍子、テンポなどについての基本を復習する。			<b>第9回 リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(1)</b> 【到達目標】 アクセントの位置を変えずに、パートごとにその構成を変えることで新たなリズム・アンサンブルを作ることができることを学ぶ。インドネシア・バリ島のケチャのリズムとスティーフ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」を題材とする。 【授業時間外学習】 実習した課題のリズムと課題曲を、リズムの仕組みを確認しながら復習する。			
<b>第2回 リズム・アンサンブル演奏の基本</b> 【到達目標】 演奏するために必要な、リズムやフレーズを捉える感覚を、西アフリカのアンサンブルを題材に口頭伝承によって習得し、学ぶ。マラカス、クラベスなどの基本的な奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズム・アンサンブルの課題曲を、手や身体を用いて奏しながら復習する。			<b>第10回 リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(2)</b> 【到達目標】 インドネシア・バリ島のケチャのリズムとスティーフ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、アンサンブルの展開方法を学ぶ。グループごとに実技小テストを行う。 【授業時間外学習】 課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自調べ、リズム分析をしながら聴いてみる。			
<b>第3回 西洋音楽のリズム感(1):単純拍子と複合拍子、アクセントとシンコペーション</b> 【到達目標】 リズムの基本形、特に拍のまとまりと分割の感覚を学ぶ。また、アクセントとシンコペーションの概念と、それがどのようにリズムを構築しているかについて理解する。また、リズム表記の方法についても学ぶ。 【授業時間外学習】 実習した課題のリズムについて、分析しながら復習する。			<b>第11回 リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(3)</b> 【到達目標】 インドネシア・バリ島のケチャのリズムとスティーフ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、アンサンブルの展開方法を学ぶ。グループごとに実技小テストを行う。 【授業時間外学習】 課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自で調べ聴いてみる。			
<b>第4回 西洋音楽のリズム感(2):応用</b> 【到達目標】 事前に学んだ技術を応用し、ポピュラー音楽によく用いられるリズム各種を学ぶ。 【授業時間外学習】 学んだ各リズムについて、特徴を確認しながら復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。			<b>第12回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(1)</b> 【到達目標】 ブラジルのリズム・アンサンブル「サンバ」のリズムと、そのバリエーションを学ぶ。サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。			
<b>第5回 リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(1)</b> 【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについてリズムを学ぶ。 【授業時間外学習】 学んだリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。			<b>第13回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(2)</b> 【到達目標】 サンバのリズムのバリエーションと、その展開方法を学ぶ。サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。			
<b>第6回 リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(2)</b> 【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムのバリエーションを学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。			<b>第14回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(3)</b> 【到達目標】 サンバのリズムに変化をつけ、展開する方法を学ぶ。グループで楽曲進行をコントロールできるようにする。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、暗譜し、自分でコントロールしながら演奏できるように復習する。			
<b>第7回 リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(3)</b> 【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムのバリエーションとその展開方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、暗譜で演奏できるように復習する。			<b>第15回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(4)</b> 【到達目標】 サンバのリズムの総復習。グループごとに実技小テストを行う。 【授業時間外学習】 課題のリズムと課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を、各自調べて聴いてみる。			
<b>第8回 リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(4)</b> 【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムの総復習。グループごとに実技小テストを行なう。 【授業時間外学習】 課題のリズムと課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自調べ、聴いてみる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業のほとんどが実技である。各自、授業内および授業外で練習を積み重ね、演奏に必要な能力を高めるために研鑽すること。また、楽器を演奏する際にはつげ爪や長い爪は邪魔になり、ケガをすることがあるので、爪の手入れをしておくこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業内にプリントを配布。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊音楽論、世界の民族音楽						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度(50%)、実技テスト(授業内実施、50%)で評価する。						

科目名	舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）			担当者	辛島安妃子	
英文名	Seminar in Dance Music (Voice Training)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		スポーツ科学専攻	専門基礎・選択	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
<b>【目的とねらい】</b> 呼吸法や正しい姿勢、体のしくみを理解しながら発声法を学び、舞台上で通る歌声を習得していくことを目的とする。基礎となる声楽教本を用い、併せてオペラ、ミュージカルや世界各国の名曲を取り上げ、応用として観客に伝えるための表現法を学ぶ。授業内で発表することにより実践力も身につける。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 声と体のしくみについて</b> <b>【 到達目標 】</b> 歌は全身運動である。声と体のしくみを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。			<b>第9回 映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う②</b> <b>【 到達目標 】</b> こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。またオペラとミュージカルの違いについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			
<b>第2回 発声法と発声練習について</b> <b>【 到達目標 】</b> 腹式呼吸や声を響かせる方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			<b>第10回 ミュージカルの名曲を歌う①</b> <b>【 到達目標 】</b> ミュージカルの名曲を日本語、英語で歌う。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			
<b>第3回 コールユーブンゲン・コンコーネを歌う</b> <b>【 到達目標 】</b> 声楽教本でリズムや音程、フレーズ感について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			<b>第11回 ミュージカルの名曲を歌う②</b> <b>【 到達目標 】</b> 動きながら歌う方法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			
<b>第4回 合唱・重唱（日本の名曲）</b> <b>【 到達目標 】</b> 合唱または重唱で日本歌曲を歌う。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			<b>第12回 発表会（本番）に向けてのプランニングについて</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに発表会の立案、計画、準備をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表会に向けて歌と台詞読みの練習をすること。			
<b>第5回 合唱・重唱（世界の名曲）</b> <b>【 到達目標 】</b> 合唱または重唱で世界各国の歌曲を歌う。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			<b>第13回 グループごとの演目準備①</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに発声を確認しながら練習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。			
<b>第6回 独唱（日本・世界の名曲）</b> <b>【 到達目標 】</b> 発声法を踏まえ名曲の独唱を試みる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			<b>第14回 グループごとの演目準備②</b> <b>【 到達目標 】</b> グループごとに作品の内容を理解し、表現工夫をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。			
<b>第7回 イタリア歌曲を歌う</b> <b>【 到達目標 】</b> イタリア語の読みや歌詞の意味を理解し、表現法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。			<b>第15回 発表会</b> <b>【 到達目標 】</b> 観客の前で演じることで実践力を養う。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。			
<b>第8回 映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う①</b> <b>【 到達目標 】</b> こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。またオペラとミュージカルの違いについて学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。						
<b>【学習上の留意点】</b> 歌もスポーツと同じで全身運動である。1日怠ると筋肉の動きが戻ってしまうので、なるべく毎日歌うことを心がける。						
<b>【教科書・参考書など】</b> その都度、楽譜を配布する。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内での実技および授業内発表における演奏60%、授業における課題達成度40%で評価する。						

科目名	表現運動学実習（新体操・フォークダンス）			担当者	木皿久美子・山梨 雅枝	
英文名	Practice of Expressive Movements (Rhythmic Gymnastics / Folk Dance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3			専門基礎・選択		
【目的とねらい】 前半：新体操に要求されている徒手技術（ジャンプ・バランス・ピボット・柔軟な動き）を体得すると同時に、手具操作との調和を音楽と一緒に実践する。また、音楽のリズムを感じ、流動的な動きの中に豊かな表現力や手具技術の習得を目指す。 後半：フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きを通じて仲間と踊る楽しさを体得しながら、指導法も習得する。グループに分かれて新しいフォークダンスを創作し、発表する。生涯ダンスや舞踊教育の指導に役立てる。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。			第9回 ボール：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（柔軟な動き・バランス・ピボット・ジャンプ）と、組み合わせが可能な手具操作を考え、実践できる。			
第2回 新体操の特性と身体表現について 【 到達目標 】 新体操の特性から身体表現について考え、理解する。			第10回 ボール：音楽との調和（二人組で） 【 到達目標 】 徒手要素と手具操作との組み合わせをフレーズにし、二人組による動きを取り入れながら、音楽のリズムに合わせて実践できる。			
第3回 新体操の基礎運動① 【 到達目標 】 正しい基本姿勢および柔軟な動き・バランスを実践し、基礎技術を身につける。			第11回 ボール：フレーズの組み立て 【 到達目標 】 曲調に合ったステップや動きを取り入れながらのフレーズを実践できる。			
第4回 新体操の基礎運動② 【 到達目標 】 正しい基本姿勢およびピボット・ジャンプを実践し、基礎技術を身につける。			第12回 ボール：実技課題の実践① 自由創作 【 到達目標 】 身につけたフレーズを更につなげ、1分30秒の音楽に合わせて、作品を実践できる。作品に取り入れる自由創作（8×4）の内容を考える。			
第5回 フープ：基本操作の実践（一人、二人組で） 【 到達目標 】 回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。また、あらゆる操作から発想力を高める。			第13回 ボール：実技課題の実践② 自由創作の決定 【 到達目標 】 手具操作と身体の動きが明確になるとともに、音楽のリズムと調和した動きの技術を習得する。作品に取り入れる自由創作（8×4）の内容を決定する。			
第6回 フープ：徒手要素と手具操作 【 到達目標 】 身につけた徒手要素（柔軟な動き・バランス・ピボット・ジャンプ）と、組み合わせが可能な手具操作を考え、実践できる。			第14回 ボール：実技課題の実践③ 【 到達目標 】 音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつながりがスムーズに流れるよう、更に実践を重ねる。			
第7回 フープ：音楽との調和 【 到達目標 】 徒手要素と手具操作の組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。			第16回 ボール：作品の発表 【 到達目標 】 作品の発表を行う。			
第8回 ボール：基本操作の実践（一人、二人組で） 【 到達目標 】 突く、転がす、投げるなどの基本操作から、ボールの特性を理解する。また、あらゆる操作から発想力を高める。						

次ページに続く

科目名	表現運動学実習（新体操・フォークダンス）			担当者	木皿久美子・山梨 雅枝	
英文名	Practice of Expressive Movements (Rhythmic Gymnastics / Folk Dance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3			専門基礎・選択		
<b>【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分</b>						
第16回 オリエンテーション（授業展開・ねらい・評価方法・調査） 【 到達目標 】 授業展開、ねらい、評価方法の説明、フォークダンスの経験調査を行う。			第24回 各国のフォークダンスの習得⑥ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			
第17回 フォークダンスの基本、学習指導要領の位置づけ 【 到達目標 】 フォークダンスの基本や学習指導要領の位置づけについて学ぶ。			第25回 各国のフォークダンスの習得⑦ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			
第18回 基本的なステップの習得 【 到達目標 】 フォークダンスの基本的なステップを学び習得する。			第26回 フォークダンス①～⑦の復習 【 到達目標 】 これまで学んだフォークダンスを復習し、知識や技術を身につける。			
第19回 各国のフォークダンスの習得① 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			第27回 グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作① 【 到達目標 】 グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。			
第20回 各国のフォークダンスの習得② 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			第28回 グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作② 【 到達目標 】 グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。			
第21回 各国のフォークダンスの習得③ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			第29回 作品発表、みんなで踊るⅠ 【 到達目標 】 作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。			
第22回 各国のフォークダンスの習得④ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			第30回 作品発表、みんなで踊るⅡ 【 到達目標 】 作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。			
第23回 各国のフォークダンスの習得⑤ 【 到達目標 】 各国のフォークダンスのステップや動きを習得する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 前半：新体操の概要を調べ、新体操に必要な身体の要素、手具要素を理解しておく。後半：グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 前半：アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する危険性があるため、決して身につけない。 服装：身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない） 後半：既存のフォークダンスやレクリエーションダンスは、ステップや音の取り方に注意して正確に踊れるようにする。創作フォークダンスでは、男女を意識したステップで、各グループで対象年齢を設定して創作する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 前半：必要に応じて、プリント教材を配布します。 後半：指定なし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 前半：実技試験70%、レポート30% 後半：①既存のフォークダンスを覚える（実技試験）50%②ねらいに応じた創作フォークダンスの発表（実技と授業内容記録紙）50%。前半部分と後半部分を総合して評価する。						

科目名	スポーツ実習A (体操・器械運動)			担当者	木皿久美子	
英文名	Practice of Sport A (Gymnastics / Apparatus Exercise)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 中学校と高等学校の学習指導要領では7つの運動・スポーツ領域が提示されているが、その中で「体づくり運動」は、唯一、全ての学年で実施する最重要領域である。それは「体力を高める運動」と「体ほぐし運動」に大別されるが、本授業では「自己の体に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動」とされる後者の適正な実施法の習得を主目的とし、適宜、指導法についても解説する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。			第9回 手具体操（長縄とび）の効果について 【 到達目標 】 長縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。			
第2回 ストレッチ体操の基本 【 到達目標 】 体気付き、体ほぐしについて実践し、体を整える方法を知る。			第10回 手具体操（短縄とび）の効果について 【 到達目標 】 短縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。			
第3回 ストレッチ体操と運動遊び① 【 到達目標 】 ペアでストレッチや運動遊びを行いながら、自分と相手の体と心に気付く。			第11回 リズム体操の基本 【 到達目標 】 様々なステップを実践することで、動きのリズムを習得する。			
第4回 ストレッチ体操と運動遊び② 【 到達目標 】 仲間とふれあうことで、体ほぐしのねらいを具体化できる。			第12回 リズム体操：実技課題の実践① 【 到達目標 】 音楽のリズムと動きのリズムを調和させながら、フレーズの動きを実践できる。			
第5回 手具体操（ボール）とトレーニング体操① 【 到達目標 】 ボールの特性を活かした運動を実践できる。（1～2名）			第13回 リズム体操：実技課題の実践② 動きの修正 【 到達目標 】 一連の動きを自然な動きで実践できる。			
第6回 手具体操（ボール）とトレーニング体操② 【 到達目標 】 ボールの特性を活かした運動を実践できる。（3～10名）			第14回 リズム体操：実技課題の実践③ 【 到達目標 】 これまで習得した動きの修正を行い、更にスムーズな一連の動きになるよう実践を重ねる。			
第7回 手具体操（長縄とび）の特性について 【 到達目標 】 長縄跳びの特性を考え、実践できる。			第16回 体操の課題発表 【 到達目標 】 これまで習得した良い動きを、のびのびとした動作で発表できる。			
第8回 手具体操（長縄とび）の発展と方法 【 到達目標 】 タイミングの良い運動と発展させた運動が実践できる。						
<b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。						
<b>【学習上の留意点】</b> アクセサリ類や時計等、相手や自らの怪我を引き起こす危険性があるものは身につけない。 服装・身だしなみは実習にふさわしいものとする。長縄跳びの課題ではインシューズを使用する。 *スポーツ実習Aは、体操と器械運動の両方を履修して1科目分とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて、プリント教材を配布します。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 実技試験70% レポート30%						

科目名	スポーツ実習A (体操・器械運動)			担当者	佐藤麻衣子・中村 剛	
英文名	Practice of Sport A (Gymnastics / Apparatus Exercise)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
第1回 マット運動の基礎技能 【 到達目標 】 (1) 器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2) マット運動の基礎技能の習熟を図る。			第9回 マット運動 (倒立回転系・倒立回転とびの技) ④ 【 到達目標 】 (1) ハンドスプリングの技能テスト			
第2回 マット運動 (倒立の基礎・接転系の技) ① 【 到達目標 】 (1) 倒立の基礎知識・技能を習得する。 (2) 前転、後転の基礎知識・技能を習得する。			第10回 とび箱運動 (反転系の技の基礎技能) 【 到達目標 】 (1) 反転系の技の基礎知識・技能を習得する。			
第3回 マット運動 (倒立の基礎・接転系の技) ② 【 到達目標 】 (1) 倒立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2) 前転、後転の変形技を習得する。			第11回 とび箱運動 (反転系の技・開脚とび) 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト			
第4回 マット運動 (倒立の基礎・接転系の技) ③ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能を習得する。 (2) 伸膝後転の技能を習得する。			第12回 とび箱運動 (反転系の技・開脚とび) 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト			
第5回 マット運動 (倒立の基礎・接転系の技) ④ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能テスト (2) 伸膝後転の技能テスト			第13回 鉄棒運動 (支持回転系の技) ① 【 到達目標 】 (1) 鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。			
第6回 マット運動 (倒立回転系・倒立回転とびの技) ① 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。			第14回 鉄棒運動 (支持回転系の技) ② 【 到達目標 】 (1) 支持回転系の技の技能を習得する。 (2) 支持回転系の技の技能テスト			
第7回 マット運動 (倒立回転系・倒立回転とびの技) ② 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。			第16回 課題の達成度と身体知 【 到達目標 】 (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。			
第8回 マット運動 (倒立回転系・倒立回転とびの技) ③ 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能テスト (2) ハンドスプリングの技能を習得する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ (動感) を思い出しながら (想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。						
<b>【学習上の留意点】</b> 課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。*スポーツ実習Aは、体操と器械運動の両方を履修して1科目分とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友 (大修館書店)						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 課題技の達成度 100%						

科目名	スポーツ実習B (陸上競技・水泳)			担当者	大橋 祐二	
英文名	Practice of Sport B (Track and Field / Swimming)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 陸上競技は走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験すること、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業内容の説明 (採点表)</b> 【 到達目標 】 100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件 (達成記録、習熟度) を確認する。			<b>第9回 全助走跳躍</b> 【 到達目標 】 自分にあつたおおよその助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。			
<b>第2回 100m走の走り方：中間疾走</b> 【 到達目標 】 短距離走の走り方として、中間疾走を行う中で、まず支持局面を意識して実践してみる。			<b>第10回 走り幅跳び記録測定1</b> 【 到達目標 】 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。			
<b>第3回 クラウチングスタートのしかた</b> 【 到達目標 】 自分にあつたクラウチングスタートの方法を身につける。			<b>第11回 走り幅跳び記録測定2</b> 【 到達目標 】 前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。			
<b>第4回 スタート～加速のしかた</b> 【 到達目標 】 クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。			<b>第12回 砲丸投げの基本技術とルール</b> 【 到達目標 】 砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによって、つき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。			
<b>第5回 スタート、加速疾走、中間疾走</b> 【 到達目標 】 100m走記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。			<b>第13回 メディシンボールによるつき出し</b> 【 到達目標 】 メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。			
<b>第6回 100m走記録測定</b> 【 到達目標 】 100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。			<b>第14回 ホップ、グライドからの投げ</b> 【 到達目標 】 つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。			
<b>第7回 走り幅跳びの基本技術とルール</b> 【 到達目標 】 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。			<b>第16回 砲丸投げ記録測定</b> 【 到達目標 】 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。			
<b>第8回 短助走跳躍</b> 【 到達目標 】 短助走跳躍を実践する中で、自分にあつた効果的な踏み切り技術を探り当てる。						
<b>【授業時間外学習】</b> 日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。						
<b>【学習上の留意点】</b> 過去の運動経験を生かし、より高いレベルの記録を達成するようにして欲しい。そのためには、陸上競技の専門性を理解し、その中で自分の運動経験を生かすようにすることが必要である。 *スポーツ実習Bは、陸上競技と水泳の両方を履修して1科目とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編 (大修館書店)						
<b>【関連科目】</b> スポーツ実習A (体操・機械運動)、スポーツ実習C (バスケットボール・バレーボール)						
<b>【成績評価方法】</b> 各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度やルール等に関するテストによる評価を30%として評価する。						

科目名	スポーツ実習B (陸上競技・水泳)			担当者	北川幸夫	
英文名	Practice of Sport B (Track and Field / Swimming)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門基礎・選択		
【目的とねらい】 水の特性に慣れることからはじめ、4種目泳法の各種技術練習を通して水泳の基本技能を修得すると共に、水泳運動の学習方法を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 水慣れ 【 到達目標 】 水に入る、浮く、沈む、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ等を通して、水の特性に慣れる。			第9回 バタフライの泳法実習 【 到達目標 】 バタフライの呼吸法を修得する。 バタフライのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。			
第2回 けのび、グライダー姿勢、クロールの導入 【 到達目標 】 正しいけのびの型を理解し、修得する。グライダー姿勢を理解し、修得する。クロールのバタ足を修得する。			第10回 平泳ぎおよびバタフライのまとめ(泳法の確認) 【 到達目標 】 平泳ぎおよびバタフライにおいて、競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。			
第3回 クロールの泳法実習 【 到達目標 】 クロールのキックおよびストロークを修得する。 クロールの呼吸法を修得する。			第11回 周辺技術(スタートおよびターン)の修得① 【 到達目標 】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。			
第4回 クロールの泳法実習と背泳ぎの導入 【 到達目標 】 クロールにおいて随時呼吸を行い、正しいフォームを修得する。 背泳ぎの導入としての背浮きを修得する。			第12回 周辺技術(スタートおよびターン)の修得② 【 到達目標 】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。			
第5回 背泳ぎの泳法実習 【 到達目標 】 背泳ぎのキックおよびストロークを修得する。 背泳ぎの呼吸法を修得する。			第13回 4泳法のまとめとクロールのトレーニング 【 到達目標 】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100mクロールに向けたトレーニングを行う。			
第6回 クロールと背泳ぎのまとめ(泳法の確認) 【 到達目標 】 クロールおよび背泳ぎにおいて、競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。			第14回 4泳法のまとめと平泳ぎのトレーニング 【 到達目標 】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100m平泳ぎに向けたトレーニングを行う。			
第7回 平泳ぎの導入と泳法実習 【 到達目標 】 平泳ぎのキックを修得する。 あおり足とかえる足の違いを理解する。			第15回 100mクロールおよび100m平泳ぎの確認 【 到達目標 】 100mクロールおよび100m平泳ぎを泳ぐ。			
第8回 平泳ぎの泳法実習とバタフライの導入 【 到達目標 】 平泳ぎのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。 バタフライのキックを修得する。						
【授業時間外学習】 書籍およびメディア等を活用して4泳法(クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ)に関する技術への理解を深める。						
【学習上の留意点】 プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ類の着用は不可とする。 水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。そのため、実習への参加に際し、健康状態に配慮することが必要である。なお、本科目は教職関連科目である。 <b>*スポーツ実習Bは、陸上競技と水泳の両方を履修して1科目分とする。</b>						
【教科書・参考書など】 参考書:「水泳指導教本」 日本水泳連盟編、大修館書店						
【関連科目】						
【成績評価方法】 1. 泳法試験(70%)、2. クロールおよび平泳ぎの泳力試験(30%)とする。 評価は、上記に加えて授業における課題達成度を含め、総合的に判定する。						

科目名	スポーツ実習C (バスケットボール・バレーボール)			担当者	佐々木直基	
英文名	Practice of Sport C (Basketball / Volleyball)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	専門基礎・選択	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
<b>【目的とねらい】</b> バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。3・4年次履修の教育実践研究での模擬授業では、本実習で習得したことが適用される。したがって、習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業のねらいと進め方</b> 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 (2)導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。			<b>第9回 基礎的な個人技術 フリースロー①</b> 【 到達目標 】 (1)ゲームの中でフリースローが起こる状況について理解する。 (2)フリースローの技術を習得する。 (3)ゲームを実践する。			
<b>第2回 基礎的な個人技術 コントロール</b> 【 到達目標 】 (1)ボディコントロール (フットワークとハンドワークを含む) の技術を理解し、習得する。 (2)ボールコントロール (ボールハンドリング) の技術を理解し、習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			<b>第10回 グループ戦術 パス&amp;ラン</b> 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としてのパス&ランの原則を理解する。 (2)パス&ランのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。			
<b>第3回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート①</b> 【 到達目標 】 (1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。			<b>第11回 チーム戦術 ドライブ&amp;合わせ</b> 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としての1対1 (ドライブ) とそこからの合わせの原則を理解する。 (2)ドライブ&合わせのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。			
<b>第4回 基礎的な個人技術 セットシュートとジャンプシュート</b> 【 到達目標 】 (1)セットシュートとジャンプシュートの違いを理解する。 (2)セットシュートとジャンプシュートそれぞれの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			<b>第12回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート②</b> 【 到達目標 】 (1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなワンハンドシュート (フック系・フローター系) の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。			
<b>第5回 基礎的な個人技術 パスとキャッチ</b> 【 到達目標 】 (1)ボールキャッチの技術を習得する。 (2)いろいろなパスの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			<b>第13回 基礎的な個人技術 レイアップシュート②</b> 【 到達目標 】 (1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなレイアップシュート (バックシュート系・ステップの変化) の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。			
<b>第6回 基礎的な個人技術 レイアップシュート①</b> 【 到達目標 】 (1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。			<b>第14回 基礎的な個人技術 フリースロー②</b> 【 到達目標 】 (1)フリースローの技術を習得する。 (2)ゲームの状況下でのフリースローを実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。			
<b>第7回 基礎的な個人技術 ドリブル</b> 【 到達目標 】 (1)ドリブルのチェンジ・オブ・ディレクションの技術を習得する。 (2)ドリブルのチェンジ・オブ・ベースの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			<b>第15回 スキルの総合的検証</b> 【 到達目標 】 (1)本実習で習得した基礎的な個人技術ができる。			
<b>第8回 基礎的な個人技術 リバウンド</b> 【 到達目標 】 (1)オフェンスリバウンドの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実習の授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本実習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。 *スポーツ実習Cは、バスケットボールとバレーボールの両方を履修して1科目分とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書 「バスケットボール指導教本改訂版 上・下巻」 (公財) 日本バスケットボール協会編 (大修館書店)						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 平常授業での到達目標に対する到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。						

科目名	スポーツ実習C (バスケットボール・バレーボール)			担当者	古瀬由佳	
英文名	Practice of Sport C (Basketball / Volleyball)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門基礎・選択		
<b>【目的とねらい】</b> バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
第1回 バレーボールの歴史と発展 【 到達目標 】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。			第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解 【 到達目標 】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。			
第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。			第10回 ゲーム実践Ⅰ 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
第3回 基礎技能の応用(各種レシーブ・トス) 【 到達目標 】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換しているいろいろな方向へコントロールできる。			第11回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ) 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。			第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。			
第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク) 【 到達目標 】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。			第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。			
第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術 【 到達目標 】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。			第14回 ゲーム実践Ⅲ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃) 【 到達目標 】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。			第16回 ゲーム実践Ⅳ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション) 【 到達目標 】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。 *スポーツ実習Cは、バスケットボールとバレーボールの両方を履修して1科目分とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。						

科目名	表現運動学			担当者	宮本乙女	
英文名	Dance Movement Studies					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別		専門・必修		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊表現における主要な技能である「踊る」「創る」「観る」のそれぞれの特徴や構造、また相互の有機的連関について認識を深める。また、舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性についても理解を深め、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション、ダンスとは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> ダンスとはどのように定義されているのか、先行文献から学ぶと共に自分にとってダンスとは何なのかを考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> ダンスの定義について検索してみる。			<b>第9回 「ダンスの構造」その3 「群」の表現性</b> <b>【 到達目標 】</b> 「群」という視点で、ダンスの動きを考える。舞踊作品をその視点から考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> ダンス以外の表現についても群の効果という視点から検討する。			
<b>第2回 ダンスの歴史、種類、舞踊における動きとは</b> <b>【 到達目標 】</b> ダンスの発生の歴史や種類について理解する。ダンスの動きの構造を、時間、空間、力の面から把握する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のこれまで体験したダンスを時間、空間、力の面から見直す。			<b>第10回 「踊る・創る・観る」その1 創る…仮定期</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊の「踊る」「創る」「観る」の3つの技能特性を理解する。創る活動の、仮定期の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業内で行う仮定期のブレインストーミングを参考に、自分の作舞体験を当てはめてみる。			
<b>第3回 「人間発達と表現運動」その1 幼児～小学生</b> <b>【 到達目標 】</b> 幼児期から小学校期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。			<b>第11回 「踊る・創る・観る」その2 創る…仮定期から探索期へ</b> <b>【 到達目標 】</b> 創る活動の、探索期の特徴を理解する。探索期にどのような指導の手立てが必要かを考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育現場を想定して、探索期の指導を検討する。			
<b>第4回 「人間発達と表現運動」その2 中学生～大学生</b> <b>【 到達目標 】</b> 中学、高校、大学期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。			<b>第12回 「踊る・創る・観る」その3 創る…探索期から達成期へ</b> <b>【 到達目標 】</b> 創る活動の、達成期の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 達成期としての、リハーサルや、仕上げ、場当たりの意味を考察する。			
<b>第5回 表現運動と男性・女性</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な舞踊作品の中で、男女がどのように表現されているかを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で視聴したダンス作品以外で男性、女性がどのように表現されているかを考察する。			<b>第13回 「踊る・創る・観る」その4 踊る…リズムを考える</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間の体とリズム、間のリズムなど、リズムを切り口に文献を読み解きながら、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付された文献の残りの部分を読む。			
<b>第6回 ダンス教育とジェンダー</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間の性のとらえ方について学び、ダンス教育におけるジェンダーについて考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の体験した学校教育の中でジェンダーの視点から課題となる事柄を考察する。			<b>第14回 「踊る・創る・観る」その5 観る…鑑賞と評価</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊を鑑賞することと、評価することについて、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> どんな動きがダンスの良い動きなのかを自分なりに説明できるようにする。			
<b>第7回 「ダンスの構造」その1 運動の変化と連続</b> <b>【 到達目標 】</b> 「対極の動きの連続」という視点で、ダンスの動きを考える。自身の体験した舞踊作品をその視点から考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で扱った以外の作品について対極の動きの連続を考察する。			<b>第15回 舞踊表現の特性</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業全体を振り返り、舞踊表現の特性を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 15回の授業プリントをもう一度整理して内容の理解を深める。			
<b>第8回 「ダンスの構造」その2 運動の質と表現性</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊の動きの質と、そこから引き起こされる感情価、情調について考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> ダンス作品の感想や批評文などを収集し、どのような言葉で書かれているかを検討する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業では、文献や、映像資料なども使用しながら進めていく。各自の舞踊活動と結びつけ、毎回の授業で展開される内容を積み重ねて舞踊の動きや身体についての理解を深めるようにする。また、課題や討論などにも積極的に取り組んでほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 毎時間、レジュメと資料を配付して授業を行う。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の授業の課題達成度（授業内ミニレポートの記述）及び授業内討論での発言内容、活動内容30%、期末テスト70%として評価する。試験は、試験期間中に別途実施する。						

科目名	舞踊創作・振付法			担当者	坂本 秀子	
英文名	Theory of Dance Composition and Choreography					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・必修		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊作品という概念、作品成立のための諸条件等、基本的な理論を学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 作品創作の動機について</b> <b>【 到達目標 】</b> あらゆる例題を取り上げながら、作品創作の動機を探る。作品や作者のバックグラウンドについても、考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の動機について考え、身近な作品を例に考察する。			<b>第9回 隊形の種類、移動、変化</b> <b>【 到達目標 】</b> 隊形の種類を把握し、作品の中での効果的な移動のしかた、変化の方法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 隊形の種類、移動、変化のしかたについて、身近な作品を例に考察する。			
<b>第2回 テーマ、抽象・具象について</b> <b>【 到達目標 】</b> テーマの決定のしかた、抽象作品、具象作品などの特性を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 他の芸術分野について、テーマ、抽象、具象について調べる。			<b>第10回 組み合わせ、比例、均等</b> <b>【 到達目標 】</b> 隊形の組み合わせについて考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 隊形の組み合わせについて復習する。			
<b>第3回 題名について</b> <b>【 到達目標 】</b> 題名の考え方、決め方について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 他の芸術分野について、題名の考え方や決め方について調べる。			<b>第11回 時間構成について</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の時間構成について学ぶ。全体から見た理想的な時間配分について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品の時間構成について、身近な作品を例に考察する。			
<b>第4回 作品の大まかなイメージ（動き、構成）</b> <b>【 到達目標 】</b> 動きと構成の関係について理解する。作品の動きにふさわしい構成とは、どんなものかを考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品の動きにふさわしい構成について、身近な作品を例に考察する。			<b>第12回 教材VTR「作品の出来るまで」を見る</b> <b>【 到達目標 】</b> 例題となる教材VTRから、作品の出来るまでを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品の完成するまでの流れをイメージしてみる。			
<b>第5回 作品の大まかなイメージ（衣裳、照明、音響）</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台上で上演する作品は、総合芸術であることを理解し、音響、衣裳、照明のあり方について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 興味のある作品を取り上げ、衣裳、音響、照明について考察する。			<b>第13回 反復、伏線、クライマックスについて</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品におけるクライマックスとは何か、また、その効果的なつくり方などについて考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 他の芸術分野では、クライマックスをどのように捉えているかを考察する。			
<b>第6回 モチーフ、フレーズについて</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の主張の最小単位と言えるモチーフ、フレーズのとらえ方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 興味のある作品を取り上げ、モチーフ、フレーズについて考察する。			<b>第14回 コントラスト、リズム、調和について</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品のコントラスト、リズム、調和について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> コントラスト、リズム、調和について、身近な作品を例に考察する。			
<b>第7回 教材VTR「作品のモチーフ」を見る</b> <b>【 到達目標 】</b> 教材VTRによる研究・分析を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品のモチーフを一つ考えてみる。			<b>第15回 今後の課題の設定</b> <b>【 到達目標 】</b> 最も興味深いテーマを取り上げ、更に研究を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分で課題を見つけ、解決のための方法を考案する。			
<b>第8回 動きの変化・発展</b> <b>【 到達目標 】</b> 動きの変化・発展のしかたについて学び、実演しながら理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 変化、発展のしかたについて復習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業ノートを工夫して作成し、今後の舞踊活動のための資料保存版となるようにしたい。各自が、自習や調査などを行い、オリジナルノートを作成することを目標としている。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜、プリント等配布。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習（モダンダンス基礎）、舞踊学演習（シアターダンステクニック）						
<b>【成績評価方法】</b> ノート提出60%、授業内レポート40%。						

科目名	舞踊方法学			担当者	高野美和子	
英文名	Dance Methodology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門・必修		
<b>【目的とねらい】</b> すぐれたダンサーや振付家、指導者になるための基礎として、様々な舞踊の運動特性と表現形式についての正確な理解や、身体のメカニズムに対する深い認識が必要である。この授業では、様々な舞踊作品、振付家や指導者、ダンサーに関する資料、文献などを通じて、舞踊の「運動」の種類とその特性、表現体としての身体のメカニズムとそのトレーニング方法、指導法、舞踊表現を成立させる関連事項について理論的に学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【到達目標】 舞踊方法学で取り扱う領域と研究内容を理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の関連資料を探し、目を通す。			<b>第9回 インプロヴィゼーションからクリエイションへ</b> 【到達目標】 即興的な活動から創作へつながるプロセスを理解し指導現場への可能性を理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、授業中に触れた即興に関する文献に目を通す。			
<b>第2回 舞踊の種類と運動の特性①</b> 【到達目標】 様々な舞踊運動の特性を理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。			<b>第10回 様々な指導の現場とコミュニティ・ダンス</b> 【到達目標】 様々な指導現場について理解するとともに、コミュニティ・ダンスの可能性を探り、現状を認識する。  【授業時間外学習】 授業内容を整理すると共に、身近にあるコミュニティ・ダンスについて調べる。			
<b>第3回 舞踊の種類と運動の特性②</b> 【到達目標】 とりあげる舞踊運動を見ながら、運動の特性やメカニズムを説明することができる。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。			<b>第11回 対象者に応じた指導方法①</b> 【到達目標】 学齢期におけるダンス指導（幼・小）について学び、その指導法を理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。			
<b>第4回 表現体としての身体とそのメカニズム</b> 【到達目標】 表現体としての踊るからだのメカニズムについて理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。			<b>第12回 対象者に応じた指導方法②</b> 【到達目標】 学齢期におけるダンス指導（中・高）について学び、その指導法を理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。			
<b>第5回 ラバン・システム</b> 【到達目標】 ラバン（Laban）の動作分析、舞踊記譜法について理解する。  【授業時間外学習】 ラバンに関する資料を基に、授業内容の要点を整理し、理解を深める。			<b>第13回 対象者に応じた指導方法③</b> 【到達目標】 インクルーシブなダンスの現場について理解し、その可能性を探る。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、インクルーシブなダンスについて調べる。			
<b>第6回 プロダンサーの仕事</b> 【到達目標】 プロフェッショナルに活動するダンサーの仕事について理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、映像資料に登場する用語や舞踊家について調べる。			<b>第14回 コンテンポラリーダンスの可能性</b> 【到達目標】 コンテンポラリーダンスの様々な現場における今後の展望を探り、理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、コンテンポラリーダンスについて調べる。			
<b>第7回 ボディ・コンディショニング</b> 【到達目標】 踊るからだのメンテナンス、コンディショニングについて理解する。  【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、ボディ・コンディショニング関連の資料を収集する。			<b>第15回 授業内容の振り返り</b> 【到達目標】 本講義にてとりあげた内容について振り返り、レポート作成の準備をする。授業の理解度を確認する。  【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、レポートを作成する。			
<b>第8回 「遊び」の理論からのアプローチ</b> 【到達目標】 舞踊の中にある「遊び」の要素を確認し、様々な現場での応用の可能性を理解する。  【授業時間外学習】 カイヨワの「遊びと人間」を参考に、授業内容の要点を整理する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 毎回の授業中、その回の講義、資料、映像を踏まえた小レポートの提出が求められるため、集中して授業に取り組む姿勢が必要である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定しない。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学専攻専門科目全般						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の授業の活動内容および授業中に提出する小レポートを70%、授業内小テストと期末に提出するレポートを30%の割合として評価する。						

科目名	舞踊学演習（創作1）			担当者	松山善弘	
英文名	Seminar in Dance (Choreography 1)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・必修		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊の創作は多様化してきた。テーマのあるもの、趣向を見せるもの、抽象的なもの、音楽的なもの、コラボレーション、マルチメディアを使った創作など、これらの振付を学び、振付の様式を学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業進行についてのオリエンテーション（DVDを使用）</b> 【到達目標】 授業進行について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第9回 実際にソロの作品を創作する3</b> 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第2回 与えられた条件で振り付け</b> 【到達目標】 与えられた条件で、自由に即興できるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第10回 実際にソロの作品を創作する4</b> 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第3回 与えられた言葉を基に、グループで作品をつくってみる</b> 【到達目標】 言葉を基に、自由に発想を広げられるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第11回 作品の発表と合評1</b> 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表された作品について、自分なりの評価を試みる。			
<b>第4回 創作に必要な過程を学ぶ（テーマ選び、モチーフ作りetc）</b> 【到達目標】 テーマ選び、モチーフ作りについて理解し習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第12回 作品の発表と合評2</b> 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表された作品について、自分なりの評価を試みる。			
<b>第5回 創作に必要な過程を学ぶ（構成、音楽etc）</b> 【到達目標】 構成方法、選曲等について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第13回 作品の発表と合評3</b> 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表された作品について、自分なりの評価を試みる。			
<b>第6回 創作に必要な過程を学ぶ（まとめ）</b> 【到達目標】 創作に必要な過程を理解し、習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第14回 作品の発表と合評4</b> 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表された作品について、自分なりの評価を試みる。			
<b>第7回 実際にソロの作品を創作する1</b> 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第15回 作品の発表と合評5</b> 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表された作品について、自分なりの評価をするとともに、自分の作品に関しても再度分析する。			
<b>第8回 実際にソロの作品を創作する2</b> 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 固定観念にとらわれず、自由な発想で授業に臨んで下さい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特にありません。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊創作原論、舞踊創作・振付法						
<b>【成績評価方法】</b> 時間毎のレポート40%、創作実習60%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（シアターダンステクニック）			担当者	坂本 秀子	
英文名	Seminar in Dance (Theater Dance Technique)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別		専門・必修		
<b>【目的とねらい】</b> 劇場は、照明などで演技がくっきりと浮き出て見えるように設計されていて、日常の空間とは異なった様相を帯びている。従って、稽古場や体育館で踊る場合とは異なり、プロフェッショナルの常識のようなものが存在する。それを学ぶのが、この講座である。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 作品の説明とビデオ鑑賞（作品A）</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品のおおまかなイメージをつかむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体のイメージトレーニングを行う。			<b>第9回 踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう②</b> <b>【 到達目標 】</b> 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新たな課題を発見し、イメージを膨らませる。			
<b>第2回 振りを学ぶ①</b> <b>【 到達目標 】</b> 基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 振りの順番を確認する。			<b>第10回 作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品C）</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体のイメージトレーニングを行う。			
<b>第3回 振りを学ぶ②</b> <b>【 到達目標 】</b> 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 特に注意された箇所を思い出ししておく。			<b>第11回 振りを学ぶ③</b> <b>【 到達目標 】</b> 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習。			
<b>第4回 振りを学ぶ③</b> <b>【 到達目標 】</b> 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して、通し練習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体のイメージトレーニングを行う。			<b>第12回 振りを学ぶ④</b> <b>【 到達目標 】</b> 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して通し練習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。			
<b>第5回 踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう①</b> <b>【 到達目標 】</b> 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新たな課題を確認し、イメージを膨らませる。			<b>第13回 踊り込み、吟味</b> <b>【 到達目標 】</b> 何回も通して練習し、動きの集中力を強化していく。客席からの見え方と演者の意識の相違について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 音楽を聴きながら、舞台上の自分をイメージする。			
<b>第6回 作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品B）</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体のイメージトレーニングを行う。			<b>第14回 踊って批評を受ける、感想を述べあう</b> <b>【 到達目標 】</b> 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。  <b>【授業時間外学習】</b> 新しい課題を心にとどめる。			
<b>第7回 振りを学ぶ④</b> <b>【 到達目標 】</b> 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習。			<b>第15回 今後の課題を設定し、実現のための構想を練る</b> <b>【 到達目標 】</b> 今後の課題を発見し、実現するための構想を練る。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題を意識した練習方法を考える。			
<b>第8回 振りを学ぶ⑤</b> <b>【 到達目標 】</b> 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。						
<b>【学習上の留意点】</b> 基礎的なテクニックを獲得し、作品を魅力的に踊り通すことができるようにしたい。そのための精神的な強さ、集中力も鍛え、自分で工夫したり練習する習慣も身につけていく。これからの4年間の基盤となる授業なので、真剣に受講して欲しい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習（モダンダンス基礎）						
<b>【成績評価方法】</b> 平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。						

科目名	舞踊学演習（野外上演法）			担当者	渡 辺 碧	
英文名	Seminar in Dance (Outdoor Performance)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・必修		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊におけるマスゲームとしての作品づくりを通して、舞台芸術としての舞踊の表現との違いを学ぶ。 マスゲームの集団美、表現美を追求するとともに集団の中で個人としての責任と協調性を養う。また、将来自分が指導者となった際に、集団の指揮が取れ、指導ができるようになることを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション（グループ構成、テーマ設定、マスゲーム概要など）</b> <b>【 到達目標 】</b> 15時間の流れを理解する。マスゲームの概要を理解する。テーマ設定（3部構成）をする。各グループに分かれて、お互いを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> グループでミーティングをする。テーマについて、文献を用いて下調べをする。			<b>第9回 1部、2部の振りうつしと指導法</b> <b>【 到達目標 】</b> 3部構成のうちの1部、2部の振りグループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習をする。			
<b>第2回 選曲と動きのモチーフづくり①</b> <b>【 到達目標 】</b> ①テーマに基づき選曲をする。 ②各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 選曲した曲を編集する。今までのマスゲーム作品を研究する。			<b>第10回 2部の振りうつしと指導法</b> <b>【 到達目標 】</b> 3部構成のうちの2部の振りグループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習をする。			
<b>第3回 選曲と動きのモチーフづくり②</b> <b>【 到達目標 】</b> 各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 今日の発表での課題について再検討する。			<b>第11回 3部の振りうつしと指導法</b> <b>【 到達目標 】</b> 3部構成のうちの3部の振りグループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習をする。			
<b>第4回 グループで作品づくり①</b> <b>【 到達目標 】</b> 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 今日の発表での課題について再検討する。			<b>第12回 3部の振りうつし及び全体構成の見直し・調整①</b> <b>【 到達目標 】</b> 1、2、3部の振りうつしがほぼ完成となり、各部のつなぎ部分を考案する。また、そのつなぎの部分を指導することが出来、踊りを習得することが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習をする。			
<b>第5回 グループで作品づくり②</b> <b>【 到達目標 】</b> 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。グループ作品発表に向けて、作品を踊り込む。 <b>【授業時間外学習】</b> 今日の発表での課題について再検討する。			<b>第13回 全体構成の見直し・調整②、通し練習①</b> <b>【 到達目標 】</b> 1、2、3部間の調整を行い、すべての振付を正しく踊ることが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習をする。調整された作品全体を再検討する。			
<b>第6回 グループで作品づくり③</b> <b>【 到達目標 】</b> 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。次回のグループ作品発表に向けて、作品を完成させ、クオリティを高める。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回のグループ発表に向けて練習する。			<b>第14回 通し練習②</b> <b>【 到達目標 】</b> 野外で上演することを念頭におき、出はけを含め、通して踊ることが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 野外で上演することをイメージして次回に備える。			
<b>第7回 グループ作品発表、鑑賞、評価</b> <b>【 到達目標 】</b> ①各グループの作品を発表する。②テーマに合っている作品を選出する。③選出されたグループの作品を理解し、自分がその作品の一部となって、作品に参加することを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 選出されたグループは、次回からの振りうつしのスケジュールを立てる。			<b>第15回 野外で上演</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際、グラウンドにおいて、観客の中で上演することが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 上演に関して、これまでの授業に対する反省と感想をまとめる。			
<b>第8回 1部の振りうつしと指導法</b> <b>【 到達目標 】</b> 3部構成のうちの1部の振りグループは、他のグループに振りをうつし、指導を行う。指導する側は作業をスムーズに行う。指導を受ける側は、与えられた振付を正しく踊ることが出来る。 <b>【授業時間外学習】</b> 振付の復習をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> 必修科目のため100名近くが受講する。決して人任せにせず、全員が作品づくりに積極的に参加すること。また舞台上演法とは異なり、野外で上演することを常に意識し、理解する（上演場所の大きさ・出演人数・観客層・演出・振付内容・作品構成など）。 作品が固まる時期には、衣裳考案も同時進行で行う。多くの受講者は野外での上演が初の試みとなるため、その状況をよく把握して発表に挑むこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> スポーツ実習A（体操・器械運動）、表現運動学演習（エアロビクダンス）、舞踊学演習（ジャズダンス1）、舞踊学演習（ジャズダンス2）、舞踊学演習（創作1）、舞踊学演習（創作2）、舞踊創作・振付法、舞踊方法学演習（学齢期指導法）						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度40%、学習意欲・関心・積極性・作品への貢献度40%、レポート20%を総合的に評価する。						

科目名	舞台演出論			担当者	松澤慶信	
英文名	Theory of Stage Directing					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊作品であれ演劇作品であれ、観客が住まう日常空間とは異なる虚構の物語空間をいかに舞台上に現出させるのか。しかしその物語的空間は、もはや必ずしも従来の大きな「物語」や「筋」を物語るトボスである必要はない。そこに日常性を介入させつつ、日常性を戦略にした、またその日常性を異化効果としてとりこみ、日常の背後に隠れ潜む「非日常」を浮き彫りにする。そのような虚構の物語空間を実際に現出させるための方法と方法論的反省を、絵画や音楽という表現媒体との比較芸術学からこころみたい。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> ここで展開する授業内容の紹介。ダンシングでもなく振付でもなく、演出するとはどういうことか。パフォーマンス・アーツではなくパフォーマンス・アーツを現前させる営為を問う。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第9回 絵画の発表Ⅲ</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際にみんなの前で発表してもらい、表現媒体に固有の形成法則とは何か、つまり舞踊が表現するのはいったい何かという究極の問題に迫ってみたい。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第2回 作業手順の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際に演出するにあたって何が必要か、何をするのかを、確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第10回 音楽との関係の模索</b> <b>【 到達目標 】</b> 視覚的要素によってではなく、今度は聴覚的要素が作品内容をどう規制しまた助成するのか。その可能性を模索する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第3回 様々な感情の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 感情とはどのようなものがあるのか。感情をどう処理するのか。そして感情はどのようにやって表現するのか。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第11回 歌詞のある音楽の調査Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> 歌詞のある歌は、音楽固有のメロディやリズムという時間的分節が舞踊の構造を決定するのではない。歌詞の意味が作品を同定してしまう。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第4回 テキストの作成</b> <b>【 到達目標 】</b> 感情を表現するためのテキストを考える。物語の筋を考えても良いし、情景や雰囲気重視しても良い。意味論的意味内容の諸相を確認すること。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第12回 歌詞のある音楽の調査Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> どのような音楽が舞踊には適しているのか。そもそも適しているとはどういうことか。音楽に合うことが良い作品の条件なのか。作品に合うとはどういうことか。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第5回 テキストのパフォーマンス化</b> <b>【 到達目標 】</b> 上記でできたテキストを、それではどうやってパフォーマンスにするのか。具体的な作業手順を想定すること。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第13回 歌詞のある音楽の調査Ⅲ</b> <b>【 到達目標 】</b> 音楽を発表してもらって検討していきたい。単純に踊りやすい曲探しは楽しいことだろう。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第6回 visualテキストの探索</b> <b>【 到達目標 】</b> 言葉によるテキストではなく、visualな表現媒体によるテキストはどうだろうか。ダンスも見ることによって存立する視覚芸術である。このような作品存立に共通な視点は役に立つのだろうか。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第14回 歴史的考察</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊と音楽との関係でコペルニクスの転回をしたのはダンカンの試みである。彼女の舞踊に対する姿勢と考えを、彼女の言説からたどってみたい。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第7回 絵画の発表Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> たとえば絵画の静止したフォルムと、ダンスの動くフォルム、つまり時間的経過が加わるダンスはこのフォルムを時間分節のフォルムに適応できないだろうか。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第15回 総括</b> <b>【 到達目標 】</b> テキストとは何か。テキストをパフォーマンスするのが演出であったことを忘れてはならない。そのテキストが物語なのか、絵画なのか、音楽なのか。ダンスを構成する主要要素を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第8回 絵画の発表Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際に絵画を選出して、その絵画の持つ内容を確認する。形や色が何を表しているのか。この絵画は物語や筋を表しているのか。その形式の位相がこの絵画の魅力ではないのか。  <b>【授業時間外学習】</b> 講義中に指示した文献資料を調査する。			※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
<b>【学習上の留意点】</b> ダンスを創作することの根本を問う。基本的に予備知識や経験は必要ない。それを誇ることはむしろ弊害である。2年次後期開講の「舞踊分析法演習」と3年次前期開講の「舞踊創作原論」と両方ともに受講することをのぞむ。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊分析法演習、舞踊創作原論						
<b>【成績評価方法】</b> 授業中の達成をその都度レポートなどで求める。レポート評価100%。						

科目名	舞踊史学			担当者	松澤慶信	
英文名	Dance History					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 英語文献を講読・輪読して進める。毎回受講者全員に翻訳してきてもらい、それを発表した後に、徹底的にその解釈と和訳に検討を加えて、完成とする。それができない人は受講を控えること。その上で芸術史学としての舞踊史学そのものを問う。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 翻訳するということ</b> <b>【 到達目標 】</b> 英文をこれではか読めないという読み方で読むためのルールが文法だが、そのように読んで内容を理解した後に、その内容を正確に第三者にもわかる日本語に書き直す作業が翻訳である。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布プリントを読む。			<b>第9回 作品史</b> <b>【 到達目標 】</b> 芸術史が究極、美的受容体験の様式史ではあるが、もちろん作品そのものをないがしろにしてはいけない。作品にどう接するか。作品を前にしてわれわれはそこからささやかれる声を聞くこと。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			
<b>第2回 芸術思想と芸術現象</b> <b>【 到達目標 】</b> 芸術思想とは、芸術現象（具体的な作品も含めて）をどう読むかという読み方を方法的に検討するための思想に他ならない。したがって芸術が思想を同定していくこともある。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			<b>第10回 人物伝</b> <b>【 到達目標 】</b> 絵画が基本的に人物を描く物語画であったように、人間への関心が芸術学の対象であることは否めない。ヴァザーリの列伝は今も芸術学資料の基本である。人間学としての芸術学を目指す。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			
<b>第3回 美的受容体験の様式史としての舞踊史学</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊作品が残存しないのに、舞踊史学は存立するのか。この問題の解決策は、作品そのものに重きを置く制作論ではなく、受容側の受けとめ方を様式化する作業に他ならない。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			<b>第11回 20世紀のキーパーソン</b> <b>【 到達目標 】</b> 20世紀という時代を探るにあたって人物を中心にみることは具体的作業手順として有効であろう。われわれはまだ同時代に生きる息吹を、体臭を感得できるからだ。歴史は空気である。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			
<b>第4回 歴史におけるターニング・ポイント</b> <b>【 到達目標 】</b> それ以前と以降できちやかに歴史が変わったというターニング・ポイントは必ずある。しかし何をもって歴史が変わったと考えるのか。ここにその人の歴史観がある。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			<b>第12回 思想史としての舞踊史</b> <b>【 到達目標 】</b> 芸術は時代を映す鏡である。ヘーゲルはこのことを時代精神と言った。われわれはこの時代精神を概念化して、それを思想と呼ばねばならない。思想にまで昇華させて時代を見据えなければならない。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			
<b>第5回 パラダイム</b> <b>【 到達目標 】</b> パラダイムとは流布している代表的な考え方である。しかしそれは価値論的には通俗的で凡庸になるが、学問的にはまずこの通説を押さえるべきである。その上で新しい地平を開拓せよ。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			<b>第13回 方法的反省</b> <b>【 到達目標 】</b> $y = f(x)$ の変数 $x$ を変えて導入して $y$ 値を求めるという、関数 $f$ そのものを反省しないのは考察に値しない。単なる手の運動である。屋上屋を架すという。芸術学は事実学ではないのである。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			
<b>第6回 辺境変革説</b> <b>【 到達目標 】</b> ターニング・ポイントであれパラダイム・チェンジであれ、新しい波は実はパラダイムが中心となっているトポスではなく、その周辺から一気に起こってくる。「田舎者」の力を見くびらないこと。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			<b>第14回 演劇史</b> <b>【 到達目標 】</b> 周辺の類似学として参照する学問に演劇史を特化して挙げておきたい。この演劇学には古典的な意味での演劇はもちろんだが、しかし演劇そのものをメタ的に考察するパフォーマンスの美学を含む。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。予習のための資料は授業時に配布予定。			
<b>第7回 天才</b> <b>【 到達目標 】</b> 大胆な歴史の変革はパラダイムの中心ではなくむしろ周辺にいるアマチュアから起こると考えられているが、それは得てして体系化されず単発で終わる。しかし一気に完成させるのが天才である。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。			<b>第15回 舞踊史学再考</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊史学をめぐる様々な問題提起を整理したい。芸術史学の一つとしての舞踊史学ではなく、舞踊史学が今までの芸術史学に再構成を促すような視点や方法論を提出する気概を持ちたい。 <b>【授業時間外学習】</b> これまでの輪読部分の翻訳（決定稿）を、各自で完成させる。			
<b>第8回 物語と歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> historyであれGeschichteであれ、歴史とは物語である。客観的事実の羅列ではない。そもそも資料の採集の時点ですでに歴史家の視点というバイアスがかかっていることを忘れてはならない。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 毎回翻訳して和訳までしてきて授業にのぞむこと。何も準備してこずに予習もしないで参加する者は出席とは認めない。英語の理解力のレベルは様々だろうから、それは考慮するが、自分でとことんまで調べてくること。そして自分なりの歴史観をもってほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』アニエス・イブリーヌ著 慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』ナンシー・レイノルズ他著 慶應義塾大学出版会をあげる。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回の出席に際して、予習をどこまでやってきているかによって採点する。予習の度合いによる評価100%。						

科目名	ダンス制作論			担当者	松山善弘	
英文名	Theory of Dance Production					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> ダンス制作は、踊ったり振付をしたりする作業とは違うが、実はcreativeな仕事である。演目、振付家の選定、スタッフの確定などproduceをすることや、助成金の申請、劇場予約、出演交渉、宣伝・切符の配布から当日パンフレットの制作まで、サービス業に関わる広範囲な業務を含む。この授業では、自分たちで実際に公演を打つことをシミュレートして実体験できるようにもする。しかし今のダンスに問題意識を持つこと。これがすべてである。制作を学ぶことによって、実際に舞台に立つにあたって、実は大勢のスタッフに支えられている公演であることを自覚できれば、それだけでも十分に意味があるとと言えるだろうが、受講者の中から実際に制作の道に出てくる者がいれば、それこそは望外の幸せである。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 プロデュースとは何か</b> 【到達目標】 制作ではなく制作と記すプロデュースとは何か、作品を作る環境や条件を整備して、作家の王国を作ることである。制作という営為をなぜ大学で学ぶのかを理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第9回 助成金の申請方法</b> 【到達目標】 具体的に助成金の申請をシミュレートしてみる。申請書に書かれている項目はかえって自分たちの公演の意味や位置づけを反省させてくれる。今後の実践にも役立てる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第2回 現代のダンス状況の調査と展望を踏まえた制作</b> 【到達目標】 プロデュースとは公演を打つことを言うだけではない。どのような公演を打ち、それがダンス界にどういう意味と影響を持つか、その方向性を見定めるcreativeな営為であるという事を理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第10回 宣伝戦略</b> 【到達目標】 結局、観客動員が予算においても、評価においても、公演を決定づける要因である。それはパフォーマーの志気にも影響する。そのためにはどうやって観客を動員するのかの宣伝方法を確認する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第3回 振付家、ダンサーの選出・交渉 作品の方向性の確認</b> 【到達目標】 誰にどのようにどこでどうやって、などの具体的な戦略をたてなければならない。これが制作の一番重要な問題である。制作とは事務レベルの仕事だけではないという事を理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第11回 当日パンフレットの作成</b> 【到達目標】 公演の顔に当たるものがチラシであり当日パンフレットである。しかもこれら紙媒体は記録としても残るので、その意味は思いの外に大きい。当日パンフレットの作成には細心の注意が必要であるという事を理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第4回 会場の選定</b> 【到達目標】 会場設定が重要なことは、その公演のイメージや売りという意味だけでなく、切実に会計に影響してくる問題だからである。客入りを見越してプランをたてなければならないという事を理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第12回 切符の管理と販売、当日業務の確認</b> 【到達目標】 当日業務の中心はやはりチケットの処理にある。狭いロビーだとその混み具合によって開演時間にも影響する。しかし他にもスタッフへのケイタリング、会場との連絡など、やることは一杯ある。このことについて理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第5回 スタッフの確定</b> 【到達目標】 スタッフとは舞台の進行を全体的にチェックする舞台監督、照明を担当する照明係、音を担当する音響係、という舞台を運営して行く者たちを言う。したがってこのスタッフ選びが作品に影響を及ぼすという事を理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第13回 舞踊批評の批評</b> 【到達目標】 批評とは何か。そして舞踊の批評とは何か。作家やパフォーマーは作品を正しくわかっているのだろうか。そもそも正しい理解や解釈とは何か。観る側の論理があっている。それを確認する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第6回 マネージメントとは何か</b> 【到達目標】 マネージメントとプロデュースとはほとんど同意だが、ここでは事務レベルの仕事を目指す。creativeな作業というよりも、どう進行していくかをチェックする営業の仕事であるという事を理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第14回 舞踊批評を書く</b> 【到達目標】 実際に舞踊批評を書いてみよう。書くことで、作り手には見えていなかったことが発見できるかもしれない。見ることは実は作品を作ることと同じほどにcreativeな作業であることを理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第7回 予算の設定</b> 【到達目標】 すべての根幹はやはり予算にある。チケット収入だけで公演が成立しないなら、どこから助成金を引き出すのか、ノルマ制にするのか。支出は何か。具体的な内容について理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第15回 卒業公演について</b> 【到達目標】 実際に創作し鑑賞したわれわれの卒業公演を、創作に対する批評だけでなく、制作の視点からも反省してみたい。観客の立場から見てみることも、制作にとっては必要な視点だということを理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第8回 メセナと助成団体</b> 【到達目標】 助成とは何か。そういう助成をするメセナはどういう仕事であり、そのためにはどういった倫理や規範を持つてのぞむのか。助成基金を出す団体組織について理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 毎時間ごとに、架空の公演を想定したレポートを作成してもらいます。そのレポートを通じて制作についてさらに理解を深めて下さい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学演習（舞台上演技法）、舞踊舞台効果法						
<b>【成績評価方法】</b> 授業ごとのレポート40%、ダンス制作に関する総合的なレポート60%の割合で総合的に評価する。						

科目名	ボディ・コンディショニング			担当者	今田康二郎	
英文名	Physical Conditioning					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 身体に対する、外側(＝形)からのアプローチではなく、身体内側からのコーディネーション、分析、そして動きを研究、習得する。同時にそのメンテナンスと能力向上方法を体験し、その重要性と実践方法を考える。また呼吸がいかに身体、身体運動、さらにはダンスに対しての影響を認識するのか、その重要性と活用法を考察、実践する。そして、全身の関節を活性化すること、つまりは普段あまりアクティブではない関節を動かしてあげることにより、身体ムーブメントのポキャブラリーを広げ、かつ、動かしてやることによって筋力と、全身コーディネーションを構築する。以上の点を踏まえ、これらの知識をいかにダンスに反映させるかという点について重点を置く。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 身体を内側から観察し、問題意識を高める。</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な呼吸パターンを含むエクササイズを実際に体験し、そのコーディネーションを体験する。その後、ワークグループに分かれ、それらがどのような影響を身体にもたらしたかを研究する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業前後に自己の身体を観察し、その身体の変化を書き出す。			<b>第9回 呼吸と身体運動のシンクロナイゼーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回の内容を踏まえ、いかに呼吸と運動を関連づけるかについてワークグループごとに研究、実践する。 <b>【授業時間外学習】</b> 実際のダンスレッスンを通して、呼吸法という観点からムーブメントを最適化する。			
<b>第2回 ダンスムーブメントにおける筋肉、骨の役割と運動</b> <b>【 到達目標 】</b> ダンスにおいて、最低限知っておくべき解剖学に触れ、自身の内側からの身体認識を高める。 <b>【授業時間外学習】</b> 実際のダンスレッスンにおいて、特に大腰筋に注目し、腰椎、骨盤と股関節、大腿骨との関係を考える。			<b>第10回 アクティブ・ストレッチングの概念と重要性</b> <b>【 到達目標 】</b> アクティブ・ストレッチングとパッシブ・ストレッチングの概念を理解し、なぜ、前者がダンサーやスポーツ選手にとって必要なかを理解し、実践する。 <b>【授業時間外学習】</b> 普段各自が行っているストレッチを10種類程度あげ、アクティブ・ストレッチングかパッシブ・ストレッチングの二つに分類する。			
<b>第3回 脊椎の基本運動</b> <b>【 到達目標 】</b> 脊椎の基本運動について学び、積極的にそれらを実践する。普段慣れているムーブメントを脊椎の基本運動という点から分析、観察する。 <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活における脊椎の運動を脊椎の基本運動からの視点で観察する。			<b>第11回 リニア(2D)なムーブメントと三次元的(3D)ムーブメント</b> <b>【 到達目標 】</b> リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントを比較し、その概念がどのように全身のムーブメントに影響を与えるかについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントをそれぞれ10種類以上あげ、一覧にする。映像でも可。			
<b>第4回 肩帯、脊椎、骨盤の関係性</b> <b>【 到達目標 】</b> 肩帯と骨盤の関係性を脊椎を通して分析、認識する。さらには、それぞれに連なる四肢の運動との関連性について観察、研究する。 <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活における腰椎の運動を肩帯及び骨盤の関係から観察する。			<b>第12回 ムーブメントにおける全身コーディネーションの重要性について</b> <b>【 到達目標 】</b> 全身コーディネーションについて十分に理解し、それがどのようにムーブメントに影響し、結果的には身体の強さやコントロールを導くことができるか理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 全身コーディネーションによるムーブメントとアイソレーションによるムーブメントをそれぞれ30秒程度で実際に作ってみる。			
<b>第5回 肩帯の構造とその運動</b> <b>【 到達目標 】</b> 肩帯について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらがいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を踏まえた上で、肩帯にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。			<b>第13回 ダンサーに多くみられる身体的故障とその対策</b> <b>【 到達目標 】</b> ダンサーのけがには理解不足からくるものも多い。それを理解し、さらにどのようにしてそういったものを避けていくのかについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 過去に経験したけがを再発させないためには、どのような取り組みをすればいいのか考察する。			
<b>第6回 骨盤の構造とその運動</b> <b>【 到達目標 】</b> 骨盤について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらがいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容を踏まえた上で、骨盤にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。			<b>第14回 ダンスにおけるインテリジェント・ムーブメント(1)</b> <b>【 到達目標 】</b> これまでの内容を振り返り、それらをダンスに反映させるためのエクササイズを体験かつ、実践し、理解をする。その後、ワークグループごとにそのダンスにおける活用法について研究、議論する。 <b>【授業時間外学習】</b> それぞれがすでに踊った経験のある振り付けから、30秒程度を抜き出し、それを評価、そして、身体に負担になる部分をいかに改善できるか考察する。			
<b>第7回 呼吸の重要性と呼吸法の種類</b> <b>【 到達目標 】</b> 人間活動の原点である呼吸について学び、いろいろな種類の呼吸法をワークグループごとに研究、体験する。 <b>【授業時間外学習】</b> 日常生活のなかで、どのような状況の時にどのような呼吸をしているのか観察、認識する。呼吸という普段無意識におこなう運動に対して、発見をする。			<b>第15回 ダンスにおけるインテリジェント・ムーブメント(2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回、そして、授業時間外学習を踏まえ、身体に負担のないムーブメントによる振り付けをそれぞれが新たに制作し、その際に考察あるいは、重点を置いた点について書き出す。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業での振り付けに対して更に取り組み、発表できるレベルにまで練習する。			
<b>第8回 運動と呼吸の関連性および循環器系について</b> <b>【 到達目標 】</b> 異なる呼吸法がいかに異なる影響を身体に及ぼすかについてワークグループごとに体験し、観察をする。 <b>【授業時間外学習】</b> 前回の授業時間外学習を踏まえ、普段の生活における様々な状況を20個書き出し、それぞれの際にどのような呼吸をしているのか一覧にする。			<b>第16回 実践とフィードバック</b> <b>【 到達目標 】</b> 前回の振り付けを発表し、お互いに評価する。また、改善できる点に関してワークグループごとに議論し、研究する。 <b>【授業時間外学習】</b> 毎日の授業、レッスン、リハーサルにこれまでの知識を反映させる。			
<b>【学習上の留意点】</b> 自分や他者の身体に触れること(他者が自分の体に触れること＝ハンズオン)もある。配慮が必要な場合には、授業開始前に申し出ること。 GYROTONIC®及びGYROKINESIS®方法論に基本を置く。 GYROTONIC® and GYROKINESIS® are registered trademarks of Gyrotonic Sales Corp. and are used with their permission.						
<b>【教科書・参考書など】</b> 各自ヨガマットと、大型のバスタオルを持参のこと。						
<b>【関連科目】</b> 機能解剖学、スポーツ生理学、スポーツ運動学						
<b>【成績評価方法】</b> 実技試験70%、レポート課題30%として評価する。						

科目名	現代の舞踊論			担当者	折原美樹	
英文名	Dance Theory of Today					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 「歴史／社会／創造」をキーワードに、以下の観点から講義と実践により学び、舞踊の意味や社会的役割、職業としての可能性について考えます。 1) バレエの成立へと至る西欧舞踊史を、文献と実践の両面から学びます。視野を広げ、表現を豊かにします。 2) 舞踊の持つ社会的な意味を理解することにより、現代社会における舞踊の位置づけ、可能性・必要性などを主体的に考察します。 3) 日本における洋舞受容から現代までの歴史を概観し、自らの立場を省察、将来のヴィジョンへと繋げていきます。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 自分の歴史</b> 【 到達目標 】 本講義の導入として、自分自身の舞踊歴・活動歴を振り返り、自らの関心の方向性、現時点での課題や将来像など、問題意識を明確にする。  【授業時間外学習】 明確にされた問題について、関連する資料を調べるなどして考察を深めておく。			<b>第9回 サロンとステージ</b> 【 到達目標 】 19世紀の社交舞踏から、ワルツとポロネーズを中心に実習する。社交舞踏のレパートリーと舞台作品の関連についても見ていく。  【授業時間外学習】 舞台作品と社交舞踏それぞれについて、現代社会でのあり方について考えてみる。			
<b>第2回 ヨーロッパの社会とダンス</b> 【 到達目標 】 15世紀から19世紀までの西欧史を概観し、西欧社会におけるダンスの意味・役割を知る。バレエ成立に至る社会的背景に関心を持つ。  【授業時間外学習】 15世紀から19世紀までの西欧史を、舞踊との関連で把握できるように整理しておく。			<b>第10回 日本における洋舞受容とその後の歴史</b> 【 到達目標 】 社交ダンスとバレエを軸に、日本の環境に目を向け、現代における課題を発見する。  【授業時間外学習】 興味のあるトピックについて掘り下げて調べる。			
<b>第3回 研究と実践 1: ルネサンス時代のダンスと音楽</b> 【 到達目標 】 16世紀の舞踊文献の記述をもとに、舞踊の再構築（実践）を試みる。ブランル、バヴァース、ガイヤルド等を実習する。  【授業時間外学習】 「立つ」「歩く」「跳ぶ」などの基本的な動作について、ポイントを整理する。			<b>第11回 歴史的舞踊の復興</b> 【 到達目標 】 18世紀までの宮廷舞踏は19世紀以降どのように取り上げられてきたか、その例を辿る。ナショナリズムなど社会的な背景とも関連づけて見ていく。  【授業時間外学習】 作品の復元・再演、改作、翻案などの概念について考える。			
<b>第4回 研究と実践 2: 17世紀イギリスの社会とダンス</b> 【 到達目標 】 1650年代から出版が始まり、その後の社交舞踏に影響を与えたカントリーダンスを実習する。  【授業時間外学習】 社交舞踏において重視される身体性とは何か。現代的なダンスのイメージと比較してみる。			<b>第12回 課題を選ぶ: リコンストラクション、クリエイション、リサーチ</b> 【 到達目標 】 講義で触れてきた様々な観点をふまえ、提示された選択肢を参考にしながら、自分の取り組み立場を決め、課題の方向性を絞る。  【授業時間外学習】 自分の選択に即して課題に取り組む。			
<b>第5回 研究と実践 3: 17世紀～18世紀、フランスの社会とダンス</b> 【 到達目標 】 絶対王政下の社会とダンスについて、史料に基づき実習する。宮廷舞踏であるメヌエット、ガヴォット等を体験し、音楽との関わりにも関心を持つ。  【授業時間外学習】 クラシックバレエの基礎を成す足のポジションについて、本来の意味をよく確認する。			<b>第13回 課題に取り組む</b> 【 到達目標 】 リコンストラクション、クリエイション、リサーチなど各々の立場から課題の進捗を発表し、相互の取り組みを理解し尊重し、意見を出し合う。  【授業時間外学習】 自分の課題に対して、別な視点から見直してみる。			
<b>第6回 バレエと宮廷舞踏</b> 【 到達目標 】 宮廷バレエからオペラ、バレエへの展開を学ぶ。現代のオペラ、バレエ、シルク（サーカス）、ミュージカルなどと比較しながら理解する。  【授業時間外学習】 ダンスの歴史とともに、同時代の音楽、美術、文学などにも関心を広げて調べてみる。			<b>第14回 課題を仕上げる</b> 【 到達目標 】 前回の意見交換を踏まえ、課題の仕上げに取り組む。  【授業時間外学習】 仕上がりに対して、客観的な立場から見直してみる。			
<b>第7回 初期バレエの振付作品実習</b> 【 到達目標 】 1700年代の記譜をもとに、記録に残された最初期のバレエ振付作品を実習する。  【授業時間外学習】 舞踊の記譜・記録方法について、様々な例を調べてみる。			<b>第15回 課題発表</b> 【 到達目標 】 課題を完成させ、発表し、ディスカッションを行う。  【授業時間外学習】 発表した課題について、ディスカッションを踏まえたレポートを作成する。併せて初回講義に意識したことを振り返り、改めて今後の課題を見いだす。			
<b>第8回 初期バレエの振付作品実習</b> 【 到達目標 】 前回の実習を経て、記譜の読解から発展させ、表現の可能性を模索する。  【授業時間外学習】 自分の表現の特徴や傾向について考える。						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義には動きやすい服装で参加してください。筆記用具は必携です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：「バレエとダンスの歴史—欧米劇場舞踊史」（鈴木晶編著、平凡社、2012年）を用います。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 最終発表（50%）とレポート（50%）により評価します。						

科目名	ダンスセラピー論			担当者	八木ありさ	
英文名	Theory of Dance Therapy					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3			専門・選択		
【目的とねらい】 心理療法の一手法としてのダンス・セラピー（ダンス／ムーブメント・セラピー）の理論的背景を理解し、実践の特徴を体験的に学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ダンス・セラピーの理論的背景① 【到達目標】 「ダンス・セラピー」の考え方が生まれた経緯を、社会的背景とともに学び、ダンス・セラピーの定義について理解する。  【授業時間外学習】 19世紀末～20世紀初頭の欧米文化の発展とモダンダンスの出現の経緯について概観する。			第9回 ダンス・セラピーの理論的背景② 【到達目標】 「ダンス・セラピー」の効果の確認方法を概観し、実習での体験と関係づけて理解する。  【授業時間外学習】 自己概念について調べ、自己有効感や自尊感情の機能を理解する。			
第2回 鏡の世界 【到達目標】 模倣が交流をもたらす可能性を持つことを理解し、模倣を超えて共通の体験が生み出される瞬間を体得する。  【授業時間外学習】 社会脳について調べ、その働きについて理解する。			第10回 熱狂的なダンスと感情解放 【到達目標】 ティッシュペーパーを用いた熱狂的なダンスを通じて、ダンスやイメージを通じた感情解放の構造を理解する。  【授業時間外学習】 「カタルシス」について調べ、スポーツ、演劇、音楽などとの関わりを理解する。			
第3回 空間と距離 【到達目標】 私たちが基本的に持っている空間の感覚が集団や社会のなかでどのような働きをするかを学び、「距離感」の働きを理解する。  【授業時間外学習】 エドワード T. ホールによる「プロクセミクス」の理論を理解する。			第11回 グループ・セラピーのダイナミズム 【到達目標】 多様な人が共にいることで生じる有機的な反応の連鎖について理解する。  【授業時間外学習】 「集団」の概念について調べ、その機能を理解する。			
第4回 形や運動の質（時間・空間・力） 【到達目標】 基本科目で学んできたラバンの運動理論を参考に、動きの外観と内観について比較し、多様な運動質を反映できるようにする。また、これらの運動質が特定のイメージと結びつくことを学ぶ。  【授業時間外学習】 ルドルフ・フォン・ラバンの運動理論「エフォートシステム」について復習し、その構造を理解する。			第12回 イメージ、ファンタジー、見立ての世界 【到達目標】 動きの中で生み出されるイメージを発展させ、統合してゆくプロセスについて理解する。  【授業時間外学習】 「感情」の成り立ちを調べ、多様な感情の種類と生活上の問題とを結びつけて理解する。			
第5回 身体部位の象徴性① 【到達目標】 身体各部の持つ機能や動きの特性と、生きることやイメージとの関連について学び、身体表現への理解を深める。  【授業時間外学習】 人体の構造（解剖学）を復習し、主要各部の機能を理解する。			第13回 言語化の持つ意味① 【到達目標】 非言語的活動を支える言語の役割を学ぶ。また、適切な言葉かけの要点を理解する。  【授業時間外学習】 非言語コミュニケーションのチャンネルをリストアップし、それぞれの特徴を概観する。			
第6回 身体部位の象徴性② 【到達目標】 身体各部の持つ機能や動きの特性と、生きることやイメージとの関連について学び、身体表現への理解を深める。  【授業時間外学習】 「象徴」の仕組みと機能について理解する。			第14回 言語化の持つ意味② 【到達目標】 各自のテーマについて、限られた条件の中で表現しあう。これを基に、他者の表現について適切なコメントができるようになる。  【授業時間外学習】 「マイクロ・カウンセリング」について調べ、構造を知る。			
第7回 描画とダンス・セラピー 【到達目標】 非言語表現の1つである「絵」をとりあげ、その特性を学ぶと共に描画に表れるダンス前後の心的変化を体験する。  【授業時間外学習】 「芸術療法」の種類を調べ、それぞれの特徴を理解する。			第15回 ダンス・セラピーの可能性と限界 【到達目標】 ダンス・セラピーが効果を発揮するのはどのような場合か、また避けるとするならばどのような場合かについて理解する。  【授業時間外学習】 14回の授業全体を振り返り、疑問点を整理する。			
第8回 民族舞踊とセラピー 【到達目標】 文化ごとに育った舞踊の違い、人間文化と舞踊の関わりについて理解を深める。隊形やリズムがもたらす気分の違いを理解する。  【授業時間外学習】 アジアとヨーロッパなど異なる文化の中にある民族舞踊をそれぞれ一つずつ取り上げ、来歴と、踊り方の特徴を比較する。						
【学習上の留意点】 講義と演習を併せて行なうので、動きやすい服装で臨むこと。授業の趣旨は「セラピー論」を理解することであって「セラピー」そのものの実践ではない。しかし、演習の中では自分や他の参加者の内面に触れる場面もあるので、その時々思いや体験を互いに大切にできるように、誠意を持って取り組んでほしい。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求める。 なお、この科目はダンスセラピー・リーダーの資格取得を目指す学生には必修科目である。						
【教科書・参考書など】 適宜、印刷資料を配布する。 参考書：『ダンス・セラピーの理論と方法』 八木ありさ著 彩流社出版(2008) 『ダンス・セラピーの理論と実践』 平井タカネ監修 ジヤース教育新社出版(2012)						
【関連科目】 人間心理の理解、カウンセリング論、舞踊方法学演習（高齢者・障害者指導法）						
【成績評価方法】 授業内で確認する、内容理解や課題の達成度（60％）と、個人レポート課題の得点（40％）を併せて成績評価する。						

科目名	舞踊分析法演習			担当者	松澤慶信	
英文名	Seminar in Analytic Methods of Dance					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> representationあるいは感情表出が舞踊表現だと考えるような、意味論的意味に今もなお従属させられている舞踊作品の在り方に疑義を呈し、その呪縛を果敢に断ち切ることが、この授業の目的である。 この挑戦の可能性を根底から支える理念は、舞踊の存在理由に関わる、身体と空間、身体と音楽との関係、つまりどのような時間分節と空間分節をもって、身体はそれらと相見えるのかを見極めることにある。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【 到達目標 】 この授業の位置づけを確認したい。物語論的意味論的意味から作品を作るのではなく、あくまでもフォルマリストックな構造論的契機から作品を作ることを確認する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第9回 chance operation I</b> 【 到達目標 】 床空間を同じ面積の四角形で16分割してナンバリングする。ペーパー上で1分間に移動するルールを作る。その作成された時間・空間の分節にそって、実際にその床空間を移動する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第2回 動きの言葉の採集</b> 【 到達目標 】 動くことを同定する動きに関する言葉を採集する。しかしそれをシャッフルして、単に動くための契機として扱う。動きのヴォキャブラリーを捜すためである。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第10回 chance operation II</b> 【 到達目標 】 チャンス・オペレーションとして機能させるために、床空間のナンバリングを作成図を終えてからする、あるいはその作成図を無作為に選んだ第三者に渡して空間を移動するようにする。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第3回 動きの言葉からの実践</b> 【 到達目標 】 上記した言葉の語彙から動きの語彙へと転換して、その動きの語彙を使ってシークエンスを作る。そしてその並べ方をどうすれば全体が現れてくるのかを見る。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第11回 total cordination I</b> 【 到達目標 】 上記のチャンス・オペレーションによって移動するフォーメーションが、グルーピングしたダンサーによって、どう変わってくるか。その集団による群舞を確認すること。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第4回 構成 振り移し</b> 【 到達目標 】 上記した全体的構造を意識して作った振付を、今度は第三者に振り移す作業に入る。どうやって相手に伝えるか、身体の動きのキャッチボールを反省する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第12回 total cordination II</b> 【 到達目標 】 チャンス・オペレーションによって作成されたフォーメーションを、無作為に選ばれたグループが動く中に、しかし何らかの全体性統一性が現れてくることの確認をしたい。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第5回 カノンとヴァリエーション</b> 【 到達目標 】 動きの構成であるフォーメーションを、動きを繰り返すカノンと、一つの動きから少しずつ変形させていくヴァリエーションとによって展開する。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第13回 作品発表 I</b> 【 到達目標 】 この授業で取り組んできた、動きの採集、語彙作り、構成、フォーメーション作業を各人が有効に利用して、作品を作ること。どの方法に重きを置いて作業するかも各人の自由。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第6回 音合わせ</b> 【 到達目標 】 音楽というよりも音そのものに合わせて動く訓練。音楽の時間分節と動きの時間分節を呼応させる作業であり、動きの時間分節の自立性を阻止して音にあえて従属させる作業である。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第14回 作品発表 II</b> 【 到達目標 】 作品発表を行う。鑑賞されることを前提に創作すること。観客の視線が作品を鑑める。見る・見られることを通じて、作品の完成度を高めることと、見ることの自覚を持つこと。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			
<b>第7回 身体部位コンタクト・ワーク</b> 【 到達目標 】 身体部位を表と裏に分けて、全部で25ほどのポイントをそこに刻印して、無作為に選んだその番号にそってデュエットの二人が交互に接触するようにする。その上で流れを作ること。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。			<b>第15回 講評</b> 【 到達目標 】 各人の作品の講評を全員で行って、方法だけでなく、その作業手順、方法論そのものを振り返る。創作するとは結局どういうことか。身体が営為を広くとらえたい。それもダンスなのだ。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。 ※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
<b>第8回 空間配置と幾何学的Formation</b> 【 到達目標 】 基本的にはまずオーソドックスな幾何学的な図形、線や円の中心による対称形を確認することから始める。その上で少しずつそれをずらしていき、やがては自由な空間を獲得すること。  【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 振付経験は問わない。むしろ無垢な身体がここでの方法に立ち向かうことをのぞむ。 3年次前期開講の「舞踊創作原論」と3年次後期開講の「舞台演出論」と両方とも履修して、全体でダンスを創作することが身体の営為であることを自覚してほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 舞台演出論、舞踊創作原論						
<b>【成績評価方法】</b> 各項目での達成度をその都度見て考慮する。発表内容による評価100%。						

科目名	舞台芸術論演習（舞踊音楽制作）			担当者	浅野 淳	
英文名	Seminar in Performing Art Theory (Accompaniment and Composition)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊と音楽は、無音も含めて切り離せない関係を持つといえるだろう。モダンからコンテンポラリーまで、実際の作品を例として取り上げながら、その表現における多様性、可能性を探ることによって、舞踊と音楽の関係性についての知識と理解を深めるとともに、音楽の選曲、編集、そして音素材を使用した音楽の構成を、実際に体験することによって、舞踊創作及び音楽の創作における発想力と表現力を養うことを目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 音楽とダンスについて：無音と音楽</b> 【 到達目標 】 無音、静寂、音の始まりと終わり、曲間等について。音の与える影響について理解を深める。  【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。			<b>第9回 実習3：音楽編集の実践2</b> 【 到達目標 】 前回の続き。エフェクト等の使用法も含めた実習。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			
<b>第2回 ダンスと音楽編曲、編集、効果について</b> 【 到達目標 】 作品や実例を通しての理解。  【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。			<b>第10回 実習4：音楽編集の仕上げとファイルの提出</b> 【 到達目標 】 編集した音源ファイルの仕上げと提出。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			
<b>第3回 ダンスと音楽の多様性1（効果、エフェクト）</b> 【 到達目標 】 音素材に効果＝エフェクトをかけた実例を通して、その与える影響を学ぶ。  【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。			<b>第11回 実習5：音楽構成の実践1</b> 【 到達目標 】 用意された短い音（断片や効果音）を使用して、ダンスのための音楽として構成する。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			
<b>第4回 ダンスと音楽の多様性2（ミニマル・ミュージック他）</b> 【 到達目標 】 ダンスで比較的頻繁に使用される、ミニマル・ミュージックと呼ばれる音楽の構造や理念、実際の使用例を通して理解を深める。  【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。			<b>第12回 実習6：音楽構成の実践2</b> 【 到達目標 】 前回の続き。様々な手法にのっとった模索、試行錯誤をしてもらい、音楽としての仕上げを目指す。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			
<b>第5回 ダンスと音楽の多様性3（ミニマル・ミュージック以降）</b> 【 到達目標 】 前回からの続き、より多様な表現を探る。  【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。			<b>第13回 実習7：音楽構成の実践3</b> 【 到達目標 】 前回の続き。音楽をどのように構成して仕上げるか、方針を固める。場合によっては別の音源での構成も目指す。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			
<b>第6回 ダンスと音楽の多様性4（ノイズ、インダストリアル他）</b> 【 到達目標 】 雑音や効果音を音として使用した作品をみてゆく。  【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。			<b>第14回 実習8：音楽構成の仕上げとファイルの提出</b> 【 到達目標 】 構成した音源ファイルの仕上げと提出を目指す。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			
<b>第7回 実習1：音楽ソフトの使用法、実践</b> 【 到達目標 】 実際にPCで音楽ソフトを使用して操作法を学ぶ。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			<b>第15回 実習9：提出ファイルの検証</b> 【 到達目標 】 提出された2種のファイルの中から具体的な音源をいくつか聴いて、どのように出来上がったのかを検証し、全体のまとめとする。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。			
<b>第8回 実習2：音楽編集の実践1</b> 【 到達目標 】 用意された音楽素材を利用した編集の実習。  【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。						
<b>【学習上の留意点】</b> PCで音楽ソフトを使用した実習なので、最低、PCで文字（全角及び半角）を打てる程度にはPCに慣れておくことが望ましい。また、前半の講義で実習のための効果等についての説明も随時加えるので、各自、積極的にノートやメモを取ることが望ましい。毎回、講義の最後にミニ・レポートを提出してもらう。また、後半の実習において情報処理室で使用するPCの台数に限りがあるため、受講希望者が多数の場合、前期学期末にレポートを提出してもらい受講者数の調整を行なうこととするので予め留意しておいてほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 実習の際、配布する音楽ソフトの使用法についてのプリント (実習時に適宜参照してもらうので毎回忘れずに持ってくること。)						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 実習で制作する音楽ファイル（編集と構成の2種）：70%、講義時に提出するミニ・レポート：30%						

科目名	舞台芸術論演習（マルチメディア・パフォーマンス）			担当者	高野美和子	
英文名	Seminar in Performing Art Theory (Multimedia Performance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3			専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> マルチメディア・パフォーマンスは、音や映像など様々なメディアとともに上演されている。この授業では、様々なメディア（主に映像や音）の特徴や効果およびPCによる編集、加工処理方法を学び、どのようにそれらをダンスのなかに取り込むことができるのか、その可能性を探りつつ、マルチメディア・パフォーマンスが成立していく過程を、実践を通じて学んでいく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション（マルチメディア・パフォーマンスとは）</b> <b>【 到達目標 】</b> 過去の作品を観ながら、マルチメディア・パフォーマンスの概要と背景、授業でとりあげる内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の要点をまとめ、第5回に提出する映像作品のアウトラインを考える。			<b>第9回 グループ別による映像、音、振付制作活動③</b> <b>【 到達目標 】</b> 8回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ制作を行う。			
<b>第2回 ビデオ撮影、映像編集の方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 映像作品制作のためのビデオ撮影およびPCによる映像編集の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を考える。			<b>第10回 グループ別による映像、音、振付制作活動④</b> <b>【 到達目標 】</b> 9回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ制作を行う。			
<b>第3回 ビデオ撮影、映像編集の方法と実践</b> <b>【 到達目標 】</b> 2回目に引き続き映像撮影編集の方法を実践を通じて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を練る。			<b>第11回 グループ別による映像、音、振付制作活動⑤</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の中の各メディアのバランスを調整しながら、作品全体をまとめ上げることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表に向けた照明、音響、映像、振付等の調整を行う。			
<b>第4回 映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作）</b> <b>【 到達目標 】</b> 映像編集と並行して、録音、音編集の方法を学び、短い映像作品を制作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の手直しを行う。			<b>第12回 発表スペースでのグループ作品制作①</b> <b>【 到達目標 】</b> 発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表用の各メディアの準備を進める。			
<b>第5回 映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作、提出）</b> <b>【 到達目標 】</b> 映像、音編集の実践を通じて制作した映像作品を提出する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第6回のグループ制作の構想を考える。			<b>第13回 発表スペースでのグループ作品制作②</b> <b>【 到達目標 】</b> 発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表作品の練習を行う。			
<b>第6回 グループ別によるコンセプト、テーマの話し合い</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ毎にマルチメディア・パフォーマンス作品のコンセプトやテーマについて話し合い、グループ作品の方向性を理解、説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ制作に必要な材料を準備する。			<b>第14回 発表スペースでのグループ作品制作・準備</b> <b>【 到達目標 】</b> 次週のグループ作品発表に向けて、機材・片づけも含め、協力しながら作品リハーサルを実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 発表作品の練習を行う。			
<b>第7回 グループ別による映像、音、振付制作活動①</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ作品のコンセプトに沿って、映像、音、照明、振付等のプランを立て、役割分担しながら、計画的に制作を進める。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ制作で担当する作業の準備を進める。			<b>第15回 グループ作品発表、感想、講評</b> <b>【 到達目標 】</b> グループ作品を発表するとともに、各グループの発表を鑑賞し、作品について振り返り、合評しあうことができる。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ発表の振り返りと他グループの感想をまとめる。			
<b>第8回 グループ別による映像、音、振付制作活動②</b> <b>【 到達目標 】</b> 7回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ制作を行う。						
<b>【学習上の留意点】</b> 短い時間の中で多くの機材を使用しながら授業をしていくため、機材の取り扱いをきちんとしながら、計画的に毎時間の課題を進めていくことが求められる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞台芸術論演習（舞踊音楽制作）、舞踊学演習（ダンスカレントA）、情報処理（情報機器の操作を含む）、メディアテクノロジー						
<b>【成績評価方法】</b> 個々の映像作品およびグループ作品の達成度を80%、各メディア機材の使用法理解度を20%の割合として評価する。						

科目名	舞踊学演習（創作2）			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Seminar in Dance (Choreography 2)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊作品の創作に必要な様々な手法についての知識を得るとともに、オリジナリティのある固有のダンス語彙を生み出していく方法について、ソロ、デュオ、グループ作品について実践的に学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業進行についてのオリエンテーション</b> 【 到達目標 】 舞踊作品の創作についての概念を学び、今後の授業の進行について理解する。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			<b>第9回 テーマからの創作法 ー絵からのアプローチ②</b> 【 到達目標 】 絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			
<b>第2回 ネガティブスペース、ポジティブスペースの理解</b> 【 到達目標 】 ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解する。 ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解し、短いフレーズを題材に創作を行う。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			<b>第10回 テーマからの創作法 ー音楽からのアプローチ①</b> 【 到達目標 】 音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			
<b>第3回 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用</b> 【 到達目標 】 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用方法について学ぶ。 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用について、パートナーがいる状態とない状態の差異等を学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			<b>第11回 テーマからの創作法 ー音楽からのアプローチ②</b> 【 到達目標 】 音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			
<b>第4回 9ポイントの理解と応用</b> 【 到達目標 】 9ポイントの考え方とその応用方法について理解する。 ラバンの9ポイントの考え方を理解し、基本となる短いフレーズを創作し、基本フレーズをもとに、ダイナミクス、空間の変化を加え、その応用方法について学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			<b>第12回 自由創作①</b> 【 到達目標 】 テーマの設定と具体的なアプローチの決定を行う。 これまで授業で扱ってきた様々な手法をもとに、グループごとでテーマを設定し、作品への具体的なアプローチの仕方を決める。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			
<b>第5回 トランスフォーメーションの理解と応用</b> 【 到達目標 】 トランスフォーメーションの考え方を理解する。 短いフレーズをもとに、体軸、空間、体の部位を変化させることによりフレーズの応用の可能性を探る。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			<b>第13回 自由創作②</b> 【 到達目標 】 ラフスケッチからより具体的な作品に立ち上げる。 前回設定したテーマやアプローチの仕方をもとに創作を進める。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			
<b>第6回 テーマからの創作法 ー言葉からのアプローチ①</b> 【 到達目標 】 言葉を場面創造に置き換える手法について学ぶ。 詩をもとに、そこから得たインスピレーションをインスタントコンポジションの手法を用い、作品の場面創造に利用する方法について学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			<b>第14回 自由創作③ ー推敲と踊りこみー</b> 【 到達目標 】 完成度を高める。 作品を推敲し、踊りこみを行い完成度を高める。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			
<b>第7回 テーマからの創作法 ー言葉からのアプローチ②</b> 【 到達目標 】 言葉を動きの語彙の創出に生かす手法について学ぶ。 詩をもとに短いソロを創作する。言葉からのインスピレーションを個の動きのボキャブラリーに利用する方法について学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			<b>第15回 自由創作 ー発表と総括ー</b> 【 到達目標 】 作品を発表レベルにまで高める。 グループごとに作品の実演発表を行い、作品の立ち上げ→創作（作品化）→発表を経験し、舞踊作品の創作について総合的に理解を深める。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。			
<b>第8回 テーマからの創作法 ー絵からのアプローチ①</b> 【 到達目標 】 絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。 静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。  【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業の内容は個やグループによる創作活動が主になるため、自己の体調、スケジュール管理をしっかり行い、主体的に取り組む姿勢が求められる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に参考資料を配布。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習（コンテンポラリーダンス基礎）、舞踊学演習（創作1）、舞踊学演習（レパートリー研究）、舞踊学演習（舞台上演法）、舞踊舞台効果法						
<b>【成績評価方法】</b> 評価基準は、実技課題70パーセント、レポート課題30パーセントとし、総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（レパートリー研究）			担当者	石川 浩子	
英文名	Seminar in Dance (Repertory Investigation)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 文部科学省は、平成24年度から中学校の体育に、現代的リズムダンスの完全必修化を唱えている。しかしながら、そうしたダンスに深い理解と技能を持つ人材は少ない。多様化したダンスの様式を学び、教育者として、または、舞踊としてのダンスを追求し極めることをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分が知っている限りのジャズダンスの種類を調べてくる。			<b>第9回 ダンス③-1</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス③について研究、創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 研究対象としたダンス③について調べ、創作する。			
<b>第2回 多様化したジャズダンスの研究</b> <b>【 到達目標 】</b> 現在のジャズダンスの種類を出し話し合い、その中から研究したい3～4種類を決定する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回研究することについて予習する。			<b>第10回 ダンス③-2</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス③について研究、創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 研究対象としたダンス③について調べ、創作する。			
<b>第3回 ダンス①-1</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス①について、研究、創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 研究対象としたダンス①について調べ、創作する。			<b>第11回 ダンス③-3 発表（評価対象とする）</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス③を発表し、話し合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作に使用したい曲やコンセプトを考えてくる。			
<b>第4回 ダンス①-2</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス①について、研究、創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 研究対象としたダンス①について調べ、創作する。			<b>第12回 作品創作</b> <b>【 到達目標 】</b> 少人数のグループに分かれ、研究対象のダンスを決め、1分間ぐらいの作品作りのためのミーティングを始め、創作をする。  <b>【授業時間外学習】</b> グループごとに、曲を選曲し、構成をまとめる。			
<b>第5回 ダンス①-3 発表（評価対象とする）</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス①を発表し、話し合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回研究することについて予習する。			<b>第13回 作品創作</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品を作る。  <b>【授業時間外学習】</b> 創作した作品の練習をする。			
<b>第6回 ダンス②-1</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス②について、研究、創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 研究対象としたダンス②について調べ、創作する。			<b>第14回 作品創作発表（評価対象とする）</b> <b>【 到達目標 】</b> 最終練習後、発表し、全員で鑑賞する。  <b>【授業時間外学習】</b> 創作した作品のレポート提出のための資料をそろえる。			
<b>第7回 ダンス②-2</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス②について研究、創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> 研究対象としたダンス②について調べ、創作する。			<b>第15回 最終確認 レポート作成</b> <b>【 到達目標 】</b> これまで、研究したダンスの復習と最終確認をする。また、それぞれの見解のレポートを作成し、提出する。  <b>【授業時間外学習】</b> 創作した作品のレポートをまとめる。			
<b>第8回 研究対象②-3 発表（評価対象とする）</b> <b>【 到達目標 】</b> 研究対象としたダンス②を発表し、話し合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回研究することについて予習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 固定概念にとらわれない柔軟な創造力が求められる。個人であれ、グループであれ、積極的に取り組む必要があります。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み方40%、レポート20%、作品発表40%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（レパートリー研究）			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Seminar in Dance (Repertory Investigation)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3			専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊の歴史の中で優れた評価を受けた作品を取り上げ、そこで踊られるダンスのテクニックや振付法を実践的に学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 授業進行についてのオリエンテーション</b> 【 到達目標 】 レパートリー作品という概念及び授業の進行について理解する。  【授業時間外学習】 過去の著名な作品の映像を鑑賞し、作品のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			<b>第9回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ④</b> 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			
<b>第2回 レパートリー作品を学ぶ「The Rite of Spring」①</b> 【 到達目標 】 「The Rite of Spring」（振付：岩淵）を題材にコンセプト、振りを学ぶ。 岩淵のレパートリー作品「The Rite of Spring」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。 【授業時間外学習】 過去の著名な作品の映像を鑑賞し、作品のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			<b>第10回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑤</b> 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			
<b>第3回 レパートリー作品を学ぶ「The Rite of Spring」②</b> 【 到達目標 】 「The Rite of Spring」（振付：岩淵）を題材にコンセプト、振りを学ぶ。 岩淵のレパートリー作品「The Rite of Spring」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			<b>第11回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑥</b> 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行い、オリジナル作品に近い形で再現できるようにする。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			
<b>第4回 レパートリー作品を学ぶ「1hour before Sunset」①</b> 【 到達目標 】 「1hour before Sunset」（振付：岩淵）を題材にコンセプト、振りを学ぶ。 岩淵のレパートリー作品「1hour before Sunset」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			<b>第12回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑦</b> 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			
<b>第5回 レパートリー作品を学ぶ「1hour before Sunset」②</b> 【 到達目標 】 「1hour before Sunset」（振付：岩淵）を題材にコンセプト、振りを学ぶ。 岩淵のレパートリー作品「1hour before Sunset」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			<b>第13回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑧</b> 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			
<b>第6回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ①</b> 【 到達目標 】 学びたい作品を選択する。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			<b>第14回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑨</b> 【 到達目標 】 作品の分析の精度を高め、選択した作品を再現できるようにする。 前回の発表から得たフィードバックをもとに、作品の振り起こし、分析の精度を高める。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			
<b>第7回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ②</b> 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			<b>第15回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑩</b> 【 到達目標 】 選択した作品の特徴を身体的、論理的に理解し、表現できるようにする。 グループごとに、選択した作品の口頭発表、実演発表を行い、各レパートリー作品の特徴について分析し、理解を深める。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。			
<b>第8回 著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ③</b> 【 到達目標 】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。 【授業時間外学習】 著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。						
<b>【学習上の留意点】</b> 国内外の著名な振付家のレパートリー作品を学ぶことを通して、振りを覚えるだけでなく、その背景となっている作家の思想等にも目をむけて、より深くレパートリーを研究するようにする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習（コンテンポラリーダンス基礎）、舞踊学演習（創作2）						
<b>【成績評価方法】</b> 評価基準は、実技課題70パーセント、レポート課題30パーセントとし、総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（レパートリー研究）			担当者	渡 辺 碧	
英文名	Seminar in Dance (Repertory Investigation)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> チャイコフスキー三大バレエの一つであり、クラシックバレエの代表作でもある、『白鳥の湖』を取り上げる。本授業では、世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の中から、マリウス・プティパ版、ウラジミール・ブルメイステル版、ユリー・グリゴロヴィチ版を扱う。各版のメソッドや振付・演出などを、映像を元に分析し比較することで、それぞれの作品の真髄を追求することを目的とする。グループワークで研究をすることにより、共同研究の方法・在り方を学び、コミュニケーション能力を高める。また発表をすることでプレゼンテーション（以下、プレゼンとする）の力をつけることをねらいとする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 各版を理解し、グループ分けをする。今後の予定の確認をする。			<b>第9回 マリウス・プティパ版第2幕、隊形分析と発表</b> <b>【 到達目標 】</b> マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。			
<b>【授業時間外学習】</b> 世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の種類を調べる。			<b>【授業時間外学習】</b> 第10回の発表の準備をする。			
<b>第2回 『白鳥の湖』の歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> バレエの歴史において、『白鳥の湖』の位置づけを理解出来る。どのようにして『白鳥の湖』が生まれたのかを理解する。			<b>第10回 ウラジミール・ブルメイステル版第2幕、隊形分析と発表</b> <b>【 到達目標 】</b> ウラジミール・ブルメイステル版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。			
<b>【授業時間外学習】</b> バレエの歴史を再度学び、復習する。第3回のプレゼンの準備をする。			<b>【授業時間外学習】</b> 第11回の発表の準備をする。			
<b>第3回 マリウス・プティパについて</b> <b>【 到達目標 】</b> 振付家マリウス・プティパについて理解し、プレゼン出来る。			<b>第11回 ユリー・グリゴロヴィチ版第2幕、隊形分析と発表</b> <b>【 到達目標 】</b> ユリー・グリゴロヴィチ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。			
<b>【授業時間外学習】</b> マリウス・プティパが活躍した当時のバレエ史を復習する。第4回のプレゼンの準備をする。			<b>【授業時間外学習】</b> 第12回の発表の準備をする。			
<b>第4回 ウラジミール・ブルメイステルについて</b> <b>【 到達目標 】</b> 振付家ウラジミール・ブルメイステルについて理解し、プレゼン出来る。			<b>第12回 マリウス・プティパ版第4幕、隊形分析と発表</b> <b>【 到達目標 】</b> マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。			
<b>【授業時間外学習】</b> ウラジミール・ブルメイステルが活躍した当時のバレエ史を復習する。第5回のプレゼンの準備をする。			<b>【授業時間外学習】</b> 第13回の発表の準備をする。			
<b>第5回 ユリー・グリゴロヴィチについて</b> <b>【 到達目標 】</b> 振付家ユリー・グリゴロヴィチについて理解し、プレゼン出来る。			<b>第13回 ウラジミール・ブルメイステル版第4幕、隊形分析と発表</b> <b>【 到達目標 】</b> ウラジミール・ブルメイステル版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。			
<b>【授業時間外学習】</b> ユリー・グリゴロヴィチが活躍した当時のバレエ史を復習する。第6回のプレゼンの準備をする。			<b>【授業時間外学習】</b> 第14回の発表の準備をする。			
<b>第6回 マリウス・プティパ版のストーリーと演出</b> <b>【 到達目標 】</b> マリウス・プティパ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。			<b>第14回 ユリー・グリゴロヴィチ版第4幕、隊形分析と発表</b> <b>【 到達目標 】</b> ユリー・グリゴロヴィチ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。			
<b>【授業時間外学習】</b> 第7回のプレゼンの準備をする。			<b>【授業時間外学習】</b> これまでの各版の『白鳥の湖』を振り返り、まとめる。			
<b>第7回 ウラジミール・ブルメイステル版のストーリーと演出</b> <b>【 到達目標 】</b> ウラジミール・ブルメイステル版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。			<b>第15回 他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞・考察</b> <b>【 到達目標 】</b> 各版の『白鳥の湖』の特徴を考察、比較し説明することが出来る。また他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞し、作品の奥深さを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 第8回のプレゼンの準備をする。			<b>【授業時間外学習】</b> 15回の授業を振り返り、授業の反省・感想をまとめる。			
<b>第8回 ユリー・グリゴロヴィチ版のストーリーと演出</b> <b>【 到達目標 】</b> ユリー・グリゴロヴィチ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。						
<b>【授業時間外学習】</b> 第9回の発表の準備をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> この演習はグループワークが主であり、資料作成・プレゼンの準備などを受講者が積極的に協力して、全員で行えるようにする事。プレゼンの際には、資料配付、DVD上映、パワーポイント、板書などを駆使し、聴衆の理解度を高めるよう努める。毎回の資料や、プレゼンの内容が事前に準備されていないと授業が進行しないという事を、受講者全員が理解し、与えられた課題に責任を持って取り組む事。 DVDに登場する出演人数よりも縮小版に作り替えて発表するため、事前準備を徹底して行い、発表当日は衣装を着て行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜、参考資料を各自で配付する。 「永遠の白鳥の湖」（森田 稔／新書館） 「踊る世紀」（鈴木 晶／新書館）						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学演習（クラシックバレエ1）、舞踊学演習（クラシックバレエ2）、舞台芸術論、比較舞踊学						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度40%、レポート40%、学習意欲・関心・積極性20%を総合的に評価します。						

科目名	舞踊学演習（舞台上演法）			担当者	石川 浩子	
英文名	Seminar in Dance (Performance and Theater Workshop)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【 到達目標 】 舞台上演法の授業の進め方について理解する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			<b>第9回 作品づくり5</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			
<b>第2回 制作について</b> 【 到達目標 】 制作の仕事について理解する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			<b>第10回 作品づくり6</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			
<b>第3回 照明シートの書き方</b> 【 到達目標 】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			<b>第11回 中間発表</b> 【 到達目標 】 作品を発表しあうことによって、舞台上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるということを理解する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			
<b>第4回 作品づくり1</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			<b>第12回 作品づくり7</b> 【 到達目標 】 実際の舞台上演する作品として仕上げていく方法を、作品づくりを通してマスターする。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			
<b>第5回 作品づくり2</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			<b>第13回 公演準備1</b> 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			
<b>第6回 作品づくり3</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			<b>第14回 公演準備2</b> 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			
<b>第7回 作品づくり4</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。			<b>第15回 公演準備3</b> 【 到達目標 】 舞台上演に必要なことを、あらゆる方向から理解する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習する。			
<b>第8回 有志作品選考</b> 【 到達目標 】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。  【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的とする。毎時間参加が条件である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業への取り組み方60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（舞台上演技）			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Seminar in Dance (Performance and Theater Workshop)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> この授業では作品創作の実践を通して、テクニカルな要素（照明、音響、舞台美術等）、制作的な作業を含めた総合芸術としての舞踊作品を成立させるために必要なプロセス、要素を検証し、総合芸術としての舞踊作品を上演するために必要な職業的知見を獲得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【 到達目標 】 授業の目的について理解する。 舞台上演技の授業の進め方について理解する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			<b>第9回 作品づくり4</b> 【 到達目標 】 作品をよりよく推敲するための今後の課題とアプローチについて検証する。 前回の検証をもとに、作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			
<b>第2回 テクニカルシートの書き方(照明、音響プラン)</b> 【 到達目標 】 テクニカルシートの書き方を理解する。 テクニカルシートの書き方（照明、音響プラン）について理解、習得する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			<b>第10回 作品づくり5</b> 【 到達目標 】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			
<b>第3回 制作について</b> 【 到達目標 】 制作の役割について理解する。 舞台を上演するための制作的な仕事、マネージメント、プロデュース、広報、現場での役割等について理解、習得する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			<b>第11回 中間発表2</b> 【 到達目標 】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品の途中経過を発表し、より完成度を高めるための修正点を明らかにする。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			
<b>第4回 作品づくり1</b> 【 到達目標 】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			<b>第12回 作品づくり6</b> 【 到達目標 】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			
<b>第5回 作品づくり2</b> 【 到達目標 】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			<b>第13回 公演準備1</b> 【 到達目標 】 衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			
<b>第6回 作品づくり3</b> 【 到達目標 】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			<b>第14回 公演準備2</b> 【 到達目標 】 衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			
<b>第7回 中間発表1</b> 【 到達目標 】 作品の創作過程を人に見せることにより客観的に把握する。 途中経過を実演し、作品の核となるアイデア、モチーフ、構成の基礎が成りたっているかどうか検証する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			<b>第15回 公演準備3</b> 【 到達目標 】 最終的な推敲、踊りこみを行い完成度の高い作品に仕上げる。 舞台上演において必要な事を、あらゆる方向から理解、実践する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。			
<b>第8回 有志作品選考</b> 【 到達目標 】 様々な作品を見ることで、作品を鑑賞し、評価する力を養う。 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。  【授業時間外学習】 総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業ごとの課題の達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（舞台上演技）			担当者	坂本秀子	
英文名	Seminar in Dance (Performance and Theater Workshop)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演技までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 舞台上演技の授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の進め方をイメージし、身体と心の準備をして、自分なりの覚悟を持つ。			<b>第9回 作品づくり5</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の復習。			
<b>第2回 制作について</b> <b>【到達目標】</b> 制作の仕事について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 制作の仕事について、大切な事柄を復習する。			<b>第10回 作品づくり6</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の復習。			
<b>第3回 照明シートの書き方</b> <b>【到達目標】</b> 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 照明プランの立て方、照明シートの書き方について、大切な事柄を復習する。			<b>第11回 中間発表</b> <b>【到達目標】</b> 作品を互いに発表し、それぞれが全公演の中の1作品であるという意識を高め、衣裳や内容に重複や不足がないかをチェックする。  <b>【授業時間外学習】</b> 総合芸術であることの認識を持ち、全体を振り返り課題を見つける。			
<b>第4回 作品づくり1</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の復習。			<b>第12回 作品づくり7</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の復習。			
<b>第5回 作品づくり2</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の復習。			<b>第13回 公演準備1</b> <b>【到達目標】</b> 公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。			
<b>第6回 作品づくり3</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の復習。			<b>第14回 公演準備2</b> <b>【到達目標】</b> 公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。			
<b>第7回 作品づくり4</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品創作の復習。			<b>第15回 発表、評価を得る。他のグループ作品の鑑賞</b> <b>【到達目標】</b> 互いに発表し、評価を得る。また、他のグループ作品も鑑賞する。  <b>【授業時間外学習】</b> 総合学習、まとめ。			
<b>第8回 有志作品選考</b> <b>【到達目標】</b> 有志作品の選考に全員が参加し、上演作品を客観的に見ることの大切さを会得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品鑑賞を通して、自己の作品を振り返る。						
<b>【学習上の留意点】</b> 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特にありません。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習（モダンダンス基礎）、舞踊学演習（シアターダンステクニク）、舞踊創作・振付法						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（舞台上演法）			担当者	高野美和子	
英文名	Seminar in Dance (Performance and Theater Workshop)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、4年間の総まとめとして、大舞台でのダンス公演を目的とした舞踊作品創作とその練習、舞台制作について学び、舞台上演までの様々な知識について実践的に体得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【 到達目標 】 舞台上演法の授業の進め方について理解する。  【授業時間外学習】 作品発表までの見通しを立て、計画する。			<b>第9回 作品づくり⑤</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。			
<b>第2回 制作について</b> 【 到達目標 】 制作の仕事について理解する。  【授業時間外学習】 公演に必要な制作の仕事を具体的に検討する。			<b>第10回 作品づくり⑥</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。			
<b>第3回 照明シートの書き方</b> 【 到達目標 】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。  【授業時間外学習】 作品に必要な照明案を具体的に検討する。			<b>第11回 中間発表</b> 【 到達目標 】 作品を発表しあう事によって、舞台上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。  【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。			
<b>第4回 作品づくり①</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 作品制作を行う。			<b>第12回 作品づくり⑦</b> 【 到達目標 】 実際の舞台上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。  【授業時間外学習】 ランスルーを重ねる。			
<b>第5回 作品づくり②</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 作品制作を行う。			<b>第13回 公演準備①</b> 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。  【授業時間外学習】 ランスルーを重ね、公演当日の場当たりのシミュレーションを行う。			
<b>第6回 作品づくり③</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 作品制作を行う。			<b>第14回 公演準備②</b> 【 到達目標 】 公演に必要な準備を確認し、理解する。  【授業時間外学習】 公演当日のスケジュールを立てる。			
<b>第7回 作品づくり④</b> 【 到達目標 】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  【授業時間外学習】 作品制作を行う。			<b>第15回 まとめ</b> 【 到達目標 】 舞台上演に必要な事を、あらゆる方向から理解する。  【授業時間外学習】 公演を振り返り、反省点をまとめる。			
<b>第8回 有志作品選考</b> 【 到達目標 】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。  【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 毎時間必ず出席し、公演までのグループ・ワークに積極的に参加することが条件である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学演習（舞踊舞台効果法）、舞踊学演習（ダンスカレントA）、ダンス制作論						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業内容の習得度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（舞台上演法）			担当者	松山善弘	
英文名	Seminar in Dance (Performance and Theater Workshop)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 舞台上演法の授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第9回 作品づくり5</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第2回 制作について</b> <b>【到達目標】</b> 制作の仕事について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第10回 作品づくり6</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第3回 照明シートの書き方</b> <b>【到達目標】</b> 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第11回 中間発表</b> <b>【到達目標】</b> 作品を発表しあう事によって、舞台上で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第4回 作品づくり1</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第12回 作品づくり7</b> <b>【到達目標】</b> 実際の舞台上で上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第5回 作品づくり2</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第13回 公演準備1</b> <b>【到達目標】</b> 公演に必要な準備を確認し、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第6回 作品づくり3</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第14回 公演準備2</b> <b>【到達目標】</b> 公演に必要な準備を確認し、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第7回 作品づくり4</b> <b>【到達目標】</b> 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第15回 舞台上演に関する必要事項の確認</b> <b>【到達目標】</b> 舞台上演に必要な事を、あらゆる方向から理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体の復習とまとめをし、舞台上で作品を上演する方法について理解を深める。			
<b>第8回 有志作品選考</b> <b>【到達目標】</b> 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特にありません。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊舞台効果法						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業内での活動成果60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（舞台上演技）			担当者	渡 辺 碧	
英 文 名	Seminar in Dance (Performance and Theater Workshop)					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> この授業では、大学生生活の4年間の集大成として、大きな劇場で公演を開催することを念頭に、舞踊作品の振付・創作とそれに伴うリハーサル、そして舞台制作など、舞踊作品上演に関する様々な技術と知識について実践的に学び、これらを体得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台上演技法の授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の進め方に基づいて、今後の大まかなスケジュールを立てる。			<b>第9回 作品づくり6</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品を創り上げ、より良くするための今後の課題を検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 明らかとなった今後の課題の対策を検討し、実践する。			
<b>第2回 制作について</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台を上演する上で必要な制作の仕事を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 舞台制作に関わる文献を参考に、制作に関する情報を集める。			<b>第10回 作品づくり7</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の完成度を高める。舞台上演技することを念頭に置きながら、作品を仕上げていく手法を体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> さらに完成度を高めるための手法について検討する。			
<b>第3回 プレインストーミング（作品づくり1）</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分たちが創りたいと思う作品のテーマなどについて話し合いを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 様々な文献、映像などから情報を収集する。			<b>第11回 中間発表</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品を発表しあう事によって、舞台上演技する作品としての課題を明らかにする。  <b>【授業時間外学習】</b> フィードバックを踏まえて、さらに作品の質を高めるための工夫を検討する。			
<b>第4回 作品づくり2</b> <b>【 到達目標 】</b> テーマについてさらに検討し、テーマを表現するための手法（全体的なイメージ）について話し合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 様々な文献、映像などから情報を収集する。			<b>第12回 作品づくり8</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際の舞台上演技する作品として、作品を仕上げる。本番の舞台を想定した場取りで、作品練習を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 舞台の実寸を調べ、練習においても舞台のサイズで出来るように工夫する。			
<b>第5回 作品づくり3</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品テーマを決定し、グランドデザインを検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。			<b>第13回 公演準備1</b> <b>【 到達目標 】</b> 公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。本番当日に行う場当たりのシュミレーションを行い、その練習をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 互いに作品を見合い、また第三者にも作品を見てもらい、さらに作品の質を高める。			
<b>第6回 作品づくり4</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台上演技することを念頭に、表現したいテーマに沿って創作・振付を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。			<b>第14回 公演準備2</b> <b>【 到達目標 】</b> 公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。本番当日の流れを確認する。公演全体の通し稽古を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 不測の事態に備え、不足なものがないか検討する。			
<b>第7回 作品づくり5</b> <b>【 到達目標 】</b> 創作・振付をグループごとに行い、互いにこれを見せ合うことが出来る。実際に創作・振付を複数グループで行うことにより、自分たちが表現したいことが形となっているかを確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 成果発表に対する反省をし、今後の課題を明らかにする。			<b>第15回 まとめ</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際の舞台上演技をふりかえり、反省点・検討事項についてディスカッションを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 反省点・検討事項を次回の公演に活かす。			
<b>第8回 有志作品選考</b> <b>【 到達目標 】</b> 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演技の際の作品選択の方法を理解する。作品を鑑賞することにより、作品を評価する力を体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> フィードバックを踏まえて、さらに作品に改良を加える。						
<b>【学習上の留意点】</b> 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊舞台効果法、舞踊学演習（ダンスカレントA）、舞踊創作・振付法、舞台演出論、舞台芸術論						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品の完成度20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習 (モダンダンス1)			担当者	松山善弘	
英文名	Seminar in Dance (Modern Dance 1)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 各種モダンダンステクニックのメソッドに触れるとともに、自己の身体意識を目覚めさせ、より進んだテクニックの学習を通して、動きのポキャブラリーの拡大をはかる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
第1回 授業進行についてのオリエンテーション (DVDを使用) 【 到達目標 】 モダンダンス1の授業の進め方について理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第9回 ダンスに必要な要素を習得する (跳躍テクニック) 【 到達目標 】 各種跳躍テクニックをマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第2回 モダンダンス基礎で習得したエクササイズを更に発展させる1 【 到達目標 】 モダンダンス基礎で行ったエクササイズを再確認し、行う事ができる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第10回 ダンスに必要な要素を習得する (連続したテクニック) 【 到達目標 】 各種連続したテクニックをマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第3回 モダンダンス基礎で習得したエクササイズを更に発展させる2 【 到達目標 】 モダンダンス基礎で行ったエクササイズを再確認し、行う事ができる。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第11回 課題テクニックの習得 (タイミング) 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要なタイミングについて理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第4回 モダンダンス基礎で習得したエクササイズを更に発展させる3 【 到達目標 】 更に発展したエクササイズをマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第12回 課題テクニックの習得 (アクセント) 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要なアクセントについて理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第5回 モダンダンス基礎で習得したエクササイズを更に発展させる4 【 到達目標 】 更に発展したエクササイズをマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第13回 課題テクニックの習得 (呼吸) 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要な呼吸法について理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第6回 ダンスに必要な要素を習得する (リラクゼーション) 【 到達目標 】 各種リラクゼーションテクニックをマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第14回 課題テクニックの習得 (クライマックス) 【 到達目標 】 課題テクニックを通して、ダンスに必要なクライマックスへのもって行き方について理解する。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第7回 ダンスに必要な要素を習得する (歩行テクニック) 【 到達目標 】 各種歩行テクニックをマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第15回 課題テクニックの総合的習得 【 到達目標 】 モダンダンス1で学んだ事を総合的に理解する。  【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、モダンダンスについてさらに理解を深める。			
第8回 ダンスに必要な要素を習得する (回転テクニック) 【 到達目標 】 各種回転テクニックをマスターする。  【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> モダンダンス基礎から、更に深く自分の身体と向かい合い、さらに効果的に身体を通した表現ができるように、集中して受講して下さい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特にありません。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習 (モダンダンス基礎)、舞踊学演習 (モダンダンス2)						
<b>【成績評価方法】</b> 時間毎のレポート70%、実技試験30%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習 (モダンダンス 2)			担当者	坂本 秀子	
英文名	Seminar in Dance (Modern Dance 2)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 「舞踊学演習(モダンダンス1)」を更に進めたテクニックを学ぶ。専門家の作品を踊ることで高度なテクニックを習得し、作品全体に流れる精神を掌握することで、表現力を高めていく。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 作品の説明とビデオ鑑賞(教材A)</b> <b>【到達目標】</b> 創意思図を理解し、作品のイメージをつかむ。			<b>第9回 振りを学ぶ⑦</b> <b>【到達目標】</b> 踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。			
<b>【授業時間外学習】</b> 作品の世界を想像し、イメージを固める。			<b>【授業時間外学習】</b> 全体を通してのイメージトレーニングを行う。			
<b>第2回 振りを学ぶ①</b> <b>【到達目標】</b> 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。			<b>第10回 踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう②</b> <b>【到達目標】</b> 踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。			
<b>【授業時間外学習】</b> 振りの復習をする。			<b>【授業時間外学習】</b> 課題の確認と習得するための練習方法の考案。			
<b>第3回 振りを学ぶ②</b> <b>【到達目標】</b> 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。			<b>第11回 作品の説明とビデオ鑑賞(教材C)、振りを学ぶ⑧</b> <b>【到達目標】</b> 創意思図を理解し、作品のイメージをつかむ。			
<b>【授業時間外学習】</b> 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。			<b>【授業時間外学習】</b> 作品の世界を想像し、イメージを固める。			
<b>第4回 振りを学ぶ③</b> <b>【到達目標】</b> 踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。			<b>第12回 振りを学ぶ⑨</b> <b>【到達目標】</b> 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 全体を通してのイメージトレーニングを行う。			<b>【授業時間外学習】</b> 振りの復習をする。			
<b>第5回 踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう①</b> <b>【到達目標】</b> 踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。			<b>第13回 振りを学ぶ⑩</b> <b>【到達目標】</b> 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。			
<b>【授業時間外学習】</b> 課題の確認と習得するための練習方法の考案。			<b>【授業時間外学習】</b> 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。			
<b>第6回 作品の説明とビデオ鑑賞(教材B)、振りを学ぶ④</b> <b>【到達目標】</b> 創意思図を理解し、作品のイメージをつかむ。			<b>第14回 フィーリングやアクセントなど踊り方の吟味</b> <b>【到達目標】</b> 作品を踊り込んでいく過程で、重要な事柄について学ぶ。			
<b>【授業時間外学習】</b> 作品の世界を想像し、イメージを固める。			<b>【授業時間外学習】</b> 自分らしさを加えて、作品の完成度を高められるように考える。			
<b>第7回 振りを学ぶ⑤</b> <b>【到達目標】</b> 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。			<b>第15回 踊って批評を受ける、今後の課題の発見</b> <b>【到達目標】</b> 踊って批評を受ける。学んだ事柄をもとに新たに課題を発見する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 振りの復習をする。			<b>【授業時間外学習】</b> 課題の確認と習得するための練習方法の考案。			
<b>第8回 振りを学ぶ⑥</b> <b>【到達目標】</b> 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。						
<b>【授業時間外学習】</b> 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。						
<b>【学習上の留意点】</b> タイプの異なる3つの作品を教材として取り上げ、細やかに進めていく。振りを覚えることに加えて、各自が作品のイメージをとらえて、より深みのある個人的な世界を構築して欲しい。そのための練習方法やポイントなどについても探っていく。そして、踊ることだけにとどまらず、書物や絵画、詩集などで、作品のイメージを増幅し、どんなことにも興味を持って取り組んで欲しい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学演習 (シアターダンステクニック)						
<b>【成績評価方法】</b> 平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。						

科目名	舞踊学演習（クラシックバレエ1）			担当者	渡 辺 碧	
英文名	Seminar in Dance（Classic Ballet 1）					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 1年生で身に付けた基礎基盤のバレエよりも、さらに高度なテクニックに挑み、技術力と表現力の両方を高めていくことを目的とする。改めて正しい身体配置・身体使いについて学ぶことにより、怪我の少ない身体づくり方を体得する。また、ポアント技法についても理解し、ポアントを履いた状態で正しい身体の使い方を体得することを目標とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション（目標設定およびポアント技法の説明）</b> 【 到達目標 】 この授業における目標設定が出来る。ポアントの選び方、履き方を理解し、ポアント技法の特徴を理解できる。  【授業時間外学習】 クラシックバレエ基礎で学んだこと（バレエ用語の意味を含む）を復習する。			<b>第9回 ポアントのエクササイズ(応用)①</b> 【 到達目標 】 簡単なコンビネーションが実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることを体得する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第2回 エクササイズ(基礎)①</b> 【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねて、改めて正しい身体配置を確認する。特に骨盤の正しい配置を意識して踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第10回 ポアントのエクササイズ(応用)②</b> 【 到達目標 】 前回に引き続き、さらに内容を発展させて実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることを体得する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第3回 エクササイズ(基礎)②</b> 【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねて改めてアン・デ・オール（ターン・アウト）を確認する。特に骨盤の正しい配置と、骨盤周辺の筋肉の使い方を意識して踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第11回 練習課題と反復練習①</b> 【 到達目標 】 半期のまとめである練習課題を習い、覚える。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第4回 エクササイズ(基礎)③</b> 【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねてアブロン、エレヴェーションについて確認する。背骨、コア（インナーマッスル）の正しい使い方を意識して踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第12回 練習課題と反復練習②</b> 【 到達目標 】 練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第5回 ポアントのエクササイズ(基礎)①</b> 【 到達目標 】 これまでの学習を踏まえ、ポアントの基礎として、アテール、ドゥミ・ポアント、ポアントが理解できる。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第13回 練習課題と反復練習③</b> 【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第6回 ポアントのエクササイズ(基礎)②</b> 【 到達目標 】 ポアントの基礎としてアテール、ドゥミ・ポアント、ポアントの区別が実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第14回 練習課題と反復練習④</b> 【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第7回 ポアントのエクササイズ(基礎)③</b> 【 到達目標 】 ポアントの基礎としてプリエ、アテール、ドゥミ・ポアント、ルルベ、ジャンプの区別が付き、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第15回 課題発表、自己評価、フィードバック</b> 【 到達目標 】 練習課題を発表し、第1回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかが理解できる。教員からのフィードバックに対して、今後の目標を設定することが出来る。  【授業時間外学習】 教員からのフィードバックに対する具体的な対策を練り、実践する。			
<b>第8回 ポアントのエクササイズ(基礎)④</b> 【 到達目標 】 ポアントの基礎としてピケ・ポアントとタンルベ・ルルベの区別が付き、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアントによる効果について知識を深めるようにする。大人数での実技授業となるため、ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。授業の進行を妨げる受講者がいる場合には、単位認定を行わない。						
<b>【教科書・参考書など】</b> ポアントシューズについてのプリントなどを適宜配付。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習（クラシックバレエ基礎）、舞踊学演習（クラシックバレエ2）						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度・理解度、学習意欲・関心・積極性・レポート40%、実技テスト60%を総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（クラシックバレエ2）			担当者	渡 辺 碧	
英文名	Seminar in Dance (Classic Ballet 2)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> クラシックバレエ1を更に発展させるために、テクニック、表現のそれぞれの質を上げ、既存の古典ヴァリエーションに挑戦する。この授業を受講することにより、これまでのクラシックバレエの基礎を復習・確認するとともに、それが実践できるようになることを目的とする。特に上半身と下半身の動きのコーディネーション力を高めることに焦点を当て、正しい身体配置で、表現力のある踊りが出来るようになることを目標とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> 【 到達目標 】 最後のクラシックバレエ実技科目となるため、それぞれの目標を確認し、この授業での目標設定が出来る。  【授業時間外学習】 クラシックバレエ基礎、クラシックバレエ1で学んだことを復習する。			<b>第9回 ヴァリエーションB</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションBの振りを覚えることができる。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第2回 エクササイズ(基礎)①</b> 【 到達目標 】 クラシックバレエ1の復習を兼ねて身体配置を確認できる。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第10回 ヴァリエーションABの反復練習①</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションABの音楽を正確に捉えることができる。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第3回 エクササイズ(基礎)②</b> 【 到達目標 】 クラシックバレエ1の復習を兼ねて、アン・デ・オール（ターン・アウト）を中心に確認する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第11回 ヴァリエーションABの反復練習②</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションABの振りを正確に踊ることができる。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第4回 エクササイズ(基礎)③</b> 【 到達目標 】 クラシックバレエ1の復習を兼ねて、アブロンを中心に確認する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第12回 ヴァリエーションABの反復練習③</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションABの空間使いを意識して踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第5回 エクササイズ(基礎)④</b> 【 到達目標 】 クラシックバレエ1の復習を兼ねて、エレヴェーションを中心に確認する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第13回 ヴァリエーションABの反復練習④</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションABの求める表現性をしっかりと踊りの中に取り込むことができる。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第6回 エクササイズ(応用)①</b> 【 到達目標 】 あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。特に正しい上半身使いを意識して踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第14回 ヴァリエーションAの発表</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションAを一人で踊ることが出来る。ヴァリエーションAに対しての教員からのフィードバックを理解し、今後の課題を検討する。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			
<b>第7回 エクササイズ(応用)②</b> 【 到達目標 】 あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。特に上半身と下半身のコーディネーションを意識して踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。			<b>第15回 ヴァリエーションBの発表</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションBを一人で踊ることが出来る。ヴァリエーションBに対しての教員からのフィードバックを理解し、今後の課題を検討する。オリエンテーション時に立てた目標に対して、自分がこの授業においてどれだけ達成できたかを検討する。  【授業時間外学習】 これまでの授業を振り返り、自分とバレエとの今後の関わり方を検討する。			
<b>第8回 ヴァリエーションA</b> 【 到達目標 】 ヴァリエーションAの振りを覚えることができる。  【授業時間外学習】 本日の復習をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみの着用として、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ヴァリエーションABを選択する際、それぞれのレベルに適した課題となるようにする事。 大人数での実技授業となるため、ただ授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。授業の進行を妨げる受講者がいる場合には、単位認定を行わない。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習（クラシックバレエ基礎）、舞踊学演習（クラシックバレエ1）						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート40%、実技テスト60%を総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（ジャズダンス1）			担当者	港 ゆ り か	
英文名	Seminar in Dance (Jazz Dance 1)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2			専門・選択		
【目的とねらい】 ジャズダンス、ヒップホップダンスのダウンビートのリズム感を身につけ、ジャズダンスに必要な基礎技法を習得する。身体表現の意識を高め、表現者としての感性を養い、可能性を広げていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 さまざまなジャンルの中のジャズダンスとは、今の時代に求められている表現法などを理解する。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をする。			第9回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)スローテンポ 【到達目標】 クロスフロアーのバリエーション(2) 短い振付の中でダブルターン+シェネが確実に出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			
第2回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)リズム重視 【到達目標】 パラレルポジションをキープしたパラレルターンを理解し、シングルターンが出来るようになる。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			第10回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)スローテンポ、到達度の確認 【到達目標】 振付したコンビネーションを、確実なテクニックと、豊かな表現力で踊ることが出来る。スローテンポの到達度の確認。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			
第3回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)リズム重視 【到達目標】 パラレルターンをシングルからダブルへ。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			第11回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)ミディアムスロー 【到達目標】 インサイドターンを理解し、繰り返し回ることが出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			
第4回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)リズム重視、到達度の確認 【到達目標】 振付したコンビネーションを、さまざまなリズムを使い分けて踊ることが出来る。リズム重視の到達度の確認。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			第12回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)ミディアムスロー 【到達目標】 短い振付とインサイドターンの組み合わせを、ぶれない軸で踊ることが出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			
第5回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)ライン重視 【到達目標】 パラレルターン(シングル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			第13回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)ミディアムスロー、到達度の確認 【到達目標】 振付したコンビネーションを、ダイナミックにぶれない軸で踊ることが出来る。ミディアムスローの到達度の確認。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			
第6回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)ライン重視 【到達目標】 パラレルターン(ダブル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			第14回 振付(ロングコンビネーション) 1 【到達目標】 振付の中で、曲を理解し、自分なりの表現法を見付けることが出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			
第7回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)ライン重視、到達度の確認 【到達目標】 振付したコンビネーションを、音の中で正しいラインへ確実に入り、表現することが出来る。ライン重視の到達度の確認。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。			第15回 振付(ロングコンビネーション) 2 【到達目標】 リズム、ライン、スローテンポ、ミディアムスローの確実なテクニックはもちろん、コンビネーションの表現法として個性を出しながら、豊かに魅せ、伝えることが出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを再度確認をし、練習する必要がある。			
第8回 ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)スローテンポ 【到達目標】 クロスフロアーのバリエーション(1) 短い振付の中でダブルターンが確実に出来る。  【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。						
【学習上の留意点】 週1回の授業ではクセも取れず、頭では理解していても、実践出来るレベルになるのは難しい。ジャンルによって、体の使い方に違いがあることを繰り返し説明し、必ず「見る」という方法の重要性を伝えていき、自分を客観視出来るレベルまで上げていく必要がある。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業内での実践40%、到達度の確認テストの結果60%として評価する。						

科目名	舞踊学演習（ジャズダンス2）			担当者	畔柳小枝子	
英文名	Seminar in Dance (Jazz Dance 2)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 欧米で一般的に実施しているレッスン方法を採用。各自のスキルアップが目標である。 この授業では、ダンスの基礎トレーニングを行い、ジャズダンスに大切なリズム感を養う。そして、音楽にあった感受性豊かな表現力を身につけ、パフォーマーとして洗練された動きを身につける。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ストレッチエクササイズを行う コンビネーション①</b> <b>【 到達目標 】</b> 正しいポジションで立ち、正しくストレッチができる。			<b>第9回 音のリズム・アクセントの表現 コンビネーション②</b> <b>【 到達目標 】</b> 細かいステップを正確に覚え、音にのることができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> ストレッチエクササイズ・コンビネーション①の復習。			<b>【授業時間外学習】</b> コンビネーション②を練習し完成させる。			
<b>第2回 基礎訓練を行う コンビネーション①</b> <b>【 到達目標 】</b> 決められたポジションを保ちながら、ストレッチすることができる。			<b>第10回 コンビネーション②重視</b> <b>【 到達目標 】</b> コンビネーション②を各自の訓練・研究成果も出し、踊ることができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> ストレッチエクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。			<b>【授業時間外学習】</b> コンビネーション②の反省点を意識し、丁寧に踊る。			
<b>第3回 基礎訓練 正しいストレッチの仕方 コンビネーション①</b> <b>【 到達目標 】</b> リズムが見えるステップが踏み、手・足さばきに注意する事ができる。			<b>第11回 ステップ・ターン・ジャンプの特訓 コンビネーション③</b> <b>【 到達目標 】</b> 身体をしっかり使い、ステップ・ターン・ジャンプができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 柔軟の仕方を意識し行う。コンビネーション①の復習。			<b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアー・コンビネーション③の復習・練習。			
<b>第4回 基礎訓練 正しい筋肉の使い方 コンビネーション①</b> <b>【 到達目標 】</b> ステップを踏みながら身体の使い方に気を配ることができる。			<b>第12回 ステップ・ターン・ジャンプの特訓 コンビネーション③</b> <b>【 到達目標 】</b> スムーズに美しくステップ・ターン・ジャンプができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 筋トレ・柔軟を行う。コンビネーション①の注意事項に気をつけて各自完成させる。			<b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアー・コンビネーション③の復習・練習。			
<b>第5回 コンビネーション①重視</b> <b>【 到達目標 】</b> コンビネーション①を各自の訓練・研究成果も出し、踊ることができる。			<b>第13回 表現の仕方に注意して踊る コンビネーション③</b> <b>【 到達目標 】</b> パフォーマーとして必要な技術を考え、自己反省したうえで、今後の課題を見つける。			
<b>【授業時間外学習】</b> コンビネーション①の反省点を意識し出来なかった事、表現方法を考え踊る。			<b>【授業時間外学習】</b> コンビネーション③を各自完成させる。			
<b>第6回 正しい軸の掴み方 コンビネーション②</b> <b>【 到達目標 】</b> 安定感のある動きに必要なことを理解し、実践できる。			<b>第14回 総復習と実践。コンビネーション③重視</b> <b>【 到達目標 】</b> コンビネーション③を各自の訓練・研究成果も出し、踊ることができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> バランスのとりの訓練。軸足・上半身の確認。コンビネーション②の復習。			<b>【授業時間外学習】</b> 基礎トレーニングを行う。コンビネーション④の復習・練習。			
<b>第7回 正しい軸の掴み方 コンビネーション②</b> <b>【 到達目標 】</b> 正しいポジションで、テクニックを行うことができる。			<b>第15回 コンビネーション④重視</b> <b>【 到達目標 】</b> 振付を直ぐ正確に覚え、自分の表現も生かし踊ることができる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 身体の使い方に気をつけて、クロスフロアー・コンビネーション②の復習・練習。			<b>【授業時間外学習】</b> 基礎トレーニングを行う。			
<b>第8回 音のリズム・アクセントの訓練 コンビネーション②</b> <b>【 到達目標 】</b> アイソレーションで学んだことを生かし身体の各部に注意し魅力的に見せる事ができる。						
<b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアー・コンビネーション②の復習・練習。						
<b>【学習上の留意点】</b> テクニック・表現方法のレベル向上、上達の目標もあるので各自練習、振付の復習を必要とする。授業以外にも、柔軟・筋力トレーニングを行うこと。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> ジャズ・バレエ・モダンダンス等実技の科目						
<b>【成績評価方法】</b> 実技試験で評価60%・授業内での実践・技能40%						

科目名	舞踊学演習 (シアタージャズダンス)			担当者	畔柳小枝子	
英文名	Seminar in Dance (Theater Jazz Dance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		スポーツ科学専攻	専門・選択	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
<b>【目的とねらい】</b> 欧米で一般的に実施しているレッスン方法を採用。いろいろな種類の音楽を用いて、その音色・リズム・アクセントを身体を使って表現する事を考え、学ぶ。肉体・精神共にコントロールする事を身につけ、踊る事を通して表現豊かなパフォーマンスを目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 エクササイズ・アイソレーション重視①</b> <b>【 到達目標 】</b> ジャズダンスの特徴を確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> エクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。			<b>第9回 舞台上での表現</b> <b>【 到達目標 】</b> 立ち姿・脚さばき・手の表情に気を配る事ができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 脚さばき、アームスの使い方を意識し、美しいポーズに注意してコンビネーション②の復習。			
<b>第2回 エクササイズ・アイソレーション重視②</b> <b>【 到達目標 】</b> インナーマッスルを意識し、鍛える。  <b>【授業時間外学習】</b> エクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。			<b>第10回 コンビネーション②重視</b> <b>【 到達目標 】</b> コンビネーション②の音に合わせて表現する事ができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 表現方法を考えながら、コンビネーション②又は③の練習。			
<b>第3回 ストレッチ・軸・バランス重視①</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分自身の筋力・柔軟性を知り、更にトレーニングを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中の注意を確認し、トレーニングを行う。コンビネーション①の復習。			<b>第11回 カウントや音の中での表現①</b> <b>【 到達目標 】</b> できる限り全身を使って表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全身の動く幅を広げ、柔軟性・筋トレを行う。コンビネーション③の練習。			
<b>第4回 ストレッチ・軸・バランス重視②</b> <b>【 到達目標 】</b> 自分自身の筋力・柔軟性を知り、更にトレーニングを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> コンビネーション①の復習及び特訓。			<b>第12回 カウントや音の中での表現②</b> <b>【 到達目標 】</b> 早い・遅い音の中で洗練された動きをする。  <b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアー・コンビネーション②の復習・練習。			
<b>第5回 コンビネーション①重視</b> <b>【 到達目標 】</b> コンビネーション①の音に合わせて表現方法を考える。  <b>【授業時間外学習】</b> コンビネーション①の各自の注意点を確認し、反省点を認識する。			<b>第13回 変拍子</b> <b>【 到達目標 】</b> 10・12カウントや変拍子のとり方が実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアー・コンビネーション②の復習・練習。トレーニングを行う。			
<b>第6回 クロスフロアー重視 (ステップ・ターン・ジャンプ) ①</b> <b>【 到達目標 】</b> ステップ・ターン・ジャンプをスムーズに繋ぐ。  <b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。			<b>第14回 音に合わせて表現</b> <b>【 到達目標 】</b> 音色に合わせて踊り、表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアー・コンビネーション②の復習・練習。トレーニングを行う。			
<b>第7回 クロスフロアー重視 (ステップ・ターン・ジャンプ) ②</b> <b>【 到達目標 】</b> ステップ・ターン・ジャンプをスムーズに繋ぎ見せる事ができる。  <b>【授業時間外学習】</b> クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。			<b>第15回 コンビネーション③</b> <b>【 到達目標 】</b> コンビネーション③の音に合わせて踊り、表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各自の不得手な点に注意しトレーニングを行う。			
<b>第8回 トレーニング・リズムとアクセント</b> <b>【 到達目標 】</b> アクセント・リズムが見える。  <b>【授業時間外学習】</b> アクセントに注意し表現方法を考え、コンビネーション②の復習。						
<b>【学習上の留意点】</b> ・稽古着を着用。 ・テクニック・レベル向上、上達の目標もあるので各自練習、振付の復習を必要とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> ジャズダンス・バレエ・モダンダンス等の実技授業。						
<b>【成績評価方法】</b> 実技試験の結果を100%で評価。						

科目名	舞踊学演習 (テクニク & レパートリー)			担当者	木佐貫邦子	
英文名	Seminar in Dance (Technique & Repertory)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		スポーツ科学専攻	専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 現在、最も注目されている内外のアーティストの振付作品を実際に学ぶ。単に踊るだけでなく、振付が行われる過程、作品のコンセプト、意図などについて、振付家本人から直接学び、また、踊る側のダンサーとして、これらをさらに掘り下げる作業を通して、よりプロフェッショナルな世界に触れることを目的とする。最終的に1月に行う舞踊学専攻卒業公演内で作品を発表する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第9回 振付・作品創作実技2</b> <b>【 到達目標 】</b> 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第2回 技術習得実技1</b> <b>【 到達目標 】</b> 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第10回 振付・作品創作実技3</b> <b>【 到達目標 】</b> 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第3回 技術習得実技2</b> <b>【 到達目標 】</b> 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第11回 振付・作品創作実技4</b> <b>【 到達目標 】</b> 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第4回 技術習得実技3</b> <b>【 到達目標 】</b> 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第12回 振付・作品創作実技5</b> <b>【 到達目標 】</b> 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第5回 技術習得実技4</b> <b>【 到達目標 】</b> 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第13回 振付・作品創作実技6</b> <b>【 到達目標 】</b> 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第6回 技術習得実技5</b> <b>【 到達目標 】</b> 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第14回 振付・作品創作実技7</b> <b>【 到達目標 】</b> 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第7回 技術習得実技6</b> <b>【 到達目標 】</b> 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>第15回 作品上演についての重要事項の確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 全体の確認をする事によって、更に深く創作法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第8回 振付・作品創作実技1</b> <b>【 到達目標 】</b> 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 内容の詳細については授業中に指示する。授業にあたってはオーディションを行うこともある。						
<b>【教科書・参考書など】</b> その都度指示します。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み方・参加度50%、実技平常点50%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学演習（ダンスカレントA）			担当者	青木タクヘイ・宇野 敦子	
英文名	Seminar in Dance (Lighting and Sound for Dance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> この授業では作品を実際に公演するための制作的に大きな枠組み作りをし、それにとまなう実践的な技術（照明・舞台装置などの舞台技術のノウハウ）の習得を目指す。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 音響機材の取り扱い方の習得①</b> 【 到達目標 】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。			<b>第9回 音響効果の確認③</b> 【 到達目標 】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。			
<b>第2回 音響機材の取り扱い方の習得②</b> 【 到達目標 】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。			<b>第10回 照明効果の確認①</b> 【 到達目標 】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。			
<b>第3回 音響機材の取り扱い方の習得③</b> 【 到達目標 】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。			<b>第11回 照明効果の確認②</b> 【 到達目標 】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。			
<b>第4回 照明機材の取り扱い方の習得①</b> 【 到達目標 】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。			<b>第12回 照明効果の確認③</b> 【 到達目標 】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。			
<b>第5回 照明機材の取り扱い方の習得②</b> 【 到達目標 】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。			<b>第13回 グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる①</b> 【 到達目標 】 具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。			
<b>第6回 照明機材の取り扱い方の習得③</b> 【 到達目標 】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。			<b>第14回 グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる②</b> 【 到達目標 】 具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。			
<b>第7回 音響効果の確認①</b> 【 到達目標 】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。			<b>第16回 作品発表と反省</b> 【 到達目標 】 いよいよ作品の発表である。そのためにリハーサルをして本番に臨むことにする。そして上演後に各人が反省点を自覚して公表できる。			
<b>第8回 音響効果の確認②</b> 【 到達目標 】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。						
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> グループワークとなるので、ある一定の学生だけが動くのではなく、学生全員が動くように注意する。他のグループの発表の際には、しっかりとメモを取り、記入する。集中講義で行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊創作原論、舞踊創作・振付法、舞踊学演習（舞台上演法）、舞踊舞台効果法						
<b>【成績評価方法】</b> 授業内の実践と計画発表及び発表作品の実効性100%で評価する。						

科目名	舞踊学演習（ダンスカレントB）			担当者	トムソン 啓子	
英文名	Seminar in Dance (Advanced Dance Technique)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		専門・選択			
<b>【目的とねらい】</b> モダンダンスとクラシック・バレエに共通する身体の使い方、およびその動きを引き出す繊細な技巧、そして、その両方を実現するダイナミックな表現力を学びます。また、舞台上で最高の効果をもたらす振付・演出について実践的に理解を図ります。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 ベーシックボディトレーニング①</b> 【 到達目標 】 一人ひとりが原点にかえり、もう一度自分の身体と向かい合うことができる。			<b>第9回 ダンステクニックの実践⑥</b> 【 到達目標 】 基本のテクニックを改めて習得し、テクニックがいかに舞踊表現となり芸術性につながるかを習得できる。			
<b>第2回 ベーシックボディトレーニング②</b> 【 到達目標 】 一人ひとりが原点にかえり、もう一度自分の身体と向かい合うことができる。			<b>第10回 テクニックを引き出す表現力の実践①</b> 【 到達目標 】 表現力を磨き、ダンス表現の幅を広げることができる。			
<b>第3回 ベーシックボディトレーニング③</b> 【 到達目標 】 一人ひとりが原点にかえり、もう一度自分の身体と向かい合うことができる。			<b>第11回 テクニックを引き出す表現力の実践②</b> 【 到達目標 】 表現力を磨き、ダンス表現の幅を広げることができる。			
<b>第4回 ダンステクニックの実践①</b> 【 到達目標 】 ベーシックボディトレーニングを通して、踊るための身体作りを自覚でき、実践できる。			<b>第12回 テクニックを引き出す表現力の実践③</b> 【 到達目標 】 表現力を磨き、ダンス表現の幅を広げることができる。			
<b>第5回 ダンステクニックの実践②</b> 【 到達目標 】 ベーシックボディトレーニングを通して、踊るための身体作りを自覚でき、実践できる。			<b>第13回 振付・演出の効果の実践①</b> 【 到達目標 】 舞台上で最高の効果を上げるための振付・演出を実践的に身に付けることができる。			
<b>第6回 ダンステクニックの実践③</b> 【 到達目標 】 ベーシックボディトレーニングを通して、踊るための身体作りを自覚でき、実践できる。			<b>第14回 振付・演出の効果の実践②</b> 【 到達目標 】 舞台上で最高の効果を上げるための振付・演出を実践的に身に付けることができる。			
<b>第7回 ダンステクニックの実践④</b> 【 到達目標 】 基本のテクニックを改めて習得し、テクニックがいかに舞踊表現となり芸術性につながるかを習得できる。			<b>第16回 到達度確認テスト</b> 【 到達目標 】 授業内容の理解と実技の到達度をテストによって確認できる。			
<b>第8回 ダンステクニックの実践⑤</b> 【 到達目標 】 基本のテクニックを改めて習得し、テクニックがいかに舞踊表現となり芸術性につながるかを習得できる。						
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 身体を自覚し基礎テクニックを身につけさせる。 集中講義で行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業中に指示する。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊創作原論、舞踊創作・振付法						
<b>【成績評価方法】</b> 各回の課題達成度30%、実技テスト70%で評価する。						

科目名	比較舞踊学演習（スペイン舞踊2）			担当者	東 陽 子	
英文名	Seminar in Comparative Theory of Dance (Spanish Dance 2)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		専門・選択			
<b>【目的とねらい】</b> フラメンコの理解を更に深め、個性豊かな表現を高める。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 コンパス(リズム)の確認①</b> 【 到達目標 】 バルマ(手拍子)、ハレオ(掛声)でコンパス(リズム)を奏でる。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第9回 振付け④</b> 【 到達目標 】 カンテ(歌)、ギターとの一体感を深めて踊る。  【授業時間外学習】 課題曲を聴く。			
<b>第2回 コンパス(リズム)の確認②</b> 【 到達目標 】 サバテアード(足)でコンパス(リズム)を表現する。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第10回 振付け⑤</b> 【 到達目標 】 曲の特徴を知る。  【授業時間外学習】 課題曲以外の曲目を聴く。			
<b>第3回 身体の使い方の確認①</b> 【 到達目標 】 サバテアード(足)にブラソ(腕)、マノ(手)の動きをのせて踊る。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第11回 振付け⑥</b> 【 到達目標 】 曲の特徴を捉えて踊る。  【授業時間外学習】 課題曲以外の曲目を聴く。			
<b>第4回 身体の使い方の確認②</b> 【 到達目標 】 サバテアード(足)にブラソ(腕)、マノ(手)の動きをなめらかにのせて踊る。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第12回 振付け⑦</b> 【 到達目標 】 更に曲を知り、表現を深める。  【授業時間外学習】 課題曲と他の曲目の相違点を知る。			
<b>第5回 身体の使い方の確認③</b> 【 到達目標 】 バルマ(手拍子)、ハレオ(掛声)によって全身で表現する。  【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。			<b>第13回 振付け⑧</b> 【 到達目標 】 フラメンコの特徴を捉え、自身の一曲に仕上げる。  【授業時間外学習】 課題曲を歌えるようにする。			
<b>第6回 振付け①</b> 【 到達目標 】 振り付けを理解する。  【授業時間外学習】 課題曲を聴く。			<b>第14回 一曲を完成</b> 【 到達目標 】 バルマ(手拍子)、ハレオ(掛け声)、バイレ(踊り)の一体感を作り出す。  【授業時間外学習】 課題曲を歌えるようにする。			
<b>第7回 振付け②</b> 【 到達目標 】 カンテ(歌)、ギターのコンパス(リズム)を明確に理解する。  【授業時間外学習】 課題曲を聴く。			<b>第15回 一人で表現</b> 【 到達目標 】 自分らしい豊かな表現ができるようにする。  【授業時間外学習】 課題曲を歌えるようにする。			
<b>第8回 振付け③</b> 【 到達目標 】 カンテ(歌)、ギター、振りの一体感を知る。  【授業時間外学習】 課題曲を聴く。						
<b>【学習上の留意点】</b> フラメンコ特有の重心の重さを身につける。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b> 比較舞踊学演習(タップダンス)、比較舞踊学演習(日本舞踊1)、比較舞踊学演習(日本舞踊2)、舞踊学演習(クラシックバレエ1)、舞踊学演習(クラシックバレエ2)、比較舞踊学演習(スペイン舞踊1)						
<b>【成績評価方法】</b> フラメンコの理解度：60% 表現力度：40%						

科目名	比較舞踊学演習（日本舞踊2）			担当者	西川 箕乃助	
英文名	Seminar in Comparative Theory of Dance (Japanese Classical Dance 2)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4			専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 日本舞踊1で習得した技術を基に、躍動的な二人だちの男踊り「三社祭」の踊り地、物語性のあるしっとりとした女踊り「藤音頭」を取り上げる。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
第1回 男踊り「三社祭」の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「三社祭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第9回 「藤音頭」の振りの習得 【 到達目標 】 「藤音頭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第2回 男踊り「三社祭」の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「三社祭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第10回 「藤音頭」の振りの習得 【 到達目標 】 「藤音頭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第3回 男踊り「三社祭」の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「三社祭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第11回 「藤音頭」の振りの習得 【 到達目標 】 「藤音頭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第4回 男踊り「三社祭」の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「三社祭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第12回 「藤音頭」の振りの習得 【 到達目標 】 「藤音頭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第5回 男踊り「三社祭」の振りの習得 【 到達目標 】 男踊り「三社祭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第13回 「藤音頭」の振りの確認 【 到達目標 】 「藤音頭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			
第6回 「三社祭」の振りの確認 【 到達目標 】 男踊り「三社祭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】			第14回 「藤音頭」の習熟度チェックのための実技発表 【 到達目標 】 「藤音頭」の実技発表を通して習熟度を確認し、「藤音頭」の振りについて理解を深める。  【授業時間外学習】			
第7回 「三社祭」の習熟度チェックのための実技発表 【 到達目標 】 「三社祭」の実技発表を通して習熟度を確認し、「三社祭」の振りについて理解を深める。  【授業時間外学習】			第15回 日本舞踊と洋舞の比較を対議 【 到達目標 】 「三社祭」と「藤音頭」の振りを習得し、理解することができる。  【授業時間外学習】			
第8回 「藤音頭」の振りの習得 【 到達目標 】 「藤音頭」の振りを習得する。  【授業時間外学習】						
<b>【学習上の留意点】</b> ・受講の際は必ず着物（浴衣でも可）を着ること。時計、指輪、ネックレスなどの貴金属の着用は不可。 ・授業に出席することが大前提である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。						

科目名	舞踊舞台効果法			担当者	石川浩子	
英文名	Costume and Visual Design for Dance					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞台上演に必要な不可欠である衣装と舞台メイクを中心に、役柄との関わり、舞台空間との関わり、照明との関わり的重要性も理解し、舞踊の舞台で統一のとれた効果的な装いの方法を学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			<b>第9回 コンテンポラリーダンスの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> コンテンポラリーダンスにおける衣装の効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			
<b>第2回 モダンダンスの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスの衣装の特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			<b>第10回 日本の伝統舞踊の衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の伝統舞踊の衣装の特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			
<b>第9回 モダンダンスの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスにおける衣装の効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			<b>第11回 日本の伝統舞踊の名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の伝統舞踊における衣装の効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			
<b>第4回 クラシックバレエの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> クラシックバレエの衣装の特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			<b>第12回 各ジャンルにおけるメイクの相違</b> <b>【 到達目標 】</b> 各ジャンルにおけるメイクの相違を理解し、効果的なメイクのしかたをマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			
<b>第5回 クラシックバレエの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> クラシックバレエにおける衣装の効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			<b>第13回 照明との効果的な関わり</b> <b>【 到達目標 】</b> 照明の効果的な使い方についてマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			
<b>第6回 ジャズダンスの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> ジャズダンスの衣装の特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			<b>第14回 大道具、小道具のあり方</b> <b>【 到達目標 】</b> 効果的な、大道具、小道具、美術の在り方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			
<b>第7回 ジャズダンスの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> ジャズダンスにおける衣装の効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。			<b>第15回 総復習</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊の舞台における各種効果についてまとめ理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をする。			
<b>第8回 コンテンポラリーダンスの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> コンテンポラリーダンスの衣装の特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだことを再確認し、練習をし、次の授業のための準備をする。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実際に舞踊の作品を上演する際の各種効果を、体験を通して学んでもらう。全回出席が条件である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜プリントの配布。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業への取り組み方60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊舞台効果法			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Costume and Visual Design for Dance					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 総合芸術としての舞踊を成立させるために必要不可欠である音響、照明、衣装、メイク、舞台美術等の諸要素について深く理解し、その効果的な使い方について実践を通して習得する。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 本科目の目的、授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			<b>第9回 コンテンポラリーダンスの衣装の特徴、効果②</b> <b>【 到達目標 】</b> 衣装の機能、特徴、効果について学ぶ。 コンテンポラリーダンスにおける作品と衣装の特徴、関連性について過去の作品を例に検証、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			
<b>第2回 コンテンポラリーダンス作品における音響、照明の特徴、効果①</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台作品の音楽、照明とその関連性について理解する。 コンテンポラリーダンスにおける作品と音楽、照明の特徴、関連性について、過去の作品を例に検証、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			<b>第10回 コンテンポラリーダンスの衣装の特徴、効果③</b> <b>【 到達目標 】</b> 具体的な衣装プランの立て方を習得する。 前回までの知識をもとに、実際に取り組んでいる作品について、衣装プランを立て、関連性、効果について検証する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			
<b>第3回 コンテンポラリーダンス作品における音響、照明の特徴、効果②</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台作品の音楽、照明とその関連性について理解する。 コンテンポラリーダンスにおける作品と音楽、照明の特徴、関連性について、過去の作品を例に検証、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			<b>第11回 コンテンポラリーダンスのメイクの特徴と効果①</b> <b>【 到達目標 】</b> メイクの機能と効果について学ぶ。 コンテンポラリーダンスにおけるメイクの特徴、関連性について過去の作品を例に検証、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			
<b>第4回 コンテンポラリーダンス作品における音響、照明の特徴、効果③</b> <b>【 到達目標 】</b> 照明、音響の具体的なプランの立て方を習得する。 前回までの知識をもとに、実際に取り組んでいる作品について、照明、音響プランを立て、関連性、効果について検証する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			<b>第12回 コンテンポラリーダンスのメイクの特徴と効果②</b> <b>【 到達目標 】</b> 具体的なメイクプランの立て方について習得する。 前回の知識をもとに、実際に取り組んでいる作品について、メイクのプランを立て、関連性、効果について検証する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			
<b>第5回 コンテンポラリーダンス作品における舞台美術の特徴、効果①</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台美術の特徴と関連性について理解する。 コンテンポラリーダンスにおける作品と舞台美術の特徴、関連性について、過去の作品を例に検証、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			<b>第13回 作品と舞台効果の諸要素の総合的な関わり①</b> <b>【 到達目標 】</b> 諸要素の総合的な関わりについて理解する。 実際に取り組んでいる作品を例に、作品とメイク、衣装、照明、音響、舞台美術の関連性と効果を総合的に検証し理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			
<b>第6回 コンテンポラリーダンス作品における舞台美術の特徴、効果②</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台美術の特徴と関連性について理解する。 コンテンポラリーダンスにおける作品と舞台美術の特徴、関連性について、過去の作品を例に検証、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			<b>第14回 作品と舞台効果の諸要素の総合的な関わり②</b> <b>【 到達目標 】</b> 諸要素の総合的な関わりについて理解する。 実際に取り組んでいる作品を例に、作品とメイク、衣装、照明、音響、舞台美術の関連性と効果を総合的に検証し理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			
<b>第7回 コンテンポラリーダンス作品における舞台美術の特徴、効果③</b> <b>【 到達目標 】</b> 具体的な美術プランの立て方を習得する。 前回までの知識をもとに、実際に取り組んでいる作品について、美術プランを立て、関連性、効果について検証する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			<b>第15回 作品と舞台効果の諸要素の総合的な関わり③</b> <b>【 到達目標 】</b> 諸要素を総合的に理解し、具体的なプランを立てられるようにする。 舞踊の舞台における各種効果について総合的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。			
<b>第8回 コンテンポラリーダンスの衣装の特徴、効果①</b> <b>【 到達目標 】</b> 衣装の機能、特徴、効果について学ぶ。 コンテンポラリーダンスにおける作品と衣装の特徴、関連性について過去の作品を例に検証、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 舞踊作品を成立させる様々な効果について文献や実践を通して理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実際に舞踊の作品を上演する際の各種効果について、体験を通して学んでもらいます。全回出席が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜プリントの配布。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業ごとの課題の達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊舞台効果法			担当者	坂本 秀子	
英文名	Costume and Visual Design for Dance					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		専門・選択			
<b>【目的とねらい】</b> 舞台上演に必要な不可欠である衣裳と舞台メイクを中心に、役柄との関わり、舞台空間との関わり、照明との関わり的重要性を理解し、舞踊の舞台で統一のとれた効果的な装いの方法を学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の進め方をイメージし、身体と心の準備をして、自分なりの覚悟を持つ。			<b>第9回 モダンダンスの作品における効果的な照明について (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスの作品の効果的な照明について理解する。(1)  <b>【授業時間外学習】</b> 効果的な照明について、意見をまとめる。			
<b>第2回 モダンダンスの動きと衣裳の関係 (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスの動きと衣裳の関係について理解する。(1)  <b>【授業時間外学習】</b> モダンダンスの動きと衣裳の関係について、大切な事柄を復習する。			<b>第10回 モダンダンスの作品における効果的な照明について (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスの作品の効果的な照明について理解する。(2)  <b>【授業時間外学習】</b> 効果的な照明について、意見をまとめる。			
<b>第3回 モダンダンスの動きと衣裳の関係 (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスの動きと衣裳の関係について理解する。(2)  <b>【授業時間外学習】</b> モダンダンスの動きと衣裳の関係について、大切な事柄を復習する。			<b>第11回 各ジャンルにおける照明の相違</b> <b>【 到達目標 】</b> 各ジャンルにおける照明の相違について、調査、分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各ジャンルにおける照明の相違について、大切な事柄を振り返る。			
<b>第4回 モダンダンスの動きと衣裳の関係 (3)</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスの動きと衣裳の関係について理解する。(3)  <b>【授業時間外学習】</b> モダンダンスの動きと衣裳の関係について、大切な事柄を復習する。			<b>第12回 作品を効果的に見せる、その他の演出について (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品を効果的に見せる、その他の演出について理解する。(1)  <b>【授業時間外学習】</b> 作品を効果的に見せる演出について、身近な作品を例に挙げ、意見をまとめる。			
<b>第5回 各ジャンルにおける衣裳の相違</b> <b>【 到達目標 】</b> 各ジャンルの衣裳の特性を学び、比較、検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各ジャンルの衣裳の特性について、復習する。			<b>第13回 作品を効果的に見せる、その他の演出について (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品を効果的に見せる、その他の演出について理解する。(2)  <b>【授業時間外学習】</b> 作品を効果的に見せる演出について、身近な作品を例に挙げ、意見をまとめる。			
<b>第6回 モダンダンスのメイクについて (1)</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスのメイクの特徴について理解する。(1)  <b>【授業時間外学習】</b> モダンダンスのメイクの特徴について復習する。			<b>第14回 大道具、小道具について</b> <b>【 到達目標 】</b> 効果的な、大道具、小道具、美術の在り方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 効果的な美術の在り方について、大切な事柄を復習する。			
<b>第7回 モダンダンスのメイクについて (2)</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスのメイクの特徴について理解する。(2)  <b>【授業時間外学習】</b> モダンダンスのメイクの特徴について復習する。			<b>第15回 望ましい舞台効果のあり方について</b> <b>【 到達目標 】</b> 望ましい総合効果について、意見を整理し発表し合う。  <b>【授業時間外学習】</b> 総合学習、まとめ。			
<b>第8回 各ジャンルにおけるメイクの相違</b> <b>【 到達目標 】</b> 各ジャンルのメイクの特徴を学び、比較、検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各ジャンルのメイクの特徴について復習する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実際に舞踊の作品を上演する際の各種効果を体験を通して学んでもらいます。全回出席が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜プリントの配布。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学実習 (モダンダンス基礎)、舞踊学演習 (シアターダンステクニック)、舞踊創作・振付法						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊舞台効果法			担当者	高野美和子	
英文名	Costume and Visual Design for Dance					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> この授業は、舞台上演法での舞踊発表に際して必要な舞台衣装、メイク、照明・音響効果、舞台美術等について学び、発表作品をトータルで演出するための効果的な技術について実践的に体得することを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品発表までの見通しを持ち、計画を立てる。			<b>第9回 作品に必要な美術（大道具・小道具）を制作する</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品に必要な美術（大道具・小道具）を制作し、実際に使用しながら練習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 練習で生じた美術の問題を調整する。			
<b>第2回 発表作品に必要な効果を検討する</b> <b>【 到達目標 】</b> 発表作品に必要な効果を検討する。 名作の照明・音響・衣装・メイク・美術から学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 様々な舞踊作品の効果を調べる。			<b>第10回 作品の衣装に合う舞台メイクを検討する</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の衣装に合う舞台メイクの可能性を検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本番用メイクの練習を行う。			
<b>第3回 作品の音響効果について検討する</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の音響について可能性を探り、検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品にふさわしい音響について検討する。			<b>第11回 それぞれの効果のバランスを調整する</b> <b>【 到達目標 】</b> それぞれの効果のバランスを調整し、トータルに見て舞踊作品としての統一性を出す工夫を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。			
<b>第4回 作品で使用する曲、音響効果について決定し、制作する</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品で使用する曲、音響効果について決定し、実際に音の編集、制作を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 制作した音と動きを合わせて踊る。			<b>第12回 作品のランスルーを通じて各効果の円滑な処理方法を学ぶ</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品のランスルーを通じて各効果の円滑な処理方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> ランスルーを通じて生じた問題を検討する。			
<b>第5回 作品の衣装について検討する</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の衣装について、可能性を探り、検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作品にふさわしい衣装を検討する。			<b>第13回 実際の舞台上にて各効果の最終調整をする</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際の舞台上にて各効果の最終調整をする。  <b>【授業時間外学習】</b> ランスルーを重ね、各効果の調整を行う。			
<b>第6回 作品の衣装案を決定し、制作をスタートする</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の衣装案を決定し、実際に衣装制作をスタートする。  <b>【授業時間外学習】</b> 練習用として衣装に近い形の練習着を準備する。			<b>第14回 実際の舞台上にて各効果の最終調整をする</b> <b>【 到達目標 】</b> 実際の舞台で作品発表を体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 公演に必要な準備の確認、衣装、メイク、舞台装置の最終チェックをする。			
<b>第7回 作品の照明、映像効果について検討する</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の照明、映像効果について、可能性を探り、検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 指導者からのフィードバックを基に照明案を再検討する。			<b>第15回 発表の振り返り</b> <b>【 到達目標 】</b> 発表の振り返りを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 公演を振り返り、反省点をまとめる。			
<b>第8回 作品の照明案を作成する</b> <b>【 到達目標 】</b> 作品の照明案を作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 照明案を基に動きの導線を確認する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実際に舞踊の作品を上演する際の各種効果を体験を通して学んでいく。全回出席が条件である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜プリントの配布。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学演習（舞台上演法）、舞台芸術論演習（舞踊音楽制作）、舞踊学演習（ダンスカレントA）						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業内容の習得度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊舞台効果法			担当者	松山善弘	
英文名	Costume and Visual Design for Dance					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞台上演に必要な不可欠である衣装と舞台メイクを中心に、役柄との関わり、舞台空間との関わり、照明との関わり的重要性も理解し、舞踊の舞台で統一のとれた効果的な装いの方法を学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方について理解する。			<b>第9回 コンテンポラリーダンスの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> コンテンポラリーダンスにおける衣装の効果について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第2回 モダンダンスの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスの衣装の特徴について理解する。			<b>第10回 日本の伝統舞踊の衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の伝統舞踊の衣装の特徴について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第3回 モダンダンスの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンダンスにおける衣装の効果について理解する。			<b>第11回 日本の伝統舞踊の名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本の伝統舞踊における衣装の効果について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第4回 クラシックバレエの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> クラシックバレエの衣装の特徴について理解する。			<b>第12回 各ジャンルにおけるメイクの相違</b> <b>【 到達目標 】</b> 各ジャンルにおけるメイクの相違を理解し、効果的なメイクのしかたをマスターする。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第5回 クラシックバレエの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> クラシックバレエにおける衣装の効果について理解する。			<b>第13回 照明との効果的な関わり</b> <b>【 到達目標 】</b> 照明の効果的な使い方についてマスターする。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第6回 ジャズダンスの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> ジャズダンスの衣装の特徴について理解する。			<b>第14回 大道具、小道具のあり方</b> <b>【 到達目標 】</b> 効果的な、大道具、小道具、美術の在り方について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
<b>第7回 ジャズダンスの名作における衣装の効果を探る</b> <b>【 到達目標 】</b> ジャズダンスにおける衣装の効果について理解する。			<b>第15回 舞踊舞台の効果についての総合的な確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞踊の舞台における各種効果について確認し理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			<b>【授業時間外学習】</b> 全体の復習とまとめをし、舞台作品を上演する際の効果について更に理解を深める。			
<b>第8回 コンテンポラリーダンスの衣装の特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> コンテンポラリーダンスの衣装の特徴について理解する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実際に舞踊の作品を上演する際の各種効果を体験を通して学んでもらいます。全回出席が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜プリントの配布。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学演習（舞台上演法）						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業内での活動の成果60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊舞台効果法			担当者	渡 辺 碧	
英 文 名	Costume and Visual Design for Dance					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 舞台上演に必要な不可欠である音響、衣装、舞台メイク、舞台美術（装置）、照明などを中心に、各要素の重要性を深く理解し、振付をした作品を舞台上演するための効果的な技術について実践的に学ぶ。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業の進め方に基づいて、今後の大まかなスケジュールをたてる。			<b>第9回 舞台上演における照明の効果①</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な作品を鑑賞し、舞台上演における照明の効果について学ぶ。照明にはどのような種類のものがあるのかについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 舞台・劇場にある様々な照明機具の名前を覚える。			
<b>第2回 舞台上演に用いられる演出・効果の概要とその特徴①</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台上演に用いられる代表的な演出・効果について学ぶ。舞踊に限らず、演劇やオペラなど様々な舞台上演作品を鑑賞し、どのような演出や舞台効果が作品に有効であるかについて検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 舞台上演の効果を取った文献を集め、適宜その文献を元に情報を集める。			<b>第10回 舞台上演における照明の効果②と作品構成表の記入について</b> <b>【 到達目標 】</b> 自身が舞台上演する作品に必要な照明案を検討する。自身がプランニングした照明を元に、「照明案」シートに記入をする。自身が舞台上演する作品について、作品構成表を記入する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自身が舞台上演する作品と照明の関連性について検討する。			
<b>第3回 舞台上演に用いられる演出・効果の概要とその特徴②</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台上演に用いられる代表的な演出・効果について学び、その概要と特徴について検討する。自身が舞台上演する作品に必要な演出・効果について検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自身が舞台上演する作品に必要な演出・効果について、仲間と討議する。			<b>第11回 舞台上演におけるメイクの機能と効果</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な作品を鑑賞し、舞台上演におけるメイクの機能と効果について学ぶ。自身が舞台上演する作品に必要なメイクを検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自身が行うメイクに必要な化粧品を購入する。			
<b>第4回 作品の音響効果</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な作品を鑑賞し、舞台作品における音響の効果について学ぶ。さまざまな音響効果があることを理解し、自身で音楽を編集できる技術を身に付ける。  <b>【授業時間外学習】</b> 自身が舞台上演する作品に必要な音響効果について検討する。			<b>第12回 舞台機構について</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台・劇場に設置されている機械や幕、装置などの名称、ならびに実際の機能、効果について学ぶ。自身が舞台上演する作品に必要な舞台機構が何かを検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自身の作品に必要な舞台機構の名称、機能、効果について理解する。			
<b>第5回 舞台上演における衣装の効果①</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な作品を鑑賞し、舞台上演における衣装の効果について学ぶ。自身が舞台上演する作品に必要な衣装・頭かざりについて検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分が製作しようとしている衣装の生地・頭かざりの材料の下見に行く。採寸を行う。			<b>第13回 舞台上演において用いられる専門用語について</b> <b>【 到達目標 】</b> 舞台上演において用いられる様々な舞台用語、業界用語について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業内で学習した舞台用語、業界用語を覚え、実践で使えるようにする。			
<b>第6回 舞台上演における衣装の効果②</b> <b>【 到達目標 】</b> 第5回で検討した衣装・頭飾りの案のデザイン画を作成する。それを元に実際に衣装製作をスタートする。  <b>【授業時間外学習】</b> 衣装・頭かざり製作に必要な材料を購入する。			<b>第14回 上演作品と舞台効果の最終的な検討</b> <b>【 到達目標 】</b> これまで検討してきた各種舞台効果が、自身が舞台上演する作品と相互にうまく関連しているか、ミスマッチが無いかを検討する。メイクについては、実際にメイクを行い、全体的な効果について検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業内で見つかった検討事項について、改善策を検討する。			
<b>第7回 舞台上演における舞台美術（装置）・小道具の効果①</b> <b>【 到達目標 】</b> 様々な作品を鑑賞し、舞台上演における舞台美術（装置）・小道具の効果について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 自身が上演する作品に必要な舞台美術（装置）について検討する。			<b>第15回 まとめ</b> <b>【 到達目標 】</b> これまで検討してきた各種舞台効果を作品と共に舞台上で実践し、反省点、検討事項についてディスカッションを行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 実践を通して、舞台上演に必要な効果について理解を深める。			
<b>第8回 舞台上演における舞台美術（装置）・小道具の効果②</b> <b>【 到達目標 】</b> 第7回で検討した舞台美術（装置）・小道具のデザイン画を作成する。それを元に実際に装置製作をスタートする。製作をしない場合は、使用する装置（レンタル）を探す。  <b>【授業時間外学習】</b> 舞台美術（装置）製作に必要な材料を購入する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 実際に舞踊の作品を上演する際の各種効果を体験を通して学んでもらいます。全回出席が条件です。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜プリントの配付。						
<b>【関連科目】</b> 舞踊学演習（舞台上演法）、舞踊学演習（ダンスカレントA）、舞台演出論、舞台芸術論						
<b>【成績評価方法】</b> レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品の完成度20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	舞踊学特別実習			担当者	松山善弘	
英文名	Special Practice on Dance					
単位数	3	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1～3			専門・選択		
<b>【目的とねらい】</b> 大学において、授業のみならず、課外活動（舞踊に関する部活動含む）の中で、各種コンクール、発表会、イベント等に参加する事を通して更に深く専門的に舞踊活動を続け、優れた実績を残す。						
<b>【授業内容】</b> 1, 1年次4月：ガイダンスを受ける事によって舞踊学特別実習の内容を理解する。 2, 1年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。 3, 2年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。 4, 3年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「4年次に向けての目標および計画」として、これまで3年間の舞踊活動を踏まえて、またその目標を達成するための計画についてまとめる。						
<b>【到達目標】</b> 1, 1年次における「活動実績」をまとめる事によって、1年次の自分の実績を把握する。 「活動内容」をまとめる事によって、1年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。 2, 2年次における「活動実績」をまとめる事によって、2年次の自分の実績を把握する。 「活動内容」をまとめる事によって、2年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。 3, 3年次における「活動実績」をまとめる事によって、3年次の自分の実績を把握する。 「活動内容」をまとめる事によって、3年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。 4, 3年次における「4年次に向けての目標および計画」を立てる事によって、これまで3年間の舞踊活動を踏まえて、卒業するまでの明確な目標を把握する事ができる。						
<b>【授業時間外学習】</b> 毎回の活動を記録する事により、より明確な活動目標をたてていく。						
<b>【学習上の留意点】</b> 大学で舞踊活動を実施する学生が、さらにその舞踊活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、舞踊活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は1年ごとに実施した舞踊活動の内容について報告書を提出する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に使用しない。						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 3年間を通した実績に関するレポート50%、活動報告書50%の割合で総合的に評価を行う。						



科目名	教職論				担当者	青木純一	
英文名	Study of Teaching Profession						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教職科目	教職科目	教職科目		
<b>【目的とねらい】</b> 教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解を深めることが第1の課題である。その上で、履修学生一人ひとりが、教員免許取得を目指すかどうかを判断する機会を提供することも、課題としている。教師の主たる仕事である、授業や生徒指導等の理解を深めるとともに、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 教師という仕事</b> 【到達目標】 オリエンテーション。教師の仕事の特徴を理解し、本科履修の意思を確認する。  【授業時間外学習】 最近の教職がおかれている状況について学ぶ。			<b>第9回 教師の研修—教職に就いてから</b> 【到達目標】 教師は教職に就いた後も様々な研修を受ける機会が保障されており、専門性を高めることが期待されていることを理解する。  【授業時間外学習】 教員にとって重要な研修について、法的根拠や制度の背景について学ぶ。				
<b>第2回 「私が出会った教師」を思い出す</b> 【到達目標】 履修学生自身がこれまでに出会った教師について振り返り、教職免許取得にあたっての出発点とする。  【授業時間外学習】 過去に出会った教師についてそれぞれの個性や特徴を振り返る。			<b>第10回 教師の仕事とジェンダー</b> 【到達目標】 学校は女性にとって働きやすい職場だといわれるが、その学校においても、性別役割分業が存在していることを理解する。  【授業時間外学習】 とくに女性教員に焦点を当て、最近の教員の実態や問題点をジェンダーの視点から学ぶ。				
<b>第3回 授業をつくる</b> 【到達目標】 教師が果たす仕事のうち、多くの比重を占めている授業実践について考察し、理解する。  【授業時間外学習】 授業づくりをする際の留意点について学ぶ。			<b>第11回 教師の身分と服務</b> 【到達目標】 教師が職務上有している種々の権利や責任について、およびそれらを適切に行使することが必要であることを理解する。  【授業時間外学習】 教員の身分や服務について、実態を法律と絡めて学ぶ。				
<b>第4回 特別活動と生徒指導</b> 【到達目標】 授業実践だけでなく、特別活動や生徒指導も教師の仕事として重要であることを理解する。  【授業時間外学習】 特別活動や生徒指導における留意点について学ぶ。			<b>第12回 教師像の探求</b> 【到達目標】 時代とともに数多くの理想的教師像がつけられてきたことを、具体的な例とともに理解する。  【授業時間外学習】 明治以降の学校や社会がどのような「教師像」を求めていたかを学ぶ。				
<b>第5回 校務分掌</b> 【到達目標】 教師の仕事には様々なものがあり、校内で分担することで学校が運営されていることを理解する。  【授業時間外学習】 学校における校務分掌の在り方や運営する際の留意点について学ぶ。			<b>第13回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（1）</b> 【到達目標】 近年の教育改革・学校改革の動向についての理解を深め、新たに期待される教師の在り方について関心を持つ。  【授業時間外学習】 戦後の教育改革について、とくに教員政策を中心に学ぶ。				
<b>第6回 同僚性と教師文化</b> 【到達目標】 同じ職場で働く同僚との協力によって、学校運営が円滑となり、児童生徒のよりよい成長が促されることを理解する。  【授業時間外学習】 学校という組織において教師の同僚性がいかに大切か、事例をもとに学ぶ。			<b>第14回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（2）</b> 【到達目標】 前回の続き。  【授業時間外学習】 とくに21世紀に入ってからの教育改革について、教員政策を中心に学ぶ。				
<b>第7回 教員養成制度—教職に就くまで</b> 【到達目標】 「専門職」としての教師を養成する制度である教員養成制度、とりわけ大学における教員養成のシステムを理解する。  【授業時間外学習】 養成、採用、研修を一体化した教育養成制度の在り方について学ぶ。			<b>第15回 現代の教職をめぐる課題</b> 【到達目標】 これまでの授業をもとに、各自現代の教職をめぐる課題を整理し、自らがめざす教師像をまとめる。  【授業時間外学習】 今日の教員に求められている資質・能力とはなにかについて学ぶ。				
<b>第8回 教師の資格と任用、採用試験の動向—教職に就くとき</b> 【到達目標】 免許制度と実際の学校に任用される採用試験制度を理解する。また、近年の採用試験の動向を理解する。  【授業時間外学習】 最近の教育採用の実態と特徴について学ぶ。							
<b>【学習上の留意点】</b> 本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席することとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業の初回に指示する。							
<b>【関連科目】</b> 教育社会学							
<b>【成績評価方法】</b> 小レポート（30%）および試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	教育原論				担当者	青木 純一・小堀 哲郎	
英文名	Theory of Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目		
<b>【目的とねらい】</b> 教育について基本を理解し、教育に対する自らの見方、考え方を身につけることを目的とする。教育は人類の歴史とともに行われてきた大変に古くからある人間形成に関わる営みである。現代はこの教育という営みに対して、どのようなことを求めているのか。子どもから大人まで、どのような学習をしていくことがよいか。学校は何を目的として創られ、どのような活動をしている場なのか。生徒の希望や夢が育まれ、人間としての形成の課題を実現する教育とはどのようなものなのか、学校、地域社会の教育、家庭教育のあり方を通じて考えてみたい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 教育と人間形成</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育と人間形成の意味を正確に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育の目的とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。				<b>第9回 学校と生徒・保護者</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校および学校の教員と生徒・保護者との信頼による学校・学級の運営についてよく考えながら、これからの学校と生徒・保護者の関係についてグループ研究により理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 地域と学校との連携・協力についてコミュニティ・スクールを具体例にその運営方法を学ぶ。			
<b>第2回 教育の歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育の歴史について、古代から現代までの構造的な理解を進める。  <b>【授業時間外学習】</b> 古代から現代にいたる教育の歴史について学ぶ。				<b>第10回 学校のカリキュラム（教育課程）</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校のカリキュラム（教育課程）に関する理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育課程とはなにか、作成にいたる手順や留意事項について学ぶ。			
<b>第3回 教育の思想—ヨーロッパ</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育の思想、特にヨーロッパの教育思想、代表的なロック、ルソー、ヘルバルトなどを学び、教育の思想が教育の実際と関わりがあることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ヨーロッパを中心とする近代の教育思想を理解し、今日の教育に与える影響を学ぶ。				<b>第11回 教材と教具、教育方法・情報と教育</b> <b>【 到達目標 】</b> 具体的に教育活動を行う場合、教材と教具にはどのようなものがあるかを知り、教育方法の選択が必要であることを理解する。情報と教育、ICT活用など現代の課題も理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> とくに最近の学校について、特徴的な教材や教具、教育方法について学ぶ。			
<b>第4回 教育の思想—日本古代から近世</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育の思想、日本の古代から近世までを通して学ぶ。日本の教育の独自の歴史、思想文化的な背景を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 古代から近世にいたる日本の教育について学ぶ。				<b>第12回 社会教育・生涯学習</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校教育は社会での教育・生涯学習との関連で進められる現代教育の特徴を理解し、教員の生涯学習の必要をグループ研究により理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学校外の教育について、公民館や博物館などの教育的役割を学ぶ。			
<b>第5回 学校の形成</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校がどのようにして出来るのか。古代から近世までを範囲として学校の歴史を理解する。外国と日本の両方を扱う。  <b>【授業時間外学習】</b> 学校の成立過程について日本と諸外国の違いについて学ぶ。				<b>第13回 学力問題</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校教育と生涯学習ともに課題である学力の問題について、最新の状況を理解し、今後への課題を発見する。  <b>【授業時間外学習】</b> とくにPISA調査以降の学力政策の変化を学ぶ。			
<b>第6回 近代の学校</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の学校の始まりである近代の学校の特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本における近代学校の始まりについてその特徴を学ぶ。				<b>第14回 教育の改革・改善</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育の改革・改善について、国、地方自治体、学校のそれぞれの段階について事例を研究し、理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 地方分権化のもとに進められた自治体の教育改革について学ぶ。			
<b>第7回 教員の誕生と発展</b> <b>【 到達目標 】</b> 教員の誕生と発展について、日本の場合を中心に扱う。その特徴を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 日本における教員の歴史について、その特徴を学ぶ。				<b>第15回 世界の教育と日本の教育</b> <b>【 到達目標 】</b> 世界の教育と日本の教育の今後のあり方を考えて、教育への理解を深める。教員を志望する学生としての課題を発見する。  <b>【授業時間外学習】</b> 語外国の教育制度と日本を比較することでその違いを学ぶ。			
<b>第8回 地域社会と学校</b> <b>【 到達目標 】</b> 地域社会と学校について、その理論を学び、実際について事例を知ること、地域と学校との関わりを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 地域と学校との連携・協力の在り方について事例を通して学ぶ。							
<b>【学習上の留意点】</b> 本授業は、講義とともに、学生のグループ討論や発表会を取り入れて進めていく。特に第9回以降はしばしば行うので、遠慮せず積極的に調べたり、グループで討論したり、発表したりしよう。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業の初回に指示する。							
<b>【関連科目】</b> 教職論							
<b>【成績評価方法】</b> グループ討論、発表など（30%）、試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	教育心理学				担当者	三好昭子	
英文名	Educational Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目		
<b>【目的とねらい】</b> 本講義は、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する心理学を学習することを目的とする。教育の現場では、授業を行うだけでなく、子どもたちが示す様々な問題に対処していくことが望まれる。しっかりとした体系をもつ理論を学ぶことで、それらの問題の背景を正しく理解し、心理学に基づいた適切な対処法を考えることができるようになる。そのための基盤作りが本講義のねらいである。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 教育とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)教育心理学の考え方を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育心理学の理解に関する課題を行う。				<b>第9回 記憶の仕組み</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)記憶のメカニズムについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 記憶の仕組みに関する課題を行う。			
<b>第2回 青年期の身体・認知発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)性成熟とその心理的影響について理解する。 (2)認知発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 青年期の身体・認知発達に関する課題を行う。				<b>第10回 知識・スキルを獲得する</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)記憶や知識の種類やその性質について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 知識・スキルの獲得に関する課題を行う。			
<b>第3回 青年期の対人関係</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)友人関係の特徴や変化について理解する。 (2)恋愛関係の現状や特徴について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 青年期の対人関係についての理解に関する課題を行う。				<b>第11回 個に応じた教育</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)認知やパーソナリティにおける個人差を理解し、個人差に応じた教授技法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 個に応じた教育の理解に関する課題を行う。			
<b>第4回 青年期におけるアイデンティティ発達</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)エリクソンの発達理論について理解する。 (2)青年期におけるアイデンティティ発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 青年期におけるアイデンティティ発達に関する課題を行う。				<b>第12回 授業</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)授業の位置づけの変化について理解する。 (2)教えて考えさせる授業について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業についての理解に関する課題を行う。			
<b>第5回 学習のメカニズム</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)古典的条件づけについて理解する。 (2)オペラント条件づけ・観察学習について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習理論の理解に関する課題を行う。				<b>第13回 教育評価</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)評価の目的・基準について理解する。 (2)学力・知能・性格を測定するための方法について理解する。 (3)性格検査の結果をもとに自己分析する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育評価の理解と性格検査による自己分析に関する課題を行う。			
<b>第6回 内発的動機・外発的動機</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)基本的な動機について理解する。 (2)内発的動機・外発的動機について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 動機に関する課題を行う。				<b>第14回 発達障害</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発達障害の分類、認知の偏りについて理解する。 (2)障害特性の理解と支援について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 発達障害の理解に関する課題を行う。			
<b>第7回 動機づけの理論</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)動機づけの理論について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 動機づけの理論の理解に関する課題を行う。				<b>第15回 適応支援</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)適応という概念について理解する。 (2)自尊感情を育む。  <b>【授業時間外学習】</b> 適応支援の理解に関する課題を行う。			
<b>第8回 学習動機</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)学習動機について理解する。 (2)意欲を高める方法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習動機の理解に関する課題を行う。							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。教育評価の回では性格テストを実施し、自己分析をする。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：『学習と教育の心理学 増補版（現代心理学入門3）』市川 伸一・著（岩波書店 2011年）、『レクチャー 青年心理学-学んでほしい・教えてほしい 青年心理学の15のテーマ』高坂康雅・池田幸恭・三好昭子・編著（風間書房）							
<b>【関連科目】</b> 精神発達							
<b>【成績評価方法】</b> 毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。							

科目名	教育社会学			担当者	小堀哲郎	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目	
<b>【目的とねらい】</b> 現代社会では〈教育〉をめぐる問題やトピックには事欠かない。また、今日の日本では、ほとんどの人が高校に進学し、さらに大学や短大などの高等教育を受ける人が7割に至る。このように、現代社会に生きる私たちは、〈教育〉と無縁であることはできないと言える。教育社会学は、現代社会と密接な関係にある〈教育〉というものに、社会学という学問的立場からアプローチをするものである。社会学の特長の1つである相対的な思考を身につけ、毎回の具体的なトピックを通じて〈教育〉の分野の「常識」を疑ってみることで、〈教育〉に対する理解を深めてほしい。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 はじめに—教育社会学とは何か</b> 【到達目標】 教育社会学がどのような学問であるかについての概要ならびに、授業のスケジュール等を理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			<b>第9回 高校多様化の可能性</b> 【到達目標】 高校のありようが多様化している現状について捉え、今後の可能性について理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
<b>第2回 学校化社会</b> 【到達目標】 学校制度の発達によって教育と社会の関係がどのように変化したかを「学校化社会」という観点から理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			<b>第10回 入試と選抜</b> 【到達目標】 入試という選抜方式が社会的にどのような意味を持つのかについて理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
<b>第3回 ライフコース</b> 【到達目標】 急速に変化をしている日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			<b>第11回 資格社会と就職</b> 【到達目標】 日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
<b>第4回 少子社会の家族と子ども</b> 【到達目標】 少子社会における家族と子どものありようについて、教育を軸に理解を深める。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			<b>第12回 インターネット社会と若者</b> 【到達目標】 インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
<b>第5回 教育とジェンダー</b> 【到達目標】 性別を社会的に規定されるもの(＝ジェンダー)として捉える視点から、男女の区別がどのような役割を果たしているかを理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			<b>第13回 少年犯罪</b> 【到達目標】 現状における少年犯罪の減少傾向と、社会一般における認識のズレについて理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
<b>第6回 カリキュラムと知識</b> 【到達目標】 教育のカリキュラムや学校で学ぶべき知識がどのように選ばれ、正統化されていくかを理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			<b>第14回 いじめ・不登校</b> 【到達目標】 教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
<b>第7回 メリトクラシーと学歴</b> 【到達目標】 メリトクラシー(＝能力主義)と学歴主義が社会に及ぼしてきた影響について理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			<b>第15回 教育社会学の課題</b> 【到達目標】 本講義全体を振り返り、重要事項の復習と今後の課題を考察する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
<b>第8回 学力と意欲の階層差</b> 【到達目標】 格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。  【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。						
<b>【学習上の留意点】</b> 授業は主として教員による講義形式とするが、毎回の授業終了時に500字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。 参考書等については授業時に紹介する。						
<b>【関連科目】</b> 教職論、教育原論						
<b>【成績評価方法】</b> 試験は「試験期間中に別途実施する」。 授業内レポート(40%)、定期試験(60%)						

科目名	教育課程論				担当者	瀬川大	
英文名	Theory of Curriculum						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目		
<b>【目的とねらい】</b> 学校における教育課程の全般的な知識の習得をねらいとする。すなわち教育課程とは何か、教育課程の歴史、教育課程の編成原理と学習指導要領の変遷、諸外国のカリキュラム改革の動向等について取り上げる。本科目では教育課程の基本的な理解を深めるとともに、急速に変化しつつある教育課程とその編成原理への影響についても取り上げていきたい。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 学校教育と教育課程</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校教育の目標と教育課程の関係について理解し、カリキュラム・教育課程の意味について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学校教育の目標と教育課程の関係、カリキュラム・教育課程の意味に関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第9回 教育課程改革の動向（2）外国の場合</b> <b>【 到達目標 】</b> わが国の教育課程が諸外国の教育課程から様々な影響を受けていること、およびその改革動向を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 諸外国の教育課程に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第2回 教育課程の歴史的展開（1）教科の成立と教育課程</b> <b>【 到達目標 】</b> 近代教科の成立と教育課程の関わりについて理解する。また体育科の教育課程への導入について関心を深めることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 近代教科の成立と教育課程の関わり、体育科の教育課程への導入に関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第10回 保健体育のカリキュラムを考える（1）保健体育で何を学ぶか</b> <b>【 到達目標 】</b> 中学校、高等学校における保健体育科が掲げる教科目標、および内容領域について理解し、説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 中学校、高等学校における保健体育科が掲げる教科目標、および内容領域に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第3回 教育課程の歴史的展開（2）戦前の教科課程（日本の場合）</b> <b>【 到達目標 】</b> 日本では戦前「教育課程」ではなく「教科課程」であったこと、および両者の違いを理解し、戦前の教科課程の特徴を説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「教育課程」と「教科課程」の違いに関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第11回 保健体育のカリキュラムを考える（2）「楽しい体育」の授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 1980年代以降、体育の授業で試みられた「楽しい授業」の特徴について、事例をもとに考察できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 楽しい体育の授業に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第4回 教育課程の歴史的展開（3）戦後教育改革と教育課程</b> <b>【 到達目標 】</b> 戦後教育改革の中で教育課程はどのような理念のもとで編成されたか、その経緯と教科・科目の変遷を理解し、説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 戦後教育改革における教科課程の編成の経緯に関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第12回 保健体育のカリキュラムを考える（3）保健</b> <b>【 到達目標 】</b> 近年、保健分野において取り上げられている、様々な健康課題や実践の取り組みについて理解し、説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 保健分野に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第5回 教育課程の編成原理</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育課程の編成原理としての「児童中心主義」と「学問中心主義」について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「児童中心主義」、「学問中心主義」に関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第13回 学校文化と教育課程／隠れたカリキュラム</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育課程を見る場合に教師が意図しない、隠れたカリキュラムへ関心を持つ必要性和意味を理解し、具体例を挙げられる。  <b>【授業時間外学習】</b> 隠れたカリキュラムに関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第6回 教育課程編成と学習指導要領</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割を理解し、その構造を説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第14回 カリキュラムをどう評価するか</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育課程を実践するに際しては評価が伴うこと、およびそのレベルや方法に様々な種類があることを理解し、説明できる。カリキュラム・マネジメントについても理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育評価、カリキュラム・マネジメントに関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第7回 学力問題</b> <b>【 到達目標 】</b> 近年の教育課程改革をもたらした「学力問題」について、その概要と本質を理解し、説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「学力問題」に関連する文献を図書館等で探して読む。				<b>第15回 学習指導要領の改訂とアクティブ・ラーニングの導入</b> <b>【 到達目標 】</b> 今回行われた学習指導要領の改訂の特徴、とりわけ教育実践で重要視されているアクティブ・ラーニングについて、理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次期学習指導要領、アクティブ・ラーニングに関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第8回 教育課程改革の動向（1）日本の場合</b> <b>【 到達目標 】</b> 近年の学習指導要領のキーワード、とりわけ「生きる力」や「確かな学力」などの概念を理解し、説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「生きる力」、「確かな学力」に関連する文献を図書館等で探して読む。							
<b>【学習上の留意点】</b> 本科目によって、学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。また、講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『中学校学習指導要領』 文部科学省『高等学校学習指導要領』							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む）			担当者	助友 裕子・沢田真喜子	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅰ					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
<b>【目的とねらい】</b> 保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。前期では、学習指導要領の位置づけや内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。後期は、前期内容と既修の健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健などによる知識を応用し、ICTや教材研究への効果的な活用、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計、学習指導案の構成を理解する。学習指導案の作成と模擬授業の実施およびその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。						
<b>【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分</b>						
<b>第1回 保健科教育とは（概論）</b> <b>【 到達目標 】</b> 保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。			<b>第9回 教材研究Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> 保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深める。			
<b>【授業時間外学習】</b> 科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。			<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。			
<b>第2回 現代社会における健康問題および他教科等との関連</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について理解する。			<b>第10回 保健科教育のための研究方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。			
<b>【授業時間外学習】</b> 中央教育審議会答申を読んでおく。			<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
<b>第3回 保健の目標と内容</b> <b>【 到達目標 】</b> 小学校、中学校、高等学校における保健の目標や内容の違いを理解する。			<b>第11回 小学校の保健の授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 中・高の学習指導要領解説の保健体育科（保健分野）と科目保健の項を読んでおく。			<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
<b>第4回 保健の指導計画</b> <b>【 到達目標 】</b> 指導計画作成の意義、種類、作成上の基本について理解する。			<b>第12回 中学校の保健の授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 個人生活における健康・安全に関する内容について説明できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。			<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
<b>第5回 保健科教育の実際Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> 知識を活用する学習活動について理解を深める。			<b>第13回 高等学校の保健の授業</b> <b>【 到達目標 】</b> 個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について説明できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、教材研究を進める。			<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
<b>第6回 保健科教育の実際Ⅱ</b> <b>【 到達目標 】</b> ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得する。			<b>第14回 学習指導案の作成</b> <b>【 到達目標 】</b> 1時間の学習指導案を作成できるようにする。			
<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、教材研究を進める。			<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
<b>第7回 保健の学習評価</b> <b>【 到達目標 】</b> 評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。			<b>第15回 保健の授業研究</b> <b>【 到達目標 】</b> 模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、教材研究を進める。			<b>【授業時間外学習】</b> 授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。			
<b>第8回 教材研究Ⅰ</b> <b>【 到達目標 】</b> 教材研究の目的、過程、方法について理解する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。						

次ページに続く

科目名	保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む）			担当者	助友 裕子・沢田真喜子	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅰ					
単位数	4	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目	
<b>【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分</b>						
<b>第16回 オリエンテーション（模擬授業の手順、授業への心構えなど）</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業内容、模擬授業実施までのプロセス、成績評価等について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 第14回で作成した学習指導案を用いて、生徒の学が意欲を高めるような工夫、思考・判断を深めるような工夫についてまとめる。			<b>第24回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
<b>第17回 学習指導要領解説と保健の授業研究①</b> <b>【 到達目標 】</b> 学習指導要領解説と保健の教科書を比較し、学習内容の取り上げられ方の理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習指導要領解説を熟読し、不明な点を明らかにし内容を把握しておく。			<b>第25回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
<b>第18回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			<b>第26回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
<b>第19回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			<b>第27回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
<b>第20回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			<b>第28回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
<b>第21回 学習指導要領解説と保健の授業研究②</b> <b>【 到達目標 】</b> 学習指導要領解説と保健の教科書を比較し、学習内容の系統性と取り上げられ方の理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習指導要領解説を熟読し、不明な点を明らかにし、内容の系統性・順序性を把握しておく。			<b>第29回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
<b>第22回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			<b>第30回 保健の授業運営のまとめ</b> <b>【 到達目標 】</b> 自他の模擬授業を振り返り、保健授業における課題、発問、板書計画、ICT活用等の授業スキルや教師の役割について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業で得たフィードバックをもとに、学び続ける教員としての役割をまとめる。			
<b>第23回 模擬授業（マイクロティーチング）</b> <b>【 到達目標 】</b> 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 前期はおもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。後期は班ごとに割り当てられた模擬授業の準備・実施を通して保健の授業に必要な技術を習得する。前後期とも高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 森良一編著. 保健科教育法. 東洋館出版社. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 保健体育編 中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。						
<b>【関連科目】</b> 健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健、保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）						
<b>【成績評価方法】</b> 原則として、前期は授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）、後期は授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価し、前後期合わせて本講義の評価とする。なお、前期の評価状況によっては後期受講を認めないことがある。						

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）			担当者	須 甲 理 生	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅱ					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
【目的とねらい】 本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 本講義の目的、学校体育の現状、被教育体験期の体育授業イメージとの照合 【 到達目標 】 (1)本講義の目的を理解し、学習の見通しを立てることができる。 (2)被教育体験の体育授業イメージを想起することができる。 【授業時間外学習】 保健体育科教育法Ⅱにおける1年間の授業時間外学習の計画を立てる。			第9回 体育授業の学習指導方法論(2)（アクティブラーニングの視点を含む） 【 到達目標 】 (1)体育授業における学習指導のポイントを理解し、具体的に説明できる。 (2)アクティブラーニングを取り入れた体育授業の学習指導方法について具体的に説明できる。 (3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法の具体例を挙げることができる。 【授業時間外学習】 学習指導のポイント及び、アクティブラーニングを理解し、具体例を挙げておく。			
第2回 保健体育科の目標論 【 到達目標 】 (1)体育目標の歴史の変遷、目標構造を理解する。 【授業時間外学習】 体育目標の歴史の変遷、目標構造について学習する。			第10回 体育授業の観察、分析、評価 【 到達目標 】 (1)期間記録、相互作用行動を記録する意義を理解する。 (2)テスト映像で適切に記録することができる。 【授業時間外学習】 体育授業を観察・分析することの意義や視点について予習・復習する。			
第3回 保健体育科の教育課程論(1)：学習指導要領の内容(1) 【 到達目標 】 (1)学習指導要領の性格を理解する。 (2)学習指導要領における運動部活動と体育授業の関連性や位置付けについて理解する。 (3)次期学習指導要領の要点を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領の性格について予習・復習する。			第11回 マイクロティーチング(1) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第4回 保健体育科の教育課程論(2)：学習指導要領の内容(2) 【 到達目標 】 (1)中学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 中学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。			第12回 マイクロティーチング(2) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第5回 保健体育科の教育課程論(3)：学習指導要領の内容(3) 【 到達目標 】 (1)高等学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 高等学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。			第13回 マイクロティーチング(3) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第6回 体育授業の教材・教具論(1)（ICTの活用を含む） 【 到達目標 】 (1)体育授業における教材・教具の果たす役割を具体的に説明できる。 (2)体育授業におけるICTの活用について具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 素材－目標－学習内容－教材－教具の関係性及び、ICTの役割について予習・復習する。			第14回 マイクロティーチング(4) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第7回 体育授業の教材・教具論(2)（ICTの活用を含む） 【 到達目標 】 (1)体育授業における効果的な教材や教具について具体例を用いて説明できる。 (2)体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げながら説明できる。 【授業時間外学習】 効果的な教材・教具及び、ICT活用の具体例を挙げておく。			第15回 マイクロティーチングまとめ 【 到達目標 】 (1)効果的な指導、教材・教具について効果的に反省できる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの経験を踏まえ、改めて良い体育授業の特徴について考察する。			
第8回 体育授業の学習指導方法論(1)（アクティブラーニングの視点を含む） 【 到達目標 】 (1)体育教師の4大教師行動について理解できる。 (2)アクティブラーニングの利点と学習指導方法への応用の仕方について説明できる。 (3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法について理解できる。 【授業時間外学習】 体育教師の4大教師行動、アクティブラーニングについて予習・復習する。						

次ページに続く

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）			担当者	須 甲 理 生	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅱ					
単位数	4	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目	
<b>【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分</b>						
<b>第16回 体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1)</b> 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。  【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。			<b>第24回 模擬授業の反省会(3)</b> 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。  【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			
<b>第17回 体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2)</b> 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。  【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。			<b>第25回 模擬授業の反省会(4)</b> 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。  【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			
<b>第18回 体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点</b> 【 到達目標 】 (1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。  【授業時間外学習】 学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。			<b>第26回 模擬授業の反省会(5)</b> 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。  【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			
<b>第19回 体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化</b> 【 到達目標 】 (1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。  【授業時間外学習】 具体的な指導と評価の計画を立てる。			<b>第27回 優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1)</b> 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。  【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。			
<b>第20回 体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1)</b> 【 到達目標 】 (1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。  【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。			<b>第28回 優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2)</b> 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。  【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。			
<b>第21回 体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2)</b> 【 到達目標 】 (1)グループ内で適切な計画を立てることができる。  【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。			<b>第29回 体育授業の存在意義</b> 【 到達目標 】 (1)体育授業の存在意義について説明できる。  【授業時間外学習】 体育授業の存在意義について考察する。			
<b>第22回 模擬授業の反省会(1)</b> 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。  【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			<b>第30回 スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業</b> 【 到達目標 】 (1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。  【授業時間外学習】 我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。			
<b>第23回 模擬授業の反省会(2)</b> 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。  【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 将来の教職に対する希望の有無に関わらず、教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているため、講義内容について集中してノートを取り、予習・復習を行っていくことが必要になる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「体育科教育学入門」、高橋健夫編著、大修館書店、2010年 中学校学習指導要領解説－保健体育編－ 高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－						
<b>【関連科目】</b> 教職科目全般。特に、「教育実習（教育実践研究を含む）」においては、模擬授業の計画、実践、反省を通して、本講義との関連させながら進めていく。						
<b>【成績評価方法】</b> 模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト2回80%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	道徳教育の研究			担当者	瀬川 大	
英文名	Moral Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
<b>【目的とねらい】</b> 学校での道徳教育について概説し、その指導について基本を習得することを目的とする。その際、保健体育科教育との関連をも押さえておきたい。道徳とは人間社会が成立する根本である他者との共存の原理を中心に、人間のより良いあり方を毎日の生活のなかに実践することである。こうした行いをなし得る人間の性質を道徳性という。生徒が毎日の学校での学習を通じて、道徳性を身につけられるようにすることが道徳教育の目的である。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 はじめに—教育と道徳</b> <b>【 到達目標 】</b> 教育が人間形成に関わる営みとする立場から、教育において道徳教育が持つ意味について考え、自分なりに説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育において道徳教育が持つ意味に関連する文献を図書館等で探して読む。			<b>第9回 道徳教育の領域3—自分を大切にすること、生命・人間の尊厳</b> <b>【 到達目標 】</b> 自尊感情の形成（自分を大切にすること）、生命・人間の尊重について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自尊感情の形成（自分を大切にすること）、生命・人間の尊重に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第2回 道徳教育とは何か—重要な教育課題の登場</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校教育における道徳教育の役割、目的、カリキュラム、教育の実践例を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学校教育における道徳教育の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。			<b>第10回 道徳教育の領域4—薬物乱用の防止、性的非行のとりえ方</b> <b>【 到達目標 】</b> 薬物の乱用防止、性的その他の非行について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 薬物の乱用防止、性的その他の非行に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第3回 現代の青年期—発達課題とは何か</b> <b>【 到達目標 】</b> 中学校、高等学校の生徒は青年期を生きていることを理解し、人間のなかの青年、特有の成長課題、発達課題を考えることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 青年期と発達課題に関連する文献を図書館等で探して読む。			<b>第11回 道徳教育の領域5—国際理解と道徳性</b> <b>【 到達目標 】</b> 諸外国における道徳教育について理解する。あわせて国際理解について考え、自分の考えを説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 諸外国における道徳教育、国際理解に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第4回 現代の青年期—その現状と課題</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代の青年に特有の発達課題を理解する。また抱える問題の特徴をとらえることができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 現代の青年期における問題に関連する文献を図書館等で探して読む。			<b>第12回 道徳教育と参加型学習・ファシリテーション</b> <b>【 到達目標 】</b> 道徳教育の実践例を学びながら、具体的な方法を理解する。参加型あるいはファシリテーション型の例をここでは学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> ファシリテーション型の授業に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第5回 道徳性の発達と学校カリキュラム</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校のカリキュラムにおいて、道徳教育は道徳性の発達を目的としている。その目的を具体的に理解する。「道徳の時間」（中学校）の目的を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 道徳性の発達、「道徳の時間」に関連する文献を図書館等で探して読む。			<b>第13回 教育実習における道徳の指導—指導の内容・方法</b> <b>【 到達目標 】</b> 体育専門学生であるが、教育実習では道徳の指導も行う。ここでは教育実習の際の道徳の指導について特に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育実習における道徳指導に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第6回 道徳教育の歴史</b> <b>【 到達目標 】</b> 道徳教育の目的と内容の歴史的な変化をたどり、現代の道徳教育の目的と課題を総合的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 道徳教育の歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。			<b>第14回 学習指導案の作成</b> <b>【 到達目標 】</b> 以上の学習を踏まえ、「道徳の時間」の学習指導案を作成することができる。高等学校教育をより深く学ぶ学生は、高等学校における道徳教育を構想することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「道徳の時間」の学習指導案作成に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第7回 道徳教育の領域1—人間理解、生徒間関係・人間関係</b> <b>【 到達目標 】</b> 道徳教育の領域について、5区分にして理解する。まず人間の理解、生徒間関係、人間関係について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 人間の理解、生徒間関係、人間関係に関連する文献を図書館等で探して読む。			<b>第15回 「特別の教科 道徳」へ</b> <b>【 到達目標 】</b> 小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、「特別の教科 道徳」が誕生するにあたり、その特徴と、従来の「道徳の時間」との相違点について説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「特別の教科 道徳」に関連する文献を図書館等で探して読む。			
<b>第8回 道徳教育の領域2—社会規範・伝統、社会と自分の関係</b> <b>【 到達目標 】</b> 社会規範、伝統と自国の文化、社会と人間・自分との関わりについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 社会規範、伝統と自国の文化、社会と人間・自分との関わりに関連する文献を図書館等で探して読む。						
<b>【学習上の留意点】</b> 各回のテーマに沿いながら学習を深め、同時に講義全体で学校における道徳教育のあり方を理解することを目標とする。授業時間内だけではなく、日頃から新聞、テレビのニュースなどから社会、学校のなかの道徳や道徳教育の様子、中高校生の生き方など、幅広くとらえるようにしたい。単なるタメエではない道徳教育のあり方を考えてほしい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	特別活動指導法				担当者	笹本 重子・宮本 乙女	
英文名	Special Activities						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目		
<b>【目的とねらい】</b> 特別活動は各教科、道徳（中学校）と並ぶ教育課程の一領域として、全人的形成を図る上で重要な教育活動である。そこで、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に位置づけられている特別活動について理解し、中学校・高等学校の学級担任として、この指導ができる知識と能力を培い、望ましい指導のあり方を研究する。また、学校行事の中の体育的行事の代表格である体育祭を企画し、特別活動の存在意義について考える。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション、特別活動とは</b> <b>【 到達目標 】</b> 特別活動について学習するに当たり、概観的に学級を作る。学習指導要領解説により、特別活動がどんな活動か理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習指導要領解説にざっと目を通し、全体の構成を把握する。				<b>第9回 体育と特別活動</b> <b>【 到達目標 】</b> 保健体育科の教員としてどのように特別活動と関わるのか具体的な場面を想定して理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体育祭の企画作成について、必要な内容を調べておく。			
<b>第2回 「生きる力」をはぐくむ</b> <b>【 到達目標 】</b> 現代社会の特長と、現代の子どもの抱える問題に気づき、学校の教育活動に求められていることを考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分で考える、現代の子どもの抱える課題について発言できるようにしておく。				<b>第10回 体育祭企画書の作成</b> <b>【 到達目標 】</b> 体育の教員として、職員会議に提案する体育祭の企画書を作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 企画書を仕上げてくる。			
<b>第3回 特別活動改善の方針と目標の理解</b> <b>【 到達目標 】</b> 学習指導要領の改訂に伴って、特別活動にどのような改善が求められているのかと、掲げられている目標を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業内で確認した社会的スキルについて、他の事例を探しておく。				<b>第11回 体育祭企画書の修正と交流</b> <b>【 到達目標 】</b> 企画書について、検討すべき内容を理解し、修正をする。企画書を交換し体育的行事の視点について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 交流した企画書の修正を行う。			
<b>第4回 「学級活動」の目標と内容</b> <b>【 到達目標 】</b> 学級活動の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 作成する学級通信のタイトルと内容を考え、資料を用意する。				<b>第12回 体育祭に向けた学級指導案の作成</b> <b>【 到達目標 】</b> 体育祭に向けて学級をどのように導くかを考えながら、学級指導案を作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学級担任として作成する指導案を完成させる。			
<b>第5回 学級通信の作成</b> <b>【 到達目標 】</b> 学級通信の作成を通じて、学級担任の役割や、どのような姿勢で生徒に向き合っていくかについて考察する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学級通信の仕上げをする。				<b>第13回 学級指導案の交流、学級経営</b> <b>【 到達目標 】</b> 作成した指導案を交流する。学級経営、という考え方を理解し、改めて自分の指導案を見直す。  <b>【授業時間外学習】</b> 交流して検討した仲間の指導案も参考にして、修正すべき点を検討する。			
<b>第6回 学級通信の発表と学級活動指導の実際</b> <b>【 到達目標 】</b> お互いの学級通信の発表から、学級活動の指導に対して考えを深める。また、学級担任の実務について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 担任の実務について、検討してくる。				<b>第14回 特別活動の内容の取り扱い、道徳・総合的な学習との関わり</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校教育の中で、特別活動がどのような役割を担うのか、道徳や総合的な学習との関わりを検討しながら理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 道徳と、総合的な学習の時間の内容、目標について確認する。			
<b>第7回 「生徒会活動」の目標と内容</b> <b>【 到達目標 】</b> 生徒会活動の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分の出身校の生徒会規則を確認してくる。				<b>第15回 特別活動指導で押さえておきたいことと今後の課題</b> <b>【 到達目標 】</b> 特別活動の意義を確認し、実施する上で押さえるべきことと、自分自身の課題を明らかにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業内容の整理をして、学習指導要領解説を読み、自分の理解を確認する。			
<b>第8回 「学校行事」の目標と内容</b> <b>【 到達目標 】</b> 学校行事の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業内で発表した自分の出身校の学校行事の意義を検討してくる。							
<b>【学習上の留意点】</b> これまで出会った中学校・高等学校時代の先生やクラスメートとのやり取りを振り返りながら、「学校の先生」になるためのイメージを膨らませ、受け身の授業にならないように努める。指導要領の解説書をよく読み込むことと、具体的な教員の業務などのシミュレーションや、学生同士のディスカッションに積極的に参加することで、理解を深め、指導力を身につけていってもらいたい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」文部科学省 毎時間持参する。 「特別活動指導法」日本女子体育大学作成テキスト							
<b>【関連科目】</b>							
<b>【成績評価方法】</b> 毎時間のミニレポート・各種提出課題40%、定期試験60%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	生徒指導法			担当者	三好昭子	
英文名	Guidance Services in School					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
<b>【目的とねらい】</b> 生徒指導は学習指導とともに教育の二大支柱の一つであり、学習指導に劣らず重要なものである。特に、いじめ、不登校、非行などの問題の改善・克服は生徒指導上の重要な課題である。本講義は、生徒指導の目的や方法、意義などの基本的な内容を理解した上で、今日的課題の特徴やそれに対する対応についての理解を深めることを目的とする。生徒指導は幅が広くかつ高い専門性を必要とするため、教職についてからも継続的に自己研鑽を積むことが必要である。そのための基盤作りをすることが本講義のねらいである。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 生徒指導の概念、目的と必要性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 生徒指導の概念について理解する。 (2) 生徒指導の目的とその必要性について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 生徒指導の概念の理解に関する課題を行う。			<b>第9回 愛の本質的特徴</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 無条件性と相互性について理解する。 (2) 愛の対極について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 愛の本質的特徴の理解に関する課題を行う。			
<b>第2回 生徒指導の領域に不可欠なアイデンティティ理解</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) アイデンティティ概念について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 生徒指導の領域に不可欠なアイデンティティ概念の理解に関する課題を行う。			<b>第10回 生徒指導の組織</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 生徒指導の組織体制について理解する。 (2) 生徒指導における外部機関との連携について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 生徒指導の組織体制の理解に関する課題を行う。			
<b>第3回 アイデンティティ形成①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 基本的信頼感、自律性、主導性、生産性までの発達を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> アイデンティティ形成（初期）の理解に関する課題を行う。			<b>第11回 非行</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導について理解する。 (2) 非行の背景について理解する。 (3) 非行への対応の基本について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 非行の理解に関する課題を行う。			
<b>第4回 アイデンティティ形成②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 親密性、生殖性、統合性までの発達を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> アイデンティティ形成（後期）の理解に関する課題を行う。			<b>第12回 不登校1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 不登校の実態について理解する。 (2) 不登校の形成要因について理解する。 (3) 不登校への早期対応について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 不登校の実態と早期対応についての理解に関する課題を行う。			
<b>第5回 否定的アイデンティティ「どうせ私は～」の心理</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 否定的アイデンティティについて理解する。 (2) 否定的アイデンティティの克服について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 否定的アイデンティティの理解に関する課題を行う。			<b>第13回 不登校2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 不登校になる様々な要因と不登校の生徒の内面について理解する。 (2) 不登校の経過について理解する。 (3) 不登校への対応について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 不登校の背景と対応の理解に関する課題を行う。			
<b>第6回 青年の自我に内在する回復力</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 心理的離乳について理解する。 (2) アイデンティティによる使命感について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 青年の自我に内在する回復力の理解に関する課題を行う。			<b>第14回 いじめ1</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) いじめの実態について理解する。 (2) いじめの発生要因について理解する。 (3) いじめ防止対策推進法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> いじめの実態と防止対策の理解に関する課題を行う。			
<b>第7回 人格の成熟</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 人間の一生という観点から人格の成熟について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 人格の成熟の理解に関する課題を行う。			<b>第15回 いじめ2</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) いじめへの対応について理解する。 (2) 取り組みにおける難しさと目指す方向について理解する。 (3) いじめへのサポートグループアプローチについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> いじめへの対応の理解に関する課題を行う。			
<b>第8回 進路指導</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) 進路指導の課題について理解する。 (2) 進路指導の基礎となる理論について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 進路指導の理解に関する課題を行う。						
<b>【学習上の留意点】</b> 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながら、メモを取り、自分なりのノートを作成する。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、生徒指導に関する様々な問題について自分の考えをまとめていくことが必要である。課題の内容は期末テストとも対応しているので、しっかり復習すること。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：『君の悩みに答えよう：青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント』日本青年心理学会企画（福村出版）						
<b>【関連科目】</b>						
<b>【成績評価方法】</b> 毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。						

科目名	教職実践演習（中・高）				担当者	須甲 理生・小堀 哲郎 助友 裕子・宮本 乙女 山下敬織子・佐々木直基 瀬川 大・高野美和子 沢田真喜子・渡辺 碧	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目		
<b>【目的とねらい】</b> この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。							
<b>【授業内容・到達目標など】</b>							
<b>第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認</b> <b>【 到達目標 】</b> 授業開始までの夏季休業期間中に、教育実習を振り返り、課題レポートを提出する。  <b>【授業時間外学習】</b> 教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。				<b>第9回 教科外における生徒指導について 「学校生活改善プロジェクト」の実践②</b> <b>【 到達目標 】</b> プロジェクト活動の続きを行い、報告書を完成させ、グループ間で発表を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> プロジェクトを継続して行い、問題点等を記録しておく。			
<b>第2回 保健体育科教員の使命と責任（講義）</b> <b>【 到達目標 】</b> 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について、再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。				<b>第10回 特別活動・部活動から学んだこと</b> <b>【 到達目標 】</b> 事例に基づきグループ討論を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。			
<b>第3回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）①</b> <b>【 到達目標 】</b> 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）  <b>【授業時間外学習】</b> 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究から得られたことを整理する。				<b>第11回 自己の学修課題の確認と研究活動</b> <b>【 到達目標 】</b> 第3回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補完に向けて各自研究活動を進める。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。			
<b>第4回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）②</b> <b>【 到達目標 】</b> 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）  <b>【授業時間外学習】</b> 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究から得られたことを整理する。				<b>第12回 教員として求められる社会性・対人関係能力は何か（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> 現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められている教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。  <b>【授業時間外学習】</b> 教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。			
<b>第5回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③</b> <b>【 到達目標 】</b> 中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）  <b>【授業時間外学習】</b> 中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究から得られたことを整理する。				<b>第13回 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題（講話）</b> <b>【 到達目標 】</b> 現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。			
<b>第6回 保健体育科教員に求められる教科の指導力①</b> <b>【 到達目標 】</b> 第3～4回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。  <b>【授業時間外学習】</b> 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。				<b>第14回 各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価</b> <b>【 到達目標 】</b> 第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。			
<b>第7回 保健体育科教員に求められる教科の指導力②</b> <b>【 到達目標 】</b> 第5回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。  <b>【授業時間外学習】</b> 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。				<b>第15回 魅力ある教員をめざして—まとめレポートの作成と意見交換—</b> <b>【 到達目標 】</b> 教員としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。  <b>【授業時間外学習】</b> 教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。			
<b>第8回 教科外における生徒指導について 「学校生活改善プロジェクト」の実践④</b> <b>【 到達目標 】</b> あらかじめ考えてきた活動内容を持ち寄りプロジェクトを決定し、具体的な対策を検討。実際に現場に出て観察、聞き取り、巡回などを行った後、本日の活動をまとめ、次回までに取り組んでくる内容を決定する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各自プロジェクト内容を考案してくる。							
<b>【学習上の留意点】</b> 夏季休業期間中に、6月に行った教育実習を振り返り、各自の実習中の課題等についてレポートを提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト：「教職実践演習テキスト」（学内作成予定）、学習指導要領、「体育教育学入門」（大修館）、「体育実技書」 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等							
<b>【関連科目】</b> 教育実習（教育実践研究を含む）							
<b>【成績評価方法】</b> 各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10%、第2回から第10回までの授業内提出物：40%、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30%、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20%） なお、良好な出席状況は、当然の前提である。							

科目名	教育実習（教育実践研究を含む）			担当者	須甲 理生・小堀 哲郎 山下敬緯子・瀬川 大 湯澤 芳貴	
英文名	Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
<b>【目的とねらい】</b> 「教育実習」は、大学内で行う「教育実践研究」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「教育実践研究」は2年次後期11月から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護等体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力量を向上させていくことを目的とする。						
<b>【授業内容・到達目標など】</b>						
<b>第1回 教員養成と免許法について、授業日程、介護等体験について（2年次）</b> 【 到達目標 】 (1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。 (2)学び続ける教員像について理解できる。  【授業時間外学習】 自身の目指すべき教員像について考察する。			<b>第9回 授業研究5（模擬授業の実践3）</b> 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
<b>第2回 本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次）</b> 【 到達目標 】 (1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。  【授業時間外学習】 本学の教員養成の特色について復習する。			<b>第10回 授業研究6（模擬授業の実践4）</b> 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
<b>第3回 保健体育教師の使命、内諾手続きについて</b> 【 到達目標 】 (1)保健体育教師の使命について理解する。 (2)正式な内諾手続きについて理解する。  【授業時間外学習】 学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。			<b>第11回 授業研究7（模擬授業の実践5）</b> 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
<b>第4回 4年生の教育実習体験報告</b> 【 到達目標 】 (1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。  【授業時間外学習】 自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。			<b>第12回 外部講師による講話（中学校教員）</b> 【 到達目標 】 (1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
<b>第5回 授業研究1（模擬授業の意義と進め方について）</b> 【 到達目標 】 (1)模擬授業の意義と進め方について理解する。 (2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。 (3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			<b>第13回 外部講師による講話（高等学校教員）</b> 【 到達目標 】 (1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
<b>第6回 授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得）</b> 【 到達目標 】 (1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。  【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			<b>第14回 教育実習直前の諸注意</b> 【 到達目標 】 (1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法を理解する。  【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
<b>第7回 授業研究3（模擬授業の実践1）</b> 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			<b>《教育実習校実習 3週間》</b>			
<b>第8回 授業研究4（模擬授業の実践2）</b> 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			<b>第16回 教育実習の報告会</b> 【 到達目標 】 (1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。  【授業時間外学習】 教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。			
<b>【学習上の留意点】</b> 教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次の11月から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で望んで欲しい。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教育実習の手引き」						
<b>【関連科目】</b> 教職科目全般。特に、「保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）」は、第5回から第11回の授業研究において、本授業と関連させながら進めていく。						
<b>【成績評価方法】</b> 「教育実践研究」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。						